

神奈川県内科医学会  
創立50周年記念誌

# 神奈川県内科医学会 創立50周年記念誌



# 神奈川県内科医学会 創立50周年記念誌

## 目 次

はじめに .....	1
挨拶 .....	3
祝辞 .....	6
50年間のあゆみ .....	12
定時総会時学術講演会 .....	18
秋季学術大会 .....	21
新春学術講演会 .....	23
臨床医学研修講座 .....	25
集談会 .....	28
部会報告 .....	30
委員会報告 .....	47
地区内科医会のあゆみ .....	80
歴代役員・常任幹事名簿 .....	143
歴代表彰者・感謝状授与者 .....	149
神奈川県内科医学会会則 .....	152
神奈川県内科医学会会則施行細則 .....	156
編集後記 .....	161

# はじめに

神奈川県内科医学会 会長 宮川 政昭

神奈川県内科医学会は意識改革ならぬ「医識改革」を念頭に置いている。医識改革は医師自身のためであり、また患者自身にも当てはまる。多様性を認識した上で患者個性に配慮した創医工夫を駆使し、目の前の患者のための診療を自らのリアルワールドの中で見つけ出すことが目的の一つとなる。そのためには、さまざまな考え方を検証し、患者の生涯医療を確立すること、それが実地臨床医の務めであろう。

「医学」と「医療」の違いは何だろうか。「医学」は、確固たる科学的根拠に基づいた体系的な考えである。一方「医療」は、目の前の患者の多様性に配慮しあらゆる分野の知識や経験を集大成した叡智と捉えることが出来る。医師はその双方を実地医療の中で上手に展開していかなければならない。

神奈川県内科医学会は、内科医の知識や技術の向上、医道の昂揚、医師相互の親睦を掲げ、開業医と勤務医の垣根を越えて地域医療を構築する目的で、昭和42年（1967年）に創立されて以来、月日を重ねてきた。その年月の中での活動の軌跡を振り返ってみると、今日では想像もできない困難の連続であったと推察され、先達への深い感慨を憶える。そしてこの10年間をみても、医学のみならず医療制度も含め、実地医療の現場では様々な対応を迫られているのが現状である。神奈川県内科医学会としても、講演会や研究会の開催の中での最新医学の研鑽事業、さらに神奈川発の独自の臨床研究や地域特性に配慮した医療連携の創造をも視野にいれ活動を行っており、今後も更なる思索を廻らしている。

医学の進歩は急速であり、賢明なる研修を続けても、なかなか追いつくことさえ容易ではない。様々な疾病や病態に対する考えも変遷する中で、望まれる医療とは何か、そしてニーズに的確に対応する医療とは何か、地域医療の中での命題への回答が神奈川県内科医学会に課せられた使命の一つと考えている。

学会の一員として活動していくと、学問上の先輩や友人が増えていくことになる。大学などでの勤務医時代と異なり、新たな出会いの中でさまざまな考えを共有できる嬉しさを得るはずである。そして、他人の研究報告を肉声で聞くことで、論文を読む事とは異なった、知識が蓄積していく。

かつて本居宣長の下に集まった商人たちが残した言葉がある。「散々道楽もしたが、学問ほどの快樂はない」と喜びを表している。宣長は享保15年5月7日（1730.6.21）～享和元年9月29日（1801.11.5）に活躍した18世紀最大の日本古典研究家である。そして、72歳で没するまで町医者（主に小児科・内科）として働き、生計を立てた。宣長の基本は、日々の生活の重視であった。患者が在れば元旦も診察し、往診ははるばる伊勢の宇治まで薬箱をぶら下げ出かけたそうである。

宣長の業績の一つに、学問する者の基本姿勢を提示し、実践した事柄がある。そこには今では常識となっているさまざまな約束事が説かれている。研究成果は発表し、その上で活発な議論が学問を進めていくこと、あるいは学問は一人の力では完成されるものではないということ、さらに研究資料は常に公開されなければならない等々である。彼のように学問に対して、明快に実践した人はそれまでにはいなかったように思える。

その姿は正しく、今の実地医家にも当てはまる事が数多くある。

医師の専門性においても総合性においても、個々の実力を信に問われる時代になってきた。物事を批評したり論評したりするだけの医師ではなく、研究発表もさることながら、地域社会に良質な医療情報を発信することも必要とされるであろう。その方策のひとつである患者に対する最適な医薬品の選択は、的確な医療情報なくしてその選択はあり得ない。そこには患者情報が中心となるはずである。だとすれば、神奈川県内科医学会自らが、良質な勉強会の創出に更なる配慮をしなければならない。

医は学と術と道と言われている。医師は地域に生き、活かされている。常に日々の研鑽や研究の延長線上に、日常診療があるに違いない。神奈川県内科医学会は会員とともに、地域に生きる存在でありたいと願っている。

# 50周年記念

## 会長として

神奈川県内科医学会 会長 宮川 政昭



先達による地中に張り巡らされた太い根に支えられ、たくましい幹を持つ神奈川県内科医学会は、これから臨床医の知の向上のために枝葉を巡らせていくこととなる。良き先達に恵まれ神奈川県内科医学会の基礎が築かれたお蔭で、医療の多様性に対応すべくさまざまな施策が可能となった。

医学の進歩は急速であり、賢明なる研修を続けても、追いつくことはなかなか容易なことではない。様々な疾病や病態に対する考えも多様化する中で、望まれる医療とは何か、そしてニーズに的確に対応する医療とは何か、地域医療の中での命題への回答が神奈川県内科医学会に課せられた使命の一つと考えている。

神奈川県内科医学会会員の活動の根幹には、「創造力」がある。そして会員の「あくなき創造し続ける努力」さらに「答えのない課題への全身全霊を使つての取り組み」の存在が鍵となる。医学の一定の分野を除くと、医療の中には未だ答えのない課題が数多く存在する。その中で日常診療を齟齬なく進めることは、往々にして困窮する場面に遭遇することが想定される。臨床上の疑問を解明することも、神奈川県内科医学会の存在意義であろう。

医師の専門性においても総合性においても、個々の実力を真に問われる時代になってきたことは言うまでもない。物事を批評したり論評したりするだけの医師はどこにでもいる存在となった。医療において一番楽な立ち位置が、批評家の医師である。そのような医師が一見まともな姿を装い、組織の中にもっともらしい意見を主張することもある。我々実地医家はより一層真摯に物事に対峙し、行動していかなければならない。研究もさることながら、地道に地域社会に良質な医療情報を発信することも大切である。

勤務医も開業医も地域とともに生き、地域医療を実践する実地医家の集団としての神奈川県内科医学会は、診診・病診・病病・医患・患患とあらゆる形態の医療連携のネットワーク化にも力を注ぐとともに、それらを十二分に駆使できるよう活動していかなければならないと考えている。

医は学と術と道と言われている。医師は地域に生き、活かされている。常に日々の研鑽や研究の延長線上に、日常診療があるに違いない。

# 50周年記念

## 3期6年を振り返って

神奈川県内科医学会 名誉会長 中 佳一



2009年5月、中山会長からバトンを渡され、県内科医学会の会長に就任しました。第5代目の会長として、2015年4月迄3期6年、会員にささえられ、会の「舵取り」をさせていただきました。

私がこの6年間一貫して追求、尽力しました事は、県内科医学会の「みえる(〇〇〇)化」を組織的に追求、推進することでした。個々の優れた点を線としさらに面とする試みでした。遂行しましたことは組織体制の確立強化であります。県下17市町村からなる単位内科医会を実行性ある「5地区」集約し体制確立の下、活動を強化するものです。又、従来の副会長3名(会内2、大学1)から6名(各地区より1名、大学より1名)の体制とすると共に、一方それぞれの地区の副会長に責任と権限を付与し活動していただくこととしました。又、各単位内科医会より1名常任幹事を選出いただき、円滑な執行体制をとらせていただきました。毎年9月から10月にかけて、県の会長・副会長が県下5地区をそろってまわり、地区のかかえる課題、県の活動につき親しく意見交換する場を設けさせていただきました。

定常会務におきましては、会務6部門(総務、学Ⅰ、学Ⅱ、社会・公益、広報・情報、保険・制度)のそれぞれの責任者に副会長を配置し、かつ実務の委員長、委員には、5地区から推薦いただき、全県下の意見が会務遂行に反映されるよう企図しました。特に注力しました事は、毎月開催される常任幹事会(幹事会)の議事の円滑な反映遂行を目指して総務部会を充実した布陣で行なう事に腐心しました。必ず他の5部会の委員会の委員長級の方々に委員になっていただきました。ふり返ってみますとこの組織的構成が会務の円滑な遂行の「中核」「核心」となったと考えます。

これを背景に、「見える化」のスタートをさせていただきました。

県医師会へは、当時の大久保会長に当会が学術を中心に県医師会、医学会の中核としてささえ、協力する事を申し入れると共に、活動させていただきました。県下四大学(本院)三大学(分院)の会議に於ける当会の学術活動の貢献・実績、医師会分科会活動におけるリーダーシップ、神奈川医学会雑誌編集、等々当会会員の意欲と実力を反映させていただきました。これらの活動により県医師会の執行部の諸先生の信頼をいただいたと考えます。又、会長就任直後に県下の各市医師会会長を直接訪問し当会の活動内容をご説明し、ご理解をいただいたことも記憶に残ることです。

さらに、当会学術活動の推進の中で、行政をはじめ薬剤師会、歯科医師会、各分科会(眼科、整形、精神等)との連携を推めさせていただきました。

日本臨床内科医会の活動につきましては、役員(副会長、常任理事、理事)として会務遂行、推進の一翼

として活動しましたと共に、日臨内の各部各委員会に県会員を委員として派遣し、それぞれがリーダーシップを発揮し、日臨内の評価を上げる活動を継続して今日に到っております。(学術、会誌、禁煙、ニュース等々)

県内県本体活動としましては、創立以来継続して来ました基本定時学会並びに集会を時代に即して会員の声を反映する形で発展させる試みをしました。定時総会時の学術講演会は会員の要望に則り、スポンサーのつかない独自のテーマで開催を企画遂行するとか、四大学持ちまわりの「臨床医学研修講座」テーマの当会と大学との連携強化とか「秋季学術大会」を「加齢」をテーマとして開催して来ましたが、超高齢社会の進行の中で全体を貫ぬく命題として発展解消することとか、新年学術大会は各学術委員会が順番に担当し、各分野のトピックスを中心に企画に取り組んでいただきました。集談会は単位内科医会が順番に5地区でそれぞれ取り組むに際し、各地区の状況を含まえ連携して“集談会”共同・連携して開催する試みも行ないました。

次に当会学術活動の華である「事業委員会」は単に県内での学会活動にとどまらず、全国専門学会での発表評価の下、国際学会投稿迄たかめる動きを時代の調流にも乗り展開出来ました。糖尿病、高血圧等の臨床調査研究がそれであり、さらに時代をいち早く開拓した「神奈川肝炎対策委員会」であり「認知症対策委員会」「神奈川禁煙推進委員会」、「医薬品評価検討委員会」等々の活動であり、全国に当会の名を不動のものとするのが出来たと考えます。その他、私の会長時代に発足した「気管支喘息撲滅」の「呼吸器対策委員会」の活動、「在宅医療委員会」、超高齢社会の進行の中での高齢会員の活動、生活実態を踏まえた「シニア委員会」その発展形態としての「健康長寿を目指す委員会」も、高く評価され期待される分野と考えます。「広報・情報部会」はニュースを年3回、会報を年1回発行すると共にITについてもいち早く取り組み会員との共通の認識・交流に多大の貢献をいただくと共に、会員増強にも貢献していただいております。「保険・制度部会」には2年毎に“保険診療ハンドブック(医療・保険Q&A)”を発行していただき、保険診査委員の立場からわかりやすくポイントを記述され会員の理解に大きく貢献していると考えます。

以上この3期6年間はふり返ってみますと我々内科医学会に光がふりそそいだ6年間であり、まさに実力ある会員がそれぞれ連携して組織的にのびのびと活動出来た時期であったと、会長として深く感謝するものです。

最後にこの3期6年間でふり返り向後とも記憶に残る事を記し最後の締にしたいと考えます。

- ①2011年3月11日「東日本大震災」、我国歴史上の第3の国難(明治維新、敗戦)と思いますが日本人の底力の一担を目のあたりにした事、又会員の献身的な諸活動並びに多額の義援金のご協力を得たこと。
- ②2012年 ノーベル医学生理学賞を山中伸弥先生が受賞されたこと。
- ③2014年2月15日、大雪で交通不通の中、川崎での「77回集談会」、演者、講演者をはじめ誰1人遅れることなく多くの会員がつめかけたこと。私は帰宅迄7時間を要したこと。
- ④2014年4月 日本臨床内科医会総会を神奈川県が担当させていただいたこと。
- ⑤2018年9月 第32回日本臨床内科医学会神奈川招致決定。

そしてそれを荷う有能な会員と後継者にバトンを渡すことが出来たこと。





この度、神奈川県内科医学会が創立50周年を迎えられますことを、衷心よりお喜び申し上げます。

現会長の宮川会長を始め、歴代の先生方、各関係者の皆様方におかれましては、昭和42年の創立から50年もの永きにわたり、内科医学の研鑽・発展に尽力され、資質の向上に努めてこられましたことに敬意を表しますと共に感謝を申し上げます。

貴会は、昭和43年より各地区の持ち回りによる集談会を開始され、昭和49年には、拡大する医療ニーズにいち早く対応するため、県下4大学の協力を得て、臨床医学研修講座を開講されるなど、会の創設間もない頃より、大学・病院・診療所との連携に重点をおき、各種事業の立案から各研修会等の開催、調査研究に至るまで、先進的かつ活発な取組みを通じて、地域医療の発展に貢献してこられました。

一方、現在の医療界においては、医学医療の進歩や急速な高齢多死化に伴う人口動態の変化等により、在宅医療の重要性が再認識されています。

本県では、平成28年10月に「神奈川県地域医療構想」が策定されたところですが、当該構想を踏まえて、今後、地域包括ケアシステムを推進するにあたり、この在宅医療の枠組みを固め、充実を図ることは重要な施策の一つと認識しております。

また、平成25年から厚生労働省が提唱している「健康寿命の延伸」という考え方が浸透するようになり、県民の皆様健康に対する意識が高まってきている近年では、生活習慣病予防の観点からの食生活の見直し、運動不足の解消、禁煙等は日々の健康づくりに役立つ取組みとして認知されるようになりましたが、加えて地域の内科医による、かかりつけ医を中心とした切れ目のない医療・介護を提供することが、健康保持・増進に繋がる重要な要素と考えております。

その中でも、スポーツの分野では、2019年に「ラグビーワールドカップ」、2020年に「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催を控えており、県内の禁煙対策は喫緊の課題の一つとなるかと思いますが、神奈川県内科医学会員の先生方が、諸先輩方の意思を踏襲しながら日々の診療より得た知見を結集・共有することにより、乗り越えられることと確信しておりますし、引いては持続可能な医療提供体制の構築に向け、より一層の内科医学の発展が図られるものと大いに期待しております。

最後になりますが、今般の創立50周年を契機として、神奈川県内科医学会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 50周年記念祝辞

## 神奈川県内科医学会創立50周年にあたって

日本臨床内科医会 会長 猿田 享男



神奈川県内科医学会創立50周年、誠におめでとうございます。1903年に内科学の発展により日本の学術への貢献を考慮して日本内科学会が設立されましたが、その傘下で各都道府県では、内科臨床の第一線で活躍されている先生方の希望で、臨床に役立つ内科医学会が設立されてきました。その中で今日まで堅固たる体制の下で着実に発展してきた1つが神奈川県内科医学会であると思っています。ここまで発展してくるには、神奈川県内科医学会の執行部と会員の皆様方が大変な努力をなされてきたと思い、皆様方の努力に敬意を表します。

日本臨床内科医会は、日本内科学会から臨床内科の一層の発展と日常診療に直結する会として1985年に独立して創設されました。現在、都道府県の内科医学会の会員の多くの方が所属されており、会員数は14862名（2017年5月30日現在）で、神奈川県臨床内科医会の会員数は675名で、全国で6番目に多い県です。これまで神奈川県の方々には日本臨床内科医会のために大変貢献していただき、厚く感謝申し上げます。

これまでの神奈川県内科医学会の活動の記録を拝見させていただくと、県内の4医科大学との交流を密にされて臨床医学研究講座をもたれたり、地域医療事業として日常臨床上きわめて重要な疾患に対する委員会を組織されて活躍されてこれ、そのしっかりした組織体制は見習うことが多いと思っています。

神奈川県内科医学会をここまでリードしてこられた執行部の皆様方、とくにこれまで会長であられた中佳一先生や現会長の宮川政昭先生方の指導力によるところが大きいと思っています。

中先生には2014年に第31回日本臨床内科医会会頭をしていただき、宮川先生には2018年に第32回日本臨床内科医学会の会頭をつとめていただくことになっています。今後の神奈川県内科医学会の益々の発展を祈っています。

## 50周年記念祝辞

### 神奈川県内科医学会創立50周年、おめでとうございます

横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 寺内 康夫



神奈川県内科医学会創立50周年、心よりお慶び申し上げます。私が貴会との関わりを持つようになったのは、平成19年に副会長（学術担当）を拝命して以来です。平成17年1月より横浜市立大学に着任し、糖尿病や内分泌疾患を専門とする内科の教室を主宰し、安全・安心・思いやりの医療を提供するとともに、未来志向型の創造的な医療の構築を目指して日々奮闘中と、ご挨拶申し上げてから早10年です。最近では、私が直接関わった教室員が神奈川県各地で地域に根差した医療機関を設立し、神奈川県内科医学会の活動にも貢献している姿を見るようになりました。嬉しい限りです。

副会長をお引き受けした大きな理由は、実地医家と大学がこれほど緊密な関係を保ちながら、日常臨床のみならず、医療環境整備・臨床研究に臨んでいる現場を今まで見たことがなかったからでした。そして、多くの先生方と気持ちよく仕事をさせていただく機会に恵まれました。感謝申し上げます。私が着任したときと比較して、県内の糖尿病診療環境が格段によくなってきたと実感しています。

全国各地で、神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会（松葉育郎委員長）の臨床研究成果をご紹介することが多いのですが、いつも決まって言われるのは、「神奈川県の実地医家の先生方のパワーってすごいですね、これだけの成果を挙げ続けることができる秘訣は何でしょうか、」ということです。

これに対して、松葉育郎委員長が、メンバーのモチベーションを奮い立たせるとともに、公平に役割を与えており、そして大役を任された先生方が、その責務を全うされてきたからだ、いつもお応えしています。糖尿病領域では、様々な臨床研究が報告されていますが、神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会の一連の仕事、高く評価されています。

今後も、神奈川県のエビデンスを世界に発信するお手伝いをすることで、神奈川県内科医学会の発展に尽くしたいと思います。貴会の益々のご発展を祈願致します。

# 50周年記念祝辞

## 聖マリアンナ医科大学における内科診療の近況

聖マリアンナ医科大学代謝・内分泌内科 田中 逸



神奈川県内科医学会創立50周年おめでとうございます。

聖マリアンナ医科大学では川崎市宮前区の大学病院を中心に、川崎市立多摩病院、聖マリアンナ医科大学東横病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の4病院で内科診療を幅広く展開しております。大学病院では経カテーテルの大動脈弁置換手術（TAVI）や消化管系悪性腫瘍の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）など、外科領域で手術されていた病態を内科的に治療する高度な先進的医療を行うと同時に、地域との密接な医療連携の構築にも力を入れています。また救急外来、夜間急患センターの運営にも積極的に関わっています。2年後の平成31年に新病棟の建設着工を予定しており、最終的なレイアウトの設計を現在進めています。多摩病院では本年6月から後期研修医が内科専門領域の勉強以外に、内科全般を総合的に研修できる診療体制を開始し、各領域の指導医が横断的な指導を行っています。東横病院では2年前に代謝・内分泌内科を中心に生活習慣病センター、本年は循環器内科を中心に失神センターを開設しました。横浜市西部病院は横浜市の中核病院として重症疾患から希少疾患まで幅広く対応しており、アナフィラキシー外来増設や悪性内分泌疾患の治療などユニークな診療活動を行っています。

内科では各領域が高度に専門化され、細分化される傾向にあり、学会ごとに専門医、指導医の認定が行われています。しかし内科医にとって、自分の専門領域以外は浦島太郎であってよいわけではなく、生涯にわたって内科全般の横断的な学習や研鑽を積み重ねることも大切です。神奈川県内科医学会の活動の意義はまさに専門領域の深化と同時に横断的な実力アップの両方を目指すことにあると思います。そのために大学病院は積極的に本会の活動に協力する必要があり、同時に私どももご指導を頂き、勉強していかなくてはと考えています。益々の神奈川県内科医学会の発展を目指して、一緒に活動していく所存ですので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

# 50周年記念祝辞

## 神奈川県内科医学会50周年記念誌に寄せて

北里大学神経内科学 主任教授 西山 和利  
(北里大学東病院 副院長)



神奈川県内科医学会様の創設50周年の報に接し、謹んでお祝いを申し上げます。若輩者ではございますが、ご指名をいただきましたので、北里大学の内科系各科を代表してお祝いを申し述べさせていただきます。

神奈川県は900万人を超える人口を有し、本邦では東京都に次ぐ人口密集域です。当地では高齢化が加速しており、少子化が目立つことが知られており、内科医療の需要が非常に高いわけです。が、一方で、各分野とも医師数、専門医数とも潤沢とは言えません。県内科医学会様は、神奈川県医師会内の組織である神奈川県医学会において、1967年に設立されました。その規模は神奈川県医学会の中でも最大のものだと伺っております。ともすると医療過疎とも言える神

奈川県において、県内科医学会様の果たしてきた貢献は極めて大きく、県内科医学会様なしには県民の医療福祉は成り立たないと言っても過言ではございません。県内科医学会様は、診～診、病～診、病～病といった様々な形態の医療連携を充実させ、臨床研究や調査を通じて実地臨床医という一般性の中に専門性を確立し、医療を通じての地域社会公益への貢献を行ってこられました。また地区内科医会との双方向性の連携の創造、ICTによる会員相互ならびに県民に対する医療情報の発信と広報活動をも担っておられます。

私共、北里大学は、県の県北部～県中部を中心に活動いたしておりますが、この地域において高度先進医療を提供する大学病院としましても、県内科医学会様ならびにその会員の諸先生方には普段から一方ならぬ御高配を頂戴しております。北里大学の内科各科としましても、今後も県内科医学会様との友好的な協力関係を維持しつつ、県民医療への貢献を円滑に提供できるように切磋琢磨して参りたく存じますので、どうぞ宜しくご指導いただけますようお願い申し上げます。大変簡単ではございますが、県内科医学会様50周年に寄せて、お祝いの言葉にかえさせていただきます。

# 50周年記念祝辞

## 創立50周年の御祝い

東海大学医学部副学部長、内科学系長、神経内科学教授 瀧澤 俊也



この度は、神奈川県内科医学会が創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

神奈川県は人口912万人（平成27年国勢調査）に達し、横浜・川崎・相模原で592万人と全体の3分の2を占めておりますが、県西部の人口は決して多くはありません。さらに65歳以上の高齢者は、横浜・川崎では20%ほどですが、県西部では25～30%を占めております。東海大学医学部は、このような人口密度は高くないものの高齢化が進んだ広範な県西部地域を医療圏としております。当院は特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院として様々な高度医療を提供すると同時に、高度救命救急センター・大規模集中治療室を有し、神奈川県湘

南西部～県西地域における急性期医療の中核的医療機関としての役割を担っており、広域救急搬送システムである神奈川県ドクターヘリの運用医療機関として地域医療に貢献してゆきます。さらに2013年より神奈川県地域枠入学試験制度を取り入れており、県内の医師の偏在解消を視野に入れて人材の育成に努めております。こうした取り組みが、神奈川県の内科学の質的向上に繋がってゆくことを希望します。

今後の内科専門医制度改革にあたり、連携施設との協力体制が従来以上に必要になります。具体的には、当院が基幹施設で近隣施設が連携施設になるプログラムないしはその逆の立場になるプログラムに則り、大学病院ならではの高度専門医療とジェネラルな内科診療、急性期医療と慢性期疾患の診療を同時に経験できるように研修医を育成して参ります。この人材育成を達成するには多施設との綿密な連携が必須でありますので、是非とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、このたびの創立50周年を契機に、神奈川県内科医学会が益々ご発展されることを心からお祈り申し上げます。



神奈川県内科医学会が栗原操、北条龍彦両氏を中心にして県内科医学会の会則を立案し、第1回創立総会を開催したのは昭和42年（1967年）2月19日であった。昭和48年栗原操氏が初代会長に就任した。当時の常任幹事会は会長をはじめ10名前後で旧県医師会館の近くのホテルの一室で行われ、会終了後は胸襟を聞いての二次会も行われたと伝わっている。従来からの集談会等の事業に加え、県下四大学における臨床医学研修講座、四大学教授との懇談会を加え、その規模を拡大していった。

平成元年の総会において松田文太郎氏が会長に就任した。松田会長は全会員間のコミュニケーションを基本として医学の研究・教育と研修を積極的に推進し、全人的医療を考慮しつつ、患者に対する説明と同意による理解の普及に努力するとともに、病診連携の一層の強化を目指すこともモットーにした。

日本臨床内科医会との連携により、平成3年日本臨床内科医学会秋季学術総会を主催した。さらに平成8年日本臨床内科医会総会を横浜国際会議場にて開催した。

平成11年の定時総会において中山脩郎氏が会長に就任した。中山会長はこれまでの基本方針は堅持しつつ、各種講演会、セミナー開催への積極的な参画等、事業活動の拡大を目指した。また糖尿病対策委員会、肝炎対策委員会、認知症対策委員会、神奈川禁煙・分煙推進委員会、高血圧神奈川スタディ委員会、ジェネリック問題対策委員会を設立し活動を活発化した。認知症対策委員会は、「痴呆症」と言われる時代からその重要性に着目し、多くの実地臨床医に力を与えた。また禁煙・分煙活動に関しては、各都道府県に先駆けて着手し、禁煙条例策定に関しても大きな影響を与えた。また任期中、平成15年日本臨床内科医学会をパシフィコ横浜にて開催した。

平成21年の総会において、中佳一氏が会長に就任した。中会長は、新たな時代に即応した会則を目指し、会の根幹を揺るぎないものとした。また、学術部会としての糖尿病対策委員会、肝炎対策委員会、認知症対策委員会、神奈川高血圧・腎疾患対策委員会、呼吸器疾患対策委員会と合わせ、社会公益部会として神奈川禁煙・分煙推進委員会、ジェネリック医薬品評価検討委員会、在宅医療委員会、シニア委員会、心臓血管病対策委員会の設立整備に尽くされた。また任期中、平成26年日本臨床内科医会総会を開催した。

平成27年の総会において、宮川政昭が会長に就任し現在に至っている。本医学会の基本骨格である総務企画部会、財務部会、情報広報部会、保険制度部会の他に、学術部会として糖尿病対策委員会、肝・消化器疾患対策委員会、認知症対策委員会、高血圧・腎疾患対策委員会、呼吸器疾患対策委員会、心臓血管病対策委員会、禁煙推進委員会、在宅医療委員会、医薬品評価検討委員会、健康長寿社会を目指す委員会、リウマチ膠原病委員会、メディカルコミュニケーション委員会が活動している。各学術部会は、日本のさまざまな学会への発表や原著論文の投稿のみならず、欧米の学会にも発表や投稿を行い、多くの専門領域において学術団体として全国に名を轟かしていることは称賛に値することと自負している。平成30年には日本臨床内科医

学会をパシフィコ横浜にて開催する予定である。

設立以来、政治体系や社会機構の変化とともにマルチメディアの進歩による情報化の波、また医学教育も含めその専門志向等々めまぐるしく変わる社会に対応してきた。また医学進歩の中での診療技術や治療薬等変遷の中で本医学会もその存在意義を失わないよう更なる向上を目指してきた。その歴史の中の本医学会の活動状況、事業の変遷についてその概略を述べた。

本医学会は神奈川医学会最大の分科会としての存在意義を認識して、その期待に沿うべく各種の事業活動を行ってきた。さまざまな時代の変化に対処しながら、会長の下、副会長並びに常任幹事の並々ならぬ努力の中で従来の事業計画を踏襲しつつ更に事業の拡大を図った歴史であると考ええる。

大上段に振りかざした表現になるが、神奈川県内科医学会の第一の役割は、あらゆる権力から自立して、『正確で公平公正な情報』、つまり真実を伝えることに努力し続けることであろう。『健全な実地医療』は、医学会の会員が等しく正しい情報、『真実』を共有することが土台になれば、決して成立しないからである。

第二の役割は、『豊かで良質な講演会を幅広く提供』することである。『良質』と並んで『豊かな』と書かれていることの意味は、豪華・贅沢な、という意味ではなく、『多様性に富んだ』という意味だと考える。

患者もそうであるが医師自身も独自の価値観を持った多様な人々によって形づくられる実地医療の中に生きていることや、臨床試験も含む学術そのものにも多様な価値観が存在することを示すこともまた、神奈川県内科医学会の大切な使命なのかもしれない。



# 「神奈川県内科医学会 創立50周年」 を記念して

鎌倉市医師会内科医会 正山 堯



神奈川県内科医学会は、平成29年2月に創立50周年を迎えました。内科医会の一役員として心からお慶び申し上げます。

私の手許に県内科医学会会誌「神内医ニュース」の創刊号（平成2年1月20日刊行）がありますが、当時の内科医学会会長は松田文太郎先生でした。先生が会長にご就任された平成元年には日本臨床内科医学会に神奈川県が、東京、大阪に次いで3番目に加入した年でもありました。当時は医療保険制度改革運動で、平成8年には医療費の大削減、保険医の定年制などが問題になり、医療界は大荒れの状態でした。この様な状況の中で松田会長は、本内科医学会の発展のために、また、日本臨床内科医会との連携強化のために大変な努力をされました。日常の先生は自由闊達で人懐っこく、みんなに心配りの行き届いた優しい先生でした。先生を支えた時の副会長には、鈴木潔、金子義一、那須義篤、中山脩郎、の諸先生方おられました。

平成11年に松田文太郎会長がご退任され、中山脩郎先生が内科医会会長にご就任されました。先生は当初から急速に進む医療環境の中で、特に高齢者医療の重要性を提言され、外へ出て行く第三の医療（在宅医療）への取組みを推進されておられました。先生は地域医療に携わる主に70才以上の高齢医師の余生にも目を向けられ、自ら神奈川県内科医学会「シニア委員会」を立ち上げられ、医師の「第3の人生」の生活実態調査が施行されました。この委員会は、その後、「健康長寿社会を目指す委員会」として、神奈川県内科医学会学術事業委員会の一つとして位置付けられ現在に至っています。不肖私も委員会の一員ではありますが、先日、平成29年4月28日の夜間に中山会長から私に電話があり、5月1日（月）に横浜崎陽軒での第5回委員会で、医師、宗教師、神職の立場から見た「死生観」についての討論会を行うので、会に出席して意見を述べてほしいと言われました。実はこの夜間の会話が中山先生との最後の別れとなるとは予想だにしませんでした。先生は4月29日に御自宅で急逝され、予定の委員会は先生の居られないままで開催されました。最後に、本来中山先生がお坐りになるはずの主の居ない椅子を囲んで、委員会に出席された先生方を撮影した写真を見ますと、何とも淋しく空しい気持ちにさせられます。今年の一月に私は中山先生に呼び出され、東戸塚駅前のビル内の「おそば屋」で先生と談笑する機会がありましたが、先生は内科医学会の行く末について自論を真剣に語られ私にも意見を求められました。

お別れの際、背ほんこの恰好で杖を片手に立ち去って行く、どことなくペースを漂わせた先生の後ろ姿は、今でも私の目に焼きついて離れません。先生はご承知のように謹厳実直で学問一筋の先生でありました。先生は内科医学会の学術事業として「内分泌異常のやさしい診方」「糖尿病性網膜症」「会則委員会」「禁煙分煙推進委員会」「医薬品評価検討委員会」等多くの学術事業委員会を設置し、更に平成13年「神内医

ニュース」に「会員の声」のコーナーが設置されたのも中山会長の時でした。

神奈川県内科医学会の充実発展のため、心血を注いで努力された先生の突然の死は、我々内科医学会にとっても掛け替えのない大きな損失でありました。`將に巨星落つ、先生の生前のご厚情、ご指導に感謝の意を表すとともに、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

中山先生のご生前、平成21年5月に、中佳一先生が内科医学会第5代目会長にご就任されました。この時期の副会長始め主だったスタッフには、三川武彦、南信明、梶原光令、山本晴章、羽鳥裕、沼田裕一、宮川政昭 諸先生方の名前があります。

中会長は中山会長時代に設置された7つの学術事業を更に進展させ、特に臨床研究活動や社会的広域活動への取り組みを重視され、更に県内学術活動を積極的に推進され、ITの活用とそれに準ずる県内医学会の学術ニュース、会誌の内容刷新、生涯教育、各種学術講演会、臨床検査 等の充実発展に尽力されました。先生は内科医学会組織体制、5委員会（総務、本体事業一学Ⅰ、事業委員会一学Ⅱ、保険制度、情報広報）を設定され、これにより、内科医学会と大学との連携と、緊密な双方向性の事業・活動推進を企画され、我々医師は広く遍く`発表、発言、行動、することの重要性を説明されました。

また、今までに無かった「呼吸器疾患」に関する委員会の設置に取り組みされたのも中会長の時だったと思います。中先生は大変温厚、誠実なお人柄で、全ての会員に公平で分け隔てなく接しられ、心配りの行き届いた素晴らしい会長だったと思います。私事ですが平成25年4月14日に開催された、第30回日本臨床内科医学会総会で、中会長のご推薦によって神奈川県代表として「地域医療功労賞」を授与させて頂きました。因みに「神内医ニュース」は、第55号（2005年4月1日発行）から、今までのB5版がA4版に変わったのも中会長の時からでした。中先生は平成27年（2015）に退任され、替って、宮川政昭副会長が、第6代目会長に就任され現在に至っています。神奈川県内科医学会は、昭和42年（1967）2月19日に誕生して以来、歴代会長の勝れた指導のもとに、多くの役員の方々や、委員会会員のご努力とご協力によって充実発展してまいりました。今まで、諸先輩達によって培われてきた貴重な実績と伝統を失うことなく、宮川新会長のリーダーシップのもとで、内科医学会が更なる内容の改善と学術活動を実践され、今後、本会が着実な飛躍、進展されんことを心から願う次第であります。

# 50周年記念

## 神奈川県内科医学会の歴史

小田原市浜町小児科医院 遠藤 郁夫



私にこの原稿依頼が届いたとき、間違ではないのかと感じました。というのは、私が内科医学会に入会したのは、小児科開業医として40年余たち、長男に院長を譲り総合診療科として活動を始めた、14年前に神奈川県内科医会へ入会したので会員歴としてはあまり長くなかったからです。

昭和47年、当時29歳で地元・小田原に浜町小児科医院を開業し、当初より地域医療活動に興味があり、内科はもちろん多くの科の先生方と講演会や研究会を企画・運営しておりました。若かったこともあり、多くの会の事務局的工作を引き受けてきておりました。

そして、昭和54年からは小田原医師会参与1年、理事9年、副会長14年勤め、さらに地域医療活動を積極的に推進し、県医師会へも各種委員会等でお出かけておりました。

したがって、神奈川県内科医学会の多くの先生方と古くから付き合いはきておりましたが、あくまで外側から見た内科学会史であり、少し的外れの記述もあろうかと危惧しております。

昭和55年頃より講演会・研修会（各医会持ち回り開催）などが盛んになり、次第に循環器、糖尿病、漢方、スポーツ医学、医療情報など各方面の研究会も活動を開始しはじめました。この年から日本プライマリケア学会の第1回学術集会在開催され、県下の多くの医師会の執行部のメンバーが会員となりました。

創世記の日本プライマリケア学会は地域医療を主テーマに、医師会活動そのものを討論する場となり、多くの都道府県医師会および郡市区医師会の主だったメンバーが会員として登録し、各地域での活動を発表してきました。

また、学術集会の主管は都道府県医師会が回り持ちでしておりました。

その影響もあり、昭和58年頃からは糖尿病・スポーツ医学および地域医療の研究会などは行政や地域住民を巻き込んで、市民公開講座などとして定期開催されるようになり、内科医会の先生たちが中心となり大いに活躍し始めました。

振り返ってみると、これまでの内科医の活動は個人的なものが主体で、内科医会として組織的な企画はあまり見られなかった気がいたします。

私の記憶では、神奈川県内科医学会が総力を挙げて活動したのは、昭和60年第6回日本プライマリケア学会を神奈川県医師会が主管することになったときだと思います。

この学会を成功させるため、故中山（当時の内科医会長）先生と日本プライマリケア学会・神奈川支部が共に、地域医療への取り組み、多職種間のチーム医療さらに市民教育などに関して、多くの研究チーム（郡市区医師会）に参加してもらったことなどが思い起こされます。

まさに、この学会の開催により神奈川県内の各医会の活動に弾みがついたと感じられました。そして内科医会もこの時期から組織的な活動がしっかり機能してきたように感じられました。

もう一つの波は平成の初めから10年間、大いに吹き荒れた情報化の流れだと思われます。

平成2年、全国の郡市区医師会の情報担当者などを中心にCOMINES（地域医療情報ネットワーク研究会）が発足し、事務局が小田原医師会に置かれた関係もあり、県下の多くの医師会が参加いたしました。

これを機に医師会の情報のデジタル化、インターネットやイントラネットでの地域医療情報ネットワークの構築などが熱に浮かされたように激しく動き出しました。

その結果として、地域医療、救急・災害医療およびチーム医療などにおける医療情報のネットワーク化が推進されました。

当然、内科医会の中にも医療情報を検討する研究会や講演会などの機会が増え、医学会の組織化・情報化も数歩進んだ時期でした。

この10年間吹き荒れた情報化・デジタル化の熱も、平成10年電子カルテの実用化の時代に入り急に静かになってきました。

その後、私は県医師会の活動として小児科、プライマリケア、スポーツ医学、漢方、医療情報などの方面から内科医学会と協調して種々研究会や講演会などを企画してまいりました。その中には、平成18年サプリメントその後、後発医薬品（ジェネリック）、禁煙運動などが記憶に残っております。

平成23年プライマリケアと内科医会の共催で在宅医療に関するシンポジウムを企画し、子どもと高齢者の在宅医療には大きな差があることを指摘しました。

これを契機に内科医学会の中に在宅医療委員会が設置され、私もその委員として参加しております。

神奈川県の内科学会との関わりを振り返りますと、昭和55年日本プライマリケア学会が発足し、全国的に地域医療に関する検討が盛んに行われ、その中で各医会（特に内科）が組織的に機能することの必要性が認識されてきたものと感じられます。

日本プライマリケア学会・神奈川県支部の活動も故中山先生など内科医会の幹事を中心に地域医療（保健、医療、福祉の連携）、チーム医療（多職種間の連携）、から市民教育など長い間、種々企画・運営してきたことを思い出しております。

30代より地域医療活動を企画・運営（事務局として）してきて、昭和50年前半は医師会の最大勢力である内科医会が組織的に機能していないことにやきもきしておりました。

昭和60年頃より糖尿病、循環器、スポーツ医学などグループ活動がかなり活発に動き始め、平成になり組織的な活動が当たり前機能する状態になってきたように感じております。

この様に振り返ってみたとき、最近の内科学会の活躍には目をみはるものがあり、いつの間にか、医師会の中心に座っていることに気が付きました。

あらためて、内科医学会の50年間の功績を称え、今後の活躍を期待したいと思います。



# 定時総会時学術講演会

平成19年～平成28年

## 【平成19年度】

第72回定時総会 平成19年5月19日（土）ワークピア横浜

講演1「混乱の極にある医療問題の行方」医事評論家 行天良雄先生

講演2「内科医が知っておきたい眼科領域の知識」横浜市立大学眼科 水木信久先生

講演3「メタボリックシンドロームと超悪玉コレステロール」昭和大学第一内科 平野 勉先生

## 【平成20年度】

第74回定時総会 平成20年5月17日 パシフィコ横浜アネックスホール

第71回集談会優秀演題

1「最近経験したTangier病の一女性例 文献的考察を含めて」佐藤医院 重松洋先生

2「むずむず足症候群による睡眠障害」横浜呼吸器クリニック睡眠呼吸障害センター 小野容明先生

講演1「代謝内分泌疾患の最新の薬物療法と今後の展望」横浜市立大学医学部内分泌糖尿病内科学教授 寺内康夫先生

講演2「C型肝炎をめぐる最新のトピックス」横浜市立大学医学部市民総合医療センター病院長 田中克明先生

## 【平成21年度】

第76回定時総会 平成21年5月16日 新横浜プリンスホテル

第72回集談会優秀演題

1「インスリンラルギンの週3回射ちから本格的なインスリン導入に成功した2型糖尿病の1例」たくま幸クリニック 詫摩哲郎先生

2「当院における高血圧と睡眠呼吸障害についての検討」聖マリアンナ医科大学腎臓病センター腎臓高血圧内科助教 永田晃平先生

講演1「みてわかる糖尿病患者の食後代謝異常」東京慈恵会医科大学糖尿病代謝内分泌内科准教授 森豊先生

講演2「混乱する医療行政」医事評論家 行天良雄先生

講演3「神奈川県内科医学会会長在職10年にて思うこと」神奈川県内科医学会名誉会長 中山脩郎先生

## 【平成22年度】

第78回定時総会 平成22年5月15日（土）横浜ベイホテル東急

第73回集談会優秀演題

1「肝疾患専門の開業医が4年半で診断しえた小肝細胞癌23例の検討 診断におけるUSとMRIの有効性の比較を中心に」たらお内科消化器科 多羅尾和郎先生

2「腸間膜脂肪織炎と診断されステロイドが著効した1例」横須賀市立うわまち病院 鈴木寿人先生

講演「インクレチン薬を理解して使う」秋田大学内分泌代謝老年内科学教授 山田裕一郎先生

【平成23年度】

第80回定時総会 平成23年5月14日（土）神奈川県  
総合医療会館7階講堂  
第74回集談会優秀演題

- 1 「非アルコール性脂肪性肝疾患におけるア  
ディポネクチンと脂質代謝の検討」永井医院  
松丸克彦先生
- 2 「低GI食品の血糖コントロールにおける有  
用性について」かしわぎクリニック 柏木利  
幸先生

講演「腎不全高齢者の管理と治療」聖マリアンナ医  
科大学高血圧腎臓内科学教授 木村健二郎先生

【平成24年度】

第82回定時総会 平成24年5月19日（土）神奈川県  
総合医療会館7階講堂  
第75回集談会優秀演題

- 1 「脂質異常症におけるイコサペント酸／アラ  
キドン酸（EPA/AA）の検討 頸動脈エ  
コーへの影響」林医院 林 正博先生
- 2 「SU薬高用量でコントロール不良な糖尿病  
患者におけるDPPⅣ阻害薬併用前後のグル  
カゴンインスリン値についての検討」内科ク  
リニックこばやし 小林一雄先生

講演1 「医事紛争の現状と防止策」昭和大学医学部  
客員教授・弁護士 平沼高明先生

講演2 「医療事故と医事紛争 大学病院での対策の  
現状」東海大学医学部附属病院副院長 医療監査部  
長 消化器外科部長 安田聖栄先生

講演3 「開業医における医療事故の予防と事故発生  
時の対応」神奈川県医事紛争特別委員会委員 正山  
堯先生

【平成25年度】

定時総会 平成25年5月25日（土）神奈川県総合医  
療会館7階講堂  
第76回集談会優秀演題

- 1 「一過性脳虚血発作（TIA）の新しいとらえ  
方について」田口博基先生

- 2 「無症候性高IgG4血症の2例：高IgG4血  
症は抑制すべきか」永井一毅先生

講演「iPS細胞を用いた今後の医療の可能性」京大  
大学iPS細胞研究所副所長 特定拠点教授 中畑龍  
俊先生

【平成26年度】

定時総会 平成26年5月17日（土）神奈川県総合医  
療会館7階講堂  
第77回集談会優秀演題

- 1 「日帰り手術クリニックにおける術後心停止  
2例（Brugada症候群の経験）」高山クリ  
ニック 高山鉄郎先生
- 2 「肺高血圧症への挑戦」横須賀内科医会 岩  
澤孝昌先生

講演「これからは遺伝子医療の時代 知っておきたい  
こと」東海大学医学部専門診療学系産婦人科学教  
授 東海大学医学部附属病院遺伝子診療科科长 和  
泉俊一郎先生

【平成27年度】

定時総会 平成27年5月16日（土）神奈川県総合医  
療会館7階講堂  
第78回集談会優秀演題

- 1 「人工内耳埋め込み術を要した肺炎球菌性髄  
膜炎の1例」横須賀市うわまち病院 荘田博  
朗先生
- 2 「CTで虫体を描出した小腸アニサキス症の  
1例」育生会横浜病院 井野元勤先生

講演「現代から見た江戸の医学」順天堂大学名誉教  
授 特任教授 日本医史学会前理事長 酒井シヅ先  
生

【平成28年度】

定時総会 平成28年5月21日（土）横浜ベイシェラ  
トンホテル&タワーズ  
第79回集談会優秀演題

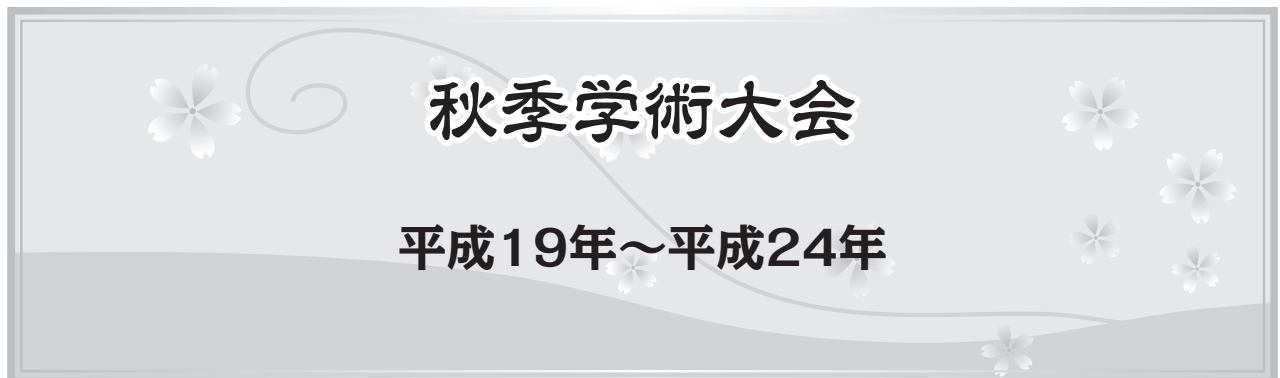
- 1 「過去6年間に当院で経験したツツガムシ病  
14例」鈴木医院 鈴木哲先生

2 「拡張期僧房弁逆流をきっかけに早期手術を  
施行し心機能改善を得た感染性心内膜炎によ  
る急性期大動脈弁逆流の一例」小田原市立病  
院 柿崎良太先生

講演1 「高齢者の認知症とうつ病の正しい理解と適  
切なケア～転倒を起こさない不眠症治療への対応も

含めて～」香川大学医学部精神神経医学講座教授  
中村祐先生

講演2 「地域の医療提供体制の現状と将来 とくに  
神奈川県について」国際医療福祉大学医療福祉学部  
学部長 高橋 泰先生



#### 【平成19年度】

第73回秋季学術総会 平成19年11月17日（土）ワークピア横浜

テーマ「高齢者医療の実際と在宅医療の現状」

「新たに施行される後期高齢者医療制度と特定健診・特定保健指導の問題点について」

協同ふじさきクリニック 桑島政臣先生

「終末期患者の在宅医療」

野村内科クリニック 野村良彦先生

「難病患者の在宅医療」

山手訪問クリニック 岩淵 潔先生

「予測不可能な時代への対応」

医事評論家 行天良雄先生

「高齢者高血圧の特徴と脳梗塞二次予防」

東京大学大学院医学系研究科加齢医学准教授

秋下雅弘先生

#### 【平成20年度】

第75回秋季学術総会 平成20年11月15日 崎陽軒本店

パネルディスカッション「高齢者の医療制度」

特別講演「脳梗塞慢性期患者の抗血栓療法」

横浜市立脳血管医療センター 永山正雄先生

#### 【平成21年度】

第77回秋季学術総会 平成21年11月21日（土）ホテルコスモ横浜

講演1「変貌するインフルエンザ 季節性から新型インフルエンザへ」

川崎内科医会 廣津伸夫先生

講演2「一般外来における喘息とCOPDの診療」

横浜市立みなと赤十字病院アレルギーセンター

中村陽一先生

#### 【平成22年度】

第79回秋季学術総会 平成22年11月20日（土）グラウンドホテル湘南

講演1「脳卒中 予防と治療のパラダイムシフト」

聖マリアンナ医科大学神経内科教授

長谷川泰弘先生

講演2「高齢者の心不全」

東京慈恵医科大学循環器内科教授 吉村道博先生

#### 【平成23年度】

第81回秋季学術大会 平成23年11月19日（土）横須賀セントラルホテル

講演1「最先端の降圧療法 新ガイドラインに向けて」

愛媛大学大学院病態情報内科学教授 檜垣實男先生

講演2「2型糖尿病の外来診療最前線」

順天堂大学大学院スポーツロジックセンター長

河盛隆造先生

#### 【平成24年度】

第83回秋季学術大会 平成24年11月17日（土）川崎日航ホテル

委員会活動報告「禁煙分煙推進」「ジェネリック問題対策」「在宅医療」



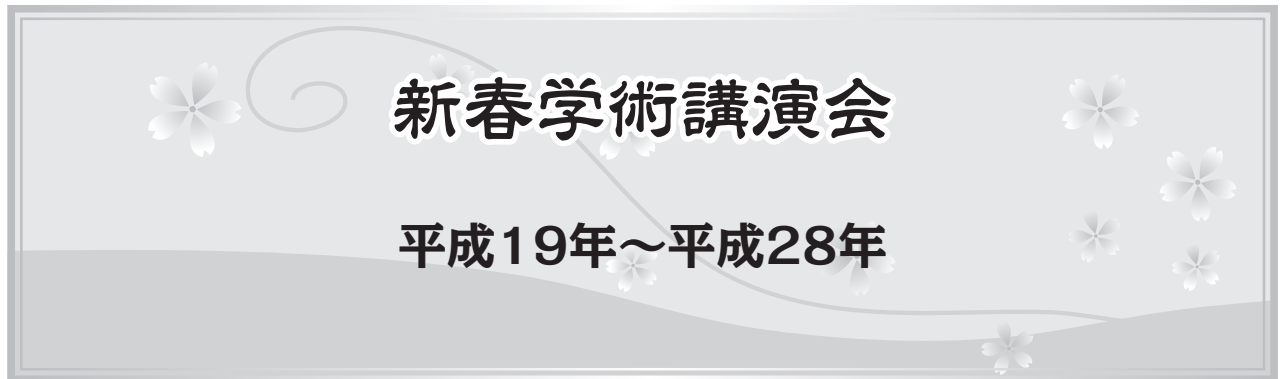
第75回集談会優秀演題表彰と講演

講演「認知症患者への対応について 診療および病  
診連携の立場から」

東海大学医学部附属大磯病院長 吉井文均先生

【平成25年度】

秋季学術大会は平成25年度より廃止



新年学術大会

平成19年 1月18日 テーマ：消化器疾患

演題①「胃疾患についての最近の話題」

演者 聖マリアンナ医科大学病院  
消化器・肝臓内科教授 伊東文生

演題②「大腸癌の診断・治療の最前線」

演者 昭和大学横浜市北部病院  
消化器センター教授 工藤進英

平成20年 1月24日 テーマ：日常診療における亜鉛の役割

演題①「生態金属と生命のスーパーシステム：生物進化から生老病死を診る」

演者 大阪市立大学大学院医学科分子病態学  
講座教授 井上正康

演題②「多くの医師が思っているよりも、遥かに多くの亜鉛欠乏患者さんがいる！」

演者 長野県東御市立みまき温泉診療所顧問  
倉澤隆平

平成21年 1月15日 テーマ：

演題①「糖尿病腎症の現況と今後の対策」

演者 東海大学医学部腎内分泌代謝内科准教授  
鈴木大輔

演題②「日常診療における腎疾患の見方」

演者 名古屋大学大学院医学系研究科  
腎臓内科学教授 松尾清一

平成22年 1月21日

一般演題「糖尿病腎症アンケート調査報告」

演者① 糖尿病腎症対策班班長  
伊藤正吾

演者② 糖尿病腎症対策班副班長

の場清和

特別講演「糖尿病治療は変革するか？」

演者 関西電力病院院長 清野 裕

平成23年 1月20日 テーマ：高血圧症の臨床

一般演題「高血圧神奈川スタディ委員会によるアンケート調査報告」

演者 高血圧神奈川スタディ委員会委員長

佐藤和義

特別講演「糖尿病患者に求められる厳格な血圧管理～ARBとCa拮抗薬をいかに用いるか～」

演者 埼玉医科大学病院院長埼玉医科大学  
内分泌・糖尿病内科教授 片山茂裕

平成24年 1月19日 テーマ：「喘息死ゼロへの挑戦」

基調講演「患者吸入指導のコツと吸入デバイス操作法のピットホール」

演者 東濃中央クリニック院長 大林浩幸

特別講演「喘息治療のup to date」

演者 杏林大学呼吸器内科 教授 滝澤 始

平成25年 1月17日 テーマ「B型肝炎の今を知る」

特別講演①「我が国のB型肝炎：最近の動向と特徴」

演者 慶應義塾大学医学部兼任教授

齋藤英胤

特別講演②「B型肝炎ウイルス（HBV）：炎症と発癌」

演者 東海大学内化学系消化器内化学教授

峯 徹哉

※新春学術講演会に改称

平成26年1月16日 テーマ：神奈川県高血圧治療  
の実態

特別講演①「神奈川高血圧臨床実態断面調査  
2008-2011年」

演者 高血圧・腎疾患対策委員会委員  
小林病院院長 羽鳥信郎

特別講演②「CKDにおける集学的治療の意義  
と背景」

演者 聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科  
教授 木村健二郎

平成27年1月15日 テーマ：新規糖尿病治療薬への  
期待と課題基調講演  
「神奈川県内科医学会  
糖尿病対策委員会にお  
けるSGLT2阻害剤の  
有効性と安全性の検討」

演者 朝日内科クリニック院長 飯塚 孝  
特別講演「糖尿病治療の近未来～新しい治療薬

への期待～」

演者 草津総合病院理事長 柏木厚典

平成28年1月21日 テーマ：禁煙と肺炎球菌ワク  
チンによる肺炎予防

特別講演①「高齢者の命を脅かすCOPDと肺炎  
～その予防戦略～」

演者 呼吸器疾患対策委員会委員 金子 猛

特別講演②「禁煙の動機づけ面接法」

演者 禁煙・分煙推進委員会 加濃正人

平成29年1月19日

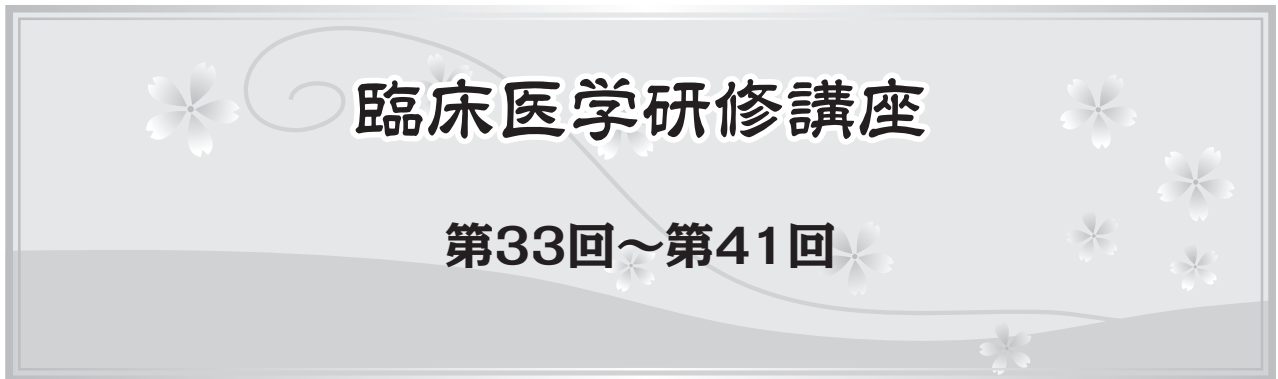
講演①「これからのC型肝炎治療」

演者 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
消化器内科教授 田中克明

講演②「医薬品で健康を害うことのない世界を  
つくるために」

演者 川崎北合同法律事務所弁護士 湯山 薫  
清和綜合法律事務所弁護士 服部功志  
薬害C型肝炎被害者 浅倉美津子

(敬称略)



第32回臨床医学研修講座

日時：平成19年9月30日（日）午後1時00分

場所：東海大学 伊勢原キャンパス

- (1) 「心房細動の治療—最近の進歩—」  
東海大学医学部循環器内科教授 田辺晃久
- (2) 「急性期脳血管障害と組織プラスミノゲンアクチベータ静注療法」  
東海大学医学部神経内科准教授 瀧澤俊也
- (3) 「NSAIDsの上部消化管障害の現状と内視鏡に対する影響」  
東海大学医学部消化器内科教授 峯 徹哉
- (4) 「関節リウマチの診断と治療—最近の進歩—」  
東海大学医学部リウマチ内科教授 鈴木康夫
- (5) 「遺伝性疾患への対応」  
東海大学医学部神経内科助教 森田優子
- (6) 「パーキンソン病の早期診断とプライマリケア」  
東海大学医学部神経内科助教 熊澤竜哉

第33回臨床医学研修講座

日時：平成20年9月28日（日）午後1時00分

場所：横浜市立大学附属病院

- (1) 「特定健診・保健指導とこれからの生活習慣病対策」  
横浜市立大学大学院 医学研究科情報システム予防医学 水嶋春朔
- (2) 「心臓再同期療法 —ペースメーカーによる最新の心不全治療—」  
横浜市立大学大学院 医学研究科 病態制御

内科学准教授

石川利之

- (3) 「呼吸器感染症における耐性菌の現状と対策」  
横浜市立大学附属病院呼吸器内科准教授 綿貫祐司
- (4) 「C型慢性肝炎治療の現状 —医療助成費の活用—」  
横浜市立大学附属病院消化器内科准教授 齊藤 聡
- (5) 「脊髄小脳変性症のトピックス」  
横浜市立大学大学院 医学研究科 神経内科学准教授 児矢野 繁
- (6) 「アディポネクチンの基礎と臨床」  
横浜市立大学大学院 医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教授 寺内康夫

第34回臨床医学研修講座

日時：平成21年9月27日（日）午後1時00分

場所：聖マリアンナ医科大学病院

- (1) 「抗血栓療法時の消化器系合併症とその対策」  
聖マリアンナ医科大学 消化器内科准教授 安田 宏
- (2) 「腎移植について—レシピエント・ドナーの立場から—」  
聖マリアンナ医科大学 腎臓病センター 佐々木秀郎 谷澤雅彦
- (3) 「大学病院における医療安全管理室の役割」  
聖マリアンナ医科大学 医療安全管理室長（小児外科教授） 北川博昭
- (4) 「脳卒中の連携医療と均霑（てん）化」

聖マリアンナ医科大学 神経内科教授

長谷川泰弘

(5) 「ストレス心筋症にまつわる最近の話題」

聖マリアンナ医科大学 循環器内科講師

明石嘉浩

(6) 「メタボリック症候群の真犯人はだれか? : 脂肪肝との関連を考える」

聖マリアンナ医科大学 代謝内分泌内科准教授

方波見卓行

第35回臨床医学研修講座

日 時：平成22年9月18日（土）午後3時00分

場 所：小田急ホテルセンチュリー相模大野

(1) 「胃癌化学療法の進歩—標準治療の確立を目指して—」

北里大学 医学部 消化器内科学教授

小泉和二郎

(2) 「生活習慣病管理における高血圧診療のポイント」

北里大学 医学部 内分泌代謝内科学教授

七里眞義

(3) 「パーキンソン病、ALSの遺伝子治療、再生医療—最近の話題」

北里大学 医学部 神経内科学教授

望月秀樹

(4) 「安全で高度な抗がん治療の実践に向けて—街角がん治療の夜明け」

北里大学 医学部 外科学講師 蔵並 勝

(5) 「悪性リンパ腫の外来化学療法の実際」

北里大学 医学部 血液内科学講師

宮崎浩二

第36回臨床医学研修講座

日 時：平成23年9月10日（土）午後3時00分

場 所：プレジール平塚

東海大学医学部内科学系呼吸器内科

教授 阿部 直

東海大学医学部内科学系血液内科

教授 安藤 潔

東海大学医学部附属大磯病院

教授 吉井文均

東海大学医学部内科学系消化器内科

教授 峯 徹哉

第37回臨床医学研修講座

日 時：平成24年10月20日（土）午後2時10分

場 所：横浜市立大学附属市民総合医療センター

(1) 「横浜市、神奈川県における広域の視点からみた小児医療の展開」

横浜市立大学 医学部長

横田俊平

(2) 「胸痛の心電図診断 コツと落とし穴」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

心臓血管センター

小菅雅美

(3) 「糖尿病の基礎知識と診療の実際」

横浜市立大学 内分泌・糖尿病内科

寺内康夫

(4) 「肺の生活習慣病、COPDの早期診断に向けて」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

呼吸器病センター

金子 猛

(5) 「クリニックにおける急変対応と救急蘇生」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

高度救命救急センター

森村尚登

(6) 「増える、腸の現代病! ~炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)の基礎知識から最新治療まで~」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

IBDセンター

国崎玲子

第38回臨床医学研修講座

日 時：平成25年9月21日（土）午後3時30分

場 所：川崎日航ホテル

(1) 「地域における感染症への対応 —Up to date—」

聖マリアンナ医科大学 総合診療内科准教授

國島広之

(2) 「明日からの診療に役立つ消化器疾患の実用化研究最前線」

聖マリアンナ医科大学 消化器・肝臓内科

- 准教授 山本博幸
- (3) 「肺気腫（COPD）の診断とその治療」  
 聖マリアンナ医科大学 呼吸器・感染症内科  
 准教授 峯下昌道
- (4) 「呼吸器疾患の気管支鏡を使用した治療」  
 聖マリアンナ医科大学 呼吸器・感染症内科  
 教授 宮澤輝臣
- (5) 「ストレス心筋症の診断」  
 聖マリアンナ医科大学 循環器内科教授  
 明石嘉浩

第39回臨床医学研修講座

日 時：平成26年11月1日（土）午後3時00分

場 所：北里大学病院本館

- (1) 「北里新病院の体制と医師会等の連携」  
 北里大学医学部医療安全・管理学教授  
 渋谷明隆
- (2) 「集学的がん診療センターの運用と連携」  
 北里大学医学部新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門・臨床腫瘍学教授  
 佐々木治一郎
- (3) 「早期胃癌に対する内視鏡治療と地域連携」  
 北里大学医学部新世紀医療開発センター先端医療領域開発部門・低侵襲光学治療学教授  
 田邊 聡
- (4) 「健康科学センターでの人間ドックと地域連携」  
 北里大学医学部新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門・健康科学分野准教授  
 小林清典

第40回臨床医学研修講座

日 時：平成27年10月31日（土）午後3時00分

場 所：平塚プレジール

- (1) 「気管支喘息診療の進歩」  
 東海大学医学部 内科学系 呼吸器内科  
 教授 浅野浩一郎
- (2) 「経口血糖降下薬の選択のポイント～併用薬の

- 考え方からSGLT2阻害薬最新情報まで～」  
 東海大学医学部 内科学系 腎内分泌代謝内科 准教授 豊田雅夫
- (3) 「頭痛診療のマネジメント～診断から治療まで～」  
 東海大学医学部 内科学系 神経内科  
 准教授 永田栄一郎
- (4) 「血球数に異常を認めた際の診断・治療ステップ～最近の血液内科学の進歩をまじえて～」  
 東海大学医学部 内科学系 血液腫瘍内科  
 教授 川田浩志
- (5) 「ホルター心電図を日常診療に生かす～心事故は予知できるか？～」  
 東海大学医学部 内科学系 循環器内科  
 教授 吉岡公一郎

第41回臨床医学研修講座

日 時：平成28年10月15日（土）午後3時00分

場 所：横浜市立大学附属市民総合医療センター

- (1) 「外来で困らないための遷延性咳嗽の診断と治療のポイント」  
 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
 呼吸器病センター 准教授・部長 工藤 誠
- (2) 「慢性腎臓病における血圧管理」  
 横浜市立大学 循環器・腎臓内科学 准教授  
 田村功一
- (3) 「痛みの臨床？症例を中心に」  
 神奈川県立足柄上病院 総合診療科  
 担当部長 太田光泰
- (4) 「糖尿病診療の課題 2016」  
 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
 内分泌・糖尿病内科
- (5) 「肝炎治療の最近の進歩」  
 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
 消化器病センター 准教授 中馬 誠  
 (敬称略)



【平成19年度】

第71回集談会（横浜内科学会）平成20年2月10日  
（日）横浜ベイホテル東急  
一般演題 35題  
特別講演「膠原病の診断治療に関する最近の動向」  
横浜市立大学大学院医学研究科病態免疫制御内科学  
教授 石ヶ坪良明先生

【平成20年度】

第72回集談会（川崎内科医会）平成21年2月15日  
（日）川崎日航ホテル  
一般演題49題  
特別講演「大学病院における臨床教育」聖マリアン  
ナ医科大学循環器内科教授 三宅良彦先生

【平成21年度】

第73回集談会（横須賀内科医会）平成22年2月7  
日（日）湘南国際村センター国際会議場  
一般演題25題  
ランチオンセミナー「石綿関連疾患の臨床と救済制  
度」横須賀内科医会会長 三浦溥太郎先生  
特別講演「マレーシアのサンゴ移殖事業について」  
横須賀市自然人文博物館館長 林 公義先生

【平成22年度】

第74回集談会（秦野伊勢原内科医会）平成23年2月  
12日（土）ロワジュールホテル厚木  
一般演題19題  
講演「糖尿病治療の新戦略」聖マリアンナ医科大学

教授 田中 逸先生

【平成23年度】

第75回集談会（厚木内科医会）平成24年2月18日  
（土）レンブラントホテル厚木  
一般演題33題  
講演「腎障害を伴う高血圧治療」埼玉医科大学腎臓  
内科教授 鈴木洋通先生

【平成24年度】

第76回集談会（横浜内科学会）平成25年2月9日  
（土）横浜崎陽軒本店  
一般演題47題  
講演「骨折リスク因子を考慮した骨粗鬆症治療」  
虎の門病院内分泌代謝科部長 竹内靖博先生

【平成25年度】

第77回集談会（川崎市内科医会）平成26年2月15日  
（土）ホテル精養軒  
一般演題28題  
講演1「ATTEST-K中間報告」章平クリニック  
院長 湯浅章平先生  
講演2「超高齢社会の糖尿病と認知症」千葉大学大  
学院医学研究院細胞治療内科学教授 横手幸太郎先  
生

【平成26年度】

第78回集談会（横須賀内科医会）平成27年2月14日  
（土）横須賀市医師会館

一般演題16題

講演「生活習慣病とがんの共通分子病態 健康長寿社会を目指して」熊本大学院生命科学研究部分子遺伝学分野教授 尾池雄一先生

【平成27年度】

第79回集談会（小田原内科医会、足柄上内科医会）  
平成28年2月13日（土）おだわら総合医療福祉会館  
一般演題16題

講演1「心房細動、静脈血栓症に対する抗凝固療法の最新の知見」京都大学大学院医学研究科循環器内

科学助教 牧山武先生

講演2「iPS細胞を用いた心筋再生医療実用化への現状」慶應義塾大学医学部循環器内科教授  
福田恵一先生

【平成28年度】

第80回集談会（海老名内科医会）平成29年2月18日  
（土）オークラフロンティアホテル海老名  
一般演題21題

講演「腸内細菌と免疫」慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室教授 本田賢也先生





## ■総務企画部会



部会長 岡 正直

### 【はじめに】

総務企画部会は平成27年に、それまで別個に存在していた「総務部会（もと総務委員会）」と「学術Ⅰ部会（もと学術委員会）」が統合される形で発足しました。

「総務委員会」

～平成20年まで 委員長 山本晴章

平成21年～平成22年 委員長 武田 浩

「総務部会」

平成23年～平成26年 部会長 武田 浩

「学術委員会」

～平成20年まで 委員長 伊藤正吾

「学術Ⅰ委員会」

平成21年～平成22年 委員長 伊藤正吾

「学術Ⅰ部会」

平成23年～平成26年 部会長 岡 正直

「総務企画部会」

平成27年～ 部会長 岡 正直

### 【平成18年度】

- (1) 新年学術大会 平成19年1月18日（木）横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
講演1 「胃疾患についての最近の話題」

聖マリアンナ医科大学消化器肝臓内科教授

伊東文生先生

講演2 「大腸癌の診断治療の最前線」

昭和大学横浜市北部病院消化器センター教授

工藤進英先生

- (2) 第70回集談会（大和市）平成19年2月25日（日）大和グランドホテル

一般演題48題

特別講演「大きく変わった糖尿病の外来診療」

順天堂大学医学部

内科学代謝内分泌学教授 河盛隆造先生

### 【平成19年度】

- (1) 第72回定時総会 平成19年5月19日（土）ワークピア横浜

講演1 「混乱の極にある医療問題の行方」

医事評論家 行天良雄先生

講演2 「内科医が知っておきたい眼科領域の知識」

横浜市立大学眼科 水木信久先生

講演3 「メタボリックシンドロームと超悪玉コレステロール」

昭和大学第一内科 平野 勉先生

- (2) 第32回臨床医学研修講座 平成19年9月30日（日）東海大学伊勢原キャンパス

講演1 「心房細動の治療」

東海大学医学部循環器内科教授 田辺晃久先生

講演2 「急性期脳血管障害と組織プラスミノゲンアクチベータ静注療法」

東海大学医学部神経内科准教授 瀧澤俊也先生

- 講演3 「NSAIDsの上部消化管障害の現状と内視鏡治療に対する影響」  
東海大学医学部消化器内科教授 峯 徹哉先生
- 講演4 「関節リウマチの診断と治療」  
東海大学医学部リウマチ内科教授 鈴木康夫先生
- 講演5 「遺伝性疾患への対応」  
東海大学医学部神経内科助教 森田優子先生
- 講演6 「パーキンソン病の早期診断とプライマリケア」  
東海大学医学部神経内科助教 熊澤竜哉先生
- (3) 第73回秋季学術総会 平成19年11月17日(土)  
ワークピア横浜  
テーマ「高齢者医療の実際と在宅医療の現状」  
「新たに施行される後期高齢者医療制度と特定健診・特定保健指導の問題点について」  
協同ふじさきクリニック 桑島政臣先生  
「終末期患者の在宅医療」  
野村内科クリニック 野村良彦先生  
「難病患者の在宅医療」  
山手訪問クリニック 岩淵 潔先生  
「予測不可能な時代への対応」  
医事評論家 行天良雄先生  
「高齢者高血圧の特徴と脳梗塞二次予防」  
東京大学大学院医学系研究科加齢医学准教授 秋下雅弘先生
- (4) 新年学術大会 平成20年1月24日(木) ホテル横浜キャメロットジャパン  
テーマ「日常診療における亜鉛の役割」  
講演1 「生体金属と生命のスーパーシステム：生物進化から生老病死を診る」  
大阪市立大学大学院医学研究科 分子病態学講座教授 井上正康先生  
講演2 「多くの医師が思っているよりも遥かに多くの亜鉛欠乏患者さんがいる！」  
長野県東御市立みまき温泉診療所顧問 倉澤隆平先生
- (5) 第71回集談会(横浜内科学会) 平成20年2月10日(日) 横浜ベイホテル東急
- 一般演題 35題  
特別講演「膠原病の診断治療に関する最近の動向」  
横浜市立大学大学院医学研究科 病態免疫制御内科学教授 石ヶ坪良明先生
- 【平成20年度】
- (1) 第74回定時総会 平成20年5月17日 パシフィコ横浜アネックスホール  
第71回集談会優秀演題  
1 「最近経験したTangier病の一女性例 文献的考察を含めて」 佐藤医院 重松 洋先生  
2 「むずむず足症候群による睡眠障害」  
横浜呼吸器クリニック 睡眠呼吸障害センター 小野容明先生
- 講演1 「代謝内分泌疾患の最新の薬物療法と今後の展望」  
横浜市立大学医学部 内分泌糖尿病内科学教授 寺内康夫先生
- 講演2 「C型肝炎をめぐる最新のトピックス」  
横浜市立大学医学部 市民総合医療センター病院長 田中克明先生
- (2) 第33回臨床医学研修講座 平成20年9月28日(日) 横浜市立大学附属病院10階臨床講堂  
講演1 「特定健診・保健指導とこれからの生活習慣病対策」 横浜市立大学大学院医学研究科 情報システム予防医学 水嶋春朔先生  
講演2 「心臓再同期療法 ペースメーカーによる最新の心不全治療」  
横浜市立大学大学院医学研究科 病態制御内科学准教授 石川利之先生  
講演3 「呼吸器感染症における耐性菌の現状と対策」  
横浜市立大学附属病院 呼吸器内科准教授 綿貫祐司先生  
講演4 「C型慢性肝炎治療の現状 医療助成費の活用」  
横浜市立大学附属病院 消化器内科准教授 斉藤 聡先生  
講演5 「脊髄小脳変性症のトピックス」

- 横浜市立大学大学院医学研究科  
神経内科学准教授 児矢野 繁先生
- 講演6 「アディポネクチンの基礎と臨床」  
横浜市立大学大学院医学研究科  
分子内分分泌糖尿病内科教授 寺内康夫先生
- (3) 第75回秋季学術総会 平成20年11月15日 崎陽  
軒本店  
パネルディスカッション「高齢者の医療制度」  
特別講演「脳梗塞慢性期患者の抗血栓療法」  
横浜市立脳血管医療センター 永山正雄先生
- (4) 新年学術大会 平成21年1月15日 横浜ベイ  
シェラトン ホテル&タワーズ  
特別講演1 「糖尿病性腎症の現況と今後の対策」  
東海大学医学部腎内分泌代謝内科  
准教授 鈴木大輔先生  
特別講演2 「日常診療における腎臓病の診かた」  
名古屋大学大学院医学研究科  
腎臓内科学教授 松尾清一先生
- (5) 第72回集談会（川崎内科医会）平成21年2月  
15日（日）川崎日航ホテル  
一般演題49題  
特別講演「大学病院における臨床教育」  
聖マリアンナ医科大学循環器内科教授  
三宅良彦先生

【平成21年度】

- (1) 第76回定時総会 平成21年5月16日 新横浜プ  
リンズホテル  
第72回集談会優秀演題  
1 「インスリングルガンの週3回注射から本  
格的なインスリン導入に成功した2型糖尿病  
の1例」  
たくま幸クリニック 詫摩哲郎先生  
2 「当院における高血圧と睡眠呼吸障害につ  
いての検討」  
聖マリアンナ医科大学腎臓病センター  
腎臓高血圧内科助教 永田晃平先生  
講演1 「みてわかる糖尿病患者の食後代謝異常」  
東京慈恵会医科大学糖尿病代謝内分泌内科

- 准教授 森 豊先生  
講演2 「混乱する医療行政」  
医事評論家 行天良雄先生  
講演3 「神奈川県内科医学会会長在職10年にて思  
うこと」  
神奈川県内科医学会名誉会長 中山脩郎先生
- (2) 第34回臨床医学研修講座 平成21年9月27日  
（日）聖マリアンナ医科大学病院別館8階大講  
堂  
講演1 「NSAID／抗血栓療法時の消化器系合併  
症とその対策」  
聖マリアンナ医科大学  
消化器内科准教授 安田 宏先生  
講演2 「腎移植について レシピエントの立場か  
ら」  
聖マリアンナ医科大学腎泌尿器外科  
佐々木秀郎先生  
講演3 「腎移植について ドナーの視点から」  
聖マリアンナ医科大学  
腎臓病センター 谷澤雅彦先生  
講演4 「大学における医療安全管理室の役割」  
聖マリアンナ医科大学  
医療安全管理室長 北川博昭先生  
講演5 「脳卒中の医療連携と均霑化」  
聖マリアンナ医科大学  
神経内科教授 長谷川泰弘先生  
講演6 「ストレス心筋症にまつわる最近の話題」  
聖マリアンナ医科大学  
循環器内科講師 明石嘉浩先生  
講演7 「メタボリック症候群の真犯人は誰か？脂  
肪肝との関連を考える」  
聖マリアンナ医科大学  
代謝内分泌内科准教授 方波見卓行先生
- (3) 第77回秋季学術総会 平成21年11月21日（土）  
ホテルコスモ横浜  
講演1 「変貌するインフルエンザ 季節性から新  
型インフルエンザへ」  
川崎内科医会 廣津伸夫先生  
講演2 「一般外来における喘息とCOPDの診療」

- 横浜市立みなと赤十字病院アレルギーセンター  
中村陽一先生
- (4) 新年学術大会 平成22年1月21日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
講演1「糖尿病腎症アンケート調査結果の概要報告」 糖尿病対策委員会 伊藤正吾先生  
講演2「糖尿病腎症アンケート調査結果の解析報告」 糖尿病対策委員会 的場清和先生  
講演3「糖尿病治療は変革するか?」  
関西電力病院院長 清野 裕先生
- (5) 第73回集談会(横須賀内科医会) 平成22年2月7日(日) 湘南国際村センター国際会議場  
一般演題25題  
ランチョンセミナー「石綿関連疾患の臨床と救済制度」  
横須賀内科医会会長 三浦溥太郎先生  
特別講演「マレーシアのサンゴ移殖事業について」  
横須賀市自然人文博物館館長 林 公義先生
- 【平成22年度】
- (1) 第78回定時総会 平成22年5月15日(土) 横浜ベイホテル東急  
第73回集談会優秀演題  
1「肝疾患専門の開業医が4年半で診断しえた小肝細胞癌23例の検討 診断におけるUSとMRIの有効性の比較を中心に」  
たらお内科消化器科 多羅尾和郎先生  
2「腸間膜脂肪織炎と診断されステロイドが著効した1例」  
横須賀市立うわまち病院 鈴木寿人先生  
講演「インクレチン薬を理解して使う」  
秋田大学内分泌代謝老年内科学教授  
山田裕一郎先生
- (2) 第35回臨床医学研修講座 平成22年9月18日(土) ホテルセンチュリー相模大野  
講演1「胃癌化学療法の進歩」  
北里大学医学部消化器内科学教授  
小泉和二郎先生  
講演2「生活習慣病管理における高血圧診療のポ  
イント」  
北里大学医学部内分泌代謝内科教授  
七里眞義先生  
講演3「パーキンソン病、ALSの遺伝子治療、再生医療」  
北里大学医学部神経内科学教授  
望月秀樹先生  
講演4「安全で高度な抗がん治療の実践に向けて」  
北里大学医学部外科学講師  
蔵並 勝先生  
講演5「悪性リンパ腫の外来化学療法の実際」  
北里大学医学部血液内科学講師  
宮崎浩二先生
- (3) 第79回秋季学術総会 平成22年11月20日(土)  
グランドホテル湘南  
講演1「脳卒中 予防と治療のパラダイムシフト」  
聖マリアンナ医科大学神経内科教授  
長谷川泰弘先生  
講演2「高齢者の心不全」  
東京慈恵医科大学循環器内科教授  
吉村道博先生
- (4) 新年学術大会 平成23年1月20日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
講演1「神奈川高血圧スタディアンケート調査結果報告」  
委員長 佐藤和義先生  
講演2「糖尿病患者に求められる厳格な血圧管理」  
埼玉医科大学内分泌糖尿病内科教授  
片山茂裕先生
- (5) 第74回集談会(秦野伊勢原内科医会) 平成23年2月12日(土) ロワジュールホテル厚木  
一般演題19題  
講演「糖尿病治療の新戦略」  
聖マリアンナ医科大学教授 田中 逸先生
- 【平成23年度】
- (1) 第80回定時総会 平成23年5月14日(土) 神奈川県総合医療会館7階講堂  
第74回集談会優秀演題

- 1 「非アルコール性脂肪性肝疾患におけるア  
ディポネクチンと脂質代謝の検討」  
永井医院 松丸克彦先生
- 2 「低GI食品の血糖コントロールにおける有  
用性について」  
かしわざクリニック 柏木利幸先生  
講演「腎不全高齢者の管理と治療」  
聖マリアンナ医科大学  
高血圧腎臓内科学教授 木村健二郎先生
- (2) 第36回臨床医学研修講座 平成23年9月10日  
(土) 平塚プレジール  
講演1 「COPDの現状と今後の対策」  
東海大学医学部呼吸器内科 阿部 直先生  
講演2 「骨髄異形成症候群の診断と治療最近の進  
歩」  
東海大学医学部血液腫瘍内科 安藤 潔先生  
講演3 「パーキンソン病治療ガイドライン2011を  
めぐって」  
東海大学医学部神経内科 吉井文均先生  
講演4 「C型慢性肝炎の最新診断治療」  
東海大学医学部消化器内科 峯 徹哉先生
- (3) 第81回秋季学術大会 平成23年11月19日(土)  
横須賀セントラルホテル  
講演1 「最先端の降圧療法 新ガイドラインに向  
けて」  
愛媛大学大学院病態情報内科学教授  
檜垣實男先生  
講演2 「2型糖尿病の外来診療最前線」  
順天堂大学大学院ス  
ポートロジーセンター長 河盛隆造先生
- (4) 新年学術大会 平成24年1月19日(木) 横浜ベ  
イシェラトン ホテル&タワーズ  
講演1 「患者吸入指導のコツと吸入デバイス操作  
法のピットホール」  
東濃中央クリニック院長 大林浩幸先生  
講演2 「気管支喘息の治療up to date」  
杏林大学呼吸器内科教授 滝澤 始先生
- (5) 第75回集談会(厚木内科医会) 平成24年2月18  
日(土) レンブラントホテル厚木

- 一般演題33題  
講演「腎障害を伴う高血圧治療」  
埼玉医科大学腎臓内科教授 鈴木洋通先生

【平成24年度】

- (1) 第82回定時総会 平成24年5月19日(土) 神奈  
川県総合医療会館7階講堂  
第75回集談会優秀演題  
1 「脂質異常症におけるイコサペント酸/アラ  
キドン酸(EPA/AA)の検討 頸動脈エ  
コーへの影響」  
林医院 林 正博先生  
2 「SU薬高用量でコントロール不良な糖尿病  
患者におけるDPPⅣ阻害薬併用前後のグル  
カゴンインスリン値についての検討」  
内科クリニックこばやし 小林一雄先生  
講演1 「医事紛争の現状と防止策」  
昭和大学医学部  
客員教授・弁護士 平沼高明先生  
講演2 「医療事故と医事紛争 大学病院での対策  
の現状」  
東海大学医学部付属病院副院長  
医療監査部長 消化器外科部長 安田聖栄先生  
講演3 「開業医における医療事故の予防と事故発  
生時の対応」  
神奈川県医事紛争特別委員会委員  
正山 堯先生
- (2) 第37回臨床医学研修講座 平成24年10月20日  
(土) 横浜市立大学医学部市民総合医療セン  
ター  
講演1 「横浜市、神奈川県における広域の視点か  
ら見た小児医療の展開」  
横浜市立大学医学部長 横田俊平先生  
講演2 「胸痛の心電図診断 コツと落とし穴」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター  
心臓血管センター 小菅雅美先生  
講演3 「糖尿病の基礎知識と診療の実際」  
横浜市立大学内分沁糖尿病内科  
寺内康夫先生

- 講演4 「肺の生活習慣病COPDの早期診断に向けて」  
 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
 呼吸器病センター 金子 猛先生
- 講演5 「クリニックにおける急変対応と救急蘇生」  
 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
 高度救命救急センター 中村京太先生
- 講演6 「増える腸の現代病！炎症性腸疾患の基礎知識から最新治療まで」  
 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
 IBDセンター 国崎玲子先生
- (3) 第83回秋季学術大会 平成24年11月17日(土)  
 川崎日航ホテル  
 委員会活動報告「禁煙分煙推進」「ジェネリック問題対策」「在宅医療」  
 第75回集談会優秀演題表彰と講演  
 講演「認知症疾患への対応について 診療および病診連携の立場から」  
 東海大学医学部附属大磯病院長  
 吉井文均先生
- (4) 新年学術大会 平成25年1月17日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
 講演1 「我が国のB型肝炎 最近の動向と特徴」  
 慶應義塾大学医学部兼任教授 齋藤英胤先生  
 講演2 「B型肝炎ウイルス 炎症と発癌」  
 東海大学内科系消化器内科学教授 峯 徹哉先生
- (5) 第76回集談会(横浜内科学会) 平成25年2月9日(土) 横浜崎陽軒本店  
 一般演題47題  
 講演「骨折リスク因子を考慮した骨粗鬆症治療」  
 虎の門病院内分泌代謝科部長 竹内靖博先生
- 【平成25年度】
- (1) 定時総会 平成25年5月25日(土) 神奈川県総合医療会館7階講堂  
 第76回集談会優秀演題  
 1 「一過性脳虚血発作(TIA)の新しいとらえ方について」 田口博基先生  
 2 「無症候性高IgG4血症の2例：高IgG4血症は抑制すべきか」 永井一毅先生
- 講演「iPS細胞を用いた今後の医療の可能性」  
 京都大学iPS細胞研究所副所長  
 特定拠点教授 中畑龍俊先生
- (2) 第38回臨床医学研修講座 平成25年9月21日(土) 川崎日航ホテル  
 講演1 「地域における感染症への対応」  
 聖マリアンナ医科大学  
 総合診療内科准教授 國島広之先生  
 講演2 「明日からの診療に役立つ消化器疾患の実用化研究最前線」  
 聖マリアンナ医科大学  
 消化器肝臓内科准教授 山本博幸先生  
 講演3 「COPDの診断と治療」  
 聖マリアンナ医科大学  
 呼吸器感染症内科准教授 峯下昌道先生  
 講演4 「呼吸器疾患の気管支鏡を使用した治療」  
 聖マリアンナ医科大学  
 呼吸器感染症内科教授 宮澤輝臣先生  
 講演5 「ストレス心筋症の診断」  
 聖マリアンナ医科大学  
 循環器内科教授 明石嘉浩先生
- (3) 秋季学術大会は平成25年度より廃止
- (4) 新春学術講演会 平成26年1月16日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
 講演1 「神奈川高血圧臨床実態断面調査2008-2011年」  
 小林病院院長 羽鳥信郎先生  
 講演2 「CKDにおける集学的治療の意義と背景」  
 聖マリアンナ医科大学  
 腎臓高血圧内科教授 木村健二郎先生
- (5) 第77回集談会(川崎市内科医会) 平成26年2月15日(土) ホテル精養軒  
 一般演題28題  
 講演1 「ATTEST-K中間報告」 章平クリニック院長 湯浅章平先生  
 講演2 「超高齢社会の糖尿病と認知症」  
 千葉大学大学院医学研究院  
 細胞治療内科学教授 横手幸太郎先生

【平成26年度】

- (1) 定時総会 平成26年5月17日(土) 神奈川県総合医療会館7階講堂  
第77回集談会優秀演題
- 1 「日帰り手術クリニックにおける術後心停止2例 (Brugada症候群の経験)」  
高山クリニック 高山鉄郎先生
- 2 「肺高血圧症への挑戦」  
横須賀内科医会 岩澤孝昌先生
- 講演「これからは遺伝子医療の時代 知っておきたいこと」  
東海大学医学部専門診療学系産婦人科学教授  
東海大学医学部附属病院遺伝子診療科科長  
和泉俊一郎先生
- (2) 第39回臨床医学研修講座 平成26年11月1日(土) 北里大学病院本館3階臨床講義室
- 講演1 「北里新病院の体制と医師会等の連携」  
北里大学医学部医療安全管理学教授  
渋谷明隆先生
- 講演2 「集学的がん診療センターの運用と連携」  
北里大学医学部新世紀医療開発センター  
横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学教授  
佐々木治一郎先生
- 講演3 「早期胃癌に対する内視鏡治療と地域連携」  
北里大学医学部新世紀医療開発センター  
先端医療領域開発部門低侵襲光学治療学教授  
田邊 聡先生
- 講演4 「健康科学センターでの人間ドックと地域連携」  
北里大学医学部新世紀医療開発センター  
横断的医療領域開発部門健康科学分野准教授  
小林清典先生
- (3) 新春学術講演会 平成27年1月15日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
- 講演1 「神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会におけるSGLT2阻害薬の有効性と安全性の検討」  
朝日内科クリニック院長 飯塚 孝先生
- 講演2 「糖尿病治療の近未来 新しい治療薬への

期待」

- 草津総合病院理事長 柏木厚典先生
- (4) 第78回集談会(横須賀内科医会) 平成27年2月14日(土) 横須賀市医師会館  
一般演題16題  
講演「生活習慣病とがんの共通分子病態 健康長寿社会を目指して」  
熊本大学院生命科学研究部  
分子遺伝学分野教授 尾池雄一先生

【平成27年度】

- (1) 定時総会 平成27年5月16日(土) 神奈川県総合医療会館7階講堂  
第78回集談会優秀演題
- 1 「人工内耳埋め込み術を要した肺炎球菌性髄膜炎の1例」  
横須賀市うわまち病院 荘田博朗先生
- 2 「CTで虫体を描出した小腸アニサキス症の1例」  
育生会横浜病院 井野元勤先生
- 講演「現代から見た江戸の医学」  
順天堂大学名誉教授 特任教授  
日本医史学会前理事長 酒井シヅ先生
- (2) 第40回臨床医学研修講座 平成27年10月31日(土) 平塚プレジール
- 講演1 「気管支喘息診療の進歩」  
東海大学医学部呼吸器内科教授  
浅野浩一郎先生
- 講演2 「経口血糖降下薬の選択のポイント 併用薬の考え方からSGLT2阻害薬最新情報まで」  
東海大学医学部腎内分泌代謝内科  
准教授 豊田雅夫先生
- 講演3 「頭痛診療のマネジメント 診断から治療まで」  
東海大学医学部神経内科准教授  
永田栄一郎先生
- 講演4 「血球数に異常を認めた際の診断治療ステップ 最近の血液内科学の進歩をまじえ

て」

東海大学医学部血液腫瘍内科教授

川田浩志先生

講演5 「ホルター心電図を日常診療に生かす 心  
事故は予知できるか」

東海大学医学部循環器内科教授

吉岡公一郎先生

(3) 新春学術講演会 平成28年1月21日(木) 横浜  
ベイシェラトン ホテル&タワーズ

講演1 「高齢者の命を脅かすCOPDと肺炎 その  
予防戦略」

横浜市立大学医学部呼吸器内科教授

金子 猛先生

講演2 「禁煙の動機づけ面接法」

新中川病院内科 神経科 加濃正人先生

(4) 第79回集談会(小田原内科医会、足柄上内科医  
会)平成28年2月13日(土)おだわら総合医療  
福祉会館

一般演題16題

講演1 「心房細動、静脈血栓症に対する抗凝固療  
法の最新の知見」

京都大学大学院医学研究科

循環器内科学助教 牧山武先生

講演2 「iPS細胞を用いた心筋再生医療実用化へ  
の現状」

慶應義塾大学医学部循環器内科教授

福田恵一先生

【平成28年度】

(1) 定時総会 平成28年5月21日(土) 横浜ベイ  
シェラトン ホテル&タワーズ

第79回集談会優秀演題

1 「過去6年間に当院で経験したツツガムシ病  
14例」

鈴木医院 鈴木哲先生

2 「拡張期僧房弁逆流をきっかけに早期手術を  
施行し心機能改善を得た感染性心内膜炎によ  
る急性期大動脈弁逆流の一例」

小田原市立病院 柿崎良太先生

講演1 「高齢者の認知症とうつ病の正しい理解と  
適切なケア～転倒を起こさない不眠症治療  
への対応も含めて～」

香川大学医学部精神神経医学講座教授

中村 祐先生

講演2 「地域の医療提供体制の現状と将来 とく  
に神奈川県について」

国際医療福祉大学医療福祉学部学部長

高橋 泰先生

(2) 第41回臨床医学研修講座 平成28年10月15日  
(土) 横浜市立大学附属市民総合医療センター

講演1 「外来で困らないための遷延性咳嗽の診断  
と治療のポイント」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

呼吸器病センター准教授 部長 工藤 誠先生

講演2 「慢性腎臓病における血圧管理」

横浜市立大学循環器・腎臓内科学

准教授 田村功一先生

講演3 「痛みの臨床～症例を中心に」

神奈川県立足柄上病院総合診療科担当部長

太田光泰先生

講演4 「糖尿病診療の課題 2016」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

内分泌・糖尿病内科部長 山川 正先生

講演5 「肝炎治療の最近の進歩」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

消化器病センター准教授 中馬 誠先生

(3) 新春学術講演会 平成29年1月19日(木) 横浜  
ベイシェラトン ホテル&タワーズ

講演1 「これからのC型肝炎治療」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

消化器内科教授 田中克明先生

講演2 「医薬品で健康を害うことのない世界をつ  
くるために」

{薬害の歴史に学ぶ}

川崎北合同法律事務所弁護士 湯山 薫先生

{薬害被害の体験}

薬害C型肝炎被害者 浅倉美津子様

{薬害事件の背景と対策}



清和綜合法律事務所弁護士 服部功志先生  
 (4) 第80回集談会 (海老名内科医会) 平成29年 2月  
 18日 (土) オークラフロンティアホテル海老名  
 一般演題21題

講演「腸内細菌と免疫」  
 慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室教授  
 本田賢也先生

## ■財務部会



部会長 井野元 勤

平成19年度以前から、総務委員会の中に財務担当が置かれていた。

その後、組織の変更で、総務部会となり、その中の財務担当に変わり、更に、平成27年度から、財務部会と組織変更となった。

財務部会は、担当副会長として山本晴章、部会長として井野元勤があてられた。

金銭の出納実務は、県医師会の内科担当者が務めてきた。

財務の実務としては、収入、支出の管理であるが、創設以来長い時間が経過していたため、現在の経理の考え方とずれがあり、少しずつ変更してきた。

研究費の特別会計化として研究テーマごとに特別会計を置き、明瞭化した。

繰越金を特別会計としてきたが、繰越金と扱うこととした。

平成27年会長交代の際の銀行預金通帳の整理で、帳簿外の残金があることが判明した。いくらか残金があるはずという記憶は旧役員にはあったようだが、財務担当者は把握していなかったものであった。これを、平成27年度に明瞭化し、特別会計（日本臨床内科医学会準備委員会）の資金にあてることとした。

現在は通常会計、研究テーマごとの特別会計、日本臨床内科医学会準備委員会のための特別会計と大きく3本立てとなっている。

会員の会費収入は必要を満たせず、賛助会員として、製薬企業の参加をつのった。

広告収入は伸びないし、寄付金収入も伸びていないのが現状で、会員増強と、企業賛助会員の増加を期待している。

財務担当委員の世代交代をスムーズにするため、荏原太、武岡裕文、相川真吾が新たに部会員として加わった。

## ■情報・広報部会



部会長 宮島 真之

### I. 歴史

名称については20周年、25周年記念誌によると、「会則第10条 本会に委員会を置くことが

できる。委員は会長がこれを委嘱する。」となっていますが、具体的な委員会の名称は見られません。

35周年記念誌によると平成12年5月27日より施行された会則の記載では、「会則第11条 本会に次の委員会を設置する。委員は会長がこれを委嘱する。」とあり、以下の委員会の名称が見られます。

- (1) 日本臨床内科医会連携委員会
- (2) 広報委員会
- (3) 医療保険委員会

- (4) 学術委員会
- (5) その他必要な臨時委員会

更に40周年記念誌によると平成16年5月22日より施行された会則の記載には、「会則第11条 本会に次の委員会を設置する。委員は会長がこれを委嘱する。」とあり、以下の委員会の名称が使用されています。

- (1) 総務委員会
- (2) 広報・情報委員会
- (3) 医療・介護保険委員会
- (4) 学術委員会
- (5) その他必要な委員会

平成12年には広報委員会の名称が使用されていることから、活動はここから始まったものと考えられます。事務局に残っている資料をみると、平成13年7月12日第1回情報化推進委員会が開催され、この時会議の議題としてホームページ作成内容、委託先、立ち上げ時期などが記されていることから、ITを利用する基礎的な検討がなされていたものと考えられます。平成15年7月8日には第1回広報委員会の案内があり、議題は神内医ニュース（52号）について、医学会報編集方針（26号）、ホームページ・Eメールetc ITの活用、広報委員会委員の構成についてなどがみられ、進んでITを活用することが検討され、現在と同様の内容の検討がなされていたと思われます。平成21年7月17日には第1回情報・広報委員会が開催され、議題には協議事項（神内医ニュースについて、第61号の編集について）、報告事項（神内医パンフについて）などがみられ、神内医ニュース、会報の他、神内医パンフレットについての記載も見られます。

平成23年6月8日には第1回情報・広報部会の名称で会が開催され、現在の形になっています。ちなみにこの時の議題には神内医ニュース66号の進捗状況について、会報第34号の編集についてです。

## II. 主要活動項目

### 1. 神奈川県内科医学会会報について

内科20年史139ページには機関誌の記載があり、以下の文の記載があります。

### 「5. 会報（機関誌）」

栗原操先生が会長に就任され、会報の重要性を考え、予算は乏しいが、とにかく、創刊号を発行することになった。会報を通じて本会の活動をわかって頂くために、会務の記事、また会員諸先生のご意見、学術発表などを掲載することになる。

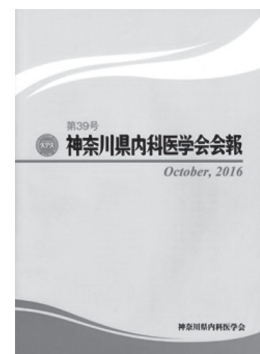
創刊以来、今日に至るまで欠号なく刊行を続けている。年1回の刊行では若干物足りぬ感があり、増刊を期したい。

昭和50年8月創刊す。」

平成28年（2016年）10月まで39巻を発刊しています。

最新の神奈川県内科医学会会報に掲載されている内容は、巻頭言、新春学術講演会、集談会、定時総会時学術講演会、臨床医学研修講座についての記事、四大学紹介、地区医会だより、日臨内だより、各年度の事業報告・収支決算書、次年度事業計画・収支予算案、お知らせ、編集後記です。

以下に、記念すべき創刊号と最新号の表紙を示します。



### 2. 神内医ニュースについて

神奈川県内科医学会25年史24ページには、以下に示す記載があります。

「平成元年7月20日第2回常任幹事会にて、会員向けの速報性ある情報提供と会員相互の親和を図る目的で、会報以外にニュースを発行することが決められ、編集委員長に中山脩郎常任幹事が推薦、選定された。

同年10月7日、第1回編集打合せ会が開催され下記の如く、きめられた。

編集委員 委員長 中山脩郎、副委員長 星昭行、委員 河野 清、野口政治

名称 神内医（じんない）ニュース

発行回数 年4回

内容は地区内科医会だより、日常診療に役立つ大学医からみた情報、診断・治療に関する連載シリーズ、県内科医学会の学術集会報告、常任幹事会報告、人物紹介、Q&A、日本臨床内科医学会の動向、会員の声、各地区内科医会主催学術講演等の予告

平成元年10月7日、第1回編集委員会により第1号発行の編集企画を行い、第1号は平成2年1月20日に発行。平成2年11月13日現在第4号を発行し、マスメディアによる会員への情報伝達の充実、会員の意見の下意识上達をもちかっている。中山脩郎記」とあり、現在の神内医ニュースの骨格が出来上がったと考えられます。

最新号の掲載内容は、巻頭言、第69号からは新連載シリーズとして、鎌倉内科診療所 正山堯先生の「歴史」、おおい医院 大利昌久先生の「感染症」、在宅医療委員会委員 長久保田毅先生の「在宅医療」が開始されています。その他記載記事は、学会の動き、日常診療に役立つ大学から見た情報、会員の声、日臨内の動向、窓、この一冊、事業委員会報告、祝辞。表彰受賞者の声、会議報告、お知らせ、編集後記などです。

神奈川県内科医学会25周年史に掲載されている神内医ニュースNo.5（平成3年1月25日発行）の表紙と最新号（第77号平成29年1月1日発行）の表紙を示します。



### 3. リーフレットについて

神奈川県内科医学会のことを広く知って頂くために作成した資料です。

会長挨拶、神奈川県内科医学会の変遷、組織体制、学術活動、学術部会事業委員会のお知らせ、所属地区・郡市内科医会の紹介、入会方法、会員種別、年会費、入会申込書、学会事務局などが記されています。

平成27年10月（最新版）を下記に示しました。



### 4. Web会議について

遠く離れた地点で連絡を取り合う場合、現在は携帯電話を使用すれば音声でのコミュニケーション、連絡は簡単にできる時代です。しかし、音声のみではその情報量はおのずと制限されてしまいます。もっと情報量の多い画像などを双方向で伝達できる方法にテレビ会議などがあるのはご存じの通りです。テレビを用いたシステムで会議を行うとなると、相当のコストがかかります。神奈川県内科医学会で使用しているWeb会議システム“EAKS”は、多くの会員が現在使用しているインターネット、パーソナルコンピュータを用いて、音声はもちろんのこと、動画や書類などを情

報伝達することが可能なシステムです。神奈川県内科医学会の会議において、距離的・時間的な問題などで会議に参加できない場合などに活用が期待できるものです。

最低限必要なものは1. パソコン（ノート型、デスクトップ型など）、2. パソコンのOS（オペレーションシステム）はWindows 7、Windows 8 または8.1が最適（最新ではWindows10）、3. Webカメラ（パソコンにUSBなどで接続する小型のビデオカメラで、会議の状況、人物の画像を送るため必要）、4. ヘッドセット（イヤホンまたはヘッドホンとマイクが一体となった装置）、5. インターネット環境（動画を送受信するため、光回線が最も適している）6. E-mailアドレス（EAKSシステムの登録に必要）です。

平成28年3月15日には運用が開始され、部会員の自宅または診療所からリアルタイムにWeb会議に参加して部会運営が行われています。

### Ⅲ. 10年間の活動

#### 【平成19年度】

##### 1) 委員会について

情報・医療委員会 2 回開催

〔第 1 回〕

日時：平成19年8月7日（火）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 会報第30号について
- ② 神内医ニュース第59号について

〔第 2 回〕

日時：平成19年10月11日（木）午後7時45分

場所：県総合医療会館

- ① ブログの利用に関して
- ② “神内医ニュース” 18地区持回り原稿の見直し
- ③ “神内医ニュース” 「お知らせ」の内容
- ④ “神内医ニュース” 「学会の動き」の内容

##### 2) 発行物について

- ① 神内医ニュース第59号（平成19年11月）
- ② 神奈川県内科医学会会報第30号（平成20年1月）

#### 【平成20年度】

##### 1) 委員会について

広報委員会 2 回開催

〔第 1 回〕

日時：平成20年7月3日（木）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第60号について
- ② 神奈川県内科医学会パンフレットの作成について

〔第 2 回〕

日時：平成20年11月12日（水）午後7時45分

場所：県総合医療会館

- ① 神奈川県内科医学会会報第31号について
- ② 神奈川県内科医学会パンフレットの作成について

##### 2) 発行物について

- ① 神内医ニュース第60号（平成20年9月）
- ② 神奈川県内科医学会会報第31号（平成21年1月）

#### 【平成21年度】

##### 1) 委員会について

情報・広報委員会 3 回開催

〔第 1 回〕

日時：平成21年7月17日（金）午後8時00分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第61号について
- ② 神奈川県内科医学会パンフレットについて

〔第 2 回〕

日時：平成21年9月3日（金）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第61号について
- ② 神奈川県内科医学会会報第32号について

〔第 3 回〕

日時：平成22年1月18日（月）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神奈川県内科医学会会報第33号について

##### 2) 刊行物について

- ① 神奈川県内科医学会のご案内パンフレット（平成21年5月）
- ② 神内医ニュース第61号（平成21年9月）
- ③ 神内医ニュース第62号（平成22年1月）

- ④ 神奈川県内科医学会会報第32号（平成22年4月）

【平成22年度】

1) 委員会について

情報・広報委員会4回開催

〔第1回〕

日時：平成22年5月24日（月）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第63号について

〔第2回〕

日時：平成22年9月13日（月）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第64号について

〔第3回〕

日時：平成22年11月26日（金）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第65号について

〔第4回〕

日時：平成23年2月28日（月）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第66号について

2) 刊行物について

- ① 神内医ニュース第63号（平成22年10月1日）

- ② 神内医ニュース第64号（平成23年1月1日）

- ③ 神内医ニュース第65号（平成23年4月1日）

- ④ 神奈川県内科医学会会報 第33号（平成22年10月1日）

【平成23年度】

1) 部会について

情報・広報部会4回開催

〔第1回〕

日時：平成23年6月8日（水）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第66号の進捗状況について

- ② 会報第34号の編集について

- ③ 神内医パンフレット改訂版の編集について

- ④ 神奈川県内科医学会会報 第33号（平成22年10月1日）

- ⑤ メーリングリスト、ツイッターの活用について

て

〔第2回〕

日時：平成23年7月28日（月）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 平成23-24年度情報広報部会人事について

- ② 会報第34号の進捗状況について

- ③ 神内医パンフレットの改訂版の編集について

〔第3回〕

日時：平成23年9月28日（木）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第67号について

- ② 神内医パンフレットについて

〔第4回〕

日時：平成24年2月28日（月）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第68号について

- ② ホームページ管理について

2) 刊行物について

- ① 神内医ニュース第66号（平成23年7月1日）

- ② 神内医ニュース第67号（平成24年1月1日）

- ③ 神奈川県内科医学会会報 第34号（平成23年10月1日）

【平成24年度】

1) 部会について

情報・広報部会4回開催

〔第1回〕

日時：平成24年3月5日（月）午後7時30分

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第68号について

- ② ホームページ管理について

〔第2回〕

日時：平成24年6月4日（月）

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第68号の編集状況について

- ② 神奈川県内科医学会会報 第35号の編集について

〔第3回〕

日時：平成24年9月10日（月）

場所：県総合医療会館

- ① 神奈川県内科医学会会報 第35号の編集について
- ② 定時総会時学術講演会の演題アンケートについて
- ③ 秋季学術総会について
- ④ 神医内ニュース第69号について  
〔第4回〕  
日時：平成25年3月4日（月）  
場所：県総合医療会館
- ① 神医内ニュース第70号について
- ② 神奈川県内科医学会のリーフレットについて
- 2) 刊行物について
- ① 神内医ニュース第68号（平成24年7月1日）
- ② 神内医ニュース第69号（平成25年1月1日）
- ③ 神奈川県内科医学会会報 第35号（平成24年10月1日）
- 【平成25年度】**
- 1) 部会について  
情報・広報部会3回開催  
〔第1回〕  
日時：平成25年6月24日（月）  
場所：県総合医療会館
- ① 神奈川県内科医学会会報第36号について
- ② 神奈川県内科医学会のリーフレットについて  
〔第2回〕  
日時：平成25年9月11日（水）  
場所：県総合医療会館
- ① 神内医ニュース第71号について
- ② 神奈川県内科医学会のリーフレットについて  
〔第3回〕  
日時：平成26年3月12日（水）  
場所：県総合医療会館
- ① 神医内ニュース第72号について
- 2) 刊行物について
- ① 神内医ニュース第70号（平成25年7月1日）
- ② 神内医ニュース第71号（平成26年1月1日）
- ③ 神奈川県内科医学会会報 第36号（平成25年10月1日）
- 【平成26年度】**
- 1) 部会について  
情報・広報部会4回開催  
〔第1回〕  
日時：平成26年6月4日（水）  
場所：県総合医療会館
- ① 神奈川県内科医学会会報の事務業務委託について
- ② 神奈川県内科医学会会報第37号について
- ③ Web会議試行について  
〔第2回〕  
日時：平成26年9月10日（水）  
場所：県総合医療会館
- ① Web会議について
- ② 神内医ニュース第73号について  
〔第3回〕  
日時：平成27年3月13日（金）  
場所：県総合医療会館
- ① 神内医ニュース第74号について
- ② Web会議について
- 2) 刊行物について
- ① 神内医ニュース第72号（平成26年7月1日）
- ② 神内医ニュース第73号（平成27年1月1日）
- ③ 神奈川県内科医学会会報第37号（平成26年10月1日）
- 【平成27年度】**
- 1) 部会について  
情報・広報部会3回開催  
〔第1回〕  
日時：平成27年6月3日（水）  
場所：県総合医療会館
- ① 神奈川県内科医学会会報第38号について
- ② 神奈川県内科医学会リーフレットについて
- ③ Web会議について
- ④ その他  
〔第2回〕  
日時：平成27年9月9日（水）  
場所：県総合医療会館
- ① 神内医ニュース第75号について
- ② その他

〔第3回〕

日時：平成28年3月2日（水）

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第76号について
- ② Web会議試行について
- ③ その他

〔第1回Web会議試行会議〕

日時：平成28年3月15日（火）

場所：各医療機関（自宅等）

2) 刊行物について

- ① 神内医ニュース第74号（平成27年7月1日）
- ② 神内医ニュース第75号（平成28年1月1日）
- ③ 神奈川県内科医学会会報第38号（平成27年10月1日）

【平成28年度】

1) 部会について

情報・広報部会3回開催

〔第1回〕

日時：平成28年6月1日（水）

場所：県総合医療会館

- ① 部員の交代について
- ② 神奈川県内科医学会会報第39号について
- ③ 神奈川県内科医学会50周年記念誌について
- ④ 神奈川県内科医学会リーフレットについて
- ⑤ Webかいぎについて
- ⑥ その他

〔第2回〕

日時：平成28年9月7日（水）

場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース第77号について
- ② 神奈川県内科医学会50周年記念誌について
- ③ その他

〔第3回〕

日時：平成29年3月1日（水）

場所：各医療機関（自宅等）※Web

- ① 神内医ニュース第78号について
- ② その他

〔第1回Web会議試行〕

日時：平成28年5月27日（金）

場所：各医療機関（自宅等）

〔第2回Web会議試行〕

日時：平成28年7月6日（水）

場所：各医療機関（自宅等）

〔第3回Web会議試行〕

日時：平成28年10月14日（金）

場所：各医療機関（自宅等）

2) 刊行物について

- ① 神内医ニュース第76号（平成28年7月1日）
- ② 神内医ニュース第77号（平成29年1月1日）
- ③ 神奈川県内科医学会会報第38号（平成28年10月1日）

IV. 情報広報部会員

【平成19年度】（情報・医療委員会）

委員長 南 信明

委員 廣津伸夫、小花光男、岡 正直、三浦溥太郎、伊藤正吾、長谷 章、福島芳彦、大利昌久、羽鳥 裕、前田 實

【平成20年—21年度】（情報・医療委員会）

委員長 岡 正直、副委員長 宮島真之

委員 三浦溥太郎、木村耕三、高橋 功、大利昌久、忍田源一、中川潤一

【平成22年度】（情報・広報委員会）

委員長 岡 正直、副委員長 宮島真之

委員 三浦溥太郎、木村耕三、高橋 功、大利昌久、忍田源一、中川潤一

【平成23年—24年度】（情報・広報部会）

部長 宮島真之、副部長 高橋 功

部員 岡 正直、宇藤 浩、三浦溥太郎、木村耕三、大利昌久、中川潤一、鈴木研欽

【平成25年度】（情報・広報部会）

部長 宮島真之、副部長 高橋 功

部員 岡 正直、三浦溥太郎、宇藤 浩、大利昌久、木村耕三、鈴木研欽、中川潤一

【平成26年度】（情報・広報部会）

部長 宮島真之、副部長 高橋 功

部員 岡 正直、三浦溥太郎、宇藤 浩、大利昌久、木村耕三、鈴木研欽、中川潤一、今岡千栄美

【平成27年度】（情報・広報部会）

部会長 宮島真之、副部会長 中川 望  
 部 員 岡 正直、三浦溥太郎、伊藤 俊、木村  
 貴純、木村耕三、鈴木研欽、相川真吾、  
 佐久間 徹、今岡千栄美、宇藤 浩、大  
 利昌久

【平成28年度】（情報・広報部会）

部会長 宮島真之、副部会長 中川 望  
 部 員 岡 正直、木村貴純、相川真吾、宇藤  
 浩、三浦溥太郎、木村耕三、佐久間 徹、  
 大利昌久、伊藤 俊、鈴木研欽、今岡千  
 栄美

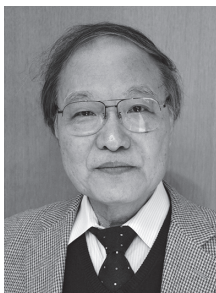
V. 終わりに

以上、情報・広報部会の歴史、主要活動内容、最近始められたWeb会議、10年間の活動、年代順に活躍して頂いた委員会委員あるいは部会員について

記載しました。

情報・広報部会の役割として会員への情報発信、対外的に神奈川県内科医学会の紹介、神奈川県内科医学会の活動の記録を活字にして残しておくことなどが重要な仕事であり、今後も会員の協力を得て活動を行う予定です。部会開催に当たり参加を頂くには距離的、時間的な問題などから会議への参加を躊躇されることもあるかと思われませんが、Web会議システムを利用すれば、自宅または各医療機関からインターネットを介して、時間的、距離的問題を無視して参加して頂くことが可能です。Web会議は現在運用が開始されており、今後もこのシステムを利用して部会を開催すると同時に、新しい手段であるWeb会議が他の部会や委員会活動でも運用されていくことを期待しています。

■保険制度部会



部会長 小林 明文

保険・制度部会の活動の現状

保険・制度部会は昭和55年4月に保険医療研究委員会として発足しました。そして、委員会のもと昭和61年3月に保険医療検討報告書、平成6年「保険診療の実際（検査編）」が発刊されました。その後、平成9年、13年に三科孝夫委員長のもと「保険診療Q&A」が発刊されました。そして、その後も平成15年「保険診療上の参考資料」、上田巖委員長、19年「医療・介護保険Q&A」、医療・介護保険委員会、梶原光令委員長、21年「医療保険Q&A」、情報・医療委員会、南信明委員長のもと発刊が行われました。

このような経過のもと私が平成21年に保険・制度委員会委員長に梶原先生の銘により就任致しまし

た。就任後、医療保険Q&Aの発刊の必要性につき会員の先生方よりアンケート調査を行いました。その結果は会員の8割以上で発刊された医療保険Q&Aをよく利用している、利用しているとの意見を頂きました。そのため医療保険Q&Aの発刊を継続する事を決定し、平成23年、25年、27年、29年と2年に1回の割合で保険・制度委員会から保険・制度部会へと変更後も発刊を続けており、今後もより新しい情報を提供し会員の先生方の診療の一助となればと思っています。現在レセ電の普及により診査の方法が変わり、レセプトの突合、縦覧等によりレセプトの内容及び、投与薬剤等についてより詳細が明らかになりました。その結果として査定や返戻事例が増加していると感じている会員の先生方も多いと思われます。保険・制度部会は平成29年度現在、山本晴章相当副会長のもと、私、原芳邦副会長、井野元勤、伊藤正吾、中岡 康、宇藤 浩、濱名哲郎、それぞれの委員の先生方で活動しております。支払基金や国保連合の仕事をされている方、過去にされた方が大部分であり、それぞれの保険のスペシャリ



ストであります。内科各科のより専門性の高いQ&Aの発刊が行っていけると確信しています。

診療報酬改定は原則として2年に1回の割で行われておりますが、平成28年改定では医科では0.56%のプラス改定でありましたが、全体では実質1.43%であり、その前の改定と同様にマイナス改定でありました。そして今後もマイナス改定が予測されています。そのため保険・制度部会では診療報酬改定に

合わせて会員の先生にアンケート調査を行い、改定の満足度、経営的な影響及び、新たに算定された項目の算定状況等について検討を行い医療保険Q&Aで発表してきました。今後とも改定時にはアンケート調査を行う予定であります。会員の先生方の協力をお願いします。そして今後はこのデータを今後の診療報酬改定にいかすべき努力を続けていく予定であります。



## ■糖尿病対策委員会



委員長 松葉 育郎

神奈川県内科医学会は神奈川県医師会の下部組織の学術団体であり。県下の開業医を中心に、地域中心病院、公立病院、個人病院、大学病院の医師も多数会員登録されている。その中に糖尿病対策委員会は平成16年に設立された。現在、委員は約40の医療機関から糖尿病専門医で構成されている。糖尿病合併症対策を具体的な診療連携の目的として掲げ、県下を5地区に分けて、地域診療連携の状況に合わせて活動をしてきました。症例検討会、調査研究、講演会、市民公開講座などを企画、運営してきました。目的別に参加型調査研究、啓発活動などに分けて診療連携を円滑に進めてきました。具体的な取り組みを以下に述べる。

1. 眼科との医療連携：神奈川県眼科医学会と合同委員会を立ちあげ、独自の3枚複写のクリニカルパスとしての診断情報提供書を、眼科医と内科医からの意見を取り入れて患者情報交換ツールとして作成した。相互の地域診療連携を構築するために地域別に症例検討会などを開催してきました。眼科医との診療連携強化の活動については、地区別に眼科医会と共催する講演会を計画し、地区決定後代表者を集めて協議会を開催し、趣旨を説明して各地区で研究会、講演会等を開催してしまし

た。その際、診療情報提供書の普及を連携協議会のメンバーが行ってきました。5年後に県下の眼合併症の実態調査をまとめ学会報告した。眼科との連携を円滑にすすめていく基盤ができあがり、現在は糖尿病眼手帳を利用している。平成25年に開催された日本眼学会でのシンポジウムにて、診断情報提供書のデータを平成23年度4月から1年間収集しまとめ、神奈川県下の眼合併症の実態を報告した。また、国際眼科学会でも発表した。

2. 一般医との診療連携：インスリン外来導入の具体的な方法とSMBGの実技実習とをセットで少人数で同じ設備から医師・看護師に参加してもらい各地区で開催した。延べ約300人の参加があった。BOTでの外来インスリン注射の開始を一般医で行えるように、外来でのインスリン注射の開始が、誰でもできる環境づくりに取り組んできた。First Step Insulin TherapyとしてBOTにこだわらず、1本のインスリン製剤で外来導入をはじめ、一回うちから始める手技を中心とした勉強会を開催してきた。

3. 一般医との診療調査研究：

(1) 糖尿病神経障害対策班；5700例の登録データから、全ての項目を満たした2800例でのサブ解析では49%の神経障害の頻度が見られた。ティシュペーパーテストの認知不能例では81%に神経障害がみられた。『神奈川県糖尿病神経障害の現状及びティシュペーパーテストの有用性について』はJDIへ掲載されました。

(2) 糖尿病腎症班；(糖尿病腎症を考える会)を

各地区で11回開催した。同時に、アンケート用紙による腎症、CKDに関する調査を実施し、尿中アルブミン測定の実施を推奨し、早期に腎症を発見することの重要性を会員の先生方にお知らせしてきました。約7000例の糖尿病患者さんにおけるCKDの実態、尿中アルブミンの評価について県下の状況をまとめ、その結果は日本臨床内科医学会雑誌に掲載されました。さらに、新しいCKD分類であるKDIGO分類の論文もDiabetology Internationalに掲載されました。

4. 専門医との調査研究：新規糖尿病薬の安全性と有効性について専門医間での情報交換を行い、適正使用のための実臨床下での調査研究を報告してきた。

(1) Incretin関連薬：シタグリプチンの調査研究は約1300例の症例を対象としたASSET研究であり、5年間の観察研究を行った。当時、新しい作用機序の薬剤であるDPP-4阻害薬シタグリプチンを取り上げた。通常診療下における単独療法及び、従来の糖尿病治療薬からの切替、併用療法における有効性と安全性に関する検討であり、日本で最初の実臨床からの大規模臨床報告となり、多くの発表、論文作成を行ってきたシタグリプチン（ASSET-K、ASSIST-K）、ビルダグリプチン、アログリプチン、リラグリチドなどのインクレチン製剤に関する適正使用と安全性に関する調査を施行し、学会報告を行ってきた。さらなるサブ解析のデータも投稿中です。

(2) SGLT-2阻害薬イプラグリフロジンの通常診療下における単独療法及び、従来の糖尿病治療薬からの切替、併用療法における有効性と安全性に関する検討を2年間、前向きに観察研究を施行しています（ASSIGN-K）。糖尿病の管理指標の改善の維持などを含め検討中である。

(3) SGLT-2阻害薬カナグロフロジンの通常診療下における単独療法及び、従来の糖尿病治療薬からの切替、併用療法における有効性と安全性に関する検討を1年間、前向きに観察研究を施

行しています。糖尿病患者の生活習慣の改善、栄養・運動生活調査の変化などを含め検討しています。

5. 神奈川県行政共催の県民向けの糖尿病講演会の企画；世界糖尿病Day11月14日開催が決まり、神奈川県糖尿病推進会議が神奈川県医師会長を会長として設立された。発起団体として神奈川県内科医学会、神奈川県の糖尿病学会、神奈川県糖尿病協会が参画した。毎年、11月14日前後に市民講座を開催し、ブルーライトアップはマリンタワー、鎌倉などで行なわれてきている。神奈川糖尿病DAYが横浜銀行ホールにて開催され、今年は糖尿病の合併症をテーマに開催された。参加者は約230人であった。

#### 論文発表

1) 2型糖尿病患者に対するシタグリプチン投与による有効性に関する3年間の観察研究 ASSET-K2 (第7報)

前田 一、久保田 章、金森 晃、皆川 冬樹、金城 瑞樹、星野 和彦、町村 英郎、武田 浩、高井 昌彦、石川 雅、空保 敦子、家光 光太郎、笹井 信夫、雨宮 光、宮川 政昭、中 佳一、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会) 糖尿病. 2014.04;57 (Suppl.1):S-123.

2) シタグリプチン長期治療例における有効性と安全性の解析

久保田 章、前田 一、宮入 由紀子、早稲田 愛生、青柳 祥夫、川田 剛裕、神 康之、小花 光夫、金重 秀明、本宮 哲也、伊藤 正吾、的場 清和、詫摩 哲郎、南 信明、宮川 政昭、中 佳一、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会) 糖尿病. 2014.04;57 (Suppl.1):S-123.

3) 2型糖尿病に対するインスリンとシタグリプチン併用1年以上の有効性と安全性に関する大規

- 模調査研究 (ASSIST-K : 第三報)  
高井 昌彦、石川 雅、前田 一、空保 敦子、岩崎 知之、早稲田 愛生、武田 浩、町村 英郎、小花 光夫、梅澤 慎一、南 信明、的場 清和、齋藤 達也、雨宮 光、伊藤 正吾、青柳 祥夫、宮入 由紀子、上原 吾郎、鶴居 信昭、宮川 政昭、中 佳一、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)  
糖尿病. 2014.04;57 (Suppl.1):S-175.
- 4) インスリンとシタグリプチン併用1年以上観察例におけるHbA1c悪化因子に関する大規模研究 (ASSIST-K : 第四報)  
石川 雅、高井 昌彦、前田 一、家光 浩太郎、中島 茂、久保田 章、皆川 冬樹、川田 剛裕、星野 和彦、詫摩 哲郎、笹井 信夫、本宮 哲也、金森 晃、神 康之、金重 秀明、本多 真、飯塚 孝、金城 瑞樹、田中 啓司、宮川 政昭、中 佳一、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)  
糖尿病. 2014.04;57 (Suppl.1):S-272.
- 5) シタグリプチン長期治療例における有効性と安全性の解析  
久保田 章、前田 一、宮入 由紀子、早稲田 愛生、青柳 祥夫、川田 剛裕、神 康之、小花 光夫、金重 秀明、本宮 哲也、伊藤 正吾、的場 清和、詫摩 哲郎、南 信明、宮川 政昭、中 佳一、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)  
糖尿病. 2015.04;58 (Suppl.1):S-131.
- 6) インスリンの使用を検討する国際共同観察試験、治療法の進行に関連した課題の理解 MOSAIC試験 日中韓ベースライン比較  
川田 剛裕、朝倉 太郎、梅澤 慎一、金城 瑞樹、金森 晃、武田 浩、町村 英郎、田中 啓司、沢 丞、安島 美保、鈴木 秀一、Kim Seoyoung C.、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)  
糖尿病. 2015.04;58 (Suppl.1):S-135.
- 7) 2型糖尿病患者に対するイブラグリフロジン投与による有効性・安全性に関する研究 ASSIGN-K (第2報) 背景因子による層別解析  
家光 浩太郎、中島 茂、梅澤 慎一、金森 晃、詫摩 哲郎、金城 瑞樹、菊地 泰介、川田 剛裕、笹井 信夫、青柳 祥夫、小花 光夫、星野 和彦、金重 秀明、齋藤 達也、武田 浩、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)  
糖尿病. 2015.04;58 (Suppl.1):S-352.
- 8) 2型糖尿病患者に対するシタグリプチン投与による有効性に関する4年間の観察研究 ASSET-K2 (第10報)  
前田 一、久保田 章、金森 晃、皆川 冬樹、金城 瑞樹、星野 和彦、町村 英郎、武田 浩、高井 昌彦、石川 雅、空保 敦子、家光 浩太郎、笹井 信夫、雨宮 光、宮川 政昭、中 佳一、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)  
糖尿病. 2015.04;58 (Suppl.1):S-360.
- 9) 2型糖尿病患者に対するイブラグリフロジン投与による有効性・安全性に関する研究 (第4報) 背景因子による層別解析  
家光 浩太郎、中島 茂、梅澤 慎一、金森 晃、詫摩 哲郎、金城 瑞樹、菊地 泰介、川田 剛裕、笹井 信夫、青柳 祥夫、小花 光夫、星野 和彦、金重 秀明、齋藤 達也、武田 浩、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)  
糖尿病. 2016.04;59 (Suppl.1):S-143.
- 10) シタグリプチン長期治療例における有効性と安

全性の解析 (ASSET-K第12報)

久保田 章、前田 一、宮入 由紀子、早稲田 愛生、青柳 祥夫、川田 剛裕、神 康之、小花 光夫、金重 秀明、本宮 哲也、伊藤 正吾、的場 清和、詫摩 哲郎、南 信明、宮川 政昭、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)

糖尿病. 2016.04;59 (Suppl.1):S-145.

- 11) 2型糖尿病患者に対するシタグリプチン投与による有効性に関する5年間の観察研究 ASSET-K5 (第11報)

前田 一、久保田 章、金森 晃、皆川 冬樹、金城 瑞樹、星野 和彦、町村 英郎、武田 浩、高井 昌彦、石川 雅、空保 敦子、家光 浩太郎、笹井 信夫、雨宮 光、宮川 政昭、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)

糖尿病. 2016.04;59 (Suppl.1):S-145.

- 12) 新しい病診連携システムの未来、展望、そして夢 神奈川県における専門医による診療連携の試みと現状

松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)

糖尿病. 2017.04;60 (Suppl.1):S-17.

- 13) 2型糖尿病患者に対するイプラグリフロジン投与による有効性・安全性に関する研究 ASSIGN-K第6報

家光 浩太郎、中島 茂、梅澤 慎一、金森 晃、詫摩 哲郎、金城 瑞樹、菊地 泰介、飯塚 孝、川田 剛裕、笹井 信夫、青柳 祥夫、小花 光夫、星野 和彦、金重 秀明、齋藤 達也、武田 浩、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)

糖尿病. 2017.04;60 (Suppl.1):S-308.

- 14) SGLT2阻害薬の血糖降下作用、治療効果に対

する食習慣や運動習慣の影響並びに治療満足度に関する探索的検討 (第1報)

金森 晃、松葉 育郎、前田 一、久保田 章、高井 昌彦、町村 英郎、川田 剛裕、詫摩 哲郎、小花 光夫、瀧端 正博、武田 浩、金城 瑞樹、梅澤 慎一、宮川 政昭、伊藤 正吾、家光 浩太郎、空保 敦子、本宮 哲也、朝倉 太郎、菊地 泰介、松澤 陽子、寺内 康夫、田中 逸 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)

糖尿病. 2017.04;60 (Suppl.1):S-395.

- 15) 2型糖尿病患者に対するイプラグリフロジン投与による有効性と安全性に関する研究 ASSIGN-K第5報

川田 剛裕、家光 浩太郎、朝倉 太郎、雨宮 光、飯塚 孝、石川 雅、伊藤 正吾、金森 晃、金城 瑞樹、久保田 章、篠田 和明、高井 昌彦、詫摩 哲郎、武田 浩、町村 英郎、松澤 陽子、皆川 冬樹、南 信明、空保 敦子、瀧端 正博、田中 啓司、宮川 政昭、田中 逸、寺内 康夫、松葉 育郎 (神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会)

糖尿病. 2017.04;60 (Suppl.1):S-406.

- 16) Efficacy and safety of sitagliptin monotherapy and combination therapy in Japanese type 2 diabetes patients.

Kubota A, Maeda H, Kanamori A, Matoba K, Jin Y, Minagawa F, Obana M, Iemitsu K, Ito S, Amamiya H, Kaneshiro M, Takai M, Kaneshige H, Hoshino K, Ishikawa M, Minami N, Takuma T, Sasai N, Aoyagi S, Kawata T, Mokubo A, Takeda H, Honda S, Machimura H, Motomiya T, Waseda M, Naka Y, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I.

J Diabetes Investig. 2012 Dec 20;3(6):503-9. doi: 10.1111/j.2040-1124.2012.00221.x.

Pleiotropic effects of sitagliptin in the

- treatment of type 2 diabetes mellitus patients.  
Kubota A, Maeda H, Kanamori A, Matoba K, Jin Y, Minagawa F, Obana M, Iemitsu K, Ito S, Amemiya H, Kaneshige H, Hoshino K, Ishikawa M, Minami N, Takuma T, Sasai N, Aoyagi S, Kawata T, Mokubo A, Takeda H, Honda S, Machimura H, Motomiya T, Waseda M, Naka Y, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I.  
J Clin Med Res. 2012 Oct;4(5):309-13. Epub 2012 Sep 12.
- 17) Factors associated with reduced efficacy of sitagliptin therapy: analysis of 93 patients with type 2 diabetes treated for 1.5 years or longer.  
Kanamori A, Matsuba I.  
J Clin Med Res. 2013 Jun;5(3):217-21. doi: 10.4021/jocmr1256w. Epub 2013 Apr 23.  
Long-term efficacy and safety of sitagliptin in the treatment of Japanese Type 2 diabetes (ASSET-K1) to a target of HbA1c <7%.  
Maeda H, Kubota A, Kanamori A, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I; ASSET-K Study Group.  
J Endocrinol Invest. 2013 Sep;36(8):568-73. doi: 10.3275/8819. Epub 2013 Feb 4.
- 18) Is a switch from insulin therapy to liraglutide possible in Japanese type 2 diabetes mellitus patients?  
Kawata T, Kanamori A, Kubota A, Maeda H, Amamiya H, Takai M, Kaneshige H, Minagawa F, Iemitsu K, Kaneshiro M, Ishikawa M, Takeda H, Takuma T, Mokubo A, Machimura H, Obana M, Miyakawa M, Naka Y, Suzuki D, Terauchi Y, Toyoda M, Tanaka Y, Matsuba I.  
J Clin Med Res. 2014 Apr;6(2):138-44. doi: 10.14740/jocmr1719w. Epub 2014 Feb 6.
- Safety and efficacy of adding sitagliptin to insulin in patients with type 2 diabetes: the ASSIST-K study.  
Takai M, Ishikawa M, Maeda H, Kanamori A, Kubota A, Amemiya H, Iizuka T, Iemitsu K, Iwasaki T, Uehara G, Umezawa S, Obana M, Kaneshige H, Kaneshiro M, Kawata T, Sasai N, Saito T, Takuma T, Takeda H, Tanaka K, Tsurui N, Nakajima S, Hoshino K, Honda S, Machimura H, Matoba K, Minagawa F, Minami N, Miyairi Y, Mokubo A, Motomiya T, Waseda M, Miyakawa M, Naka Y, Terauchi Y, Tanaka Y, Matsuba I.  
Diabetes Res Clin Pract. 2014 Mar;103(3):e30-3. doi: 10.1016/j.diabres.2013.12.045. Epub 2014 Jan 6.
- 19) Factors influencing the durability of the glucose-lowering effect of sitagliptin combined with a sulfonylurea.  
Kubota A, Yabe D, Kanamori A, Kuroe A, Takahashi N, Saito T, Matsuba I, Nabe K, Kurose T, Seino Y.  
J Diabetes Investig. 2014 Jul;5(4):445-8. doi: 10.1111/jdi.12182. Epub 2014 Feb 11.
- 20) Clinical effects of liraglutide on diabetes control in Japanese type 2 diabetes mellitus patients  
Kawata Takehiro, Kanamori Akira, Kubota Akira, Maeda Hajime, Amamiya Hikaru, Takai Masahiko, Kaneshige Hideaki, Minagawa Fuyuki, Iemitsu Kotaro, Kaneshiro Mizuki, Ishikawa Masashi, Takeda Hiroshi, Takuma Tetsuro, Mokubo Atsuko, Machimura Hideo, Obana Mitsuo, Miyakawa Masaaki, Naka Yoshikazu, Terauchi Yasuo, Toyoda Masao, Suzuki Daisuke, Tanaka Yasushi, Matsuba Ikuro

- Diabetology International. 2014;06;5(2):98-104.
- 21) Factors Predicting Therapeutic Efficacy of Combination Treatment With Sitagliptin and Insulin in Type 2 Diabetic Patients: The ASSIST-K Study.  
Ishikawa M, Takai M, Maeda H, Kanamori A, Kubota A, Amemiya H, Iizuka T, Iemitsu K, Iwasaki T, Uehara G, Umezawa S, Obana M, Kaneshige H, Kaneshiro M, Kawata T, Sasai N, Saito T, Takuma T, Takeda H, Tanaka K, Tsurui N, Nakajima S, Hoshino K, Honda S, Machimura H, Matoba K, Minagawa F, Minami N, Miyairi Y, Mokubo A, Motomiya T, Waseda M, Miyakawa M, Naka Y, Terauchi Y, Tanaka Y, Matsuba I.  
J Clin Med Res. 2015 Aug;7(8):607-12. doi: 10.14740/jocmr2149w. Epub 2015 Jun 9.  
Effects of sitagliptin on the serum creatinine in Japanese type 2 diabetes.  
Maeda H, Kubota A, Kanamori A, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I; Study Group of Diabetes Committee, Kanagawa Physicians Association.  
Diabetes Res Clin Pract. 2015 Jun;108(3):e42-5. doi: 10.1016/j.diabres.2015.03.008. Epub 2015 Mar 16.
- 22) Two-year assessment of the efficacy and safety of sitagliptin in elderly patients with type 2 diabetes: Post hoc analysis of the ASSET-K study.  
Umezawa S, Kubota A, Maeda H, Kanamori A, Matoba K, Jin Y, Minagawa F, Obana M, Iemitsu K, Ito S, Amemiya H, Kaneshiro M, Takai M, Kaneshige H, Hoshino K, Ishikawa M, Minami N, Takuma T, Sasai N, Aoyagi S, Kawata T, Mokubo A, Miyairi Y, Takeda H, Honda S, Machimura H, Motomiya T, Waseda M, Naka Y, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I.  
BMC Endocr Disord. 2015 Jul 3;15:34. doi: 10.1186/s12902-015-0033-2
- 23) Efficacy and Safety of Ipragliflozin in Japanese Patients With Type 2 Diabetes: Interim Outcome of the ASSIGN-K Study.  
Iizuka T, Iemitsu K, Takihata M, Takai M, Nakajima S, Minami N, Umezawa S, Kanamori A, Takeda H, Kawata T, Ito S, Kikuchi T, Amemiya H, Kaneshiro M, Mokubo A, Takuma T, Machimura H, Tanaka K, Asakura T, Kubota A, Aoyagi S, Hoshino K, Ishikawa M, Matsuzawa Y, Obana M, Sasai N, Kaneshige H, Minagawa F, Saito T, Shinoda K, Miyakawa M, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I.  
J Clin Med Res. 2016 Feb;8(2):116-25. doi: 10.14740/jocmr2417w. Epub 2015 Dec 28.  
Erratum in: J Clin Med Res. 2016 Mar;8(3):267.
- 24) Factors Influencing Changes in Hemoglobin A1c and Body Weight During Treatment of Type 2 Diabetes With Ipragliflozin: Interim Analysis of the ASSIGN-K Study.  
Iemitsu K, Iizuka T, Takihata M, Takai M, Nakajima S, Minami N, Umezawa S, Kanamori A, Takeda H, Kawata T, Ito S, Kikuchi T, Amemiya H, Kaneshiro M, Mokubo A, Takuma T, Machimura H, Tanaka K, Asakura T, Kubota A, Aoyagi S, Hoshino K, Ishikawa M, Obana M, Sasai N, Kaneshige H, Miyakawa M, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I.  
J Clin Med Res. 2016 May;8(5):373-8. doi: 10.14740/jocmr2492w. Epub 2016 Mar 20.  
Correction: Efficacy and Safety of Ipragliflozin in Japanese Patients With Type 2 Diabetes: Interim Outcome of the ASSIGN-K Study.  
Iizuka T, Iemitsu K, Takihata M, Takai M, Nakajima S, Minami N, Umezawa S, Kanamori

- A, Takeda H, Kawata T, Ito S, Kikuchi T, Amemiya H, Kaneshiro M, Mokubo A, Takuma T, Machimura H, Tanaka K, Asakura T, Kubota A, Aoyagi S, Hoshino K, Ishikawa M, Matsuzawa Y, Obana M, Sasai N, Kaneshige H, Minagawa F, Saito T, Shinoda K, Miyakawa M, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I. *J Clin Med Res.* 2016 Mar;8(3):267. doi: 10.14740/jocmr2417wcl. Epub 2016 Jan 26. Efficacy and Safety of Alogliptin in Patients With Type 2 Diabetes: Analysis of the ATTAJ Study. Takeda H, Sasai N, Ito S, Obana M, Takuma T, Takai M, Kaneshige H, Machimura H, Kanamori A, Nakajima K, Matsuba I. *J Clin Med Res.* 2016 Feb;8(2):130-40. doi: 10.14740/jocmr2418w. Epub 2015 Dec 28.
- 25) Factor Analysis of Changes in Hemoglobin A1c After 12 Months of Sitagliptin Therapy in Patients With Type 2 Diabetes. Yuasa S, Sato K, Takai M, Ishikawa M, Umezawa S, Kubota A, Maeda H, Kanamori A, Miyakawa M, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I. *J Clin Med Res.* 2016 Jun;8(6):461-71. doi: 10.14740/jocmr2540w. Epub 2016 May 25.
- 26) Primary Care-Based Investigation of the Effect of Sitagliptin on Blood Pressure in Hypertensive Patients With Type 2 Diabetes. Yuasa S, Sato K, Furuki T, Minamizawa K, Sakai H, Numata Y, Chin K, Kojima J, Miyakawa M, Matsuba I. *J Clin Med Res.* 2017 Mar;9(3):188-192. doi: 10.14740/jocmr2820w. Epub 2017 Jan 25. *Diabetes Ther.* 2016 Jun;7(2):349-60. doi: 10.1007/s13300-016-0178-7. Epub 2016 Jun 2.
- 27) Ipragliflozin Improves Glycemic Control and Decreases Body Fat in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus. Kawata T, Iizuka T, Iemitsu K, Takihata M, Takai M, Nakajima S, Minami N, Umezawa S, Kanamori A, Takeda H, Ito S, Kikuchi T, Amemiya H, Kaneshiro M, Mokubo A, Takuma T, Machimura H, Tanaka K, Asakura T, Kubota A, Aoyanagi S, Hoshino K, Ishikawa M, Matsuzawa Y, Obana M, Sasai N, Kaneshige H, Minagawa F, Saito T, Shinoda K, Miyakawa M, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I. *J Clin Med Res.* 2017 Jul;9(7):586-595. doi: 10.14740/jocmr3038w. Epub 2017 May 22.
- 28) Effectiveness of Ipragliflozin for Reducing Hemoglobin A1c in Patients With a Shorter Type 2 Diabetes Duration: Interim Report of the ASSIGN-K Study. Iemitsu K, Kawata T, Iizuka T, Takihata M, Takai M, Nakajima S, Minami N, Umezawa S, Kanamori A, Takeda H, Ito S, Kikuchi T, Amemiya H, Kaneshiro M, Mokubo A, Takuma T, Machimura H, Tanaka K, Asakura T, Kubota A, Aoyanagi S, Hoshino K, Ishikawa M, Matsuzawa Y, Obana M, Sasai N, Kaneshige H, Minagawa F, Saito T, Shinoda K, Miyakawa M, Tanaka Y, Terauchi Y, Matsuba I. *J Clin Med Res.* 2017 Sep;9(9):793-801. doi: 10.14740/jocmr3116w. Epub 2017 Jul 27.



## ■肝炎対策委員会



委員長 岡 正直

### 【はじめに】

今世紀に入り、我が国の多くのC型慢性肝炎・肝硬変患者が発がんの時期に達し、年間約3万人が肝がんにより死亡する状況にありました。臨床の現場において慢性肝炎と肝硬変・肝がんの知識を啓発し病診連携を進めるため当委員会は平成14年に発足しました。当初その活動の中核は、神奈川県立がんセンター顧問多羅尾和郎先生と神奈川県内科医学会会長中山脩郎先生のお力で平成16年に始まった「肝がん撲滅を目指す病診連携の会」（のちに「肝臓病を考える病診連携の会」と改名）のサポートを行うことでした。平成21年に多羅尾先生が委員長になられてから活動の幅が広がり、肝炎対策特別講演会の開催、市民公開講座の共催、小冊子「これだけは知っておきたいC型・B型肝炎の知識」の定期発行やウイルス肝炎患者掘り起こし事業まで活動の幅が広がってきています。

平成14年～平成20年 委員長 岡 正直  
 平成21年～平成22年 委員長 多羅尾和郎  
 平成23年～平成25年 委員長 宮本 京  
 平成26年～ 委員長 岡 正直

### 【肝臓病を考える病診連携の会】

～代表世話人 中山脩郎、多羅尾和郎～

- ・第6回「肝がん撲滅を目指す病診連携の会」平成19年6月16日（土）崎陽軒本店  
 特別講演1「C型肝硬変の肝発がんにおける持続炎症の役割」  
 神奈川県立がんセンター元所長 多羅尾和郎先生
- 特別講演2「肝細胞癌に対する内科的治療と将来の展望」  
 横浜市立大学附属市民総合医療センター院長

田中克明先生

- ・第7回 平成19年12月1日（土）川崎市立多摩病院  
 特別講演1「肝癌に対する外科治療」  
 聖マリアンナ医科大学消化器一般外科教授 大坪毅人先生

- 特別講演2「肝癌診療の現状」  
 川崎市立多摩病院副院長 鈴木通博先生

- ・第8回 平成20年6月28日（土）セントラルホテル（横須賀）  
 パネルディスカッション「病診連携による肝炎・肝がん治療の実態」  
 横須賀共済病院 池田隆明先生  
 小磯診療所 磯崎哲男先生  
 大船中央病院 高塚健太郎先生  
 済生会横浜市東部病院 山室 渡先生

- ・第9回 平成20年10月25日（土）平塚プレジール  
 特別講演「肝がんはどのように育つのか。またその撲滅のためにはどのような工夫があるのか」

東海大学医学部消化器内科教授 峯 徹哉先生

- ・第10回 兼「第65回さがみりバーカンファレンス」平成21年6月6日（土）相模原南メディカルセンター  
 講演1「相模原市の診療所における慢性肝疾患治療の現状と肝細胞癌に対する病診連携ガイドラインの提案」 浅葉宣之先生  
 講演2「肝癌検索のための腹部CTで骨盤内腫瘍が指摘された症例」 松永敬二先生  
 講演3「若年性肝細胞癌症例」 古田一徳先生  
 講演4「HBs抗原消失後に肝細胞癌が発症したB型肝炎肝硬変の1例」 中村陽子先生  
 講演5「C型肝炎ウイルス患者の治療」 高野靖悟先生

- ・第11回「肝臓病を考える病診連携の会」（会の名称変更）平成21年11月28日（土）TKPコンカード横浜ビジネスセンター  
 特別講演「肝硬変・肝癌に進行する脂肪肝：NASH」

- 東京女子医科大学消化器内科教授  
橋本悦子先生
- ・第12回 平成22年6月12日(土) ホテル精養軒  
特別講演「肝臓診断および治療法の現状」  
川崎市立多摩病院副院長 鈴木通博先生
  - ・第13回 平成22年11月27日(土) セントラルホテル(横須賀)  
特別講演「B型慢性肝炎 どのような症例をどのように治療すべきか」  
武蔵野赤十字病院消化器科部長 黒崎雅之先生
  - ・第14回 平成23年5月21日(土) 平塚プレジール  
特別講演「C型慢性肝炎治療のup to date」  
東海大学医学部消化器内科学教授 峯 徹哉先生
  - ・第15回 兼「第76回さがみりバーカンファレンス」平成23年11月26日(土) 相模原市南メディカルセンター  
特別講演「肝細胞がん治療 局所治療から分子標的薬治療まで」  
北里大学医学部消化器内科学 中澤貴秀先生  
～代表世話人 宮本 京、岡 正直～
  - ・第16回 平成24年6月16日(土) TKPガーデンシティ横浜  
特別講演「肝臓病のプライマリケアと病診連携 肝機能検査を中心に」  
済生会神奈川県病院消化器内科副院長 山室 渡先生
  - ・第17回 平成24年12月8日(土) ホテルKSP(川崎市)  
特別講演「B型肝炎 一般医家が知っておきたい最近の話題」  
東京大学大学院医学系研究科  
生体防御感染症学講座准教授 四柳 宏先生
  - ・第18回 平成25年6月29日(土) セントラルホテル(横須賀)  
特別講演「非アルコール性脂肪肝炎(NASH)のすべらない話」  
京都府立医科大学大学院医学研究科  
消化器内科学講師 角田圭雄先生
  - ・第19回 平成25年11月16日(土) 平塚プレジール  
特別講演「B型慢性肝炎・C型慢性肝炎に対する最新治療」  
東海大学医学部消化器内科学教授 峯 徹哉先生
  - ・第20回 兼「第91回さがみりバーカンファレンス」平成26年6月7日(土) 相模原南メディカルセンター  
特別講演「新しい肝臓病の治療薬に関して インターフェロンなしのC型肝炎治療も含めて」  
北里大学東病院消化器内科 日高 央先生
  - ・第21回 平成26年10月18日(土) 新横浜プリンスホテル  
特別講演「新しい時代を迎えたC型肝炎治療」  
京都府立医科大学消化器内科学教授 伊藤義人先生
  - ・第22回 平成27年6月27日(土) 川崎市中原休日救急診療所会議室  
特別講演「C型肝炎治療の現状 IFN freeの時代の到来」  
川崎市立多摩病院院長 鈴木通博先生
  - ・第23回 平成27年10月24日(土) 横須賀セントラルホテル  
特別講演「multi-DAA時代のC型肝炎治療：現況と新たな課題」  
北海道大学大学院医学研究科  
内科学講座消化器内科学分野教授 坂本直哉先生
- 【これだけは知っておきたいC型肝炎・B型肝炎の知識】  
急速に進歩する肝炎治療の新情報をすばやく、わかりやすく、より多くの治療者にお伝えするための委員によって分担執筆された小冊子です。実際の診療に役立つ内容とするため、医学的な内容に加えて、保険請求上の注意点や肝炎治療の医療費助成制度などの情報も載せているため、特徴ある冊子になっていると思います。
- 1) 平成21年 初版
  - 2) 平成23年 改訂版

- 3) 平成25年 改訂版
- 4) 平成27年 改訂版

【ウイルス肝炎患者掘り起こし事業】

非肝臓専門医あるいは職域において、気づかれな

いまま放置されている肝疾患患者を発見し治療に導くため「横浜内科学会 肝疾患管理病診連携ガイド」(永井一毅先生著)を開発し、これを使用して臨床データ集積を行いました。

■認知症対策委員会



委員長 渡部 廣行

認知症対策委員会は、平成14年、聖マリアンナ医科大学名誉教授 長谷川和夫先生と神奈川県内科医学会名誉会長 中山脩郎先生が代表世話人として立ち上げた委員会です。初代の委員長は高岸 泰先生でした。

委員会活動は主に二つあり、「認知症を考える神奈川の会」と認知症ケアカンファレンスです。

まず、「認知症を考える神奈川の会」については、平成14年1月に第1回の講演会を開催し、平成28年度までに20回を数えるまでになっています。また、平成28年度には特別セミナーを2回開催しました。

第1回 平成14年1月29日(火) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

1) 「もの忘れ外来の現状」

横浜市立大学医学部神経精神医学  
助教授 井関栄三先生

2) 「高齢期痴呆の臨床対応」

聖マリアンナ医科大学  
名誉教授 長谷川和夫先生  
(参加者 242名)

第2回 平成14年9月19日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

1) 「メモリークリニックの紹介」

聖マリアンナ医科大学

神経精神科 渡部廣行

2) 「外来診療におけるアルツハイマー型痴呆の診断」

東京慈恵会医科大学  
精神医学講座 講師 繁田雅弘先生  
(参加者 176名)

第3回 平成15年3月13日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

1) 「物忘れ外来の開設—この1年の経験から—」

東海大学医学部付属病院  
老人性痴呆疾患治療科 科長 吉井文均先生

2) 「かかりつけ医と痴呆患者—発見と診断上の問題点—」

日本医科大学付属第二病院 内科  
助教授 北村 伸先生  
(参加者 179名)

第4回 平成15年10月23日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

1) 「昭和大学横浜市北部病院・物忘れ外来の紹介」

昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター  
講師 吉益晴夫先生

2) 「痴呆の治療」

埼玉精神神経センター  
センター長 丸木雄一先生  
(参加者 186名)

第5回 平成16年3月11日(木) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

シンポジウム「早期発見のためのより良き連携を目指して」

1) 「全国事例の紹介」

神奈川県内科医学会 会長 中山脩郎

2) 「かかりつけ医の立場から」

荻原医院 副院長 荻原 泰先生

鶴井医院 院長 高岸 泰先生

3) 「専門医の立場から (精神科)」

東京都立保健科学大学精神医学・精神保健学  
教授 繁田雅弘先生

「専門医の立場から (神経内科)」

横浜労災病院神経内科 部長 今福一郎先生

4) 「ケアマネジャーの立場から」

横浜山下永谷地域ケアプラザ  
所長 相上恵美子先生  
(参加者 154名)

第6回 平成16年9月16日 (木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

1) 「痴呆の問題行動 (BPSD) に対する薬物治療」

北里大学東病院  
老人性痴呆疾患研究センター長  
助教授 大谷義夫先生

2) 「痴呆性高齢者の理解と対応」

きのこエスポアール病院  
副院長 藤沢嘉勝先生  
(参加者 209名)

第7回 平成17年3月24日 (木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

特別発言「厚生労働省のモデル事業報告」

神奈川県内科医学会 会長 中山脩郎

1) 「認知症の周辺症状と薬物療法 ー私の向精神薬の使い方ー」

聖マリアンナ医科大学 神経精神科  
講師 渡部廣行

2) 「アルツハイマー病の早期診断と治療」

鳥取大学医学部 保健学科・生体制御学  
教授 浦上克哉先生  
(参加者 185名)

第8回 平成17年9月22日 (木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

1) 「認知症とかかりつけ医」

社団法人日本医師会  
常任理事 野中 博先生

2) 「認知症治療 ～過去・現在・未来～」

認知症介護研究・研修東京センター長  
長谷川和夫先生  
聖マリアンナ医科大学 名誉教授  
(参加者 204名)

第9回 平成17年11月17日 (木) ヨコハマグラン  
ドインターコンチネンタルホテル

1) 「認知症へのかかりつけ医のより積極的な対応を求めて」

ー厚生労働省 かかりつけ医の認知症診断技術向上に関するモデル事業についてー

東京都老人総合研究所  
認知症介入研究グループ  
参事研究員 本間 昭先生

2) 「認知症診断技術向上プログラム クリニカルカンファレンスの概要について」

日本医科大学付属第二病院 内科  
助教授 北村 伸先生

(特別発言)

「神奈川県内科医学会での地域密着型学習会 (クリニカルカンファレンス) 推進について」

神奈川県内科医学会 会長 中山脩郎  
(参加者 144名)

第10回 平成18年9月14日 (木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

(特別発言)

「神奈川県内科医学会 認知症受け入れ医療機関リストについて」

神奈川県内科医学会  
常任理事 高岸 泰

1) 「認知症と成年後見制度」

筑波大学法科大学院  
院長 新井 誠先生

2) 「これからの認知症対策を考える」

東京都老人総合研究所  
参事研究員 本間 昭先生  
(参加者 220名)

第11回 平成19年9月20日 (木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

1) 「アルツハイマー型認知症を中心としたBPSD  
の治療について」

今津赤十字病院 精神科  
副院長 田北昌史先生

2) 「認知症の自動車運転における課題」

熊本大学医学部大学院  
医学薬学研究部 脳機能病態学  
教授 池田 学先生  
(参加者 210名)

第12回 平成20年9月18日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

シンポジウム “認知症ネットワークの必要性”

1) 「認知症患者さんに、かかりつけ医が必要であ  
る ～介護者の立場から～」

飯田 茂氏

2) 「かかりつけ医からみた認知症ネットワークの  
必要性」

三輪医院 千場 純

3) 「VSRADを活用した認知症地域連携への挑戦」

済生会横浜東部病院 村松和浩先生

4) 「中原区における“街ぐるみ認知症ネットワー  
ク”について」

日本医科大学 石渡明子先生

特別講演

「アルツハイマー病治療薬開発の夢を追って」

京都大学大学院薬学研究科 創薬神経科学講座  
教授 杉本八郎先生  
(参加者210名)

第13回 平成21年9月17日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

特別講演

「若年認知症の就労型活動と社会参加  
—“仕事”に根ざした生活復権への思いとその実践—」  
若年認知症社会参加支援センター “ジョイント”

所長・OT 比留間ちづ子先生

対談

ご挨拶「若年性アルツハイマー病と共に生きる」

元 東大大学院医学系研究科国際地域保健学 教授  
若井 晋先生

ご報告「認知症 早期発見・早期治療への期待」

若井克子先生

(参加者209名)

第14回 平成22年9月16日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

講演1 (認知症リハビリの紹介)

「歌う喜び・人生を支えるコーラス」

～アルツハイマー型認知症患者及び介護者を対象と  
したコーラス活動の試み～

聖マリアンナ医科大学神経精神科  
フロイデンコア合唱団

音楽療法士 宮崎純子先生

講演2 (地域実践モデルの紹介)

「認知症ケアの抱える課題と具体的対応」

～医師とケアマネージャーからの視点

大木医院 副院長

神奈川県内科医学会 認知症対策委員会

副委員長 大木教久

社会福祉法人慶寿会

平和町介護サービスセンター

管理者・介護支援専門員 平本哲也氏

特別講演

「アルツハイマー型認知症」

～ステージ別薬物治療の実際と今後の行方～

香川大学 精神神経医学講座

教授 中村 祐先生

(参加者187名)

第15回 平成23年9月15日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

話題提供

・「訪問看護の現場から・・・」

訪問看護OPEN'S大地 坂本美由貴 看護師

・「成年後見人ができること 事例から」

東京都福祉保健財団

高齢者権利擁護支援センター

アドバイザー 池田恵利子先生

・「成年後見制度 —鑑定の実際—」

神奈川県内科医学会 常任幹事

認知症対策委員会 委員長

諸星クリニック 院長 渡部廣行

特別講演  
「これからのアルツハイマー病薬物治療」  
日本医科大学武蔵小杉病院 内科  
教授 北村 伸先生  
(参加者172名)

第16回 平成24年9月20日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

研究紹介  
「タッチパネル式ADAS-Jcog実施支援システムを用  
いた研究紹介」  
神奈川県内科医学会 認知症対策委員会 委員長  
諸星クリニック 院長 渡部廣行  
鼎談  
「若年性アルツハイマー病と共に生きる」  
元東京大学大学院医学系研究科  
国際地域保健学教授  
若井 晋先生  
若井克子様

特別講演 1  
「若年性アルツハイマー病の臨床的特徴とその苦悩」  
順天堂大学大学院医学系研究科  
精神・行動科学教授  
新井平伊先生

特別講演 2  
「当院物忘れ外来の診療と病診連携の取り組み」  
独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター  
認知症疾患医療センター診療部長 松井敏史先生  
(参加者153名)

第17回 平成25年9月19日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

神奈川県の取り組み  
「よりそいノートの活用について」  
神奈川県認知症対策推進協議会 会長  
東海大学医学部付属大磯病院 病院長  
吉井文均先生

地域からの提言  
「サロンより道の取り組みについて」  
地域包括支援センター ふれあいの泉

柳田かおり先生

特別講演  
「認知症の早期発見と予防への取り組み ～鳥取方  
式の紹介～」  
鳥取大学医学部保健学科  
生体制御学講座環境保健学分野  
教授 浦上克哉先生  
(参加者127名)

第18回 平成26年9月18日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

講演 1  
「若年性認知症への神奈川県の取り組み」  
神奈川県認知症対策推進協議会 委員  
北里大学医学部精神科学 准教授  
高橋 恵先生

講演 2  
「よりそいノートのその後」  
神奈川県認知症対策推進協議会 委員  
神奈川県精神保健福祉センター 所長  
桑原 寛先生

特別講演  
「認知症における嗅覚障害」  
東京女子医科大学 神経内科  
准教授 飯嶋 睦先生  
(参加者121名)

第19回 平成27年9月17日(木) 横浜ベイシェラ  
トン ホテル&タワーズ

特別講演 1  
「レビー小体型認知症をめぐって」  
横浜市立大学名誉教授 小阪憲司先生

特別講演 2  
「認知症の脳を観る」  
新潟大学脳研究所 病理学分野  
教授 高橋 均先生  
(参加者160名)

第20回 平成28年9月8日(木) 崎陽軒本店

地域からの報告  
「認知症ケアカンファレンス@神奈川」  
神奈川県認知症対策委員会

副委員長 武井和夫

特別講演 1

「レビー小体型認知症の早期診断と治療・対応」

シニアメンタルクリニック日本橋人形町

院長 井関栄三先生

特別講演 2

「DSM-5における認知症の位置づけ」

慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

教授 三村 将先生

(参加者76名)

「認知症を考える神奈川の会—特別セミナー—」

平成29年3月8日(水) エーザイ(横浜コミュニケーションオフィス)

「認知症と自動車運転・免許更新」

八千代病院 神経内科部長 川畑信也先生

(参加者80名)

平成29年3月22日(水) マルハチコトンスクエア

「認知症と自動車運転・免許更新」

八千代病院 神経内科部長 川畑信也先生

(参加者85名)

次に、認知症ケアカンファレンスは、平成17年から平成19年にかけて30回行ってきました。しばらく中断した後、平成27年から副委員長の武井先生、大木先生の作成した症例報告を基にカンファレンスを再開しています。

第1回 第4地区 平成27年3月25日

小田原総合医療福祉会館

(参加者11名)

講師：武井和夫先生、

助言者：吉井文均先生、渡部廣行

第2回 第1地区 平成27年7月30日

横浜市健康福祉総合センター

(参加者11名)

講師：武井和夫先生、

助言者：吉井文均先生、渡部廣行

第3回 第2地区 平成28年2月4日

ホテル精養軒(川崎)

(参加者10名)

講師：武井和夫、

助言者：北村 伸、阿部祐士

第4回 第3地区 平成28年3月10日

横須賀市医師会医師会館

(参加者13名)

講師：武井和夫、

助言者：吉井文均、阿瀬川孝治、

渡部廣行

第5回 第5地区 平成28年10月27日

ウエルネスさがみはら

(相模原市総合保健医療センター)

(参加者15名)

講師：武井和夫、

助言者：繁田雅弘、渡部廣行

「認知症を考える神奈川の会」では、日本を代表する認知症専門の先生方から地域での活動をしている方まで幅広い講演を届けてきました。毎回多数の関係者に参加していただき、高い評価を受けています。

また、平成27年度から再開した認知症ケアカンファレンスは、県内科医学会の第1地区から第5地区で各1回ずつ開催しました。少人数の症例検討方式により、全員参加型の討論会となり好評を得ています。

出版関係では、認知症受け入れ医療機関リスト(平成18年)や認知症用語集(平成26年)を作成しています。

今後も認知症に関する諸問題について、さらなる活動を継続していきたいと考えております。

## ■高血圧・腎疾患対策委員会



委員長 佐藤 和義

県の内科部会の研究班の一つの高血圧・腎疾患対策委員会の委員長に就任し今年で10年目を迎えました。委員会の名前も委員長に推薦された当時は高血圧スタディ委員会でした。委員長に就任しましたが最初は私自身何が出来たか非常に不安でした。委員会ですべての研究テーマを議論しましたが研究内容以前に時間の制約、データ整理や研究費はどうするかと数々の問題点が出て来て実際に研究を進めて行く上で大変さを思い知らされました。当時の神奈川県内科医学会会長の中山先生を初め多くの委員の先生方にいろいろ御指導頂きまして何とか現在まで研究を続けてこられたと感謝しております。最初に始めた調査は平成20年度より神奈川県の高血圧患者の治療状況をさまざまな角度から検討し今後の高血圧治療に役立つ目的で神奈川高血圧臨床実態断面調査を開始しました。それまで県全体を網羅しさらにその地域性まで視野に入れた高血圧治療の実態調査の報告はなく有意義な調査と考え開始しました。その後高血圧治療ガイドラインも5年ごとに改訂されてきている事もあり同様の調査を現在まで4回程行いました。調査成績から高血圧ガイドラインが実臨床の場で徐々に認知されて来ているようで降圧目標達成率も向上してきていました。平成23年に聖マリアンナ医科大学の木村教授から我々の委員会に対して神奈川県で腎臓を専門にしている先生と協力して神奈川県におけるCKD患者の実態調査を行いたいので協力してほしいと要請がありました。委員会としてもCKD患者の実態調査をする事は非常に興味ある事なので協力させて頂きました。この調査研究をとおして腎臓病と高血圧の関係の深さを改めて実感しました。そこでその後は我々の委員会に腎臓を専門にやられている先生にも加わって頂きまして高血圧だけでなく

腎臓病の研究も行う様に成りました。そこで委員会名を高血圧スタディ委員会から現在の高血圧・腎疾患対策委員会に変更しました。その後、新しく登場した糖尿病治療薬のDPP-4阻害薬のシタグリプチンの有効性と安全性に関する調査研究や高血圧治療ガイドライン2014（JSH2014）に対する実地医家でのアンケート調査等を行ってまいりました。

現在は2つの自主研究を開始しております。一つ目は慢性腎臓病を合併した2型糖尿病患者にSGLT-2阻害薬投与する事による腎臓、心血管合併症への影響をみる後ろ向き研究です。会員の皆様に協力頂いて1000例近くのデータが集められました。既に今年5月の糖尿病学会や腎臓病学会、8月の欧州の国際学会、10月の日本高血圧学会で発表しております。もう一つは神奈川県における高血圧患者の塩分摂取量を尿試験紙（オーションスクリーン、ソルトペーパー）を用い評価する研究です。パイロットスタディーの成績ではありますが尿試験紙で尿中Naとクレアチンを測定する事により1日塩分摂取量を迅速に推測でき外注した場合と比較しても遜色ない成績が得られました。この成績はすでに第5回臨床高血圧フォーラムで報告しております。高血圧患者の外来受診時の尿を尿試験紙で調べるだけで1日塩分摂取量をその場で示し正確な食事指導ができ実臨床において有効と思われました。また、同時に神奈川県における高血圧治療患者の塩分摂取量の実態も知る事ができ意義ある研究と期待しております。両研究とも実臨床に有益な研究なのでまとまりましたら学会発表はもちろん御協力頂いた内科部会の会員の先生方に報告させて頂きます。特に来年は第32回日本臨床内科学会が我々が主催で横浜市で開催されますので会員の先生の前で報告出来るようにしたいと考えております。以上簡単ですが委員会の10年を振り返ってみました。今後とも御協力を宜しく御願い致します。

### 【平成20年度】

- ① 第1回神奈川高血圧臨床実態断面調査の実施。  
平成21年度事業報告
- ① 第2回神奈川高血圧臨床実態断面調査を実施。



## 【平成22年度】

- ① 第1回目と第2回目神奈川高血圧臨床実態断面調査を比較検討。
- ② 第1回神奈川高血圧臨床実態断面調査の成績を学会発表した。

高血圧治療：越えられない現状：

神奈川県高血圧臨床実態調査2008年日本高血圧学会総会

羽鳥信郎ほか

血圧測定は外来のみで十分か？：

神奈川県高血圧臨床実態調査2008年日本高血圧学会総会

佐藤和義ほか

家庭血圧非測定患者と家庭血圧測定患者の降圧薬使用状況と降圧目標 達成率の比較検討第24回日本臨床内科医学会

湯浅章平ほか

## 【平成23年度】

- ① 高血圧スタディ委員会は、昨年度より新たに腎臓疾患を専門にしている会員を増員した関係で他の委員会に準じた高血圧・腎疾患対策委員会に変更。
- ② 神奈川県の腎臓専門医の先生方と我々の委員会で神奈川県慢性腎臓病対策協議会（K-CKDI）を立ち上げ活動していくことになった。
- ③ 第3回目の神奈川高血圧臨床実態断面調査を実施。
- ④ 聖マリアンナ医科大学の木村教授が中心となり始められた共同調査（K-CKDI）による非糖尿病患者におけるCKDの実態調査について準備を進め各委員によるパイロット調査を開始。

## 【平成24年度】

- ① 神奈川高血圧臨床実態断面調査  
2008年2009年2011年の過去3回の神奈川高血圧臨床実態断面調査のデータを集積し平成25年5月の高血圧フォーラムに抄録を提出し発表に向け準備。  
Nobuo Hatori, et al  
The Current Status of Blood Pressure Control among Patients with Hypertension: A Survey of

Actual Clinical Practice

J Nippon Med Sch Vol.79 No.1 (2012)

- ② K-CKDIによる非糖尿病患者におけるCKDの実態調査  
各地区でK-CKDIの講演会や勉強会を開催しCKDの啓蒙活動及び今回の調査の説明会を実施。
- ③ 2型糖尿病患者に対するシタグリプチンの有効性と安全性に関する調査研究  
医師主導型の多施設共同研究で目標症例数500例を予定。

平成24年9月に倫理委員会も通過し平成25年9月30日までの実施期間で臨床研究が開始。

## 【平成25年度】

- ① 2011年度の高血圧臨床実態断面調査  
第2回臨床高血圧フォーラムで2011年度の高血圧臨床実態断面調査の成績及び過去2回の成績を含め発表した。  
羽鳥信郎 神奈川における降圧治療の経時的変遷  
柁原啓一 降圧目標への患者の要因・医師の要因  
窪島真吾 降圧目標達成への要因  
特に羽鳥先生の演題は優秀演題に選ばれた。  
窪島先生のは血圧の1月号に掲載された。
- ② 非糖尿病患者におけるCKDの実態調査平成25年8/31で終了  
オーシオンスクリーンの配布数11234例、回収数7372例  
入力数6804例調査表。  
平成25年10/21（月）にK-CKDIの調査報告会を行った。
- ③ 2型糖尿病患者に対するシタグリプチンの有効性と安全性に関する調査研究平成25年9/30で終了  
順調に症例が集まり既に概算で600例以上に達し現在集計中。  
中間報告として結果の一部を湯浅先生、古木先生に講演会で発表。
- ④ 新年学術講演会  
平成26年1月16日（木）に横浜ベイシェラトンホテルで開催。  
高血圧・腎疾患対策委員 羽鳥信郎

「神奈川県高血圧臨床実態断面調査2008—2011年」

聖マリアンナ医科大学 木村健二郎先生

「CKDにおける集学的治療の意義」

以上二人の先生に講演を頂いた。

【平成26年度】

① 神奈川県高血圧臨床実態断面調査

第4回の神奈川県高血圧臨床実態断面調査(2014)を平成26年10月1日～平成26年11月30日の調査期間で実施。

第3回の高血圧臨床実態断面調査(2011年)の成績は平成25年の第2回臨床高血圧フォーラムで発表。

Report on Experiments and Clinical Cases

Nobuo Hatori et al

神奈川における降圧治療の経時的変遷

Changes in Blood-pressure Control among Patients with Hypertension from 2008 through 2011: Surveys of Actual Clinical Practice

J Nippon Med Sch Vol.81 No.4 (2014)

臨床研究

窪島真吾ほか

降圧目標達成への要因

～神奈川県高血圧臨床実態断面調査2011年～

血圧vol 21 no.1 2014

② 非糖尿病患者におけるCKDの実態調査(K-CKDI調査)

第37回日本高血圧学会総会(2014年10月横浜)で発表。

宮川政昭

「かかりつけ医に高血圧で通院中の非糖尿病におけるCKDの実態～K-CKDI調査～Current Status of CKD in Non-Diabetic Patients with Hypertension Attending to Primary Care Doctors-K-CKDI Study-」

聖マリアンナ医科大学の安田先生

「かかりつけ医に通院中の糖尿病を除いた高齢患者におけるCKDの実態～K-CKDI調査～Current Status of CKD in Elderly Patients with Non-Diabetic Chronic Disease Attending Periodically to Primary Care Doctor」

原著

神奈川県慢性腎臓病(CKD)対策連絡協議会  
安田 隆ほか

「かかりつけ医に糖尿病以外の慢性疾患で通院中の症例では4割が慢性腎臓病(CKD)を有している」  
日医雑誌第143巻・第11号／平成27(2015)年

③ 2型糖尿病患者に対するシタグリプチンの有効性と安全性に関する調査研究

第37回日本高血圧学会総会(2014年10月横浜)で発表。

湯浅章平

「実地医家が診療する2型糖尿病患者を対象にしたシタグリプチンの有効性・安全性の調査研究(ATTEST-K研究)～シタグリプチン投与前後における外来血圧の変化量の比較検討～A Primary Care-Based Study of the Safety and Efficacy of Sitagliptin in the Treatment of Type 2 Diabetes」

④ 高血圧治療ガイドライン2014に対するアンケート調査

小林先生がパイロットで行った相模原の調査成績を第37回日本高血圧学会総会(2014年10月横浜)で発表。

高血圧治療ガイドライン2014に対する実地医家でのアンケート調査

A Questionnaire Survey for JSH2014 in Sagami-hara Physicians Association

神奈川県全体でのアンケート調査を実施。

【平成27年度】

① 神奈川県高血圧臨床実態断面調査

第4回の神奈川県高血圧臨床実態断面調査(2014)の成績を第38回日本高血圧学会総会(松山市 2015.10/9-10/11)で発表。

第38回日本高血圧学会の演題

～神奈川県高血圧臨床実態断面調査2014年～

佐藤和義ほか

～神奈川県高血圧臨床実態断面調査2014年(目標血圧達成の要因)

窪島真吾ほか

② 非糖尿病患者におけるCKDの実態調査

(K-CKDI調査)

第37回日本高血圧学会総会（2014年10月横浜）で発表した内容を雑誌血圧に投稿し掲載。

かかりつけ医に通院中の非糖尿病高血圧患者における慢性腎臓病の実態

小林一雄ほか 血圧 vol.22 no.12 2015

③ 2型糖尿病患者に対するシタグリプチンの有効性と安全性に関する調査研究

第37回日本高血圧学会総会（2014年10月横浜）に発表した内容で投稿準備中。

④ 高血圧治療ガイドライン2014に対するアンケート調査

高血圧治療ガイドライン2014（JSH2014）に対する実地医家（相模原市内科医学会）でのアンケート調査

小林一雄 血圧 vol.22 no.4 2015

【平成28年度】

① 倫理委員会で承認された新たな調査研究を開始

した。

1. 尿試験紙（ウロペーパー栄研ソルト、オーションスクリーン）による簡易測定法を用いた神奈川県における通院高血圧症患者の塩分摂取量の実態調査

2. 慢性腎臓病合併症例におけるSGLT2阻害薬投与による影響についての後ろ向き調査研究

② 神奈川県高血圧臨床実態断面調査

第4回の高血圧臨床実態断面の成績を投稿しJ Nippon Med Sch 2016 83（5）に掲載された。

Nobuo Hatori

A Survey of Actual Clinical Practice Concerning Blood Pressure Control among Patients with Hypertension in Kanagawa 2014

J Nippon Med Sch 2016 83（5）

平成29年2月18日に海老名で実施された第80回集談会で発表。

## ■呼吸器疾患対策委員会



委員長 西川 正憲

【平成21年度】

呼吸器疾患対策委員会は、神奈川県内科医学会（以下、本会）会長中佳一先生（当時）のお声がけもあり、学術Ⅱの委員会の一つとして、講演会、臨床調査、臨床研究を通じて、本会会員の呼吸器疾患診療に役立つ情報を共有することを目的に、平成22年3月5日、第1回委員会を開催し、発足した。

本委員会では「ぜんそく症状ゼロ 神奈川プロジェクト」をスローガンとして、本会会員の気管支喘息診療に焦点をあて、急性発作時および長期管理の診療実態などを調査し、改善点を見出し、適切な

診療連携を構築し、ぜんそく症状に苦しむ患者を減らすべく、より質の高い医療を提供・共有できるように活動する計画を策定した。具体的には、休日夜間急患診療所および会員の先生方にご協力いただくアンケートなどを通じた調査を行うとともに、成人気管支喘息急性増悪（発作）初期診療の手引きなどの作成を行い、会員の先生方とガイドラインに準じた気管支喘息診療について一緒に学ぶインターラクティブな講演会を企画する方針とした。

【平成22年度】

「ぜんそく症状ゼロ 神奈川プロジェクト」の実質的な初年度であり、3か月ごとに委員会を開催した。平成22年10月には本会会員を主たる対象として、①「休日夜間急患診療所における気管支喘息発作治療の現況調査」と②「成人気管支喘息診療に関わるアンケート」を実施した。その結果は、日本アレルギー学会で発表するとともに、神奈川医学会雑誌に掲載した。

「成人気管支喘息急性増悪（発作）初期診療の手引き」を作成し、本会会員の先生方の喘息診療にお役立ていただけるように、本会HPよりダウンロードできるようにした。

#### 【平成23年度】

平成22年度に実施した「休日夜間急患診療所における気管支喘息発作治療の現況調査」と「成人気管支喘息診療に関わるアンケート」を基に、喘息診療を専門としない先生方とともに成人喘息診療に対する理解をより深めるための学術講演会を企画した。5月11日（水）第五地区〈相模大野センチュリーホテル〉、5月25日（水）第一地区〈崎陽軒〉、5月26日（木）第二地区〈ホテル日航川崎〉、6月7日（火）第三地区〈横須賀セントラルホテル〉、6月22日（水）第四地区〈グランドホテル湘南〉、7月13日（水）第一地区〈新横浜Grace Hotel〉の計6回開催した。さらに平成23年1月19日の新年学術大会において、成人喘息の診療・管理をテーマに開催した。

「神奈川県内科医学会ぜんそくカード」を作成した。この「ぜんそくカード」は、名刺サイズながら、喘息治療薬の使い方を長期管理と発作治療に分けて、説明、指導できるように構成した。本会HPよりダウンロードできるようにし、先生方の喘息診療にお役立ていただけていると拝察しています。

#### 【平成24年度】

新たに神奈川県下の大学および基幹病院からも複数の専門委員の先生をお迎えして活動した。「神奈川県内科医学会ぜんそくカード」に発行日を記入できるようにし、神奈川県内科医学会作成したものであることが判るように改訂した。さらに、成人気管支喘息の診療・管理の均霑（きんてん）化をテーマに、「神奈川県ぜんそく診療マップ2013」と「成人気管支喘息急性増悪（発作）初期診療の手引き」を作成し、本会HPから利用できるようにした。

呼吸器疾患の啓発を目的に、小野副委員長が講師として横浜市消防職員を対象にした教育講演を開催した。

#### 【平成25年度】

(1) 気管支喘息の治療管理に焦点をあてた「ぜんそく症状ゼロ プロジェクト」と(2) 災害時の在宅酸素療法、在宅人工呼吸器使用患者への対応などについて、より質の高い医療を提供・共有できるように活動した。

平成26年1月28日、「長引くせき・咳嗽」をテーマに、横浜市立大学附属市民総合医療センター教授金子 猛先生と東海大学医学部教授浅野浩一郎先生を講師として、講演会「神奈川県呼吸器疾患フォーラム2014」を開催した。

平成26年1月に2回目の実態診療下の喘息アンケートを実施した。その結果は、平成28年1月の第135回呼吸器疾患の知識をふやす会で発表した。

災害時の在宅酸素療法、在宅人工呼吸器使用患者への対応につきましては、プロバイダー業者や医療政策などとの関わりもあり、継続して検討することとした。

#### 【平成26年度】

気管支喘息・COPDの治療管理に焦点をあてた活動と災害時の在宅酸素療法、在宅人工呼吸器使用患者への対応などについて、継続して活動した。

気管支喘息・COPDの治療管理では、治療薬の基本となっている吸入薬の効果を最大限に引き上げるために「吸入療法ステップアップセミナー」をNPO法人「吸入指導のステップアップを目指す会」と共催し、第1回を平成26年10月4日に横浜市神奈川区で開催した。平成27年1月27日と2月24日に藤沢市、3月14日に川崎市、3月24日に鎌倉市、3月28日に小田原市で各地区の委員と地域薬剤師会と協同し開催した。相模原市は4月25日に開催した。

平成27年2月7日、「COPD」をテーマに、草加内科呼吸ケアクリニック院長新 謙一先生と和歌山県立医科大学准教授松永和人先生を講師に招き、「神奈川県呼吸器疾患フォーラム2015」を開催した。

災害時の在宅酸素療法、在宅人工呼吸器使用患者への対応では、平成27年秋に第25回神奈川在宅呼吸管理研究会と合同開催で、講演会「実地経験に基づく大災害時の対応」を企画した。

#### 【平成27年度】

「吸入療法ステップアップセミナー」は、内科以外の他科の先生や薬剤師・看護師などのコメディカルにも参加を呼びかけ、共通の場で情報を共有し、喘息・COPDに対するチーム医療のスキルアップを目標として、平成27年7月16日横浜市金沢区、10月31日横浜市鶴見区、平成28年2月27日横須賀市、3月1日藤沢市、3月9日鎌倉市および3月15日逗葉地区で開催した。

平成27年11月14日、神奈川在宅呼吸管理研究会との共催で「災害医療の反省と展望」をメインテーマとした「第25回神奈川在宅呼吸管理研究会」を開催した。

平成28年1月30日、「閉塞性肺疾患診療の実際」をテーマに、平松内科・呼吸器内科小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック院長平松哲夫先生と広島アレルギー呼吸器クリニック 院長保澤総一郎先生を講師に招き、「神奈川県呼吸器疾患フォーラム2016」を開催した。

#### 【平成28年度】

気管支喘息・COPDの治療管理では、治療薬の基本となっている吸入薬の効果を最大限に引き上げるために「吸入療法支援ステップアップセミナー」をNPO法人「吸入指導のステップアップを目指す会」と共催した。平成26年10月4日の第1回開催以降、平成28年12月3日までに19回開催し、薬剤師を中心に564人が受講した。「吸入療法ステップアップセミナー開催マニュアル」を基に、内容の均霑化を期した。また、平成30年9月に開催する日本臨床内科学会（主幹：神奈川県内科学会）にあわせまして、医師、コメディカル・メディカルスタッフ向けの喘息COPD患者の吸入療法に関するテキスト「成人・高齢者への吸入療法支援プラクティカルガイド（仮）」を発刊する準備を始めた。

平成28年9月10日・11日に開催された「第9回神奈川呼吸器フェロシップセミナー・明日の呼吸器内科医を育てる会」を、呼吸器内科を目指す医師、若手医師を啓発する目的で共催した。

平成28年11月5日、「第26回神奈川在宅呼吸管理研究会」を開催した。「患者教育」をテーマに、峯

下昌道委員の座長で「HOTを通じた地域医療連携」について情報共有した。

平成29年2月4日、「COPD／喘息診療への取り組み」をテーマに、東北医科薬科大学若林病院副院長高橋謙至先生と古井医院院長古井秀彦先生を講師に招き、「神奈川県呼吸器疾患フォーラム2017」を開催した。

平成29年3月11日藤沢市で開催された「第3回医療と在宅呼吸管理勉強会」を共催した。

平成29年度以降も、これまで実施してきた「ぜんそく症状ゼロ プロジェクト」を主体として、より質の高い医療を提供・共有できるように「吸入療法支援ステップアップセミナー」や「神奈川県呼吸器疾患フォーラム」などを継続できるように活動します。

#### 講演会等

1) 神奈川県呼吸器疾患フォーラム2014 平成26年1月28日

「長引くせき・咳嗽」

演者 金子 猛先生（横浜市） 浅野浩一郎先生（伊勢原市）

2) 神奈川県呼吸器疾患フォーラム2015 平成27年2月7日

「COPD」

演者 新 謙一先生（埼玉県） 松永和人先生（山口県）

3) 第25回神奈川在宅呼吸管理研究会 「災害医療の反省と展望」

平成27年11月14日 横浜市

4) 神奈川県呼吸器疾患フォーラム2016 平成28年1月30日 共催：杏林製薬

「閉塞性肺疾患診療の実際」

演者 平松哲夫先生（愛知県） 保澤総一郎先生（広島県）

5) 第9回神奈川呼吸器フェロシップセミナー：

明日の呼吸器内科医を育てる会

平成28年9月10日11日 横浜市

6) 第26回神奈川在宅呼吸管理研究会 「HOTを通じた地域医療連携」

平成28年11月5日 横浜市

- 7) 神奈川県呼吸器疾患フォーラム2017 平成29年  
2月4日

「COPD／喘息診療への取り組み 共感と発見」

演者 高橋識至先生（宮城県） 古井秀彦先生（岐阜県）

- 8) 第3回医療と在宅呼吸管理勉強会 「災害時対応（人工呼吸器 在宅酸素 生活不活発病 服薬）」

平成29年3月11日 藤沢市

神奈川県内科医学会HPでの発表

- 1) 「成人気管支喘息の初期治療の手引き」（平成22年9月）
- 2) 「神奈川県内科医学会ぜんそくカード」（平成23年1月）
- 3) 「神奈川県内科医学会ぜんそくカード改訂版」（平成24年11月）
- 4) 「神奈川県ぜんそく診療マップ2013」（平成25年1月）
- 5) 「成人気管支喘息の初期治療の手引き」（改訂版）（平成25年3月）

#### 論文発表

- 1) 西川正憲、小野容明、松下尚憲、楠原範之、高田信和、高橋正光、宮川政昭、寺内康夫、松葉育郎、長谷章、富田さつき、橋本隆平、加藤秀継、宮入朗、中村陽一、駒瀬裕子、金子猛、滝澤始、秋山一男、中佳一、神奈川県下休日夜間急患診療所における成人喘息に関わる診療実態 — 神奈川県内科医学会 呼吸器疾患対策委員会・アンケート調査の結果一、神奈川医学会雑誌2011；38：120-126.
- 2) 西川正憲、小野容明、松下尚憲、楠原範之、高田信和、高橋正光、宮川政昭、寺内康夫、松葉育郎、長谷章、富田さつき、橋本隆平、加藤秀継、宮入朗、中村陽一、駒瀬裕子、金子猛、滝澤始、秋山一男、中佳一、神奈川県における成人気管支喘息の実態 — 神奈川県内科医学会 呼吸器疾患対策委員会・アン

ケート調査の結果一、神奈川医学会雑誌2012；39：1-9.

- 3) 西川正憲、小野容明、中村陽一、駒瀬裕子、金子猛、滝澤始、秋山一男、中佳一、喘息予防・管理ガイドライン2009の準拠状況からみた成人喘息診療の実態 — 神奈川県内科医学会呼吸器疾患対策委員会・アンケート調査一、アレルギー・免疫2012；39：126-136.
- 4) 駒瀬裕子、西川正憲、小野容明、宮川政昭、神奈川県における吸入指導への取り組み、Respiratory Medical research 2015；3：262-266.
- 5) 山越志保、川畑雅照、駒瀬裕子、西川正憲、小松茂、近藤哲郎、清水邦彦、新海正晴、宮沢直幹、峯下昌道、呼吸器内科医を育てるための神奈川県の多施設共同研修会の試み、呼吸 2015；34：1118-1125.

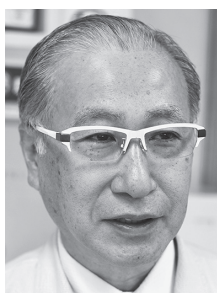
#### 学会発表

- 1) 西川正憲、神奈川県下休日夜間急患診療所における成人喘息に関わる診療実態 — アンケート調査一、第61回日本アレルギー学会秋季学術大会、東京都、2011年.
- 2) 西川正憲、神奈川県における成人喘息診療の実態、第61回日本アレルギー学会秋季学術大会、東京都、2011年.
- 3) 西川正憲、喘息予防・管理ガイドライン（JGL）2009の準拠状況からみた成人喘息診療、第24回日本アレルギー学会春季臨床大会、大阪、2012年.
- 4) 山越志保、研修医を対象とした呼吸器内科医を育てるための多施設共同研修会—神奈川県呼吸器フェロシップセミナー“育てる会”の試み、第55回日本呼吸器学会学術講演会、東京、2015年.
- 5) 中島活弥、多職種参加型呼吸器勉強会開催の試み、第25回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、千葉、2015年.
- 6) 西川正憲、吸入支援による喘息治療・管理の

最前線 ～喘息症状ゼロを目指した取り組み  
～、第135回呼吸器疾患の知識をふやす会、横

浜、2016年.

## 禁煙推進委員会



委員長 長谷 章

元神奈川県内科医学会名誉会長 中山脩郎先生が「タバコの無い日本、タバコを吸わない日本人」を目指して創設した神奈川県内科医学会 禁煙推進委員会は中山先生が当時会長を務められていた「禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議」（以後「禁煙神奈川会議」と両輪で活動を続けていました。神奈川県における最大の禁煙推進団体「禁煙神奈川会議」について言及します。禁煙神奈川会議発足までの道筋は中山先生の将来の日本人の健康を守るための鋭い眼光がありました。1982年に老人保健法が施行され、一般健康審査等、胃がん検診、乳がん検診が導入。同年、神奈川県医師会において地域がん検診システム委員会、肺がん検診研究会が設置。中山先生は肺がん検診研究会に所属し、活動開始。肺がん早期発見、早期治療の重要性はもとよりタバコを吸わない生活習慣の推進に着目。1999年に「禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議」を設立。初代会長は東海大学医学部名誉教授、五島雄一郎先生（故人）、副会長に中山先生（二代目の会長）、その他、当時の神奈川県を代表する医療関係者が副会長、理事に就任。禁煙推進を精力的に推進。公共の場の禁煙を加速させた健康増進法第25条が2003年5月1日に施行。施設管理者に受動喫煙からの害を防ぐ責務を持たせた国の法律が施行、日本全国で公共の場の禁煙が加速した。

2004年、当時、神奈川県内科医学会の会長であった中山先生が「神奈川県内科医学会 神奈川禁煙・分煙推進委員会」（後、「神奈川県内科医学会 禁煙

推進委員会」に名称を変更）を設置し、公共の場の禁煙推進活動と禁煙医療の推進をメインに活動を開始。初代の委員長は神奈川県藤沢市の佐川医院の佐川雄三先生。2004年に委員の加濃正人先生が「タバコ病辞典」を出版。2005年に長谷が湘南の禁煙レストランガイドブック「ごくうま」を藤沢市医師会の横井泰先生と協同出版。2007年7月1日より神奈川県下の法人・個人タクシーが全面禁煙へ（法人タクシー協会の総会で長谷が講演）。2007年9月禁煙神奈川会議が当時の松沢成文神奈川県知事に「神奈川県禁煙条例（案）」を提出。2008年、神奈川県が全面禁煙条例案を発表。2008年横浜市開港記念会館（ジャック）で第17回日本禁煙医師歯科医師連盟学術総会が開催。主幹は神奈川会議。2010年4月1日、全国初となる「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が制定施行された。神奈川県は日本で最も受動喫煙対策が進んだ県となった。公共の場の禁煙が推進されると禁煙希望者が増加。禁煙を希望される方々のために神奈川県が「かながわ卒煙塾」を毎年開講し、多くの方々の禁煙支援をしてきました。禁煙神奈川会議と神奈川県内科医学会の委員から講師を派遣。タバコを吸わない世代を育てるための学校での防煙教育に講師を派遣（原田久委員の活動が顕著）。

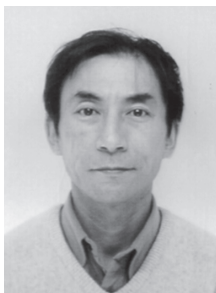
神奈川県内科医学会禁煙推進委員会の活動のメインとして禁煙医療の普及、啓発があります。禁煙指導マニュアル作成委員会を設置。初代委員長佐川先生の時代に市販の禁煙関連の教科書を2冊発刊。「禁煙医療のための基礎知識」を2006年4月30日に初版を発刊。

2006年8月16日に改訂版を発刊。神奈川県内科医学会の13地区で中山先生と長谷が禁煙医療の講演を行い禁煙医療の普及に努めました。長谷が二代目の

委員長になり、「今日からできるミニマム禁煙医療」の第1巻「今日からできる禁煙外来」を発刊。そして第2巻「禁煙の動機づけ面接」（委員の加濃正人が中心となり発刊）。現在第3巻「禁煙の認知行動療法」発刊を目指して活動中です。2018年2月18日には「神奈川からあらゆるタバコの根絶を目指して」をメインのテーマにして第27回日本禁煙医師歯科医師連盟学術総会を神奈川会議が主幹となり開催。長谷が大会長を拝命しました。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて世界基準の

受動喫煙対策が日本で行われることを切に願います。この記念誌が発刊される頃には東京都受動喫煙防止条例が制定、施行せられてほとんどの飲食店が完全禁煙になっていることを心から期待しています。このように神奈川県内科医学会禁煙推進委員会は神奈川会議の両輪をなして神奈川県民の健康に寄与してきました。中山先生のご遺志を引き継ぎ、委員一同、頑張る所存です。これからも宜しく願いいたします。

## ■医薬品評価検討委員会



委員長 湯浅 章平

はじめに

後発医薬品（以下GE）の使用については、国が強力に推進しており、その数量シェアを平成30年から平成32年末までのなるべく早い時期に、80%以上にすることを目標に掲げている。高騰する医療費を抑制するための政策の一つであることは理解できるが、医学的な検証を置き去りにしたままで、数量目標だけが先走りすることに違和感を覚える。また、以前から「GEは先発医薬品と効果は同じで、価格は安い」と言われているが、これは明らかに間違いである。特質特許が切れたのち、生物学的同等性試験で同等性が認められればGEとして上市されるが、生物学的同等性試験には許容範囲（±20%）が存在している。つまり、このことは、GEの効果にばらつきが存在することを意味しており、この1点をとっても先発医薬品とGEは似て非なるものと言える。

当委員会は、平成19年（2007年）にGEをテーマに掲げ発足され、発足から10年が経過しようとしている。当委員会の目的は、GE導入を否定すること

ではない。様々な制約のなかで、実地医家としてGEに関する正しい情報を会員や市民に発信することである。

### 沿革

1. 平成19年（2007年）ジェネリック問題検討委員会（現医薬品評価検討委員会）の発足

神奈川県内科医学会では、平成17年（2005年）より常任幹事会の場合、厚労省がその使用促進を推し進めていた後発医薬品（以下GE）に対し、如何に対応するか検討を重ねてきた。平成17年（2005年）12月3日開催の幹事会には、福井大学病院薬剤部長政田幹夫先生（当時）をお招きしてGEの問題点について講演をいただいている。また、同年12月には会員向けのアンケート調査を実施。さらに、翌平成18年4月には先発、後発各製薬メーカーに向けてアンケート調査を行っている。当時の県内科医学会会長中山脩郎は、このアンケート調査の結果をもとに、日本医事新報に寄稿した。この時の寄稿文は、2006年（平成18年）10月28日第4305号、日本医事新報の特集「ジェネリック医薬品は今—使用促進の流れにどう向き合うかのなか」に掲載されている。中山らは一貫して「GEの第三者機関でのチェックと情報提供」を訴えている。これらの準備期間を経て、平成19年（2007年）に、ジェネリック問題検討委員会が発足した。平成19年（2007年）の会報に



は、{|テレビでの後発医薬品の宣伝「新薬と同じ成分・同じ効き目で価格は約半額」に違和感を憶え、GEについて本当のことを知る目的で活動を始めた|と委員会立ち上げの動機が語られている。同年、11月6日には第1回目のジェネリック問題検討委員会が開催された。発足時の委員会メンバーは、南 信明、山本晴章、伊藤正吾、北田 守、三川武彦、中 佳一、東原正明、田中 逸、高木繁治、柳川忠二、宮川政昭、寺内康夫、中山脩郎（順不同）であった。当時の議題は、1. アンケート調査の実施、2. 各地区で開催予定であったGEについての講演会の日程、3. 医療関係者との公開シンポジウム、4. GEに関するDVDの作成と配布についてであった。

## 2. 平成20年（2008年）～平成24（2012年）

平成20年度は3回の委員会が開催されており、主にGEに関するアンケート調査について話し合われている。この年に、2回目の会員向けのアンケート調査が実施された。また、平成19年から20年にかけて、会員への情報提供と周知を目的に、各地区でGEに対する講演会が開催されている。

## 3. 平成25年（2013年）～平成29年（2017年）

平成24年（2012年）5月に開催された委員会を最後に、休会となっていた委員会は平成25年（2013年）9月、新委員会として新たに立ち上がった。この時のメンバーは中 佳一、羽鳥 裕、湯浅章平、井野元勤、荏原 太、武岡裕文、中山脩郎、山田峰彦、山本晴章、柳川忠二（順不同）であった。委員会の名称は当初、前委員会の名称を引き継ぎジェネリック問題対策委員会としたが、その後、複数の先生がたのご意見を受けジェネリック医薬品評価検討等委員会、さらには現在の名称である医薬品評価検討員会に落ち着いた。この間、委員会メンバーにも入れ替わりがあり、平成29年3月現在のメンバーは宮川政昭、小野容明、金森 晃、松田隆秀、湯浅章平、井野元勤、荏原 太、武岡裕文、中山脩郎、山田峰彦、高橋 敦、塚本光嘉、山本晴章、國島友之、柳川忠二（順不同）である。

### a. GEについてのアンケート調査実施

前委員会の時に、会員向けアンケート調査をす

に3回行っていたが、新委員会発足にあたり医師のGEに対する意識を再度確認する目的で、アンケート調査を実施することになった。この調査は平成26年6月から8月にかけて会員の先生がたを対象に行われ、約200名の先生がたから回答を頂いた。結果は平成27年（2015年）2月に横須賀で開催された第16回集談会で発表した。アンケート調査は、平成26年（2018年）11月にも行われ約158名の会員の先生方から回答をいただき、平成29年（2017年）2月に座間で行われた第18回集談会で発表した。以下に平成29年（2017年）のアンケート調査結果について、その概要を記載する。

### 質問1 GEの処方について

- a. 積極的に処方43% (n=68) b. 患者の希望により処方34.2% (n=54) c. 基本的には先発医薬品を処方22.2% (n=35) d. 無回答0.6% (n=1)

### 質問2 処方箋に医薬品の一般名を記載しているか

- a. すべての医薬品を一般名で記載26.6% (n=42) b. 一部医薬品を一般名で記載50.0% (n=79) c. 全く記載していない22.8% (n=36) d. 無回答0.6% (n=1)

### 質問3 GE処方でも懸念されることは

- a. 有効性と安全性75.3% (n=119) b. 情報提供不足12.0% (n=19) c. 安定供給体制5.1% (n=8) d. 無回答0.6% (n=1)

### 質問4 オーソライズドジェネリック (AG) は信頼できるか

- a. 信頼できる45.6% (n=72) b. できない11.4% (n=18) c. どちらとも言えない43% (n=68)

### 質問5 過去の有効性や安全性の問題からGEを先発医薬品に戻したことがあるか

- a. ある80.4% (n=127) b. 19.6% (n=31)

### 質問6 GEに対し積極的に情報収集を行っているか

- a. いる12% (n=19) b. いない64.6% (n=102) c. どちらとも言えない23.4% (n=32)

質問7 GEの価格が今より安価になれば処方を増やすか

- a. 増やす29.7% (n = 47) b. 増やさない34.8% (n = 55) c. どちらとも言えない34.2% (n = 54) d. 無回答1.3% (n = 2)

質問8 GEの処方割合は増えているか

- a. 増えている77.9% (n = 123) b. 減っている2.5% (n = 4) c. 不変16.5% (n = 26) d. 無回答3.2% (n = 5)

b. 医師、薬剤師を対象としたセミナー開催

平成26年(2014年)から27年(2015年)にかけて、東邦大学薬学部(当時)の柳川忠二先生、北里大学薬学部の近藤留美子先生、相模台病院薬剤部の相沢政明先生を委員会にお呼びし、委員向けのレクチャーと意見交換を実施した。平成28年(2016年)には、東和薬品、沢井製薬の学術、営業の担当者をお呼びし、GEについて意見交換がなされた。医師、薬剤師向けに開催したセミナーの内容を以下に記す。平成27年(2015年)12月1日(慶應義塾大学日吉キャンパス協生館)

「認知症をもつ高齢糖尿病患者さんをサポートするアイデア」

高田中央病院薬局長CDE 坂下将仁先生  
「糖尿病の自覚症状と薬の副作用の関係性について」

神奈川県内科医学会

医薬品評価検討委員会 柳川忠二

「認知症と生活習慣病～健康長寿からフレイルまで～」

東京大学大学院医学系研究科加齢医学

東京大学医学部附属病院老年病科 秋下雅弘先生  
平成29年(2017年)6月9日(ビジョンセンター横

浜)

「最近のPMDAジェネリック医薬品品質検討委員会の結果について」

神奈川県内科医学会

医薬品評価検討委員会 柳川忠二

「ポリファーマシーと薬剤副作用のケース～副作用・相互作用・薬剤カスケードに強くなる～」

群星沖繩臨床研修センター長 徳田安春先生

おわりに

先日ある講演会で、オーソライズドジェネリック(以下AG)の話聞いてきた。AGは特許特許、製法特許、製剤特許とも先発医薬品と同じであることから、先発医薬品と同等の効果があると考えられている。しかし、製造ラインが異なるために、全く同じ効果が期待できるとは言い切れない(一部のAGは上記特許に加えて、製造ラインも同一)。したがって、AGといえども、その使用については副作用の発現など細心の注意が必要となる。

米国では抗不整脈薬、抗てんかん薬のGE使用は禁止されている。本邦においても日本小児神経学会、日本てんかん学会でGE使用についての提言がなされている。大事なことは、GE使用時に不都合なことが起きた際、薬剤師まかせにすることなく、われわれ医師も医療品・医療機器総合機構(PMDA)等に積極的に情報発信を行うということである。

医薬品評価検討委員会は、今後、GEの情報提供を柱に医薬品を取り巻くさまざまな諸問題についても情報提供していきたい。

## ■在宅医療委員会



委員長 久保田 毅

### 【平成23年度】

在宅医療委員会は、中名誉会長の御指導のもとに、平成23年度から発足しました。平成23年12月7日に第1回の委員会を開催し、委員長（久保田毅）副委員長（塗木裕也、水島雅子）の選出からはじまりました。県内科医学会会員に在宅医療を普及させていくことを一番の目標にかかげ、よちよち歩きを始めました。活動の第一歩は、日本プライマリケア連合学会神奈川支部 第88回学術集会（3/31）において、「在宅医療の現状について」岡田孝弘 委員、「在宅医療は医療なのか」遠藤邦夫 委員の発表からはじまりました。平成24年度からは、年1回の講演会を各地持ち回りで開催するという方針で取り組みました。

### 【平成24年度】

1 市民公開講座 「明日からはじめる在宅医療」  
平成24年10月13日（平塚）

- (1) 在宅医療ってどういうもの？ 塗木裕也委員
- (2) 認知症の在宅医療はどうするの？ 赤羽重樹
- (3) 癌の痛みは在宅でどうやって治療する？水嶋雅子
- (4) 独居老人の在宅医療はどうするの？ 久保田毅

第一回の公開講座ということで、委員長久保田の地元平塚で開催しました。平塚市医師会の御支援を頂き、多くの市民の皆様のご参加をいただきました。しかし市民公開講座ですと、在宅医療提供者間の議論が深まらないという反省があり、次年度からは医療、介護従事者のみの参加の形をとる方針となりました。

### 【平成25年度】

1 神奈川県内科医学会在宅医療研究会報告  
日時：平成25年10月12日（土）14：00～17：00

場所：川崎日航ホテル11階

第一部 在宅医療の講演

- 1 「在宅医療の現状と今後」 塗木裕也
- 2 「認知症患者の在宅医療」 三條明良
- 3 「在宅栄養について」 赤羽重樹
- 4 「緩和ケアについて」 野村良彦

川崎の地政学的な特徴、地域ごとの人口構成の違いなどについて、地元の塗木先生から発表があり、このような実情をふまえた在宅医療の推進のありかたについて、活発な意見交換がなされました。

第二部 教育講演

「在宅におけるアルツハイマー型認知症の治療戦略及びメマンチンの使用経験について」

日本鋼管病院 神経内科部長 吉井康裕先生  
在宅医療についての講演の後、地域基幹病院との病診連携の推進について学びを深める良いきっかけとなりました。

### 【平成26年度】

1 神奈川県内科医学会在宅医療研究会報告  
(1) 平成26年度 「神奈川県内科医学会在宅医療研究会」

日時：平成26年10月11日（土）14：00～16：50  
場所：藤沢商工会館（ミナミパーク）502会議室

第一部 在宅医療に関する発表

- 1：訪問診療における現状と問題点  
のぐち内科江ノ島クリニック 野口正徳先生
- 2：訪問歯科診療の現状と問題点  
さくら歯科医院 渡邊真人先生
- 3：「薬剤師の在宅医療」—藤沢市薬剤師会の取り組みを中心に  
藤沢薬剤師会薬局 薬局長 小林フミ子先生
- 4：訪問看護の現状と問題点  
藤沢訪問看護ステーション 金子晶子先生
- 5：ケアマネージャーの現状と問題点  
藤沢市在宅介護事業所連絡協議会みどりの園 松川竜也先生
- 6：認知症患者の在宅医療

大木医院 大木敦久先生

第二部 教育講演

「認知症の最新診療—生活習慣病を踏まえて」

順天堂大学大学院 認知症予防診断治療学講座

先任准教授 本井ゆみ子先生

在宅医療の推進を目指しているなか、藤沢地区で直面している課題について、活発な意見交換がなされました。この講演会をきっかけとして、藤沢市医師会では在宅医療推進に向けた体制が整備されたとお聞きし、当委員会の目標に向かって少しずつ歩んでいるという実感を委員会で共有できたことを思い出します。

【平成27年度】

1 平成27年度 神奈川県内科医学会在宅医療研究会

日 時：平成27年10月3日（土） 14：00～16：15

場 所：神奈川県総合医療会館1階会議室

主 題：介護施設における在宅医療

1. 講演

①基調講演（14：10～14：40）

「介護施設における在宅医療の現状と課題」

講 師：神奈川県内科医学会 在宅医療委員会

委員長 久保田 毅

②教育講演（14：40～15：30）

「福祉施設の種類と医療連携について」

講師：株式会社 エクセレントケアシステム取締役

本部長 松岡政雄先生

③質疑応答（15：30～16：00）

指定コメント：神奈川県医師会

理 事 玉城嘉和先生

主催：神奈川県内科医学会 後援：神奈川県医師会

当日は、医療業界、介護業界合わせて60余名の参加があり、講演会により基礎知識を共有するとともに、課題解決へ向けた活発な意見交換がかわされました。医療、介護ともその質を高めながらも、活動継続可能な経営基盤を維持していかなくてはなりません。医療と介護の連携の模索は始まったばかりであり、地域包括ケアシステムの構築を実現するには、乗り越えなくてはならないハードルがいくつも

ある、ということを実感した講演会でした。

【平成28年度】

1 平成28年度 神奈川県内科医学会 在宅医療研究会、健康長寿社会を目指す研究会

日 時：平成28年10月1日（土） 14：00～16：15

場 所：神奈川県総合医療会館1階会議室

主 題：大学病院の患者を在宅医療へ移行する時の課題

1. 開会の辞（14：00） 神奈川県内科医学会

在宅医療委員会 委員長 久保田 毅

2. 講演

1 講演1（14：10～14：55）

「大学病院の患者を在宅医療へ：北里大学における取り組み」

講師：神奈川県内科医学会

在宅医療委員会 委員 小野沢 滋

2 講演2（15：00～15：20）

「神奈川県医師会在宅医療トレーニングセンターの活用方法」

講師：神奈川県医師会 理事 篠原裕希先生

3 講演3（15：30～16：00）

「健康長寿社会を目指すために、医師に求められるものは何か」

講師：神奈川県内科医学会

健康長寿社会を目指す委員会

委員長 中山脩郎

3 総評 神奈川県医師会副会長 武内鉄夫

4. 閉会の辞（16：15） 神奈川県内科医学会

在宅医療委員長 久保田 毅

共催：神奈川県医師会

今年度は、健康長寿社会を目指す委員会と合同で研究会を開催しました。また、神奈川県医師会に共催をお願いし、郡市医師会の在宅医療担当理事にも参加していただけるようにしました。大学病院の患者を直接在宅医療につなげていくためには、どうするか。多くの問題点をはらみながらも、果敢に取り組んでこられた小野沢先生の講演には、自分ならどうするだろうかと、考えるきっかけとなりました。在宅医療の領域は、社会的な要素が大きいので、診

療科単独で学びを深めるというよりは、行政、県医師会との共同作業がなくては推進できない領域です。今後も、県医師会とともに講演会などを通して、在宅医療の推進に取り組んでいきたいと考えています。

#### 論文発表

- 1) 多死社会にどう取り組むか 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第69号p9, 2013
- 2) みんなで防ぐ高齢者虐待；医療者に求められる知識と対応 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第70号 p5-6, 2013
- 3) 在宅医療を推進する事は、本当に正義なのか？ 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第71号p6-7, 2014
- 4) 地域包括ケアシステムって何のこと？ 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第72号p7-8, 2014
- 5) 介護施設における医療の質 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第73号 p4-5, 2015
- 6) 入所介護施設に情報開示を求めます 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第74号 p5-6, 2015
- 7) 介護保険利用による施設、居住系サービス 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第75号 p4-6, 2016
- 8) (仮称)在宅医療介護連携支援センターとは何？ 久保田 毅 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第76号 p5-6, 2016
- 9) 大学病院から在宅医療経；何が障壁となっているのか？ 神内医ニュース連載シリーズ在宅医療 第77号 p7 2017

## 健康長寿社会を目指す委員会



委員長 中 佳一

かつては定年→余生でしたが、今や余生は「第3の人生」というべき時代に変わっただけに、平均寿命の延伸ではなく健康

寿命の進化が課題となりました。

その「第3の人生」をいかに生きるかは、人それぞれの価値観によって異なるのが当然ですが、生きる心身の基本は健康にあります。健康問題を担当する医師のうちでも高齢医師が長年の仕事で得た知識や経験を生かして、地域シルバー住民の啓蒙・啓発を進める一方、生から死への移行（死の受容）について、宗教家を交えての対話集会（ターミナルケア）を行うことも私どもの仕事ではないだろうか、

という中山脩郎先生の思いから、中山先生を委員長として平成24年7月に「シニア委員会」が発足し、その目的は、①高齢～超高齢者の健康を主題にした定期的啓蒙・啓発事業（5地区での講演、相談会等の開催）、②末期医療のあり方の根源ともいえる死生観・死の受容について、宗教者・学識経験者も交えた集会・討論会の開催（5地区）、③進行する超高齢社会に見合った医療・保険・福祉制度について、現行の問題点を検討し提言を行う、とされました。

平成25年3月には、事業推進の第一歩として「超高齢社会における会員のアンケート調査」を実施し、医師であるとともに人間としての日常生活について、その実態・考え方等々を調査いたしました。会員約1,600名強の内256名の会員から回答があり、全体の回答率は約16%でしたが、70歳未満は参考調査のため、70歳以上では約40%となり、一定程度の当会高齢会員の生活実態を示したものとなりました。

た。この調査の結果は、「アンケート 第3の人生—私共の医療者としてまた人間としての日常生活分析—」としてまとめられ、平成27年3月に刊行しております。

その後、委員会の目的の遂行のためには具体的なイメージが必要である、として、平成27年10月に「健康長寿社会を目指す委員会」と改称し活動をしておりましたが、本記念誌作成中の29年5月に委員長の中山先生が急逝され、私がおのご遺志を継ぐこととなりました。

【平成24年度】

- 平成24年7月19日 第8回常任幹事会にて承認
- 平成24年10月22日 第1回設立準備打合せ会  
 会 長：中 佳一（厚木）  
 委 員 長：中山脩郎（横浜）  
 委 員：中島一巳（川崎市）  
           正山 堯（鎌倉市）  
           高橋 功（茅ヶ崎）  
           遠藤茂通（小田原）
- 平成24年11月26日 第2回設立準備打合せ会
- 平成24年12月20日 第1回シニア委員会
- 平成25年1月10日 第2回シニア委員会
- 平成25年3月 「超高齢社会における会員のアンケート調査」実施

【平成25年度】

- 平成25年7月29日 第1回シニア委員会  
 会 長：中 佳一（厚木）  
 委 員 長：中山脩郎（横浜）  
 委 員：中島一巳（川崎市）  
           正山 堯（鎌倉市）  
           高橋 功（茅ヶ崎）  
           遠藤茂通（小田原）  
           三宅雅治（海老名）
- 平成25年9月9日 第2回シニア委員会
- 平成25年10月17日 第3回シニア委員会  
 委員追加：加行 尚（横浜）
- 平成25年11月22日 第4回シニア委員会

平成26年1月17日 第5回シニア委員会

【平成26年度】

- 平成26年8月25日 第6回シニア委員会
- 平成27年3月 「アンケート 第3の人生—私共の医療者としてまた人間としての日常生活分析—」発刊

【平成27年度】

- 平成27年8月3日 第1回シニア委員会  
 会 長：宮川政昭（横浜）  
 副 会 長：小野容明（横浜）  
           金森 晃（相模原市）  
           松田隆秀（大学）  
 委 員 長：中山脩郎（横浜）  
 副委員長：中 佳一（厚木）  
 委 員：加行 尚（横浜）  
           中島一巳（川崎市）  
           正山 堯（鎌倉市）  
           林 正博（厚木）  
           久保田毅（平塚市）  
           湯浅章平（鎌倉市）  
           高見沢重隆（横浜）  
           小野沢 滋（北里大）

- 平成27年10月6日 第2回シニア委員会
- 平成27年10月15日 第4回幹事会にて「健康長寿社会を目指す委員会」への改称承認
- 平成27年10月 「超高齢社会問題や地域包括ケアに関する調査」実施

- 平成27年12月7日 第3回健康長寿社会を目指す委員会
- 平成28年2月1日 第4回健康長寿社会を目指す委員会

【平成28年度】

- 平成28年4月18日 第5回健康長寿社会を目指す委員会
- 平成28年6月20日 第6回健康長寿社会を目指す委員会

平成28年 8月	「在宅医療、介護連携促進に関するアンケート調査」実施	会特別講演会 14：00～／慶應義塾大学日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホール
平成28年 8月29日	第7回健康長寿社会を目指す委員会	基調講演「医療を通じて『生』を想う」 中山脩郎
平成28年10月 1日	平成28年度在宅医療研究会・健康長寿社会を目指す研究会 14：00～／神奈川県総合医療会館 1階会議室AB 講演3「健康長寿社会を目指すために、医師に求められるものは何か」 中山脩郎	特別講演Ⅰ「宗教者から見た医療・仏教の死生観」 関東臨床宗教師会事務局長／高野山真言宗歓楽寺住職 井川裕寛
平成28年12月15日	第8回健康長寿社会を目指す委員会	特別講演Ⅱ「医師から見た宗教・神道の死生観」
平成29年 2月 9日	第9回健康長寿社会を目指す委員会 委員追加：小田武彦（聖マリ医大）	日本臨床宗教師会理事／関東臨床宗教師会代表
平成29年 3月 4日	横浜内科学会・神奈川県内科学会健康長寿社会を目指す委員会	神社神道神職／精神科医 池内龍太郎

## ■心臓血管病対策委員会



委員長 國島 友之

心臓血管病対策委員会は、神奈川県内科学会会長 中 佳一、副会長 沼田裕一・羽鳥裕（肩書きは全て当時）の御尽力にて、平成26年6月9日新たに設立されました。

循環器疾病治療は、主に循環器専門施設が当たる急性期治療と実地医家を含めた慢性期治療に分けられます。慢性期治療は血圧、脂質・血糖管理、睡眠管理、感染予防などリスク管理を主体とした全身管理となり、理想とされる循環器専門施設での多職種介入による疾病管理プログラムを全ての症例に行うことは難しく、実地医家も活用すべきであると考えます。一方で、他の領域同様に循環器領域における診

断方法・治療法も日進月歩で進歩しており、積極的に最新の知見を吸収し実践することは難しく、本委員会の目的は実地医家の臨床レベルを向上・維持し、専門的な機器に乏しい実地医家の診断向上・治療方針決定の一助になれるよう活動することを目的としました。

上記実践のために本委員会の事業内容は、1. 循環器疾患の啓発、2. 心臓病における病診連携、3. 循環器疾患における実態調査、4. コメディカルと含めた技術習得、とし、毎年度活動を行いました。

### 1. 循環器疾患の啓発

#### 【平成26年度】

平成26年11月26日横浜ベイシェラトンホテル&タワーズにて第1回心臓血管病学術集會を開催。特別講演として「レジストリーから学ぶ急性心不全update」を日本医科大学武蔵小杉病院 佐藤直樹教授（委員会顧問）よりお話し頂き、最新の心不全

治療を教えてくださいました。

#### 【平成27年度】

平成27年6月18日第2回心臓血管病学会を主催。特別講演として「肺高血圧症への挑戦～地域医療連携の重要性～：横須賀市立うわまち病院 岩澤孝昌（委員）」をお話し頂き、心電図を細かくみて行く大切さを教えてください、さらに今後の検討課題を提示して頂いた。

平成28年2月3日第3回心臓血管病学会を主催。特別講演として「最近のASO治療について：高津中央病院心臓血管センター センター長 宮本明先生」にお話し頂き、最近のガイドラインの改訂を説明して頂きました。

#### 【平成28年度】

平成28年7月13日第4回心臓血管病学会を主催。特別講演①「家族性高コレステロール血症を含む重症高コレステロール血症の日常診療と今後の展望について：帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科 原 眞純教授」より最新のAHA2013に基づく高脂血症治療の変遷を教えてください、特別講演②「抗凝固療法と抗血小板療法の併用の問題点を考える：北里大学医学部 循環器内科学 阿古潤哉主任教授（委員会顧問）」では、NOAC（非ビタミンK阻害経口抗凝固薬）改めDOAC（直接作用型経口抗凝固薬）について、ESC2014を含め最近の動向を教えてください。現在進行中である心房細動患者の冠動脈インターベンション術施行後の血栓・塞栓および心血管イベント予防研究（AFFIRE study）への登録参加が提案された（CVDCCメーリングリストにて回覧）。現在我々が行っているASSAF-Kを越えたDOAC全般の今後の検討課題を提示して頂いた。

平成28年11月9日第5回心臓血管病学会を主催。特別講演として「不整脈治療に必要な見方：聖マリアンナ医科大学 循環器内科学 原田智雄教授」では、一見重症不整脈ではなくとも注意しなければならない不整脈があること、心臓超音波検査を併用すべき不整脈のポイントを教えてください、日々の診療に直ぐ役立つ話題でした。

## 2. 心臓病における病診連携

(1) 病院・クリニック間で困っている症例が異なる病診連携（逆紹介）について

1) 「心房細動 病診連携について：三谷和彦（副委員長）」

平成26年度よりAfについて実地医家に対してアンケート調査を行い、結果、予想以上に循環器専門医と非専門医で意識が大きく異なっていた。平成27年度はスムーズな紹介・逆紹介を目指してAfフォローアップクリニックを募集し、Af紹介状を用いた先行試験を栄区・戸塚区・泉区にて開始。

2) 「ASO（閉塞性動脈硬化症）における病診連携について：國島友之（委員長）」

平成27年度よりASO（閉塞性動脈硬化症）における病診連携の可能性を検討した。クリニック側のアンケート結果からASO受入は積極的に可能であることが明らかになった。病院側アンケートは神奈川PTCA研究会に依頼、病院側からは受け皿となるクリニックが分からない事も挙げられ、病診連携出来る医療マップ作成の必要性が指摘された。

3) 平成28年度より肺高血圧症の検討について、県下会員にアンケート配布した。

(2) 神奈川県循環器救急レジストリーについて（昭和大学藤が丘病院 鈴木 洋教授（委員会顧問））

平成26年度神奈川県において地区毎に治療も含めて差がある循環器救急疾患について、大学病院を含む救急受け入れ可能な病院と医師会さらに行政を含めた、東京都CCUネットワークのような全体の把握が出来るシステム作りが提案され、神奈川県内科医学会のサポートを依頼され、積極的にサポートする事になった。

平成27年10月1日より症例登録開始となり、53病院で1年間フォロー予定している。途中経過でクリニックの関わりも想定されており、引き続き積極的にサポートして行く事となった。

## 3. 循環器疾患における実態調査

委員会独自の研究として、平成25年度日本循環器学会の後援を得て川崎市内科医会を中心に抗凝固療



法の実態調査ASSAF-Kを行い、登録症例は4014例（病院26施設、クリニック79施設）であった。周囲からも関心の高い検討であり、引き続き追跡調査を継続して行く。初回登録時の集計・解析については、皆様の御指導・御助言により以下の論文となりました。

ASSAF-K Investigators. Rationale and design of ASSAF-K (A study of the safety and efficacy of anticoagulant therapy in the treatment of atrial fibrillation in Kanagawa).

#### 4. 技術習得

心臓超音波検査、頸動脈超音波検査、末梢動脈超音波検査、FORM/CABI、FMD、ENDPAD2000などの新たな医療器具を十分に理解・把握するために講習会を予定している。

#### 論文発表

1) Hatori Y, Sakai H, Kunishima T, Hatori N, Chen L, Ishigami T, Satoh N on Behalf of the ASSAF-K Investigators.

Rationale and design of ASSAF-K (A study of the safety and efficacy of anticoagulant therapy in the treatment of atrial fibrillation in Kanagawa). Journal of Arrhythmia 2017; 33: 111-116.

#### 学会発表

- 1) 羽鳥 裕。心房細動における抗凝固療法の有効性安全性実態調査 (ASSAF-K)、第62回日本心臓病学会学術集会、熊本、2014。
- 2) Kunishima T, Hatori Y, Sakai H, Mitani K, Chin K, Hatori N, SatoN. A Study of Safety and efficacy of anticoagulant therapy in the treatment of Atrial Fibrillation in Kanagawa (ASSAF-K) – the first announcement – , The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, OSAKA, 2015.
- 3) 羽鳥 信郎。心房細動における抗凝固療法の有効性安全性実態調査 (ASSAF-K)、第63回日本心臓病学会学術集会、横浜、2015。
- 4) Kunishima T, Hatori Y, Sakai H, Mitani K, Chin K, Hatori N, SatoN. A Study of Safety and efficacy of anticoagulant therapy in the treatment of Atrial Fibrillation in Kanagawa (ASSAF-K) – the second announcement – , The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, SENDAI, 2016.
- 5) Sakai H, Hatori Y, Kunishima T, Mitani K, Chin K, Hatori N, SatoN. A Study of Safety and Efficacy of Anticoagulant Therapy in the Treatment of Atrial Fibrillation in Kanagawa (ASSAF-K), The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, SENDAI, 2016.

## ■メディカルコミュニケーション委員会



委員長 松澤 陽子

本委員会は、神奈川県内科医学会の学術事業委員会として、平成28年2月に発足しました。その目的は、患者さん一人ひと

りの多様な価値観を最大限に尊重する医療「Value Based Medicine」の実現です。

患者さんに対して、医学的な病態評価だけでなく個々の生活状況や背景、感情、価値観などを十分に考慮して関わること、すなわち「医療」のクオリティを向上させることが、これからの医療には必須と考えられます。その観点から、本委員会では医師と患者さんや家族、あるいは医療従事者相互のコミュニケーションを円滑におこない、より良好な関

係を築くことを目的として、幅広い学習の機会を設けたいと考えております。

平成28年は下記のメンバーで委員会を組織し、2月22日に第1回委員会を開催しました。その後も本委員会の意義や運営の方向性について協議を重ねた結果、「がん医療（サイコオンコロジー）」「高齢者医療」「生活習慣病」の3分野で医療者と患者のコミュニケーションに焦点をあてた講演会を順次開催する方針となり、平成29年1月に第1回学術講演会（がん医療分野）を開催するに至りました。

会員との双方向性の意見交換を促進するため、講演会開催前に会員へアンケート調査を施行し、がん患者や家族とのコミュニケーションに関する経験や悩み、疑問などを収集しました。その結果を講演会の際に発表して講師との討議に活用したほか、平成29年2月に開催された第80回神奈川県内科医学会集談会においても演題発表を行いました。

#### <委員会メンバー>

会 長 宮川政昭（横浜市）  
副 会 長 小野容明（横浜市）  
金森 晃（相模原市）  
松田隆秀（大学）  
委 員 長 松澤陽子（横浜市）  
副委員長 渡邊嘉行（川崎市）  
委 員 荏原 太（横浜市）  
出川寿一（川崎市）

兒玉康史（横須賀・三浦）  
湯浅章平（鎌倉市）  
笹尾 玄（秦野伊勢原）  
濱田芳郎（海老名市）

#### <学術講演会>

平成29年1月12日（木） 第1回学術講演会

19：15～／崎陽軒本店

講演「高齢糖尿病患者に対する薬剤選択の考え方」

座長：メディカルコミュニケーション委員会  
荏原 太

演者：神奈川県内科医学会副会長 金森 晃

特別講演「がん患者・家族の精神心理的ケア 地域で患者・家族を支える」

座長：メディカルコミュニケーション委員会

委員長 松澤陽子・副委員長 渡邊嘉行

演者：国立がん研究センター東病院精神腫瘍科  
科長 小川朝生先生

#### <発表>

平成29年2月18日（土） 第80回神奈川県内科医学会  
会内科集談会

「癌患者・家族、および癌専門医療機関と一般臨床医のコミュニケーションに関する調査」

発表者：渡邊嘉行（メディカルコミュニケーション委員会 副委員長）

# 50周年記念

## 「地区内科医会のあゆみ」

### ■横浜内科学会



会長 小野 容明

神奈川県内科医学会創立50周年、誠におめでとうございます。記念誌刊行にあたり、「地区内科医会のあゆみ」の寄稿機会を与えて頂きましたことに感謝致します。

横浜内科学会は、昭和29年（1954年）5月に内科開業医を中心に創設され、初代会長は佐藤三千三先生、そして守一雄先生、今井波吉先生、鈴木 潔先生、中山脩郎先生、南澤康雄先生、宮川政昭先生が務められ、そして平成27年より小野がその責を負うこととなりました。横浜市医師会の分科会として、主に内科を標榜する医師会員約400名を擁し、地域医療を担当する医師としての生涯研修、地域医療・保健情報の伝達をその任の中心として行っております。現在前任の宮川政昭名誉会長から引き継ぎました主たる事業は、分科会として呼吸器疾患の知識をふやす会、循環器研究会、消化器疾患の知識をふやす会、糖尿病研究会、神経疾患研究会、高血圧腎研究会、総合診療研究会の7分野が存在し、それぞれ独自性を持って活動し、時代の先端を行く医学や日常診療に直結した医療の研修・研鑽を行っております。平成18年度までの活動報告を横浜内科学会誌第1号に掲載し、以後3年ごとに更新し現在第4号まで刊行致しました。

また、各区医師会との連携を目的に例会としての研究会を市内18区医師会の持ち回りで毎年3回開催し、さらに会員の参加する「木曜日に肺がんをよむ会」を後援するとともに、各研究分野の第一線で活躍されている先生方を講師として、up-to-dateなテーマで講演会や研究会を企画立案しています。

実際の事業展開の一部をお示します。慢性腎臓病（CKD）対策の一つとして、横浜市内の腎臓病専門病院の医師たちとプライマリケア医の病診連携のために、横浜市内統一様式の横浜CKD連携協議会精査依頼書を作成し、「プライマリケア医から腎臓病専門医への紹介システム」を構築しました。また、クリニックでの心肺蘇生CLS（Clinic Life Support）の実技訓練も始めました。クリニックでは通常医師1人しかいません。医療機関内で、心肺蘇生が必要な患者さんが発生した場合、医師は事務員も含めたスタッフと協力して、心肺蘇生をすることになります。円滑な心肺蘇生には、医師だけでなくスタッフにもその方法を知ってもらう必要があります。さらに糖尿病の増悪因子である歯周病に注目し、横浜市歯科医師会と糖尿病医会歯科連携協議会も始めました。これは糖尿病性網膜症の早期治療介入のため以前に策定された横浜市眼科医会との連携協議のモデルが参考となっております。

「横浜医療塾」という啓発事業も「生活習慣病」にかかわるものから「認知症」「嚥下と呼吸器疾患」「医療と宗教」「死生観」「神仏融合」「次世代の医師へのメッセージ」など様々な分野に及び、市民や医療関係者の方々から好評を博しております。ま

たコメディカルも含めた講演会は糖尿病の医療学や喘息の吸入療法に関する事項を取り上げ、多くの参加者を集めております。今年度私が最も感銘をうけた第62回横浜内科学会総会学術講演会の内容をご紹介します。演者は奈良県立医科大学糖尿病学講座教授の石井 均先生です。演題名は“糖尿病を診ることは人と社会をみること～糖尿病医療学を臨床の力に～”でした。平成4年（1992年）Dr.G.H.Guyattは糖尿病性網膜症に関し世界で始めてEvidence Based Medicineなる概念を提唱しました。即ち「科学には普遍性、客観性、法則性がある。」曰く“One size fits all.”然し私たちの実臨床は「一つの方法や基準は万人に当てはまらないAs the case may beで考えよ」曰く“One size does NOT fit all.” があります。すべての慢性疾患の指導管理に通ずる医療学の神髄がそこにあると再認識致しました。

また平成27年8月より「MR研修会」3年間連続して開催致しております。その趣旨は以下の通りです。地域医療の現場では患者の高齢化が進み、多疾患が内在する患者が増加しています。全国の中でも首都圏神奈川特に横浜市では、その現象は顕著で超高齢社会に備え、医療と介護が一体となった“地域包括ケア”の実現が重要視されております。このような環境下でMRが医療に携わる一員として適切に活動するための“知識習得”を目指しました。各診療科の10名の専門医が講師を務め、実際の臨床現場を詳説し、疾患への理解を深めてもらうことで、より臨床医のニーズに合致した的確な情報提供を継続できるように促したいと考えました。この研修会の成功が、来る平成30年9月に宮川政昭名誉会長がパシフィコ横浜にて開催する第32回日本臨床内科医学会の成功に少なからず寄与することを切望致します。そのメインテーマは“医識改革”であります。実り多き学術会議とすべく会員の先生方への更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に本年度の横浜内科学会執行部の先生方をご紹介します。

副会長 長谷川 修 渡部廣行

	永井一毅	高見沢重隆	
監 事	多羅尾和郎	稲葉 允	
庶務監事	江口一彦	三谷和彦	荏原 太
	武岡裕文		
会計幹事	岡 正直	椎橋俊介	
名誉会長	中山脩郎	（平成29年4月29日ご逝去）	
	宮川政昭		
特別幹事	鳥山直温	梅村 敏	田中克明
	寺内康夫	金子 猛	山本正博
	前田 慎	田中章景	

過去10年間の横浜内科学会総会学術講演会の記録

【平成18年度】

第52回横浜内科学会総会（参加者53人）

日 時：平成18年5月25日（木）午後6時30分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
4階 「浜風」

特別講演：「医師の為のメンタルヘルス～ストレス一日決算主義のすすめ～」  
横浜労災病院 勤労者メンタルヘルスセンター長 山本晴義先生

【平成19年度】

第53回横浜内科学会総会（参加者66人）

日 時：平成19年5月31日（木）午後6時45分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
4階 「日輪」

特別講演：「実践、慢性腎臓病（CKD）診療—最新の知見を日常診療にどう活かすか—」  
東京都済生会中央病院  
内科部長 栗山 哲先生

【平成20年度】

第54回横浜内科学会総会（参加者99人）

日 時：平成20年5月29日（木）午後6時45分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
5階 「日輪」

テーマ “内科医のための不定愁訴とうつ症状～診断と治療・紹介のタイミング～”

第Ⅰ部 私たちを取り巻くうつ病の現況

「不定愁訴に潜むうつ病—うつ病の察知と診療連携について—」

帝京大学医学部附属溝口病院 精神神経科  
教授 張 賢徳先生

第Ⅱ部 性が私たちに及ぼす影響は・・・

「女性の心身医療を考える—女性のライフステージと精神症状—」

横浜市立大学医学部産婦人科学講座  
准教授 榎原秀也先生

「男性更年期障害とLOH症候群」

横浜市みなと赤十字病院 泌尿器科  
部長 岩崎 皓先生

第Ⅲ部 パネルディスカッション

【平成21年度】

第55回横浜内科学会総会（参加者46人）

日 時：平成21年5月28日（木）午後6時45分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
5階 「日輪」

講 演：「睡眠時無呼吸症候群～よく見られるありふれた疾患の少し深い話～」  
特定医療法人愛仁会 太田総合病院  
睡眠障害センター  
センター長 山城善広先生

【平成22年度】

第56回横浜内科学会総会（参加者47人）

日 時：平成22年5月27日（木）午後6時45分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
5階 「日輪」

講 演：「Ca拮抗薬とスタチン併用のメリットはあるのか」  
くず葉台病院附属南口診療所  
所長 古木隆元先生  
「大規模臨床試験のウソホント？」  
東京大学大学院医学系研究科臨床疫学システム講座 教授 山崎 力先生

【平成23年度】

第57回横浜内科学会総会（参加者50人）

日 時：平成23年5月26日（木）午後6時45分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
4階 「浜風」

講 演：「高血圧から糖尿病 糖尿病から高血圧  
そんな症例どう診る？どう治療する？」  
ナビゲーター：宮川政昭 会長  
コメンテーター：

土橋卓也先生（九州医療センター 高血圧内科 医長）  
寺内康夫先生（横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教授）

【平成24年度】

第58回横浜内科学会総会（参加者42人）

日 時：平成24年5月31日（木）午後7時00分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
4階 「浜風」

講 演：「新たな選択肢を加えた認知症治療」  
演 者：埼玉精神神経センター  
センター長 丸木雄一先生

【平成25年度】

第59回横浜内科学会総会（参加者44人）

日 時：平成25年5月30日（木）午後7時00分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
5階 「日輪」

講 演：「不眠症の仕組と対策」  
演 者：日本大学医学部 精神医学系  
教授 内山 真先生

【平成26年度】

第60回横浜内科学会総会（参加者58人）

日 時：平成25年5月29日（木）午後7時00分  
場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
5階 「日輪」

講 演：「首都圏・人口密集地の高齢化とその対

策一命を延ばす医療から希望を叶える医療への変換—」

演 者：北里大学 トータルサポートセンター  
センター長 小野沢 滋先生

【平成27年度】

第61回横浜内科学会総会・学術講演会（参加者54人）

日 時：平成27年 5月28日（木）19：00～

場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
4階「清流」

演 題：「高齢者の高血圧管理 ～フレイルにならないために～」

演 者：東京大学大学院医学系研究科 加齢医学  
(老年病科) 教授 秋下雅弘先生

【平成28年度】

第62回横浜内科学会総会・学術講演会（参加者104人）

日 時：平成28年5月26日（木）19：00～

場 所：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ  
4階「清流」

座 長：みながわ内科クリニック

院長 皆川冬樹 幹事

講演①：「CKDを考慮した血糖管理」

東海大学医学部 腎内分泌代謝内科  
准教授 豊田雅夫先生

講演②：「糖尿病を診ることは人と社会をみるこ  
と～糖尿病医療学を臨床の力に～」

奈良県立医科大学 糖尿病学講座  
教授 石井 均先生

■川崎市内科医会



会長 出川 寿一

神奈川県内科医学会50周年お  
めでとうございます。川崎市内  
科医会も先日50周年をともに迎  
えることができました。いろい

ろな資料で両会の歩みを振り返ってみたのですが、  
協力し合いながら会員の学術的なレベル向上のため  
にさまざまな活動を行ってきたことがあらためて確  
認できました。医師会の活動やそれに付随する私た  
ちの活動に対する環境は次第に厳しくなりつつある  
状況ですが、会員からの希望とメーカーの要望を  
マッチングさせるような形でさらに内容のある講演  
会を企画していきたいと考えています。

川崎市内科医会は、50周年にあたり記念事業とし  
て循環器（ASSAF-K）、消化器（K-GIST）、呼吸器  
（CASKstudy）の3分野での臨床研究を行いました。  
すでにいくつかの発表を行っています。

せっかくの機会をいただいたので平成19年度以降  
の川崎市内科医会の活動をまとめました。学術講演  
はかなり多いので別表にしています。

この10年間の活動

【平成19年度】

会 長 三川武彦

副会長 羽鳥 裕 高良憲光 廣津伸夫 三宅良彦

1. 第41回総会

平成19年7月7日 ホテル ザ・エルシイ

2. 川崎市内科医会創立40周年記念式典

平成19年7月7日 ホテル ザ・エルシイ

記念学術講演

「川崎市における糖尿病神経障害の実態調査」

松葉育郎

「危ないめまい、危なくないめまい」

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科

教授 肥塚 泉

3. 第10回マルチプルリスクファクター研究会

平成19年9月22日 ホテル ザ・エルシイ

特別講演 「動脈硬化新ガイドラインについて」

帝京大学内科 主任教授 寺本民生先生

4. 学術講演会 7件
5. 神奈川県内科医学会地区会議  
平成19年11月12日 平成20年3月10日

【平成20年度】

会 長 三川武彦  
副会長 高良憲光 廣津仲夫 羽鳥 裕 三宅良彦

1. 第42回総会  
平成20年5月10日 川崎日航ホテル
2. 第72回神奈川県内科医学会集談会  
平成21年2月15日 川崎日航ホテル  
特別演題 聖マリアンナ医科大学教授  
三宅良彦先生  
一般演題 50題 委員長 松葉育郎
3. 学術講演会 7件 (含 総会講演会)

【平成21年度】

会 長 羽鳥 裕  
副会長 宮島真之 廣津仲夫 岡野公一  
木村健二郎

1. 第43回総会  
平成21年5月9日 川崎日航ホテル
2. 神奈川県内科医学会臨床内科医学講座  
平成21年9月27日  
聖マリアンナ医科大学 6題
3. 学術講演会 11件

【平成22年度】

会 長 羽鳥 裕  
副会長 宮島真之 鶴谷 孝 小林明文  
長谷川泰弘

1. 第44回総会  
平成22年5月8日 川崎日航ホテル
2. 学術講演会 39件

【平成23年度】

会 長 羽鳥 裕  
副会長 宮島真之 鶴谷 孝 小林明文

長谷川泰弘

1. 第45回総会  
平成23年5月28日 川崎日航ホテル
2. 学術講演会 33件
3. 神奈川県内科医学会 地区会議  
平成23年10月7日 中原支所
4. 川崎市糖尿病市民講座 平成24年4月14日

【平成24年度】

会 長 羽鳥 裕  
副会長 宮島真之 鶴谷 孝 小林明文 出川寿一

1. 第46回総会  
平成24年5月26日 川崎日航ホテル
2. 学術講演会 35件
3. 神奈川県内科医学会 地区会議  
平成24年10月5日
4. 川崎市糖尿病市民講座 平成25年4月13日
5. 50周年記念臨床研究事業  
心房細動における抗凝固療法の有効性安全性実態調査 (ASSAF-K) 立ち上げ

【平成25年度】

会 長 羽鳥 裕  
副会長 宮島真之 鶴谷 孝 小林明文 出川寿一

1. 第47回総会 平成25年5月18日 KSP
2. 川崎市糖尿病市民講座  
平成26年3月15日 川崎市産業振興会館
3. 第38回神奈川県内科医学会臨床医学研修講座  
平成25年9月21日 5演題  
(川崎日航ホテル)
4. 神奈川県内科医学会集談会  
平成26年2月15日 精養軒  
一般演題27題  
基調講演 「ATTEST-K中間報告」  
章平クリニック院長 湯浅章平  
特別講演 「超高齢社会における糖尿病と認知症」  
千葉大細胞治療内科学教授  
横手幸太郎先生

(大雪の中での開催でしたが、多数の方にお集まりいただきました。)

5. 学術講演会 46件
6. 50周年記念臨床研究事業  
ASSAF-K 平成25年9月より症例登録開始  
後期高齢者GERD患者におけるPPIの有効性と治療抵抗性の実態調査立ち上げ  
(K-GIST) 平成26年3月倫理委通過

【平成26年度】

会 長 羽鳥 裕

副会長 宮島真之 鶴谷 孝 小林明文 出川寿一

1. 第48回総会 平成26年6月6日 中原支所
2. 糖尿病市民講座  
平成26年3月26日 26326川崎市高津市民会館
3. 学術講演会 50件
4. 50周年記念臨床研究事業  
ASSAFF-K 症例登録開始  
K-GIST 平成26年8月 登録開始  
COPDに対する医師の認知度調査 (CASKstudy)  
立ち上げ

【平成27年度】

会 長 出川寿一

副会長 堺 浩之 國島友之 渡邊嘉行 明石嘉浩

1. 第49回総会 平成27年6月5日 KSP
2. 糖尿病市民講座  
平成27年4月5日 川崎市高津市民会館
3. 学術講演会 45件

4. 50周年記念臨床研究事業

ASSAFF-K対象を神奈川県全体に拡張し、105施設から4000例超の登録があった。

平成27年9月第63回日本心臓病学会学術集会、平成28年3月第80回日本循環器学会学術講演会で計3演題を発表した。

K-GIST 18施設から39例の登録があった。

CASKstudy 平成27年4月より川崎市の医師を対象としたアンケートを開始した。

【平成28年度】

会 長 出川寿一

副会長 堺 浩之 國島友之 渡邊嘉行 明石嘉浩

1. 第50回記念会・総会  
平成28年6月4日 二子玉川エクセル東急
2. 糖尿病市民講座  
平成28年3月26日 川崎市高津市民会館
3. 学術講演会 40件
4. 50周年記念臨床研究事業  
ASSAFF-K  
対象を神奈川県全体に拡張し、105施設から4000例超の登録があった。  
平成27年9月第63回日本心臓病学会学術集会、平成28年3月第80回日本循環器学会学術講演会で計3演題を発表した。  
K-GIST 18施設から39例の登録があった。  
CASKstudy  
平成27年4月より川崎市の医師を対象としたアンケートを開始した。



## ■横須賀・三浦内科医会



会長 沼田 裕一

神奈川県内科医学会創立50周年記念誌「地区内科医会のあゆみ」作成にあたり、平成19年から平成28年度までの横須賀・三浦内科医会の活動について寄稿します。

### 1 沿革

横須賀内科医学会の沿革特に発足時については横須賀市医師会90周年記念誌に横須賀市内科医会会長の関沢英一先生が記していらっしゃいますが、記録を失わないためにこれも含めて記載します。昭和40年ごろに横須賀医師会内の内科系医師有志を中心に「老人病懇話会」なる勉強会を作ったのが最初のことです。その後昭和42年に神奈川県内科医学会の設立があり、それを機に、この「懇話会」の世話人が中核になって横須賀内科医会へ発展したとのことです。昭和42年6月15日に結成式が行われ、規定の作成、役員のおすすめがあり、続いて10月17日に総会決議をえて正式に横須賀内科医会として発足しました。

歴代の会長は三上四郎先生、二宮春海先生、田中正平先生、橋本敦先生、関沢英一先生、南信明先生、三浦博太郎先生と引き継がれ、ご指導いただきました。現在の横須賀・三浦内科医会会長は筆者の沼田裕一です。沼田は県内科医学会副会長として、野村良彦県内科医学会常任幹事とともに県役員を勤めています。

この10年間で最大の出来事は横須賀内科医会が三浦市医師会の内科医のメンバーと合流したことです。横須賀市内科医会は平成27年度に三浦市医師会の内科医とともに、横須賀・三浦内科医会に名称を変更し、活動範囲が広がり、会員数も増加しました。現在も市内科医会幹事会の活動は概ね月に一回市内内科医会幹事会として開かれ和やかながら、内科医学の追求と内科医会の隆盛のために真剣な論議を交わ

しています。

現在の横須賀・三浦内科医会の会員数は114名であり、この10年間の役員構成と現在の横須賀準備室。三浦内科医会は以下のようになっています。

会長 平成19年度～平成22年度 三浦博太郎  
 会長 平成22年度～平成28年度 沼田裕一  
 副会長 平成19年度～平成22年度  
 野村良彦・沼田裕一  
 副会長 平成23年度～平成24年度  
 野村良彦・桑原幹夫  
 副会長 平成25年度～平成26年度  
 野村良彦・工藤澄彦  
 副会長 平成27年度～平成28年度  
 野村良彦・工藤澄彦・芹川直行

### 平成28年度 横須賀三浦内科医会役員

会長	沼田 裕一
副会長	野村 良彦
	工藤 澄彦
	芹川 直行
常任幹事	日隈 菊比呂
	橋本 敦生
	千場 純
	山下 隆司
	坂本 龍
	塚本 光嘉
	山形 寿太郎
	松岡 幹雄
	小松 和人
	金成 正浩
	岩澤 孝昌
顧問	矢島 眞文
	兒玉 康史
	吉村 幸高
監事	南 信明
	船山 道敏
	三浦 博太郎

### 2 内科医会の事業

横須賀・三浦内科医会の事業の盛衰は横須賀・三浦内科医会の盛衰そのものです。平成19年から平成

28年度までの内科医会の事業の基本方針は先輩方に習い大きな変更はありません。特に、神奈川県内科医学会との連携、会員の生涯教育の推進として研究会講演会の開催、横須賀・三浦内科医会メンバーでの臨床研究の推進、市医師会の各種事業計画への協力はおろそかにしてはならない事業として力を入れてきました。しかし、時代の流れもあり、医師会に入会してもいずれの医会にも参加しない会員が現れるようになり、会員増加対策に力を入れなければならなくなりました。そのため会員相互の親睦促進のために横須賀・三浦内科医会ゴルフコンペを始めました。また、第32回日本臨床内科医学会開催が決まり、この準備に参画することも内科医会の重要な事業として考えています。

以下に平成28年度の事業計画を示します。

横須賀・三浦内科医会

平成28年度事業計画

1. 神奈川県内科医学会との連携
  - A. 第3地区（横須賀市、三浦市、逗葉、鎌倉市）としての協力、役割分担
    - 1) 高血圧神奈川スタディ
    - 2) 神奈川糖尿病対策委員会
    - 3) 神奈川肝炎対策委員会
    - 4) 神奈川認知症対策委員会
    - 5) 神奈川禁煙・分煙推進委員会
    - 6) 心臓血管病対策委員会
  - B. 日本臨床内科医会研修指定医制度への参画、推進
2. 会員の生涯教育の推進
  - A. (研究会、懇話会 共催分)
    - 1) 三浦半島糖尿病懇話会
    - 2) 横須賀肝疾患勉強会
    - 3) 横須賀循環器勉強会
    - 4) 三浦半島在宅呼吸ケア懇話会
    - 5) 三浦半島循環器談話会
    - 6) 神奈川脂質研究会
    - 7) その他
  - B. 市医師会学術講演会との共催

- C. 内科医会メンバーでの臨床研究の推進
  - 肺高血圧症のデータ
  - ファブリー病のスクリーニング
  - 胃がん検診について（ペプシノーゲンとピロリ菌感染）
  - ASSAF-Kその他への参加
- D. その他
3. 市医師会の各種事業計画への協力
  - 老人保健事業、がん検診事業、救急医療体制、災害医療体制、病診（在宅医療）連携、高齢者健康教室（げんき教室）、保健医療セミナー、在宅医療推進等
4. 会員増加対策
5. 会員相互の親睦促進内科医会ゴルフコンペ
6. その他横須賀・三浦市内科医学会の繁栄
7. 第32回日本臨床内科医学会開催

3 内科医会メンバーでの臨床研究の推進  
横須賀・三浦内科医会では神奈川県内科医学会の研究に協力することは当然のことですが、三浦半島という特徴ある地域でもあり、横須賀・三浦内科医会独自の内科医会の研究も行われていますので、その一端を披露します。

- (1) 横須賀市の胃がんリスク検診（リスク層別化検査）について

横須賀内科医会 松岡幹雄

横須賀市の胃がん検診は、平成13年10月から胃X線検査（以下胃X線）か胃粘膜の萎縮の程度をみる血清ペプシノーゲン法（以下PG法）のどちらかを選択する方法で行っていたが、胃X線での胃がん発見数が低迷していたため、平成24年度から市民検診として胃X線を全廃し、血清ヘリコバクタIgG抗体（以下HP抗体）とPG法を組み合わせた胃がん層別化検査（リスク検診）を40歳以上の市民全員を対象として開始した。PG I 70以下かつ I / II 比 3 以下をPG法陽性、当初はHP抗体10以上を陽性としたが、平成28年度からはHP抗体 3 以上を陽性とし、その

組み合わせでABCDの4群に分類した。A群は5年間は再検診を受けられないこととし、BCD群を要精査とし、保険診療で内視鏡を行うこととし、以後は検診を受けず、内視鏡で経過観察することとした。

平成24年度の対象者は139,200人で受診率は15.6%、要精査10,304人、精検受診率79.2%で、胃がん発見数は早期がん88例を含む、115例で、発見率0.53%であった。平成25年度は受診率8.5%、要精査4,088人、精検受診率77.5%で、胃がん発見数は早期がん31例を含む45例で、発見率0.45%であった。平成26年度は受診率6.9%、要精査3,214人、精検受診率76.4%で、胃がん発見数は早期がん27例を含む30例で、発見率0.41%であった。平成27年度は受診率5.4%、要精査2,249人精検受診率80.8%で、胃がん発見数は、早期がん29例を含む36例で、発見率0.67%であった。開始後4年間で平成24年度の対象者の約32%にあたる44,708人が受診し、精検受診率は平均78.5%で、早期がん175例を含む226例の胃がんが発見され、平均発見率は0.51%であった。費用対効果の概算では、リスク検診導入前5年間の平均と導入後4年間の平均で比較すると、1人当りの検診費用は胃X線16,350円、PG法3,236円、リスク検診4,366円、平均年間事業費は胃X線3,963万円、PG法4,537万円、リスク検診3,903万円、胃がん1症例当りの費用は胃X線2,830万円、PG法151万円、リスク検診79万円であった。リスク検診は胃がん発見という目的以外にもヘリコバクタピロリ感染者を抽出でき、これらを除菌することにより、今後の胃がん抑制効果も期待できる。

## (2) 三浦半島ファブリー病ハイリスクスクリーニング研究中間報告

横須賀内科医会 岩澤孝昌

ファブリー病は、ライソゾームに存在する加水分解酵素のひとつである $\alpha$ -ガラクトシダーゼの活性低下により、本来この酵素の働きで分解されるべきセラミドトリヘキソシド(CTH)という糖脂質が多く組織に蓄積して多彩な臨床症状を呈する遺伝病である。病状が進展すると心臓、腎臓、脳などに臓器障害をきたして致命的な転帰が惹起されること

も多い。心肥大や心筋症の患者の中にはファブリー病が潜んでいる可能性が高く、こうした所見を呈する患者を対象にスクリーニングを行うことで、潜在患者の顕在化が図れると考えられる。本研究は、三浦半島で左室肥大を呈する患者を対象にスクリーニングを実施し、早期にファブリー病の診断を確定し、病状進展を阻止するための治療を導入することを目的とする。対象は外来あるいは入院にて経過観察中で心肥大を呈する男性患者で、文書による同意取得しえた者。対象患者数は、400名を予定。方法はうわまち病院が検査機関(明治薬科大学分析化学教室(櫻庭均教授))と連携し、 $\alpha$ -ガラクトシダーゼ酵素活性の蛍光発色測定法で行う。一次検査の対象患者は、各施設から紹介された左室肥大を呈する患者の中で、心エコーによる検査で要件を満たすものとする。心エコー検査において心室中隔もしくは左室後壁の壁厚が12mm以上ある場合を心肥大とする。一次検査で陽性であった患者に対しては、確定のため二次検査を実施する。白血球を試料とした酵素活性を測定することにより実施する。必要に応じて、遺伝子検査、尿中のバイオマーカーの検査も行う。

平成28年8月2日現在で248名が一次スクリーニング検査を施行された。結果、9名が $\alpha$ -ガラクトシダーゼの有意な低下を認めたため2次スクリーニング検査へ移行。1例が遺伝子多型E66Qアレルであった。今後400名を目標にスクリーニングを継続し最終結果報告予定である。

## (3) 肺高血圧症への挑戦 ～横須賀市内科医会の取り組み～

横須賀内科医会 岩澤孝昌

近年、肺動脈性肺高血圧症の治療は、重症な症例に早期に導入すべきエボプロステロールをはじめ、経口肺動脈拡張薬が導入され、良好な治療成績をあげている。慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)において血栓内膜摘除術やバルーン拡張術が有効であり、CTEPH適応薬としてリオシグアトも使用可能になった。横須賀市内科医会では、横須賀市を中心とする三浦半島において肺高血圧症患者が、より

早期に診断され、その原因や重症度に適した最新で最良の治療を受けられるように、地域医療連携システムを構築する目的でこの研究を行った。心電図や胸部レントゲンにて肺高血圧が疑われる患者、先天性心疾患、膠原病（特に強皮症, SLE, MCTDなど）、肺疾患があり肺高血圧症が疑われる患者を対象とした。心エコーによる三尖弁逆流速度より推定右室収縮期圧を測定しTR-PG30mmHg以上を登録し右心カテーテル検査を含む、原因確定・重症度判定のための精査を施行し手術適応、ほか、酸素療法や薬物療法の適応導入を行った。これらの症例の臨床的特徴と選択された治療の内訳、治療経過について文献的考察も加え報告した。

最後になりますが、平成26年3月1日に横須賀・三浦内科医会の現役役員であり、神奈川県内科医学会の幹事を務めておられた桑原幹夫先生が急逝されました。現役で未来ある内科医会役員の急逝は我々に大きな衝撃を与えると同時に、人生は限りあるもの、内科医会の医師として惰眠を貪ってはならないと心に誓いました。

常々先輩たちの長く尊い歴史を汚してはならないと考えて活動してきましたが、現在も横須賀・三浦内科医会には若手が育っており、会員数も増加していることから、今後さらに発展していく所存です。

## ■ 逗葉内科医会



会長 田嶋 博雄

月第3金曜日に講演会を開催し、病診連携もかねて近隣の先生方を中心にご講演をいただいています。また、逗葉地域医療センターの肺がん検診に協力して、横須賀市立うわまち病院顧問の三浦博太郎先生にご指導をいただきながら胸部読影会を年10回開催しています。

今後も精進しながら、地域医療に貢献していきたいと考えています。

### ◇ 歴代役員（平成19年度～平成28年度）

年 度	会 長	副会長	学術担当
平成19年度	工藤房子	加藤秀継	水嶋雅子
平成20年度	加藤秀継	水嶋雅子	島田陽子
平成21年度			
平成22年度	水嶋雅子	島田陽子	三科孝夫
平成23年度			
平成24年度	島田陽子	田嶋博雄	
平成25年度			
平成26年度	田嶋博雄	天野皓昭	
平成27年度		須澤直木	
平成28年度	木嶋祥磨	尾鼻孝滋	

### 【平成19年度】

- 1 会議  
総会 1回
- 2 学術講演会
  - (1) 平成19年6月19日「肝硬変、肝がん最新の集学的治療」  
大船中央病院  
消化器肝臓病センター長 岩渕省吾先生
  - (2) 平成19年6月26日「プライマリーケアに役立つ泌尿器、排尿ケアの6つのコツ」  
横須賀市立うわまち病院  
泌尿器科部長 奥井伸雄先生
  - (3) 平成19年8月21日「手術で治る認知症あれこれ」

### ◇ 行事等

逗葉内科医会では、8月・12月・1月を除いた毎

- 横須賀北部共済病院 病院長 桑名信匡先生
- (4) 平成19年10月12日「本態性高血圧症の源に迫る」  
横浜市立大学大学院 医学研究科  
循環器・腎臓内科学 准教授 石上友章先生
- (5) 平成19年11月9日「高度のエビデンスに基づいた脳梗塞慢性期治療の実際」  
横浜市立脳血管医療センター  
神経内科部長 永山正雄先生
- (6) 平成20年2月1日「脳卒中の地域連携，脳卒中の見分け方と治療リハビリ後のケアなど」  
横須賀北部共済病院 病院長 桑名信匡先生
- (7) 平成20年2月8日「動脈硬化症治療2008」  
横浜栄共済病院  
循環器内科部長 道下一朗先生
- (8) 平成20年3月7日「慢性腎臓病（CKD）がなぜ悪いか，心腎連関と心血管病阻止戦略について」  
横浜市立大学 医学研究科  
循環器・腎臓内科学准教授 田村功一先生
- (9) 平成20年3月14日「本邦における心臓性突然死をいかに予防するか」  
横浜南共済病院  
循環器センター部長 西崎光弘先生

### 3 研究会への参画 胸部読影会11回

#### 【平成20年度】

##### 1 会議

- (1) 総会 1回
- (2) 神奈川県内科医学会平成20年度地区会長・幹事会 1回

##### 2 学術講演会

- (1) 平成20年4月18日「パーキンソン病の鑑別と治療」  
順天堂大学医学部 脳神経内科  
先任准教授 卜部貴夫先生
- (2) 平成20年5月16日「高齢者喘息におけるLABAの使用意義について」  
神奈川県立循環器呼吸器病センター

- 呼吸器科 部長 高橋宏先生
- (3) 平成20年7月11日「糖尿病の経口薬療法」  
衣笠病院 顧問 南 信明先生
- (4) 平成20年7月25日「橈骨遠位端骨折の治療，Up to Date」  
横須賀北部共済病院 整形外科  
部長 坂野裕昭先生
- (5) 平成20年9月12日「日常診療における泌尿器疾患の鑑別と治療」  
横浜南共済病院  
泌尿器科部長 池田伊知郎先生
- (6) 平成20年9月19日「ホームドクターのための血管疾患管理」  
横浜南共済病院 心臓血管外科  
部長 孟 真先生
- (7) 平成20年11月14日「脳卒中治療の最前線」  
横須賀共済病院 脳神経外科  
部長代行 田中良英先生
- (8) 平成21年3月10日「大規模臨床試験からの糖尿病治療へのメッセージ」  
湘南鎌倉総合病院糖尿病内分泌内科  
部長 浜野久美子先生

### 3 セミナー

- (1) 平成20年4月25日「知っておきたい眼科疾患」  
北里大学病院 准教授 高野雅彦先生
- (2) 平成20年6月13日「上がり症は薬（デプロメール）で治る」  
東洋英和女学院大学 人間科学部教授  
横浜クリニック院長 山田和夫先生
- (3) 平成20年6月24日「CKDに関するRAS抑制の臨床的意義」  
東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科  
准教授 徳留悟朗先生
- (4) 平成20年8月22日「認知症の理解，そのサインを見逃さないために」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター  
部長 准教授 小田原俊成先生
- (5) 平成20年10月24日「循環器内科から見た降圧療法の実際」

- 横浜南共済病院 循環器内科  
検査部長 足利貴史先生
- (6) 平成20年10月31日「認知症の鑑別」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター  
精神医療センター部長 小田原俊成先生
- (7) 平成20年11月18日「慢性気管支炎・肺気腫の  
早期介入と増悪抑制」  
横須賀市立うわまち病院  
副病院長 三浦溥太郎先生
- (8) 平成21年3月24日「認知症診療の実際、認知  
症ケアへの取り組み～地域ケアの実践」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター  
小田原俊成先生
- 4 研究会への参画  
胸部読影会10回
- 【平成21年度】**
- 1 会議  
総会 1回
- 2 学術講演会
- (1) 平成21年5月15日「末梢血管疾患（PAD）  
の診療と治療について」  
横須賀市立うわまち病院  
循環器科部長 岩澤孝昌先生
- (2) 平成21年5月22日「いきなり名医、家庭血圧  
管理術」  
東京都健康長寿医療センター  
副院長 桑島 巖先生
- (3) 平成21年6月9日「頸部頸動脈狭窄症に対す  
るステント留置術」  
横須賀市立うわまち病院 第一脳血管外科兼  
第三脳神経外科部長 廣田暢夫先生
- (4) 平成21年7月14日「妊婦授乳婦人への薬物投  
与」  
聖路加国際病院  
女性総合診療部部長 佐藤孝道先生
- (5) 平成21年7月28日「造血器悪性腫瘍の最近の  
治療」  
春日部市立病院  
血液化学療法科病院長 澤田海彦先生
- (6) 平成21年9月8日「心房細動治療2009」  
葉山ハートセンター副院長不整脈センター長  
佐竹修太郎先生
- (7) 平成21年10月9日「新型インフルエンザ対策  
と病診連携」  
横須賀市立市民病院  
血液内科科長兼感染対策室長 小川浩司先生
- (8) 平成21年10月20日「心血管病にならないため  
に」  
横浜労災病院  
循環器科副部長 玉木利幸先生
- (9) 平成21年11月24日「パラダイムシフトした2  
型糖尿病の治療戦略」  
順天堂大学大学院 教授 河盛隆造先生
- (10) 平成22年3月16日「血糖コントロールと日本  
初DPP4阻害剤の使い分け」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター  
准教授 山川正先生
- (11) 平成22年3月19日「パーキンソン病・類縁疾  
患等全般について」  
聖テレジア病院 院長 高橋洋一先生
- 3 研究会への参画  
胸部読影会10回
- 【平成22年度】**
- 1 会議  
総会 1回
- 2 学術講演会
- (1) 平成22年5月21日「機能性胃腸症の最近の話  
題」  
横浜市立大学医学部 消化器内科  
助教 稲森正彦先生
- (2) 平成22年6月25日「慢性呼吸器疾患の治療と  
診断のポイント」  
神奈川県立病院機構神奈川県立循環器呼吸器  
センター 部長 小倉高志先生
- (3) 平成22年7月23日「脳梗塞治療の現状：急性  
期から慢性期まで」  
横浜市立大学附属病院市民総合医療センター  
神経内科 部長 西山毅彦先生

- (4) 平成22年9月17日「アルツハイマー病の重症  
度別攻略法」  
昭和大学横浜市北部病院 神経内科  
准教授 福井俊哉先生
- (5) 平成22年10月22日「糖尿病・慢性腎臓病にお  
ける末梢動脈疾患、早期発見と治療戦略」  
湘南鎌倉総合病院 血液浄化部  
部長 日高寿美先生
- (6) 平成22年11月26日「循環器疾患における抗血  
小板療法・抗凝固療法」  
横須賀市立市民病院 科長 循環器内科  
奥田 純先生
- 3 研究会への参画  
胸部読影会10回
- 【平成23年度】
- 1 会議  
総会 1回
- 2 学術講演会
- (1) 平成23年5月13日「循環器領域における抗凝  
固・抗血小板療法のガイドライン2009改訂版解  
説」  
東京女子医科大学 循環器内科  
村崎かがり先生
- (2) 平成23年6月17日「アスピリン服用者の消化  
管傷害の発生頻度と抗潰瘍薬の使用実態との関  
連」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター  
消化器内科 教授 田中克明先生
- (3) 平成23年6月21日「心房細動に対する抗血栓  
療法 新しい抗凝固薬時代の幕開け」  
横浜市立大学附属病院 循環器内科  
准教授 石川利之先生
- (4) 平成23年7月6日「子宮頸がんの予防  
HPVワクチンを中心に」  
東海大学医学部 専門診療学系 産婦人科  
准教授 村松俊成先生
- (5) 平成23年7月22日「最近の末梢動脈疾患の治  
療」  
横須賀市立市民病院  
循環器内科 奥田 純先生
- (6) 平成23年9月9日「インクレチン関連薬につ  
いて」  
横須賀共済病院 内分泌糖尿病内科  
部長代行 伊藤 讓先生
- (7) 平成23年10月14日「認知症の鑑別診断と治療  
薬の使い分け」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター精神  
医療センター 准教授 小田原俊成先生
- (8) 平成23年11月18日「危ない中枢性めまいの見  
分け方まで 生活習慣病と高齢化に関連して」  
額田記念病院内科 中山杜人先生
- (9) 平成24年2月17日「認知症の早期診断と当院  
での取り組み」  
久里浜アルコール症センター  
認知症疾患医療センター診療部長  
松井敏史先生
- (10) 平成24年3月16日「Dal, 君は幸せなのか  
尿酸代謝と高尿酸血症の新治療薬」  
逗子金沢内科クリニック  
院長 木嶋祥磨先生
- 3 研究会への参画  
胸部読影会8回
- 【平成24年度】
- 1 会議
- (1) 総会 1回
- (2) 神奈川県内科医学会平成24年度地区会長・幹  
事会 1回
- 2 学術講演会
- (1) 平成24年4月20日「糖尿病治療の実際 尿酸  
代謝と高尿酸血症の新治療薬」  
横浜市立大学医学部 内分泌・糖尿病内科学  
助教 伊藤 讓先生
- (2) 平成24年5月18日「新しい取り組みが求めら  
れる災害医療 港北方式」  
横浜市港北区医師会 たるまちクリニック  
院長 片山時孝先生
- (3) 平成24年6月22日「三浦半島におけるファブ  
リー病の肺高圧症への挑戦」

- 横須賀市立うわまち病院 循環器内科部長  
岩澤孝昌先生
- (4) 平成24年7月20日「降圧から質の高い高血圧治療へ」  
湘南鎌倉総合病院 循環器内科部長  
赤坂 武先生
- (5) 平成24年9月21日「抗凝固療法を考える 経口Xa 因子阻害剤のメリットについて」  
横浜南共済病院 副院長 西崎光弘先生
- (6) 平成24年10月19日「重要性を増すプロトンポンプ・インヒビターの役割」  
横須賀共済病院 消化器病センター長  
池田隆明先生
- (7) 平成24年11月16日「家庭高血圧の重要性と二次性高血圧について」  
湘南鎌倉総合病院 総合内科  
部長 北川 泉先生  
「腎と高血圧」  
湘南鎌倉総合病院血液浄化センター長  
日高寿美先生
- (8) 平成25年2月15日「糖尿病治療を再考する」  
東海大学医学部内科学系 腎内分泌代謝内科  
准教授 鈴木大輔先生
- (9) 平成25年3月15日「 $\beta$ 細胞から考える糖尿病治療 DPP-4 阻害薬の可能性」  
東京慈恵会医科大学  
糖尿病・代謝・内分泌内科 藤本 啓先生
- 3 研究会への参画  
胸部読影会10回
- 【平成25年度】
- 1 会議  
総会 1回
- 2 学術講演会
- (1) 平成25年4月19日「CKD（慢性腎臓病）における高血圧治療」  
横浜栄共済病院 腎臓内科  
部長 押川 仁先生
- (2) 平成25年5月17日「脂質異常症を有する非アルコール性脂肪肺炎（NASH）患者の治療戦略」
- 横浜市立大学附属病院 消化器内科  
助教 米田正人先生
- (3) 平成25年6月14日「高血圧治療の新展開」  
湘南鎌倉総合病院 循環器科  
部長 高橋佐枝子先生
- (4) 平成25年7月19日「熊本宣言2013新しい血糖コントロール目標」  
衣笠病院内科 南 信明先生
- (5) 平成25年9月20日「成人喘息管理はこんなに簡単 吸入療法のノウハウ」  
横浜市立みなと赤十字病院  
アレルギーセンター長 中村陽一先生
- (6) 平成25年10月11日「虚血性心疾患、心不全の診断 採血データを中心に」  
横浜南共済病院 循環器内科  
部長 藤井洋之先生
- (7) 平成25年11月15日「心房細動患者における抗凝固療法」  
横須賀共済病院 循環器内科  
診療部長 高橋 淳先生
- (8) 平成26年2月21日「成長期から考える骨粗鬆症予防と治療」  
聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座  
病院教授 清水弘之先生
- (9) 平成26年3月17日「認知症の診断と地域医療連携」  
久里浜医療センター 副院長  
認知症疾患医療センター長 松下幸生先生
- 3 研究会への参画  
胸部読影会10回
- 【平成26年度】
- 1 会議  
総会 1回
- 2 学術講演会
- (1) 平成26年4月18日「THE CATS AND THE DOGS VitaminDの現状」  
逗子金沢内科クリニック名誉院長・顧問  
木嶋祥磨先生
- (2) 平成26年5月16日「COPD治療のUP DATE



LAMA./LABAの臨床的位置づけ」

県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科医長

小松 茂先生

(3) 平成26年6月20日「増える糖尿病治療薬と個別治療—SGLT2阻害薬を含めて」

永寿総合病院 糖尿病臨床研究センター長

渥美義仁先生

(4) 平成26年9月19日「SGLT2阻害剤の適正使用」

高井内科クリニック 院長 高井昌彦先生

(5) 平成26年10月17日「生活習慣病と睡眠障害」

北里大学医療衛生学部 健康科学科

教授 田ヶ谷浩邦先生

(6) 平成26年11月21日「新規抗凝固薬内服中に発症した脳梗塞症例」

横須賀市立市民病院 循環器内科

部長 奥田 純先生

(7) 平成27年2月20日「糖尿病と歯周病」

横須賀共済病院 歯科口腔外科

部長 宮 直利先生

(8) 平成27年3月17日「横須賀市胃がん検診の現状と課題」

中央内科クリニック 院長 松岡幹雄先生

(9) 平成27年3月20日「早期胃癌とピロリ除菌について」

横浜市立大学附属市民総合医療センター教授・部長 國崎主税先生

### 3 研究会への参画

胸部読影会10回

#### 【平成27年度】

##### 1 会議

総会 1回

##### 2 学術講演会

(1) 平成27年4月17日「慢性腎臓病の治療」

大船中央病院 内科系代表 猿田貴之先生

(2) 平成27年5月15日「多発性嚢胞腎の診断と治療, CDK連携について」

横須賀共済病院

腎臓内科医長 田中敬之先生

(3) 平成27年6月19日「糖尿病・CKD患者におけるPAD 薬物治療を含めて」

湘南鎌倉総合病院 腎臓病総合医療センター

長 副院長 小林修三先生

(4) 平成27年7月17日「糖尿病診療の現状とポイント, 新薬の使用経験も含めて」

逗子金沢内科クリニック

院長 須澤直木先生

(5) 平成27年9月18日「食後高脂血症を見逃さないために 小林内科クリニックでの取り組み」

横須賀市立市民病院 腎臓内科主任医長

小林雄祐先生

「循環器病予防医学における脂質制御を考える」

北里大学大学院 医療系研究科循環器内科学

准教授 東條美奈子先生

(6) 平成27年10月16日「当院のVTEの診断と治療について」

横須賀市立市民病院 循環器内科

主任医長 坂賢一郎先生

(7) 平成27年11月20日「当院の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) の現状」

横浜南共済病院 消化器内科 濱中 潤先生

(8) 平成28年2月19日「糖尿病専門医から考える睡眠の重要性」

横浜市立大学附属市民総合医療センター内分

泌・糖尿病内科 准教授 山川 正先生

(9) 平成28年3月4日「心房細動治療の現況」

横須賀共済病院 循環器センター

副院長 高橋 淳先生

(10) 平成28年3月18日「最新のGERD治療について」

横浜市立大学附属病院 消化器内科

准教授 稲盛正彦先生

### 3 研究会への参画

胸部読影会10回

#### 【平成28年度】

##### 1 会議

総会 1回

##### 2 学術講演会

- (1) 平成28年4月15日「「かかりつけ医」が実践する在宅医療・在宅看取り」  
野村内科クリニック 院長 野村良彦先生
  - (2) 平成28年5月20日「冠動脈疾患と脂質異常症イメージングモダリティを用いた評価」  
横須賀市立市民病院 循環器内科  
主任医長 坂賢一郎先生  
「コレステロール代謝と冠動脈の動脈硬化病変との関連性」  
豊橋ハートセンター  
循環器内科部長 那須賢哉先生
  - (3) 平成28年6月17日「喘息治療における吸入療法 その理論と実際」  
仙台気道研究所 代表取締役 田村弦先生
  - (4) 平成28年9月29日「骨粗鬆症に対する薬物療法 BP製剤の光と影」  
蓮村整形外科 院長 聖マリアンナ医科大学  
客員教授 清水弘之先生
  - (5) 平成28年10月21日「高齢者の食を支援する医科歯科連携による摂食嚥下リハビリテーション」  
東京医科歯科大学大学院 地域・福祉口腔保健衛生分野 教授 古屋純一先生
  - (6) 平成28年11月18日「ワクチン最前線 4種混合ワクチンの重要性と接種のタイミング」  
THEKINGCRINIC 院長 近 利雄先生
  - (7) 平成29年2月17日「慢性便秘の診療における新しい潮流」  
横浜市立大学大学院医学研究科 肝胆膵消化器病学 主任教授 中島 淳先生
  - (8) 平成29年3月17日「手術支援型ロボット「ダ・ヴィンチ」による低侵襲手術の未来」  
横浜市立大学附属病院  
泌尿器科 中井川昇先生
- 3 胸部読影会：10回

## ■鎌倉市医師会内科医会



内科医会会長 正山 堯

〔沿革〕

鎌倉市医師会内科医会は、昭和44年に「月例消化器研究会」を持って発足しました。本会は、昭和50年に内科医会から分離して、「鎌倉消化器病分科会」になりましたが、最近では「胃精密合同読影会」として活動を続けています。更にこれに平行して長期的に「大腸癌合同読影会」も定期的に行われています。また、昭和49年に「肺癌を中心とした胸部レ線を見直す会」が始り、その後「胸部検診比較読影会」（肺がん合同読影会）として現在に至っています。昭和56年より、「日本医師会生涯教育講座」が原則的に月2回の割合で定期的に行われていますが、これに伴って、昭和61年4月1日より、

鎌倉市医師会の一分化会として発足したのが、「鎌倉市医師会内科医会」であります。

内科医会は、当初、故濱名正太郎、故長尾 守両先生によって会は運営されていましたが、昭和63年からは会長に故井口善二郎先生、副会長に私と長洲堯雄先生が引き継ぐことになり、これより内科医会の主な活動の一環として、毎月一回の学術講演会が始りました。平成8年からは私、正山 堯が会長に、橋本隆平先生が副会長を努めることになり現在に至っています。昭和63年10月から平成29年6月現在までに行われた内科医会の学術講演会は、294回に及びます。講演内容は下記に示した通り、内科に限らず他科の疾患に関する演題も含まれ多彩で、従って聴講者も内科医師以外の各科の医師の参加に加えて、鎌倉近隣の医師会員、コメディカル、看護師、薬剤師等常時40～60名のバラエティーに富んだ多くの聴講者の参加を得て盛会です。特に講演会後の情報交換会の場での開業医と病院の勤務医、医師と薬剤師等との交流は、相互医療の密接な情報連携

にもつながり、大変意義深い会になっています。

平成17年3月27日に、神奈川県内科医学会主催の「第68回神奈川県内科医学会集談会」が、鎌倉市医師会内科医会の担当で、鎌倉鶴ヶ岡会館で開催されましたが、その時点での内科医会の構成役員は下記の通りであります。現在も当時のままであります。

- 会 長 正山 堯  
 副会長 橋本隆平・豊田 悟  
 (A地区) 高井勝美 山口 泰  
 (B地区) 伊藤昌平 千葉昌宏  
 (C地区) 井口和幸 吉岡顕一  
 (D地区) 木村耕三 湯浅章平  
 (E地区) 濱名哲郎 土橋康之  
 監 事 塩之入洋 長洲克雄  
 顧 問 倉岡東一 志村耕一

神奈川県内科医学会には多方面に亘って、活動部委員会がありますが、鎌倉市医師会内科医会会員も各委員会の委員として協力活動しています。所属委員会での活動分野は下記の通りです。

- 神奈川県内科医学会  
 ○総務企画部会員・橋本隆平、正山 堯  
 ○呼吸器疾患対策委員会 橋本隆平  
 ○糖尿病対策委員会委員 高井昌彦  
 ○高血圧腎疾患対策委員会 吉岡顕一 花岡正人  
 ○認知症対策委員会委員 湯浅章平  
 ○禁煙指導マニュアル作成委員会 宮下 明  
 ○情報広報部会員 木村耕三  
 ○健康長寿を目指す会 正山 堯

学術講演会：平成19年度～平成28年度までに開催された学術講演会は次に示した通りです。

～～～ 平成19年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月24日	一度見れば忘れない診断に役立つ特徴的な身体所見 《写真・動画で見るSpin-itive Physical Findings》	大船中央病院 内科代表部長 須藤 博先生
5月22日	食後血糖の治療戦略	横浜市立大学大学院 医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科 教授 寺内康夫先生
6月26日	内部環境の乱れに拮抗するCa拮抗薬	埼玉医科大学病院 腎臓内科 教授 鈴木洋通先生
7月24日	病診連続を合頭においた急性冠症候群の診断と治療	横浜市立大学附属市民総合医療センター 心臓血管センター 教授 木村一雄先生
9月25日	脂質異常症の治療戦略～動脈硬化性疾患予防ガイドライン2007年度版をふまえて～	横浜市立大学附属市民総合医療センター 内分泌糖尿病内科 准教授 山川 正先生
10月24日	心血管系事故の予防を目指した新しい糖尿病治療戦略	桜橋渡辺病院心臓血管センター センター長 伊藤浩先生
11月27日	花粉症に対する抗アレルギー剤の使い分け	関西医科大学附属病院 病院教授 久保伸夫先生
12月18日	日常診療における降圧療法～問題点とその対策について～	愛知医科大学 循環器内科 准教授 水谷 登先生
1月22日	「花粉症の最新治療」～花粉暴露室〔OHIOチャンバー〕の結果を用いて	北里研究所病院 耳鼻咽喉科 部長 橋口一弘先生
3月25日	透析導入を回避するための糖尿病性腎症に対する強化療法	東京女子医科大学糖尿病センター 講師 馬場園哲也先生

～～～ 平成20年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月22日	禁煙医療の基礎知識（禁煙外来開設に向けて）	長谷内科医院 院長 長谷 章先生
5月27日	医薬品の正しい認識	東邦大学薬学部臨床薬学研修センター 教授 柳川忠二先生 神奈川県内科医学会 会長 中山脩郎先生
6月24日	動脈硬化退縮におけるLDL-C/HDL-C比の重要性	日本大学附属板橋病院 心臓血管外科 講師 秦 光賢先生
7月22日	重症下肢虚血の怖さから考える末梢血管疾患の診療	北里大学病院 外科講師 平田光博先生
9月30日	「排尿障害の診方」～OBA（過活動膀胱）を中心に	大船中央病院泌尿器科 副部長 松下知彦先生
10月28日	糖尿病患者の全身チェックの重要性	がん総合相談センター 院長 松江寛人先生
11月25日	糖尿病治療の薬剤選択と今後の展望	東海大学医学部付属病院 腎内分泌代謝内科 准教授 鈴木大輔先生
12月16日	高血圧の成因・治療に関する最近のトピックス	横浜市立大学大学院医学研究科 病態制御内科学 教授 梅村 敏先生
1月27日	QOL疾患としての前立腺肥大症の治療	横浜市立大学附属市民医療センター 泌尿器腎臓移植科部長 教授 野口和美先生
2月24日	頸部動脈狭窄症に対するステント留置術	うわまち病院脳神経科 広田暢夫先生
3月24日	糖尿病大血管障害の予防戦略	埼玉医科大学 内分泌糖尿病内科 准教授 大飼浩一先生

～～～ 平成21年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月28日	CKD（慢性腎臓病）を考慮した血圧管理	太田総合病院附属 太田西ノ内病院 総合診療科兼太田医院部長 大田昌宏先生
5月28日	COPDの診断と治療のポイント	東海大学呼吸器内科 教授 近藤哲理先生
6月23日	糖尿病とメタボリックシンドローム～食後血糖制御の意義～	聖マリアンナ医科大学 代謝内分泌内科 教授 田中 逸先生
7月28日	過活動膀胱の指導～男性編&女性編～	よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック 奥井伸雄先生
9月23日	スギ花粉症・テラーメイドを目指した最適な薬剤選択	横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター センター長 中村陽一先生
10月27日	心房細動のカテーテルアブレーション治療	横須賀共済病院循環器内科 桑原大志先生
11月24日	気管支喘息診療のピットフォールの回避をめざして	横浜市立大学附属市民総合医療センター 副院長 呼吸器センター 教授 金子 猛先生
12月15日	市中肺炎の治療戦略～インフルエンザの流行期における呼吸器感染症の外来治療	虎ノ門病院分院 呼吸器科部長 川畑雅照先生
1月26日	「糖尿病患者のマネジメント」～生活指導から薬物療法までの実際	武田病院グループ予防医学EBMセンター長 京都大学医学部 臨床教授 榊田 出先生

2月23日	アレルギー性鼻炎花粉症の治療	横浜市立大学 耳鼻咽喉科 頭頸部外科 助教 渡辺牧子先生
3月23日	生活習慣病と不眠	久留米大学医学部 精神神経科教授 内村直尚先生

～～～ 平成22年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月19日	RAS抑制薬に併用するCa拮抗薬選択のポイント～エビデンスを踏まえた降圧療法	東京大学医学系研究科 分子環境代謝病学講座 准教授 安藤克之先生
5月25日	藤沢市民病院における精神科コンサルテーション・エリゾン・種々の身体障害に伴う精神障害の理解と対応	藤沢市民病院精神科 医長 吉田 猛先生
6月8日	COPDの診断と治療のポイント	東海大学医学部 内科系呼吸器内科 教授 阿部 直先生
7月27日	コレステロール吸収抑制による脂質低下療法の臨床的ベネフィット	東京大学大学院医学系研究科 臨床分子疫学講座 准教授 後藤田貴也先生
9月7日	糖尿病血管合併症阻上のための集学的治療戦略	久留米大学医学部 糖尿病性血管合併症病態 治療講座 教授 山岸昌一先生
10月5日	GERDとFDの診断と治療	北里大学東病院 副病院長 田辺 聰先生
11月2日	血糖コントロールと日本初DDP4阻害薬の役割～グラクティブへの期待	横浜市立大学附属市民総合医療センター 内分泌糖尿病内科 准教授 山川 正先生
12月7日	MRに誤魔化されない臨床試験の見方～高血圧介入試験を中心に～	東京大学大学院 医学系研究科臨床疫学システム講座 教授 山崎 力先生
1月11日	2型糖尿病における膵β細胞機能障害の傾向とその対策	順天堂大学医学部 内科学代謝内分泌学講座 准教授 藤谷与士夫先生
2月1日	①重度難聴に対する治療～人工内耳～ ②アレルギー性鼻炎合併副鼻腔炎の治療成績	横浜市立大学医学部耳鼻咽喉科 助教 高橋優宏先生 横浜市立大学医学部耳鼻咽喉科 准教授 堀内長一先生
3月1日	2型糖尿病～最近の考え方と基礎インスリンを中心とした治療戦略	帝京大学医学部内科学講座 教授 江藤一弘先生

～～～ 平成23年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月5日	認知症の診断と治療の実際～治療選択肢が増えたこれからの日常診療～	日本医科大学武蔵小杉病院内科 神経内科 教授 北村 伸先生
5月17日	心房細動に対する抗血栓療法～新しい抗凝固薬時代の幕開け～	横浜市立大学附属病院循環器内科 准教授 石川利之先生
6月7日	2型糖尿病の外来診療最前線	順天堂大学大学院医学研究科スポーツロジックセンター センター長 河盛隆造先生

7月5日	プライマリー領域におけるうつ病について	横須賀市立うわまち病院 救急総合診療部 部長 本多英喜先生
9月6日	高血圧の成因に迫る	横浜市立大学医学部 循環器腎臓内科学 准教授 石上友章先生
10月4日	CKDの外来治療の実際のポイント	社会保険横浜中央病院副院長兼 腎臓透析内科 部長 海津嘉蔵先生
11月1日	蕁麻疹を診たら～私の対応～	東海大学医学部付属病院 専門診療学系皮膚科学 教授 小澤 明先生
12月6日	インフルエンザ流行時における発熱性疾患の見方	関東労災病院総合内科 副部長 岡 秀昭先生
1月17日	認知症の鑑別診断と治療について	横浜市立大学附属市民総合医療センター 精神医療センター 部長 小田原俊成先生
2月21日	「2型糖尿病のインスリン療法」強化療法と併用療法の新しい考え方	聖マリアンナ医科大学 代謝内分泌内科 教授 田中 逸先生
3月6日	実地臨床に於ける気管支喘息治療の考え方	北里大学医療衛生学部 臨床生理学 教授 片桐真人先生

～～～ 平成24年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月17日	成人喘息治療のポイント～SACRA調査が語るもの	横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター長 中村陽一先生
5月15日	NSAID起因性消化管障害と COX2 選択的阻害剤の果たす役割	日本医科大学 消化器内科学 教授 坂本長逸先生
6月19日	かかりつけ医に期待されるうつ病診療 ～イニシャルコンタクトから連携まで	藤田保健衛生大学医学部 精神神経科講座 教授 内藤 宏先生
7月17日	慢性腎臓病の治療戦略	横浜市立大学附属病院 血液センター部長 准教授 戸谷義幸先生
8月7日	認知症治療薬の新しい展開 ～ガランタミン使用経験を踏まえて	順天堂大学医学部 脳神経内科 教授 月舘部信孝先生
9月18日	当院における心臓治療戦略～鎌倉の心臓を護る	湘南鎌倉総合病院 循環器科 部長 高橋佐枝子先生
10月16日	酸分泌亢進時代の到来～現状の治療を考える	北里大学東病院 副院長 田辺 聡先生
11月20日	変わりつつある糖尿病の病態認識とそれに対応した治療戦略	群馬大学 生体調節研究所代謝シグナル研究 展開センター 教授 北村忠弘先生
12月18日	高血圧治療における併用療法の選択	横浜市立大学附属病院 腎臓高血圧内科 教授 押川 仁先生
1月22日	便秘の分類と治療について	横浜市立大学附属病院 臨床研修センター 講師 稲森正彦先生

2月14日	「日本における循環器疾患のエビデンス～二次予防から一次予防へ」	熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器内科 教授 小川久雄先生
3月5日	糖尿病の検査・治療の最新情報	横浜市立大学医学部 内分泌糖尿病内科学 助教授 青木一孝先生

～～～ 平成25年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月2日	インスリン治療に求められるものは？分かりやすい外来導入	帝京大学医学部 教授 山内俊一先生
5月7日	「高血圧治療のパラダイムシフト」～交感神経と食塩感受性の新展開～	熊本大学大学院 生命科学研究部 医学系生体機能薬理学 教授 光山勝慶先生
6月4日	「激変する日本社会・急増する高齢者のうつ病」～最新の治療法	横浜尾上町クリニック 院長 山田和夫先生
7月2日	「循環器疾患におけるEPA/AA比重測定の意義」	藤沢市民病院 循環器科 診療長 姫野秀明先生
8月6日	「認知症の治療～介護と薬物治療について」	NPO法人豊栄加齢研究所認知症パーキンソン 病疾患研究センター センター長 馬場康彦先生
9月3日	「糖尿病治療のパラダイムシフト～食後高血糖を是正するテネリアの可能性」	東京医科大学内科 第3講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 主任教授 小田原雅人先生
10月1日	「循環器疾患における降圧剤ベストチョイスとは」	横須賀市立うわまち病院 循環器内科 部長 岩澤孝昌先生
11月5日	「COPDと鑑別を含む気管支喘息の診断とその治療のコツ」	東京アレルギー呼吸器疾患研究所 日立横浜 病院アレルギー呼吸器内科 渡辺直人先生
12月3日	①「食後高血糖管理の重要性」 ②「脳血管・頸動脈病変の最新のマネージメント」	東海大学 腎内分泌代謝内科 講師 豊田雅夫先生 東海大学 脳神経外科学領域 教授 松前光紀先生
1月7日	CKDと腎代謝療法の現状	横浜南共済病院 腎臓内科 部長 三橋 洋先生
2月4日	心筋保護を考慮した降圧療法	昭和大学藤が丘病院循環器内科 教授 鈴木 洋先生
3月4日	2型糖尿病の動脈硬化の進展抑制をめざして	順天堂大学大学院 医学研究科 代謝内分泌 内科学 助教 三田智也先生

～～～ 平成26年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月1日	糖尿病治療における現状の課題と今後の展望～SGLT2阻害薬スーグラをどう使いこなすか	東京医科大学 内科第3講座 主任教授 小田原雅人先生
5月13日	重要性を増すプロトンポンプインヒビターの役割～アスピリン潰瘍の話題を中心に	横須賀共済病院 消化器病センター センター長 池田隆明先生

6月3日	高血圧治療ガイドライン2014の改定ポイント	北里大学医学部 循環器内科学 診療准教授 青山直善先生
7月1日	日本人に最適化した降圧療法のあり方を熟考する～重要臓器を刻印された日本人の記憶	川崎医科大学 腎臓・高血圧内科学 教授 柏原直樹先生
8月5日	B型肝炎とC型肝炎の治療について	湘南鎌倉総合病院 消化器病センター センター長 賀古 眞先生
9月2日	糖尿病治療の変化と最新の治療薬～具体的な患者指導のコツ	加藤内科クリニック 院長 加藤光敏先生
10月7日	喘息治療に求められる戦略とは？	昭和大学医学部 内科学講座 呼吸器・アレルギー内科学部門 教授 相良博典先生
11月4日	生活習慣病と睡眠障害	ハートクリニック 理事長 浅井逸郎先生
12月2日	要介護高齢者における心房細動治療の実際	湘南第一病院 副院長 長嶋道貴先生
1月13日	「関節リウマチupdate」診断から最新の薬物療法まで	順天堂大学附属浦安病院膠原病・リウマチ内科 専任准教授 森本真司先生
2月3日	「NOAC時代の抗凝固療法」エドキサバンの効能追加を受けて	日本医科大学 多摩永山病院 循環器内科学教授 新 博次先生
3月3日	心房細動と抗血栓療法	東京女子医科大学 循環器内科学 医学教育学 特任准教授 村崎かがり先生

～～～ 平成27年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月7日	プライマリケアで役立つCOPDの治療戦略	横浜市立大学 大学院研究科呼吸器病学 主任教授 金子 猛先生
5月12日	睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン～出口を見据えた不眠症治療に向けて～	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部 部長 三島和夫先生
6月2日	心腎血管関連を考慮した高血圧治療の勧め	北里大学 北里研究所病院救急科部長 循環器内科 副部長 島田 恵先生
7月7日	インスリン抵抗性とは何か？誤解されてきた糖尿病の病態の理解と食事・運動・薬物療法	順天堂大学大学院 代謝内分泌内科学・スポーツロジックセンター順天堂大学国際教養学部 准教授 田村好史先生
8月4日	最新の糖尿病治療戦略	横浜市立大学附属市民総合医療センター 内分泌・糖尿病内科 准教授 山川 正先生
9月1日	予防接種の最近の話題～インフルエンザ、水痘、成人対象肺炎球菌ワクチン及び予防接種の安全性の問題を中心に	帝京大学医学部付属溝口病院 小児科教授 渡辺 博先生
10月6日	日常診療に役立つ痛み・しびれの診かた（診断と治療）	横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合診療科 教授 長谷川修先生



11月10日	「糖尿病治療のパラダイムシフト」～腎保護から見た治療戦略	東京慈恵会医科大学附属柏病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 東條克能先生
12月1日	「過活動性膀胱の診断と治療」	横浜市立大学附属市民総合医療センター 泌尿器・腎移植科 准教授 上村博司先生
1月12日	B型肝炎・C型肝炎の治療	沖縄徳州会湘南鎌倉総合病院 消化器病センター部長 金原 猛先生
2月2日	アレルギー性鼻炎と神経～古くて新しい話～	東京大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科学教室 講師 近藤健二先生
3月1日	心血管イベント抑制を目指すリスクファクターの管理	北里大学医学部 循環器内科 主任教授 阿古潤哉先生

～～～ 平成28年度 鎌倉市医師会内科医会・学術講演会 ～～～

4月5日	吸入意義が伝わる本気のインフォームドコンセント	聖マリアンナ医科大学 横浜西部病院 呼吸器内科 部長 駒瀬裕子先生
5月10日	糖尿病合併症のトピックス	横浜栄共済病院 代謝内分泌内科 部長 山田昌代先生
6月7日	消化器疾患の診療・研究のネクストステージ ～ABC検診, ピロリ除菌・GERDの今とこれから	聖マリアンナ医科大学消化器・肝臓内科 准教授 山本博幸先生
7月5日	高尿酸血症の今後の展望	東京慈恵会医科大学名誉教授 慢性腎臓病態治療学 教授 細谷龍男先生
8月2日	EPA/DHAと生活習慣病～ $\omega$ 3系多価不飽和脂肪酸による脂質・免疫・炎症への影響～	東邦大学医療センター佐倉病院 糖尿病内分泌代謝センター 教授 龍野一郎先生
9月6日	いつから始める？ いつまで続ける？ 骨粗鬆症の治療 ～ガイドラインを理解した上での個別化治療の実際	東京慈恵会医科大学 整形外科講座 准教授 齋藤 充先生
10月4日	日常診療における骨粗鬆症治療	杏林大学医学部 整形外科 教授 市村正一先生
11月11日	最近の知見から考える急性・慢性腰痛治療法	一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 副院長 鎌田修博先生
12月6日	地域医療連携で治す心房細動	湘南鎌倉総合病院 循環器科 部長 村上正人先生
1月10日	虚血性心疾患治療の最新話題～高血圧治療も含めて～	湘南鎌倉総合病院 循環器科 部長 高橋佐枝子先生
2月7日	SGLT2阻害薬を用いた糖尿病治療の展望 ～ASSIGN-Kから見たもの～	聖マリアンナ医科大学臨床教授 (医) いどがやケンズクリニック 院長 川田剛裕先生
3月7日	高尿酸血症治療について	横浜栄共済病院 腎臓内科 部長 押川 仁先生

## ■藤沢市内科医会



会長 宮本 京

この度は、神奈川県内科医学会創立50周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。私共藤沢市内科医会も同じ頃発足し、当時の内科医会会長は神内医とも連絡を取りながら、これと並行して当医会の準備を進めるなど多忙を極めたと伺っております。諸先輩方のご努力で築かれた基盤を引き継ぎつつ、神内医がさらなる発展を遂げることを祈念しております。

### 【平成19年度】

当内科医会では、事業計画基本方針として、市民の健康増進および疾病に関する問題を調査、分析し積極的に地域社会に提言すべく努めるという項目が一つあります。高齢者の死因となり得る肺炎球菌性肺炎の予防は重要な課題です。平成19年の時点で、肺炎球菌ワクチン接種に対する自治体の公費助成は全国的にも多くなく、神奈川県内でも皆無でした。当医会は藤沢市医師会を介して、市に本ワクチン接種に対する要望書を提出し、これが公費助成のきっかけの一つとなったと自負しております。学術では、第20回藤沢市内科医学会（平成20年2月）の特別講演は東海大学八王子病院糖尿病・代謝・腎透析内科 准教授 但木 太先生による「東海大学八王子病院におけるCKD紹介システムについて」で、コメディカルの協力の重要性を謳った点、新鮮さを与えて頂きました。毎月行われる学術講演会では、CKD 1、脂質異常症 2、神経内科疾患 1、高血圧症 1、呼吸器疾患 1、うつ病 1 などでした。神奈川県内科医学会（神内医）表彰受賞者は石原宏尚先生でした。

### 【平成20年度】

平成21年2月に神内医第4地区幹事会が藤沢市で

行われ、地区（藤沢、平塚、小田原、茅ヶ崎、秦野伊勢原より8名）と県（中山会長含む8名）の間でそれぞれが取り組んでいる事業や学術面での整合性を確立できないかという議題でした。県の大講演会の地区での開催、県事業委員会委員長による各地区幹事会での事業内容の説明の必要性、県内科医学会の会員増加方法、日本内科学会と日本臨床内科医会との違い、地区で共通に取り組む連携の検討、県からの業務報告などが行われました。当医会では、病診連携に関連して、藤沢C型肝炎病診ネットワーク（藤沢C肝ネット）、藤沢喘息研究会、藤沢市民病院循環器科地域医療連携パスについての説明と参加の呼びかけが精力的に行われました。恒例の第21回藤沢市内科医学会（平成21年2月）での特別講演は、東海大学医学部神経内科 准教授 高橋裕秀先生による「パーキンソン病の診断と治療：その実際と具体的目標」で、大変分かり易く、実臨床に役立つお話でした。

毎月行われる学術講演会では、呼吸器疾患 1、不眠症 1、認知症 1、糖尿病 1、CKD 1、循環器疾患 1、肝疾患 1、泌尿器科疾患 1、脳卒中 1、高血圧症 2 でした。神内医表彰受賞者は常田康夫先生、宮本 京医師の2名でした。

### 【平成21年度】

平成21年度の重大な出来事は、世界的流行（パンデミック）を来した新型インフルエンザ（A/H1N1）の勃発であります。日本でも厚生労働省監督下で各郡市医師会へ感染拡大防止の指示が出されました。藤沢市内科医会でも早期から感染対策委員会を立ち上げ、種々意見をまとめ、藤沢市医師会の対策に沿った形での提言を行いました。発熱外来の設置、一般診療所の対応方法、サージカルマスクの着用、消毒方法などのリスクマネジメントに右往左往した年でした。第22回藤沢市内科医学会は平成22年2月に開催され、特別講演として国共連新小倉病院 診療部長 野村秀幸先生による「C型肝炎に対するインターフェロン治療の限界と適応」が講演され、好評のうちに終えることができました。毎月行

われる学術講演では、高血圧症2，糖尿病2，CKD1，脳卒中2，癌関連1，循環器疾患1，呼吸器疾患1でした。神内医表彰受賞者は関本健人，宮川千鶴子両先生でした。

#### 【平成22年度】

神奈川県内科医学会第4地区連絡会が開催されました。議題の一つに、神内医秋季学術総会には従来、すべて横浜市内科学会が行っていたが各地の持ち回りはどうかという意見が出、結果、第79回同総会は手挙げした藤沢市内科医会の当番が承認されました。11月に藤沢市内ホテルで開催し、特別講演2題、うち1題は聖マリアンナ医大 神経内科学 教授 長谷川泰弘先生による「高齢者の脳血管疾患」、もう1題は慈恵医大 循環器内科学 教授 吉村道博先生による「高齢者の心不全」でした。多くの参加者があり盛況でした。当医会では、毎年発行する藤沢市内科医学会雑誌が医学中央雑誌、国立国会図書館、独立行政法人 科学技術振興機構への収載を認められ、謂わば昇格した事は当幹事会の努力の賜物です。他に、病診、診診連携として、藤沢喘息研究会、藤沢C型肝炎病診ネットワーク、藤沢市民病院循環器科地域医療連携パスについて説明がなされました。第23回藤沢市内科医学会（平成23年2月）では、東京慈恵医大 糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 東條克能先生による「臓器保護を考慮した高血圧治療の新たな流れ～より良質な血圧管理を目指して～」というタイトルで特別講演が行われ、分かり易く好評でした。県表彰受賞者は姫野秀朗，西郡克郎の両先生でした。

平成23年3月11日には観測史上最大（M9）の東日本大震災が勃発しました。それに伴う津波や原子力発電所事故により広範囲の地域で壊滅的な打撃を受けました。同情の念を禁じ得ません。幹事会でも一刻でも早い回復を祈念いたしました。

#### 【平成23年度】

平成23年3月11日に勃発した凄絶な東日本大震災とそれに伴う津波や原子力発電所事故のショックを

誰もが引きずりつつ、一方では早期の復興を祈りながら、仕事に、医療に従事した年です。そんな中でも内科医会の業務としてはほぼ滞りなく遂行することができました。恒例の第24回藤沢市内科医学会は平成24年2月に行われ、特別講演で「アルツハイマー病治療の新たなステージと将来展望～メマンチン導入により我が国も国際標準化～」という演題が順天堂大学大学院 精神・行動科学 教授 新井平伊先生により解説されました。認知症に慣れるための良き講演でした。毎月の学術講演会では、循環器疾患1，糖尿病2，痛風1，認知症1，CKD1，不眠症1，泌尿器疾患1，脳卒中リハビリ1でした。

藤沢市医師会が市民公開講座推進事業に本腰を入れ始めたのもこの年でした。神内医表彰受賞者は西川正憲先生，山本紀章先生でした。

#### 【平成24年度】

平成24年度の大きな出来事は内科医会会長の神谷正見先生が、11月に日本医師会最高優功賞を受賞されたことです。先生が大学時代から興味を抱いていた脂質の研究を開業後も途切れることなく続け、20本以上の脂質関連論文を神奈川医学会雑誌や日本臨床内科医会誌に発表されたその著しい業績と公共への医療貢献に対して贈られました。藤沢市では昭和57年の小林芳寿先生，昭和61年の小島幸司先生に次いで3人目の功績であります。先生のこの受賞は私共藤沢市内科医会会員のみならず神奈川県医師会全会員の誇りでもあります。先生のこの受賞祝賀会は、平成25年1月に藤沢市内科医会，医師会の共催で盛大に行われました。神内医表彰者には山田峰彦先生，長谷 章先生が推薦され、受賞されました。学術面では、第25回藤沢市内科医学会は2月に行われ、特別講演として、鹿児島大学大学院 循環器・呼吸器・代謝内科学 教授 大石 充先生による「Vascular protectionのためのRAS系制御の重要性」が講演されました。24年度の学術講演は、呼吸器疾患1，肺高血圧症1，脂質2，循環器2，糖尿病3，CKD1，認知症1でした。その他、市民公開講座として、B型肝炎，C型肝炎に関するもの1

回などでした。

#### 【平成25年度】

平成25年5月の藤沢市内科医会定時総会において、長きにわたり当内科医会会長を務めてこられた神谷正見先生が勇退され、新会長に宮本 京医師が選出されました。本会は会則にあるように、会員の学識技能の向上と親睦、社会福祉への寄与を目的とし、この達成のために従来より遂行されている3本柱を踏襲していきます。即ち、藤沢市医師会事業への協力、藤沢市民病院、市内病院群との連携、神奈川県内科医学会等の各種学会への協力であります。新たに副会長に小池芳樹、小林邦芳両先生を選任し、また、幹事も増員して、職務分担の強化により業務の円滑化を図ることとしました。一方、医師会は4月に公益性と公共性を重んじるべく公益法人化しました。学術面では、第26回藤沢市内科医学会での特別講演は東海大学消化器内科 教授の峯徹哉先生による「HBVの再活性化の機序と臨床での問題点」で、明解に解説して頂き好評でした。県内科医学会表彰者に白木桃子、星野和彦両先生を推薦いたしました。11月には 神内医元肝炎対策委員長長の多羅尾和郎先生がその学問的業績と地域医療への多大な貢献度より日医最高優功賞を受賞されました。昨年の神谷正見先生の同賞受賞に連続しての受賞で、私共神奈川県医師会員全員の名誉でもあります。心よりお祝い申し上げます。

#### 【平成26年度】

この年の幹事会の話題の一つは薬品メーカーにおける治験データの捏造、COI問題でありました。そのため高血圧関連講演会の共催取り下げなどの問題も起こりました。以後、多くの講演会や学会発表ではCOI開示が義務付けられております。神内医との関係では、在宅医療検討委員会主催の市民公開講座が藤沢市で行われ、他職種間の連携が強調される意義深い講座でありました。神奈川県内科医学会表彰候補者として高岸 泰先生が推薦されました。恒例の第27回藤沢市内科医学会の特別講演は横浜南共済

病院 血液内科 部長の五味聖二先生による「骨髄異形成症候群」で同疾患の最近の治療の進歩がよく理解できました。平成26年度の学術講演会は循環器2、リハビリ1、糖尿病2、肝疾患2、認知症1、不眠症1、感染症1、片頭痛1でした。

#### 【平成27年度】

この年度は、医師会公益法人化に伴う財源補助を兼ねて、医師会館共同利用の奨励の方向で種々学術講演会や研究会などが本会館で行われるようになりました。講演会会場—ホテルのパターンを改めることは経費節減にも役立ちます。次に、地域完結型を推進されてきた在宅医療、看取りの構想ですが、藤沢市医師会では10グループに分かれているためグループ完結型はどうかなどの意見が出ており、検討されております。最低限、自分がかかりつけ医である患者さんの看取りを行うことが目標になっております。在宅専門診療所との接点をどこに求めるかなども問題となっております。どこの医会でも同じと思いますが、内科医会入会の条件をどのように設定するかが幹事会で協議されます。医療訴訟などが増えてきた昨今、内科を標榜する場合に責任ある医療の線引きはどこにするのかは大変難しい問題です。神内医関連では、禁煙指導マニュアル作成委員会(長谷 章先生主導)編の市販本が医師会より会員に配布されました。人事では小池芳樹先生が退任され、新しく山田峰彦先生が副会長になりました。また、当医会顧問の先生方の高齢化に伴い3名の新顧問として常田康夫、小池芳樹、西郡克郎各先生が決まりました。神内医表彰候補者には山口邦彦先生が推薦されました。第28回藤沢市内科医学会の特別講演は菊名記念病院 循環器センター長 本江純子先生による「虚血心疾患のリスク評価と最近の治療について」という演題名で大変分かり易く解説され好評でした。

#### 【平成28年度】

平成25年度藤沢市医師会公益法人化に伴い、内科医会主催の学術講演会、研究会、体験学習集談会な

どの講演料支払い方法などで制約がつくこととなり種々協議されました。また、当医会の主要事業の一つである藤沢市内科医学会雑誌の在り方について議論され、医師会との共同発刊の形をとることとなりました。これにより内科以外の領域からの論文掲載も円滑となり、総合雑誌的要素も加わることとなり全臨床医の知識の修得の一助となると期待されます。恒例の第29回藤沢市内科医学会（平成29年2月25日）では、特別講演として北里大学消化器内科学教授、小泉和三郎先生による「進行胃癌に対する化学療法の現状と展望」の講演があり、好評でした。その他、本年の定例学術講演会（ほぼ毎月）として、高血圧（関連）1、糖尿病1、腰痛1、循環器

疾患1、肝疾患2、消化管疾患1、腎疾患1、神経疾患1、認知症1、呼吸器疾患1と偏りなく行われました。

慶事として本年4月に、私共医会の顧問のお人である青木龍夫先生が永年の地域医療への貢献に対して「瑞宝双光章」の受勲の荣誉に浴され、その記念祝賀会が医師会主導で盛大に行われました。誠に喜ばしいことであります。更に特筆すべきは、本年11月に「藤沢市内科医会創立50周年記念式典」を予定しております。神奈川県内科医学会や郡市内科医会の先生方にはご指導、ご協力をお願いできれば幸いです。

## ■茅ヶ崎内科医会



会長 原 芳邦

### 茅ヶ崎内科医会直近10年の歩み

#### 【平成19年度】

会長 高橋 功

副会長 原 芳邦、加藤浩平

幹事 桑原徹男、小杉芳夫、小針貞男、  
小松田光真、笹井信夫、瀧井孝敏、  
原田一彦、丸山徳二、山岡博之

上記の役員構成、会員数61名で活動しました。

12回の学術講演会を開催しましたが、当年度の特徴として高齢社会、認知症に関連して、医学的側面だけでなく社会的問題に関しても成年後見人制度と診断書の書き方の講習会を開きました。又、動脈硬化症診療に関して初めて頸動脈エコーの実技指導を伴う講演会を開催しました。病診連携の一端とし

て、茅ヶ崎市立病院内科の各専門科と外科と症例検討会を4回開き、現場での体験を共有することでよりスムーズな連携の一助としました。

#### 【平成20年度】

会長 高橋 功

副会長 原 芳邦、加藤浩平

幹事 桑原徹男、小杉芳夫、小針貞男、  
小松田光真、笹井信夫、原田一彦、  
丸山徳二、山岡博之

上記の役員構成、会員数62名で活動しました。

例年通り12回の講演会を開催しましたが、当年度の特徴として、県内科医学会が積極的に推進していた禁煙活動、ジェネリック医薬品問題に関し、当医師会への普及を図るべく中山会長と講師をお招きして問題意識の浸透に努めました。4回の症例検討会を開きましたが、特に循環器、呼吸器で実際の症例を元に紹介のタイミング、仕方について議論を交わしました。特定健診が始まるにあたり、実務に関しての講習会を複数回開き、健診項目に関しても、議論を重ね、市の基本健診とするには追加項目が必要と市に申し入れ、血清クレアチニン、尿酸、心電図を実施できるようにしました。

#### 【平成21年度】

役員構成は前年度と変更無く、会員59名で活動しました。学術講演会は12回開催しましたが、話題として新型インフルエンザ流行に関連して、インフルエンザ、肺炎球菌性肺炎等呼吸器感染症のワクチンを含めた予防、治療、抗菌薬の使い方を複数回取り上げました。症例検討会は4回開催し、慢性腎臓病の病診連携等が話題となりました。又、特定健診後の保健指導に関して行政と連携して会員施設での動機付け支援、市主催の集団指導の講演等に協力する機会が増えました。これまで肺癌検診の二重読影会にはレントゲンフィルムのみ可能でしたが、会員診療所でレントゲン装置のデジタル化が普及し始めたことを踏まえ、高精細ディスプレイを導入し電子媒体での二重読影も可能としました。

#### 【平成22年度】

会長 高橋 功

副会長 原 芳邦, 加藤浩平

幹事 小杉芳夫, 小松田光真, 笹井信夫,

原田一彦, 丸山徳二, 山岡博之, 和田 栄  
上記の役員構成、会員数59名で活動しました。

学術講演会は例年通り12回開催しましたが、本年度は、心筋疾患、高血圧症、糖尿病、脳血管障害、COPD、GERD等外来で多く見るCommon Diseaseを中心に開きました。年度末に東北大震災、福島原発自事故があり、当地区も計画停電の対象地区となり、普段の診療がいかに電力に頼っているかを再認識させられました。会員間で情報交換し、停電対策を整える機会ともなりました。4回開かれた症例検討会も、慢性腎臓病、心筋梗塞、胆石症、C型肝炎と日常多く見る疾患の多彩な症状が話題となりました。

#### 【平成23年度】

会長 高橋 功

副会長 原 芳邦, 加藤浩平

幹事 小杉芳夫, 小松田光真, 笹井信夫,

原田一彦, 丸山徳二, 山岡博之, 和田 栄  
上記の役員構成、会員数61名で活動しました。

子宮頸癌、サプリメント、排尿障害、開業医に必要な救急処置、うつ病等内科以外の分野でも日常診

療の中で相談されたり対応しなければならない機会の多いトピックを本年度の学術講演会で取り上げました。症例検討会では、市立病院内科で新たに開設されたリウマチ内科の紹介や、病院内での新薬の使用方針等につき解説がありました。

#### 【平成24年度】

会長 高橋 功

副会長 原 芳邦, 加藤浩平

幹事 小杉芳夫, 小松田光真, 笹井信夫,

原田一彦, 丸山徳二, 山岡博之, 和田 栄,  
大野俊幸, 三上秀明

上記の役員構成、会員数62名で活動しました。医師会理事の改選期に当り内科医会から大野、三上の2名を推薦し、両名が幹事に加わりました。学術講演会では、東海大学との初めての連携で、「Total Vascular Management」のテーマで動脈硬化性病変に関わる、脳神経外科、神経内科、循環器内科の各科から実践的なリスク管理、予防、治療をまとめて学ぶ機会を持ちました。その他、認知症、うつ等社会的問題となっている話題をとりあげました。症例検討会では、会員から呼吸器内科へ紹介した多数の単純胸部XPを元に、読影、その後の精査、治療、経過の供覧が好評でした。市内の総合病院の市外移転に伴い、今まで休日のみ医師会が市からの委託で運営してきた茅ヶ崎市休日診療所を平日夜間にも開くことになり内科医会もその計画、運営に大きく貢献しました。又、会長の高橋功が平成24年度日本臨床内科医会総会で「地域医療功労者」として表彰され、当地区内科医会の励みとなりました。

#### 【平成25年度】

役員構成は前年度と変更無く、会員59名で活動しました。この数年で糖尿病治療での新薬があいついで発売されたり、心房細動時の脳梗塞予防での新凝固薬(DOAC)が発売されたりと、内科診療で治療選択のパラダイムシフトが起きつつあることを反映し、学術講演会でも複数回取り上げました。症例検討会では、「最新の肺癌治療」、「好酸球性肺炎の心筋炎合併症例報告」、「院外心肺停止で発見され低体温療法により社会復帰に成功した肥大型心筋症の一

例]、「悪性胃十二指腸狭窄に対する内視鏡的ステント留置術」,「高血圧加療中に腎障害,心電図異常を認めた一例」,「肉眼的血尿を認め,急性進行性糸球体腎炎が疑われた一例」等各科から詳細な解説を頂きました。

#### 【平成26年度】

会 長 原 芳 邦

副会長 加藤浩平, 笹井信夫, 小松田光真

幹 事 丸山徳二, 山岡博之, 原田一彦, 和田 栄,  
大野俊幸, 三上秀明, 大木教久

監 事 高橋 功, 小杉芳夫

会長が高橋功から原芳邦に交代しました。役員構成に監事を加え会運営の適正化を図りました。C型肝炎治療の画期的な経口治療薬が発売され,当地区にも豊富な経験を持った施設があり,学術講演会で早速最新の状況を聞くことができました。新凝固薬(DOAC)が急速に普及し,一般内科医でも非常に患者数の多い心房細動の管理がやり易くなったことを受け,病院での管理から開業医での管理への流れをサポートする為,複数回の講演会,症例検討会を開き病診連携の促進に努めました。症例検討会では,外科治療を必要としたアニサキス症の多くの症例提示があり,海を持つ市の特性を実感しました。

#### 【平成27年度】

会 長 原 芳 邦

副会長 加藤浩平, 笹井信夫, 小松田光真

幹 事 丸山徳二, 山岡博之, 佐久間徹, 和田 栄,  
大野俊幸, 三上秀明, 大木教久

監 事 高橋 功, 小杉芳夫

上記の役員構成,会員数67名で活動しました。糖尿病治療の新薬がそろい臨床経験も豊富になってき

たところで,これからの糖尿病治療を整理する為複数回の学術講演会を開きました。認知症分野では,アルツハイマー型と並んで例数の多いレビー小体型認知症の知識を広める機会を持ちました。症例検討会では,喘息・COPDの吸入治療指導の課題,糖代謝異常から発見された膵臓癌,救急治療を要した高Ca血症等多分野で実症例を題材に学習しました。講演会の記録は,特に著作権等問題の無いものは,許可を受けた上で,リニューアルした医師会ホームページの会員専用ページにデジタル保存し再学習を可能として生涯教育の一助としました。

#### 【平成28年度】

会 長 原 芳 邦

副会長 加藤浩平, 笹井信夫, 小松田光真

幹 事 丸山徳二, 山岡博之, 佐久間徹, 和田 栄,  
大野俊幸, 三上秀明, 大木教久

監 事 高橋 功, 小杉芳夫

上記の役員構成,会員数68名で活動しました。当地区も高齢化が進み,学術講演会も認知症,在宅医療,尊厳死と医療だけでなく社会的課題を多く取り上げました。県医師会の「在宅医療地域ICTシステム構築モデル事業」の実施地域として茅ヶ崎医師会が受託し「茅ヶ崎寒川地域ICTシステム構築モデル事業」が開始されました。当初は診療所,病院での利用に限られますが,将来的には他の医療関連業種も含めた上での連携に使われてこそ価値のあるシステムとなるもので,最初の段階での失敗は許されず,内科医会役員・会員が委員として中心的な役割を担って船出しました。今後の内科医会活動も診診連携,病診連携,他業種との連携を含め,社会的課題に関わるものが増えてくるものと思われま

## ■平塚市医師会内科部会



会長 佐藤 和義

平塚市内科部会は昭和43年に結成され半世紀を迎えようとしております。現在の会員数は診療所会員76名、病院会員81名で合計157名に成ります。そのうち53名が県内科医学学会に加入しております。この間会長も初代会長の松岡直義先生、矢嶋良一先生、那須義篤先生、梶原光令先生、高橋克孝先生、高山秀明先生と引き継がれ平成26年に7代目会長として私とその責務を引き継ぎました。既に内科部会の体制や事業活動は前任のそれぞれの会長の努力で出来上がっておりました。従って、特に会長が私に変わっても順調に発展していると自負しております。しかし、今後さらに飛躍していくためには内科部会の新しい会員をいかに増やしていけるかが一番大切と考えております。そこで今後も多くの先生に入って頂けるようよう魅力ある部会にする努力を続けていこうと考えております。

会長

梶原光令（平成10年～平成21年）

高橋克孝（平成22年）

高山秀明（平成23～平成25年）

佐藤和義（平成26年～）

事業報告

【平成19年度】

総会・特別講演会

- ①「脳卒中の予防」 長谷川泰弘先生
- ②「摂食・嚥下障害」「脳卒中後肺炎」  
花山耕三先生・篠原幸人先生
- ③「米国と日本の低侵襲前立腺肥大症手術の現状」  
加藤 忍先生
- ④「コレステロール吸収制御の重要性と今後の展望」 山下静也先生

- ⑤「JIKEI HEART Studyから得られたARBの有  
用性」 清水光行先生
- ⑥「アルドステロンブロックの臨床的意義」  
伊藤 裕先生
- ⑦「第3世代カルシウム拮抗薬を臨床でどう使う」  
伊藤 浩先生

循環器研究会

- ①「症例検討」 興味ある症例を中心に  
松原 隆先生
- ②「不整脈の非薬物治療」 出口喜昭先生
- ③「急性心筋梗塞の合併症」 梅澤滋男先生
- ④「狭心症における心電図ST変化」  
田辺晃久先生
- ⑤「P, QRS, QT波の異常と各種病態における  
鑑別」 田辺晃久先生

消化器研究会

- ①「NASHの診断と治療」 中澤貴秀先生
- ②「当院における小腸疾患の現況」  
鈴木孝良先生

胸部疾患研究会

- ①「臨床医家及び一般病院における急性肺梗塞症  
の診断と管理」 丹羽明博先生

生活習慣病研究会

- ①「2型糖尿病の治療戦略」 佐藤 忍先生
- ②「糖尿病治療の新たな戦略」 山内俊一先生
- ③「糖尿病性腎症アンケート結果  
これからの糖尿病性腎症を考える」  
町村英郎先生・鈴木大輔先生
- ④「血管を標的とした高脂血症診療」  
市原淳弘先生
- ⑤「インスリン治療戦略について」  
鈴木大輔先生

- ⑥「インスリン導入の実際」「インスリン治療」  
佐々木誠一先生・木村守次先生・町村英郎先生

在宅医療研究会

- ①「高齢者の口腔ケア」  
「在宅での摂食・嚥下リハビリテーション」  
太田嘉英先生・花山耕三先生
- ②「認知症治療のup to date」 吉井文均先生



- ③「褥瘡治療最前線」 真田弘美先生
- ④「介護予防給付について」 荒井 潔先生
- ⑤「4月施行の医療制度改革と診療報酬改定の影響と対応」 山村十吉先生

【平成20年度】

総会・特別講演会

- ①「ジェネリック薬品の現状を正しく知ろう」  
中山脩郎先生・柳川忠二先生
- ②「これからのCKD診療」 山縣邦弘先生
- ③「COPD治療の最新の話」 一之瀬正和先生
- ④「慢性腎臓病の包括的対策とその意義」  
佐藤武夫先生
- ⑤「循環器疾患とアルドステロン」  
吉村道博先生
- ⑥「高血圧治療の新しい展開」 藤田敏郎先生
- ⑦「神奈川県西部脳卒中地域連携パスの紹介」  
城倉 健先生・今西剛史先生
- ⑧「循環予防医学から見たARBの役割」  
鈴木 亨先生
- ⑨「ARBとFruitful Aging」 堀内正嗣先生
- ⑩「心房細動のアップストリームの治療」  
熊谷浩一郎先生
- ⑪「虚血性心疾患のトータルマネジメント」  
山崎 力先生
- ⑫「認知症の診断と治療他」  
吉井文均先生・大野史郎先生

循環器研究会

- ①「失神患者の診かた」 松原 隆先生
- ②「上室性不整脈における最近の治療」  
田辺晃久先生
- ③「当院で行っている心臓リハビリテーションの紹介」 梅澤滋男先生
- ④「生命を脅かす心室性不整脈の見方とその治療」  
田辺晃久先生
- ⑤「デバイス治療 ペースメーカーからCRTまで」 矢田浩崇先生
- ⑥「高血圧治療2009を中心に」 田辺晃久先生

消化器研究会

- ①「ウイルス性肝炎治療の変遷と今後の展望」  
齋藤英風先生
- ②「アスピリンによる消化器障害」 中島 淳先生

胸部疾患研究会

- ①「気管支喘息のマネジメント」 片桐真人先生
- 生活習慣病研究会
- ①「血管保護を考慮した高血圧治療」  
下澤達雄先生
  - ②「糖尿病治療の新たな位置付け」  
齋藤達也先生・高田一太郎先生・佐々木誠一先生
  - ③「生活習慣病と睡眠時無呼吸症候群」  
阿部 直先生

在宅医療研究会

- ①「内科系外来診療と在宅医療の効率よい診療報酬の選択」 吉田いずみ先生
- ②「非癌患者のターミナルケア」  
平原左主司先生
- ③「アドバンストスキンケアの実践」  
真田弘美先生
- ④「在宅でのターミナルケア」 小澤竹俊先生

保険診療研究会

- ①「診療報酬に対する対応及び問題点」  
松原喜代吉先生

【平成21年度】

総会・特別講演会

- ①「県禁煙条例とタバコの害の正しい知識」  
中山脩郎先生

「禁煙医療の実際」 長谷 章先生

- ②「酸関連疾患のスペクトラムの広がり最適な治療戦略」 永原章仁先生

「成人喘息治療の実際」 美濃口健治先生

- ③「高血圧治療の新たな展開と配合剤の意義」  
光山勝慶先生

- ④「メタボリックドミノ医療の展望」

伊藤 裕先生

- ⑤「コレステロール吸収制御の意義と展望」  
寺内康夫先生

- ⑥「ここまでわかってきた最新のメタボリックシ

ンドロームとその治療」 鈴木洋通先生

⑦「患者に優しい降圧治療」 下澤達雄先生

⑧「2型糖尿病治療」 倉田達明先生

「2型糖尿病治療の新しいStrategy」

麻生好正先生

#### 循環器研究会

①「西湘地区の心臓血管外科を考える」

高橋政夫先生

②「心房細動患者の脳梗塞発症リスク評価とその予防」 田辺晃久先生

③「虚血性心疾患と糖尿病そして病診連携」

梅澤滋男先生

④「日常臨床における心電図異常

不整脈の判断と指導について」 田辺晃久先生

⑤「冠動脈ステント植え込みと抗血小板剤について」 柴田 勝先生

⑥「重粒子線放射線による致死的心室性不整脈に対するノンインバイシブ治療をめざして」

田辺晃久先生

#### 胸部疾患研究会

①「医師と患者のニーズを同時に満たすICS/LABA配合剤の実際」 田村 弦先生

②「喘息に潜むCOPDの判断と治療」

翼浩一郎先生

#### 消化器疾患研究会

①「炎症性腸疾患の診断と治療」 小林清典先生

②「食道癌治療を考える」 幕内博康先生

#### 生活習慣病研究会

①「最近の大規模臨床試験を実地診療に活かす」 植木浩二郎先生

②「糖尿病腎症を考える会」 鈴木大輔先生

③「神奈川県における脳卒中連携の現状とこれから」 山下俊紀先生

「脳梗塞後の慢性めまい」 城倉 健先生

#### 在宅医療研究会

①「褥瘡対策最前線2009」 真田弘美先生

②「チームで支える在宅緩和ケア」

角田直枝先生

③「訪問歯科深慮あれこれ」 増井峰夫先生

④「茅ヶ崎市の在宅医療の現状と取組」

大木教久先生

⑤「第8回主治医と介護サービス提供者の交流会」

医療機関とスムーズな連携のとれた事例

#### 保険診療

①「民主党政権下における保険診療の展望と医療経営」 小林良治先生

#### 認知症

①「アルツハイマー型認知症の診療実践 高度ADやBPSDへの対応を含めて」

繁田雅弘先生

②「在宅医療における認知症患者への対応」

河野和彦先生

#### 【平成22年度】

#### 総会・特別講演会

①「心不全の治療」 磯部光章先生

②「日本人の冠動脈疾患診療の現状」

小川洋司先生

③「エゼチミブの脂質代謝改善作用」

池脇克則先生

④「PAD治療の最前線」 藤村直樹先生

⑤「不整脈診療体制と治療について」

永田恭敏先生

⑥「脂質に対する最近の考え方」 濱崎智仁先生

⑦「ガイドラインを踏まえた最近の喘息治療」

小林一郎先生

⑧「高血圧治療の理論と実際」 荒川規短先生

⑨「RA系抑制による高血圧治療の新たな展開」

市原淳弘先生

⑩「前立腺肥大症と過活動膀胱」 加藤 忍先生

⑪「喘息治療の新展開」 放生雅章先生

⑫「心房細動治療に対する現在の考え方」

青沼和隆先生

⑬「世界的潮流からみた最適な抗ヒスタミン薬選択」 谷内一彦先生

⑭「CGMからみた糖尿病治療戦略」 森 豊先生

⑮「アレルギー性鼻炎の最新の治療」

飯田政弘先生

循環器研究会

- ①「心房細動の治療」 永田恭敏先生
- ②「ホルター心電図記録中の突然死」  
田辺晃久先生
- ③「血管外科の行う低侵襲治療」 藤村直樹先生
- ④「頸動脈狭窄について」 伊刈裕二先生
- ⑤「動脈硬化疾患とその治療」 大西祐子先生

消化器研究会

- ①「早期胃癌の内視鏡診断のコツ」  
小野里康博先生
- ②「胃癌の化学療法について」 小泉和三郎先生

在宅医療研究会

- ①「緩和ケア入門」 山田陽介先生
- ②「褥瘡対策最前線2010」 真田弘美先生
- ③「平塚市民病院の病院運営計画と地域医療連携  
の取り組みについて」 別所 隆先生
- ④「主治医と介護サービス」 提供者の交流
- ⑤「在宅緩和ケア」 永山 淳先生

保険診療研究会

- ①「H22年度診療報酬改定の要点と医療軽視の展  
望」 細谷邦夫先生

認知症研究会

- ①「認知症疾患医療センターの現状と今後の展望」  
吉井文均先生
- 「認知症における成年後見制度」 新井 誠先生

【平成23年度】

総会・特別講演会

- ①「睡眠時無呼吸症候群診療のポイント」  
高崎雄司先生
- ②「塩分感受性高血圧」 木村玄次郎先生
- ③「理想的な血糖コントロールに向けたDPP-4阻  
害薬の役割とその可能性」 寺内康夫先生
- ④「後期高齢者にふさわしい降圧療法」  
秋下雅弘先生
- ⑤「動脈硬化の新たな治療戦略」 倉田達明先生
- ⑥「睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患」  
弓野大先生
- ⑦「DPP-4阻害薬を中心に据えたこれからの2型

糖尿病外来治療」 石原寿光先生

- ⑧「前立腺肥大症と過活動膀胱の診断と治療につ  
いて」 宇田川幸一先生
- ⑨「アレルギー性鼻炎の最新の治療」  
飯田政弘先生
- ⑩「骨粗鬆症の病態と治療」 武内典夫先生

循環器研究会

- ①「脂質異常症治療の変遷と現状」  
椎名 豊先生
- ②「心房細動の薬物治療」 田辺晃久先生
- ③「動脈硬化症に対するインターベンション治療」  
伊刈裕二先生

消化器研究会

- ①「膵疾患の治療に対する新たなアプローチ」  
伊藤鉄英先生

胸部疾患研究会

- ①「中高年におけるCOPDの併発とその管理」  
西川正憲先生

生活習慣病研究会

- ①「実臨床から考えるこれからの糖尿病治療」  
鈴木大輔先生

在宅医療研究会

- ①「癌緩和ケアの実際」 山田陽介先生
- ②「病診連携と在宅医に期待される役割」  
中川基人先生
- ③「アドバンストスキンケア2011年  
糖尿病足病変予防の最前線」 真田弘美先生
- ④「みんなで考えよう高齢者の摂食嚥下」  
芳賀 定先生・荻野友美恵先生・江頭文江先生

保険診療研究会

- ①「消費税率10%時代における診療所経営」  
小林良治先生

脳卒中及び認知症研究会

- ①「日常診療における認知症薬物療法の新たな選  
択肢」 中村 祐先生

【平成24年度】

総会・特別講演会

- ①「酸分泌亢進時代の到来」 池田隆明先生

- ②「脳血管保護を考慮した高血圧治療戦略」  
瀧澤俊也先生
- ③「骨粗鬆症治療薬の選択肢」 宮本健史先生
- ④「高血圧治療を究める」 柏原直樹先生
- ⑤「実践的なCKD診療連携」 安田宣成先生
- ⑥「2型糖尿病合併脂質異常症患者の治療戦略」  
山川 正先生
- ⑦「過活動膀胱の治療戦略」 宮北英司先生
- ⑧「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012」  
寺本民生先生
- ⑨「過活動膀胱の治療戦略」 宮北英司先生
- ⑩「動脈硬化と心筋梗塞症」 伊刈裕二先生  
「危険因子を視野に入れた脳梗塞治療戦略」  
瀧澤俊也先生  
「頸動脈狭窄のmanagement」 反町隆俊先生
- ⑪「慢性心不全に対する治療戦略」  
筒井裕之先生
- ⑫「心不全治療における利尿薬の立ち位置」  
佐野元昭先生
- ⑬「日常診療に潜む虚血性心疾患」  
清岡崇彦先生
- 循環器研究会
- ①「脳梗塞の突然死予防には実地医家の視点が重要」 丹羽昭博先生
- ②「抗凝固療法の歴史と今後の展望」  
後藤伸哉先生
- ③「尿中アルブミンからCKDを考える会」  
木村健二郎先生・安田 隆先生
- ④「ホルター心電図の進歩」 田辺晃久先生
- ⑤「インターベション治療の進歩」  
伊刈裕二先生
- ⑥「高齢AS患者管理におけるPTAVの臨床的効果と役割」 坂田芳人先生
- 消化器研究会
- ①「慢性肝疾患診療の最新のガイドライン」  
渡邊真彰先生
- ②「ESDによる大腸腫瘍の内視鏡治療」  
矢作直久先生
- ③「腸内細菌の解析から見た大腸発癌予防」  
大原正志先生  
胸部疾患研究会
- ①「インフルエンザ感染の重症化機序と予防と最新治療」 木戸 博先生
- 生活習慣病研究会
- ①「血管を守るための糖尿病治療ストラテジー」  
野見山崇先生
- ②「持続血糖モニタを用いた糖尿病管理」  
西村理明先生
- ③「DPP-4阻害薬の最新の話」 柴 男先生
- 在宅医療研究会
- ①「がん緩和ケアの基本」 山田陽介先生
- ②「アドバンスドスキンケア  
創傷ケア2012」 真田弘美先生
- ③「地域連携における療養病院と回復期リハビリテーションの役割」 鈴木勇三先生
- 保険診療研究会
- ①「診療報酬改訂の要点と診療所経営の展望」  
細谷邦夫先生
- 脳卒中及び認知症研究会
- ①「認知症に対する平塚市医師会会員の取組」  
久保田毅先生・内門大丈先生
- 【平成25年度】
- 総会・特別講演会
- ①「プライマリ・ケア診療における不眠治療」  
高江洲義和先生
- ②「糖尿病治療におけるインクレチン関連薬の位置づけ」 豊田雅夫先生
- ③「平塚市民病院泌尿器科 前立腺センター設立と医療連携について」 堀場優樹先生
- ④「過活動膀胱に対する治療戦略」  
宮北英司先生
- ⑤「高血圧に合併する心房細動治療について」  
吉岡公一郎先生
- ⑥「循環器医が考える糖尿病患者の心血管イベント抑制術」 小嶋正義先生
- ⑦「内科医による内科医のための骨粗鬆症治療戦略」 田中郁子先生

循環器研究会

- ①「心房細動患者の脳を守る」 長谷川泰弘先生
- ②「肺動脈高血圧症について」 吉岡光一郎先生
- ③「家庭血圧管理の重要性」 斉藤郁夫先生
- ④「心房細動の診かたと血栓塞栓症予防」  
田邊晃久先生
- ⑤「冠動脈疾患の二次予防」 伊刈裕二先生

消化器研究会

- ①「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に対する除菌治療の保険適応の意義」 高木敦司先生
- ②「もし大学病院の外科医がドラッカーのマネジメントを読んだら」 海道利実先生

胸部疾患研究会

- ①「これからの喘息治療」 浅野浩一郎先生
- ②「COPDの薬物治療」 加藤元一先生
- ③「気管支喘息の病態」 川田 博先生

生活習慣病研究会

- ①「糖尿病治療の実践」 鈴木大輔先生
- ②「甲状腺診療のポイントと最近の知見」  
赤水尚史先生
- ③「高尿酸血症・痛風の治療ガイドラインと診療のポイント」 梅園朋也先生
- ④「スタチン残余リスクとしての不飽和脂肪酸の有用性」 天野哲也先生
- ⑤「1型糖尿病の病期に応じた指導法」  
黒田暁生先生

在宅医療研究会

- ①「症状コントロールの実際」 山田陽介先生
- ②「高齢者の脆弱皮膚へのスキンケア」  
真田弘美先生

脳卒中及び認知症研究会

- ①「認知症の理解と鑑別判断」 井関栄三先生
- ②「かかりつけ医と認知症疾患医療センターの医療連携で取り組む認知症の予防と治療」  
太田晃一先生

【平成26年度】

総会・特別講演会

- ①「心房細動への挑戦」 熊谷浩一郎先生

- ②「全身動脈硬化性疾患と脂質管理」  
吉町文暢先生
- ③「名医が知るCOPD治療のTORCH」  
寺本信嗣先生
- ④「PCIの温故知新」 桃原哲也先生
- ⑤「新規抗凝固薬の良さを活かす方法」  
奥山裕司先生

- ⑥「心血管病予防のための包括的脂質管理」  
東條美奈子先生

- ⑦「交感神経と食塩感受性を考慮した降圧治療」  
下澤達雄先生

- ⑧「タビガトランの最新情報と安全な使用法」  
小林義典先生

- ⑨「抗凝固療法の新しい選択肢」 清水 渉先生  
「静脈血栓塞栓症の新しい抗凝固療法」  
中村真潮先生

- ⑩「重症喘息とは何か－病型と定義－」  
浅野浩一郎先生

- ⑪「最近のエビデンスから説く積極的脂質低下療法の意義」 秦 光賢先生

循環器研究会

- ①「大動脈疾患の診断と治療」 長 泰則先生
- ②「心房細動の発生要因と治療の考え方」  
田邊晃久先生
- ③「ST上昇型急性心筋梗塞の治療の進歩」  
伊刈裕二先生

消化器研究会

- ①「肝発癌予防を見据えた肝疾患治療」  
坂口 隆先生
- ②「こんなこともできます! IVR-CT320列MDCT」  
井上政則先生

- ③「咽頭食道癌の内視鏡診断と治療」  
堅田親利先生

生活習慣病研究会

- ①「糖尿病治療の現状と課題」 松葉育郎先生
- ②「これまでとこれからの糖尿病治療」  
鈴木大輔先生

- ③「新規糖尿病薬への期待」 山田 悟先生

在宅医療研究会

- ①「褥瘡対策最前線2014」 真田弘美先生  
 保険診療研究会  
 ①「地域包括ケアシステムにおける診療所の役割」  
 長面川さより先生  
 脳卒中及び認知症研究会  
 ①「パーキンソン病治療をめぐる最近の話題」  
 吉井文均先生  
 ②「レビー小体型認知症の臨床」 井関栄三先生

【平成27年度】

総会・特別講演会

- ①「多発性のう胞腎（ADPKD）の病態と新しい治療」 望月俊雄先生  
 ②「当院における不整脈治療について」  
 樋口晃司先生  
 「心房細動薬物治療ガイドライン」  
 三田村秀雄先生  
 ③「胃食道逆流症の診察における新たな視点」  
 鈴木秀和先生  
 ④「薬剤溶出ステント留置後の抗血小板治療のトレンド」 中澤 学先生  
 ⑤「ロコモティブシンドローム対策としての慢性疼痛治療」 住谷昌彦先生  
 ⑥「機能性ディスペプシアの診断と治療」  
 山本博幸先生  
 ⑦「最新の糖尿病治療対策」 倉田達明先生  
 ⑧「冠動脈病変における血管内画像診断」  
 田中重光先生  
 「コレステロール代謝と冠動脈動脈硬化病変との関連」 羽原真人先生  
 ⑨「めまい治療の手札が増える」 新井基洋先生  
 ⑩「骨粗鬆症治療の病診連携について」  
 武内典夫先生  
 「骨密度を越えた骨折リスクアセスメント」  
 井上大輔先生  
 ⑪「NOACはこう使う」 鈴木 篤先生  
 「実例とデータに基づく抗凝固療法に関する適正診療」 桑原博道先生  
 ⑫「慢性便秘症の診断と診療を考える」

- 田邊 聰先生  
 ⑫「CKD患者をどう診るか」 中元秀友先生  
 ⑬「静脈血栓症の新たな展開」 近藤克洋先生  
 循環器研究会  
 ①「頸動脈狭窄症の診かた」 伊刈裕二先生  
 ②「当院における心房細動治療」 鈴木 篤先生  
 消化器研究会  
 ①「大和市における胃癌内視鏡検診」  
 武藤信美先生  
 ②「平塚市民病院外科での腹腔鏡手術の現況」  
 山本聖一郎先生  
 生活習慣病研究会  
 ①「糖尿病克服宣言」 鈴木吉彦先生  
 ②「糖尿病の運動療法」 東 宏一郎先生  
 在宅医療研究会  
 ①「これって疥癬」 増田智栄子先生  
 「最新褥瘡対策2015」 真田弘美先生  
 保険診療研究会  
 ①「最近の医療行政動向 次回改定の方向性」  
 久野慶子先生  
 脳卒中及び認知症研究会  
 ①「脳卒中診療のフロントライン「脳卒中治療ガイド2015」」 富本秀和先生

【平成28年度】

総会・特別講演会

- ①「C型肝炎の最新の知見」 市田隆文先生  
 ②「女子過活動膀胱患者さんの真の姿について」  
 森慎太郎先生  
 ③「C型肝炎の病診連携治療とは」  
 坂口 隆先生  
 ④「心腎連関制御の研究・臨床と高尿酸血症」  
 田村功一先生  
 ⑤「逆流性食道炎にならないための食事」  
 香川哲也先生  
 「患者アンケートに見る、ジェネリックへの意識」 倉田康久先生  
 「消化器疾患のゲノム研究・診療の最前線」  
 山本博幸先生

⑥「認知症の早期診断から看取りまで」

内門大丈先生  
「高齢者のフレイルに対応した糖尿病治療」  
鈴木 亮先生

⑦「オレキシン受容体拮抗薬の心臓自律神経系への影響」 吉岡公一朗先生

「安易な睡眠薬投与がもたらすもの」  
上條吉人先生

⑧「重症大動脈弁狭窄症に対する新たな治療選択肢」 大野洋平先生

循環器研究会

①「見逃してはいけない不整脈の特徴」

樋口晃司先生  
「VTE診療の適正化にむけて」 山本 剛先生

②「冠攣縮性狭心症の診断と治療」

伊刈裕二先生

③「冠動脈疾患のトピック」 足利貴志先生

④「神奈川県における高血圧臨床断面調査」

佐藤和義先生  
「腎保護を考慮した高血圧治療のポイント」  
深水 圭先生

消化器研究会

①「自然退縮を認めた進行膵癌の一例」

川村允力  
「膵疾患の診断」 今泉 弘先生

②「明らかにされたNSAID起因性消化管障害」

藤森俊二先生

③「スタテルフィートの関連が示唆された高CA19-9血症の一例」 河上和輝先生

「IBD診療最新の話」 小林 拓先生

胸部疾患研究会

①「平成27年度肺癌検診症例検討会」

神 靖人先生

②「在宅における多面的包括的COPD呼吸ケア」

武知由佳子先生  
「COPD治療の新たな展開」 桑平一朗先生

生活習慣病研究会

①「2型糖尿病薬物治療のパラダイムシフト」

目黒 周先生

②「インスリン抵抗性と2型糖尿病」

倉田達明先生  
「最新の2型糖尿病薬物療法とは」  
北風政史先生

在宅医療研究会

①「最近の課題と地域連携について」

山田陽介先生  
「平塚市の緩和ケアチームの取り組み」  
赤津知孝先生・小林亜紀子先生

②「在宅医療と病院での医療は良きパートナーとなり得るか」 中川基人先生

「地域連携・退院支援について」  
佐藤和枝先生・秋元恵津子先生・日向美枝子先生

③「白癬治療の基礎」 生駒憲広先生

「最新褥瘡対策2016」 真田弘美先生

④「『認知症診療』と『他職種連携』」

吉澤利弘先生

保険診療研究会

①「算定漏れしがちな診療報酬に御注意です」

長面川さより先生

脳卒中及び認知症研究会

①「生活習慣病の厳格管理で認知症を予防」

長田 乾先生

今後も内科部会として医療向上に努め地域の患者さんに良い医療が提供出来るように積極的に取り組んでいきたいと考えております。御協力を宜しく御願い致します。

平成29年度の役員は、以下のように決定しました。

会長 佐藤和義

副会長 浜野 均（脳卒中及び認知症研究会担当）

坪井秀夫（会計・消化器研究会担当）

町村英郎（総務担当・生活習慣病研究会担当）

幹事 山本省吾（循環器研究会担当）

三浦敏洋（消化器研究会担当）

上野善則（在宅医療研究会担当）

宮入 朗（胸部疾患研究会担当）

高田一太郎（生活週間病研究会担当）  
 久保田 毅（脳卒中及び認知症・保健診療研究会担当）  
 今福俊夫（病院幹事）  
 梅澤滋男（病院幹事）  
 野崎宏幸（病院幹事）  
 監事 小笠原 勳  
 岡村雅生  
 顧問 武川慶孝  
 梶原光令

高山秀明

また、県内科医学会の学術委員会には、以下の先生方に参加して頂いております。

糖尿病対策委員会：町村英郎  
 肝炎対策委員会：高山秀明  
 高血圧・腎疾患対策委員会：佐藤和義  
 呼吸器疾患対策委員会：宮入 朗  
 在宅医療委員会：久保田 毅  
 心臓血管病対策委員会：内田 泰

## ■中郡医師会内科医会



会長 齋藤 達也

中郡医師会会員の内科を標榜する医療機関では、主として大磯町、二宮町に在住の方たちの内科系疾患の診療は勿論、その他のあらゆる領域の疾患にかかった患者様の訴えの最初の受け皿としての役割を担うため、平素より研鑽を心がけてきました。そのためには、日々の臨床実践に役立つ知識と技術の習得だけではなく、日進月歩の医学の最先端の知識の習得も必要と考えています。しかし実際に内科医会に所属している会員数は少なく（中郡医師会内科医会4名）、内科医会の単独での活動はかなり厳しいのが現状です。そのため、中郡医師会の生涯教育・学術担当役員との協力のもと研修会・講演会を開催し、会員の知識・技術の習得に努めてきました。

また今日、地域の基幹病院とプライマリーケアを担う診療所との機能分担の重要性は明らかで、行政の施策もそれを推進してきましたが、まだまだ改善の余地は多々あるのが現状です。私たちプライマリーケアを担う医師には、地域の患者さんと基幹病院との良き橋渡しとしての役割があります。ですか

ら東海大学医学部附属大磯病院、平塚市民病院、平塚共済病院、済生会湘南平塚病院などの地域の基幹病院との間で病診連携を有効に進めるために、会員の医師とこれらの病院の当該疾患の専門医師との間での知識の共有や平素からの意志疎通も大切な課題と考えます。研修会・講演会では、積極的にこれらの基幹病院から専門の先生を講師としてお招きして、日常診療以外での交流の維持に努めてきました。

### 【平成19年度】

7月 「基本健診について」

中郡医師会 倉田 隆先生

12月 「糖尿病性腎症と高血圧」

東海大学医学部附属大磯病院 北村 眞先生

### 【平成20年度】

6月 「特定健診を考える」

高崎健康福祉大学 木村憲洋先生

10月 「慢性腎臓病の治療」

東海大学医学部附属大磯病院 北村 眞先生

### 【平成21年度】

10月 「糖尿病大血管障害の予防戦略」

埼玉医科大学 犬飼浩一先生

### 【平成22年度】

5月 「糖尿病と動脈硬化症」

京都府立医科大学 中村直登先生

### 【平成23年度】

12月 「糖尿病治療 私の処方箋」



東海大学医学部附属大磯病院 北村 真先生

【平成24年度】

平成24年4月18日

「最適なインスリン療法を目指して」

京都府立医科大学 内分泌・糖尿病・代謝内科  
福井道明先生

平成24年6月26日

「認知症診療をめぐる最近の話題」

東海大学医学部附属大磯病院 神経内科  
吉井文均先生

平成24年10月3日

「2型糖尿病合併脂質異常症患者の治療戦略」

横浜市大附属市民総合医療センター 内分泌・  
糖尿病内科 山川 正先生

平成24年10月15日

①「腎不全と高尿酸血症」

②「CKDガイドライン2012 ～最新の話題から～」

東海大学医学部附属大磯病院 腎糖内科  
後藤巨木先生・北村 真先生

平成24年12月10日

「DPP-4阻害薬の使い方」

東海大学医学部附属大磯病院 腎糖内科  
北村 真先生

平成25年3月19日

「診察室血圧と家庭血圧」

日本大学医学部教授 同総合健診センター 所長  
久代登志男先生

【平成25年度】

平成25年6月19日 大磯プリンスホテル

「トラゼンタの使用経験」

東海大学医学部 豊田雅夫先生

平成25年6月24日 大磯プリンスホテル

「糖尿病治療の実践 ～脂質異常症も含めて～」

すずき糖尿病内科クリニック 鈴木大輔先生

平成25年12月9日 大磯プリンスホテル

「腎症患者におけるDPP-4阻害薬の有用性」

東海大学大医学部 鈴木 大先生

平成26年2月6日 大磯プリンスホテル

「心房細動治療の実際」

平塚共済病院 鈴木 篤先生

平成26年2月12日 大磯プリンスホテル

「H.pylori除菌治療の現況」

東海大学医学部 鈴木孝良先生

平成26年3月11日 東海大学医学部附属大磯病院

「中郡における在宅医療の現状分析」

中郡医師会 脇 和雄先生

オリーブ訪問看護ステーション 青木伸也先生

【平成26年度】

平成26年6月26日 東海大学医学部附属大磯病院

①「糖尿病の治療とその注意点」

東海大学医学部 神谷貴仁先生

②「最近の肝疾患の動向」

東海大学医学部 白石光一先生

平成26年10月29日 大磯プリンスホテル

「糖尿病の治療戦略 ～選択的SGLT2阻害薬フォ  
シーガへの期待と適正使用～」

東海大学医学部 豊田雅夫先生

平成27年2月4日 大磯プリンスホテル

「明日からの診療に役立つ糖尿病のトピック

～腎症病期分類改訂と低炭水化物ダイエットの歴  
史～」

東海大学医学部 豊田雅夫先生

【平成27年度】

平成27年6月22日 大磯プリンスホテル

「尿管結石と高尿酸血症」

東海大学医学部 宮北英司先生

平成28年2月2日 大磯プリンスホテル

「より良い喘息コントロールを目指して～吸入薬  
の役割と指導ポイント～」

東海大学医学部 小林一郎先生

平成28年2月15日 大磯プリンスホテル

「オレキシンと交感神経・不眠症治療の展望～オ  
レキシン受容体拮抗薬を含めて～」

平塚市民病院 飯ヶ谷嘉門先生

鶴井医院 高岸 泰先生

【平成28年度】

平成29年3月23日 東海大学医学部附属大磯病院

「消化器と糖尿病」

SGLT2阻害薬による著効例と注意すべき症例

東海大学医学部付属病院 腎内分泌代謝内科

金山典子先生

糖尿病合併脂肪肝に対するSGLT2阻害薬の効果

東海大学医学部付属大磯病院 消化器内科

荒瀬吉孝先生

慢性肝疾患の栄養代謝異常とその対策 ～脂肪肝

から肝硬変まで～

東海大学医学部付属大磯病院 消化器内科

白石光一先生

近年、社会の少子高齢化が進み、経済成長はもはや慎ましいものしか望めず、他方医療や介護を要する高齢者の人口は増え、国の福祉や医療の財政が逼迫しつつあります。様々な疾患に苦しむ患者さんを取りまく社会の状況の今後の見通しは決して明るなものとは言えません。地域医療を担う内科医師にとって、一人一人の患者さんになるべく近い立場に立ち、それぞれのニーズにあったきめの細かい医療を提供することがこれからますます大切になると思

われます。冒頭の医学の知識と技術の習得に加え、日頃から地域の人たちとのコミュニケーションに努めること、そして更に今後は、患者さんや私たち医師を取りまく社会状況についても見識を深め、これからの社会に真に役立つ医療の仕組みについても考えていくことが大切と思われま

す。現在、当内科医会は会員数の少なさから、会の維持に精一杯で、具体的な目標を定め、展開していくのはこれからという状況です。しかし患者さんの診療を日々実践していく以上は、その目標は必ず視界に浮かび上がってくるものと思われま

す。最後に、50周年記念誌に寄せる稿としてふさわしくない内容となりましたことをお詫び申し上げます。また日頃お世話になっている中郡医師会、地域の基幹病院、そして神奈川県内科医学会の先生方に改めて感謝の意を捧げま

## ■小田原内科医会



会長 羽鳥 信郎

小田原医師会は神奈川県西端に位置する小田原市、箱根町、湯河原町、真鶴町の一市三町から構成されております。このなかで小田原内科医会は、昭和46年1月に発足し本年で46年目を迎えております。現在の会員数は76名、さらに県内科医学会に加入している会員数は72名であります。

この10年間を振り返りますと平成19年から平成22年度までは遠藤茂通先生が会長を務められ、平成23年度から小生が引き継がせて頂いております。会員数は当時74名でしたので微増と言うところでありま

す。

当内科医会の事業内容は、

A) 学術調査研究：県内科医学会において、

1) 糖尿病対策委員会 2) 高血圧対策委員会に参加させて頂いておりましたが、

現在は

1) 糖尿病対策委員会 2) 高血圧・腎疾患対策委員会 3) 呼吸器疾患対策委員会 4) 認知症対策委員会 5) 在宅医療委員会 6) 心臓・血管病対策委員会に積極的に参加しており学会発表、学術論文(欧文を含む)の執筆もさせて頂いております。

B) 学術講演会：年に10～23回行っており、毎回30名の会員が参加し、非常に活発な討論が行われています。

## 学術講演会

平成	年度	回数
	19	13
	20	14
	21	14
	22	10
	23	13
	24	17
	25	15
	26	23
	27	21
	28	21

C) 社会地域活動：小田原市成人保健事業講演およ

びテレビ健康教育番組出演など年に数回位継続して行っております。

D) 地域内の研究会：各々年に数回以上開催されており、この10年間ますます活発になっております。

1) 循環器研究会 2) 消化器研究会 3) 糖尿病研究会 4) スポーツ医学研究会 5) 認知症を考える小田原の会 6) 小田原うつ病の会

この10年間小田原内科医会の事業は継続して行われており、益々活発になってきておりますので、今後もさらなる発展があるものと思っております。

## ■足柄上内科医会



会長 鈴木 哲

足柄上内科医会は、私が会長になるまでの間活動を休止していましたが、平成23年より会則を新たに作成し、内科医会とし

て講演会などの活動を中心に再開しました。

再開時の会長は鈴木 哲、副会長は岡部元彦。監査、武尾 宏、松元淳一

評議委員、渥美 久、飛騨康則です。

平成28年度の会員数は23名と小規模な内科医会です。

### 【平成23年度】

#### 第1回足柄上内科医学会講演会

日時：平成23年5月17日（火）19時30分より

講演：「持続血糖モニター（CGM）を用いた糖尿病治療～DPP-4阻害薬の可能性を含めて」  
東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科 準教授 西村理明先生

#### 第2回足柄上内科医学会講演会

日時：平成23年7月20日（水）19時15分より

講演1：「ミカムロ症例検討会」

足柄上医師会 岡部元彦先生

講演2：「神奈川県の高血圧治療の現状

—神奈川県高血圧臨床実態断面調査2008より—」

小林病院 院長代行・小田原内科医学会 会長 羽鳥信郎先生

#### 第3回足柄上内科医学会講演会

日時：平成23年11月7日（月）19時30分より

講演1：「クリニックでのワーファリンの使用状況」

足柄上医師会 岡部元彦先生

講演2：「心原性脳塞栓症における抗凝固療法的重要性」

北里大学病院 循環器内科 診療教授 庭野慎一先生

#### 第4回足柄上内科医学会講演会

日時：平成24年2月29日（水）19時30分より

講演1：「高血圧とバイオマーカー」

東京大学医学部附属病院 検査部講師

下澤達雄先生

【平成24年度】

第5回足柄上内科医学会講演会

日時：平成24年5月28日（月）19時30分より

講演：「外来診療における貧血～貧血診療のピットホール～」

秦野赤十字病院 血液内科 部長  
大林由明先生

第6回足柄上内科医学会講演会

日時：平成24年9月29日（土）18時00分より

講演1：外来小児科学会会長挨拶

横田小児科医院 院長 横田俊一郎先生

講演2：「ワクチンバブル」の今、臨床医として何をなすべきか

～自信を持って予防接種を行うために～  
ふじおか小児科（大阪府富田林市）院長  
藤岡雅司先生

第7回足柄上内科医学会講演会

日時：平成25年2月13日（水）19時15分より

講演1：「外来診療に役立つ創傷処置の方法」

聖マリアンナ医科大学 形成外科 助教  
菅谷文人先生

第8回足柄上内科医学会講演会

日時：平成25年3月22日（水）19時20分より

講演1：「内科医としての骨粗鬆症治療戦略Up to Date」

藤田保健衛生大学医学部 臨床検査科  
講師  
名古屋膠原病リウマチ痛風クリニック  
顧問 田中郁子先生

【平成25年度】

第9回足柄上内科医会講演会

日時：平成25年7月17日（水）19時10分より

講演1：「外来血圧と家庭血圧から見たアジルサ

ルトンの使用経験」

岡部医院 院長 岡部元彦先生

講演2：「痛みの症候学」

神奈川県立足柄上病院 総合診療科医長  
地域医療連携室補佐 太田光泰先生

第10回足柄上内科医会講演会

日時：平成25年10月23日（水）19時30分より

講演：「食後高血糖を見据えた糖尿病治療」

～持続血糖モニターからみた新しい糖尿病治療の流れ～

東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 准教授 西村理明先生

第11回足柄上内科医会講演会

日時：平成25年11月13日（水）19時00分より

講演：「日常的な小児の気道感染症診療のこつ」

横田小児科 院長 横田俊一郎先生

第12回足柄上内科医学会講演会

日時：平成26年3月5日（水）19時15分より

講演1：「心房細動治療新時代～“ABC”（いろは）からNOACまで～」

聖マリアンナ医科大学 薬理学 教授  
松本直樹先生

【平成26年度】

第13回足柄上内科医会講演会

日時：平成26年5月28日（水）19時15分より

講演：「2型糖尿病治療における最近の動向～SGLT-2阻害薬の役割も含めて～」

横浜市立大学附属市民総合医療センター  
内分泌・糖尿病内科 部長 山川 正先生

第14回足柄上内科医会講演会

日時：平成26年6月28日（土）15時30分より

講演1：「糖尿病治療の最新の話題」

アストラゼネカ株式会社 学術

講演2：「総合的褥瘡対策の最新の話題」

統合医療 希望クリニック 院長  
堀田由浩先生

第15回足柄上内科医会講演会

日時：平成26年11月12日（水）19時00分より  
講演：「一般医家のための腎臓病の捉え方と対処法」  
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
腎臓・高血圧内科 部長 安田 隆先生

第16回足柄上内科医学会講演会

日時：平成27年2月18日（水）19時00分より  
講演1：「スイニー錠（使用経験をもとに）」  
岡部医院 院長 岡部元彦先生  
講演2：「胸痛の心電図診断」  
横浜市立大学附属市民総合医療センター・心臓血管センター 客員准教授  
小菅雅美先生

【平成27年度】

第17回足柄上内科医会講演会

日時：平成27年5月13日（水）19時00分より  
講演：「禁煙の声掛けポイントと知っておきたいタバコの話」  
中央内科クリニック 院長 松村弘康先生

第18回足柄上内科医会講演会

日時：平成27年9月9日（水）19時15分より  
講演：「より良い喘息治療を目指して一吸入薬の役割と指導のポイント―」  
東海大学医学部附属大磯病院  
呼吸器内科学 教授 小林一郎先生

第19回足柄上内科医会講演会

日時：平成28年1月27日（水）19時15分より  
講演：「『小児の喘鳴疾患，咳嗽疾患の治療の最前線』  
―喘息と咳嗽のガイドラインを活用して―」  
東海大学医学部 専門診療学系

小児科学 教授 望月博之先生

第20回足柄上内科医学会講演会

日時：平成28年3月2日（水）19時15分より  
講演：「メトホルミンの有用性と注意点を幅広く考える」  
聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科  
教授 田中 逸先生

【平成28年度】

第21回足柄上内科医会講演会

日時：平成28年5月18日（水）19時00分より  
講演：「アルツハイマー病：日常診療のヒント」  
首都大学東京 人間健康科学研究科 教授  
繁田雅弘先生

第22回足柄上内科医会講演会

日時：平成28年10月12日（水）19時00分より  
講演：「がん疼痛治療の実際」  
湘南中央病院 在宅診療部 部長  
奥野滋子先生

第23回足柄上内科医会講演会

日時：平成28年12月20日（火）19時30分より  
講演1：「糖尿病患者さんの食事の落とし穴と対策」  
神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部  
栄養学科 准教授 佐野喜子先生  
講演2：「QOL向上を考慮した糖尿病薬物療法  
～Weekly DPP-4 阻害薬ザファテック錠  
への期待～」  
東海大学医学部 内科学系腎内分泌代謝  
内科学 准教授 豊田雅夫先生

第24回足柄上内科医学会講演会

日時：平成29年2月15日（水）19時30分より  
講演：「在宅における多面的包括呼吸ケア・リハビリテーション  
～いかに気管支を助け、炎症を抑え、身体

活動を上げるか〜」  
いきいきクリニック 院長  
武知由佳子先生

平成27年度に小田原内科医会と足柄上内科医会合同で神奈川県内科医学会集談会を下記のように開催しました。

第79回 神奈川県内科医学会集談会（小田原，足柄上合同主催）

日時：平成28年2月13日（土）15時より  
会場：おだわら総合医療福祉会館4階ホール  
演題数16 出席者86名（足柄上13名）

特別講演1：「心房細動，静脈血栓症に対する抗凝固療法の最新の知見」

京都大学大学院医学研究科循環器内科学 助教 牧山 武先生

特別講演2：「iPS細胞を用いた心筋再生医療実用化への現状」

慶應義塾大学医学部循環器内科 教授 福田恵一先生

足柄上内科医会は開業医が多くそのため講演会は内科だけでなく小児科も含めて多岐にわたり講演会を開催しています。

## ■秦野伊勢原内科医会



会長 古木 隆元

秦野伊勢原内科医会は，昭和42年に創設された歴史ある会です。平成26年から，担当幹事を拝命させて頂きました。

内科医師の日常は，常に最新の情報をうまく噛み砕いて覚え目の前の患者さんに適合した治療を行う責任がございます。

内科医会の重要な役割として，世の中の流行りの治療が，本当に正しく安全なものなのか検証したり，経済的かつ効果的な治療が，行えているか地域の話し合いや統計を積極的に行いその結果を内科医会に参加されている先生方にお伝えする事がございます。

私の前任者は，この事を発展させるべく努力されてまいりました。

今後とも糖尿病，肝炎，認知症，高血圧，呼吸器，禁煙，などのテーマを中心に皆さまとディスカッションしていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。

## ■相模原市内科医会



会長 金森 晃

神奈川県内科医学会創立50周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

【相模原市内科医会の沿革】

相模原市内科医会は神奈川県内科医学会のご指導を仰ぎながら伴に歴史を刻んで参りました。この機会に相模原市内科医会の創立に関する資料を探してみましたが，残念なことに正確な記録はあまり残っておらず，創立の経緯やメンバーなど詳細はわかりませんでした。それでも県内科医学会20周年記念誌を紐解いてみて明らかになったことがいくつかありました。それによると相模原内科部会（当時はこのように呼ばれていたようです）は昭和46年に発足し

たとの記載があります。さらに遡ってみると、昭和42年の県内科医学会創立当時の幹事として沓掛 諒先生のお名前が記されています。さらに年代を経て昭和48年度の県幹事に樋口雄七先生のお名前があります。おそらく発足後の数年間はこの両名の先生が中心となって活動されていたのではないかと推測されます。昭和50年以降の歴代会長は記録に残っており、表1に示した通りです。

さて、平成19年から現在までの最近10年間を振り返ってみますと、平成19年に志野原三津夫会長の後を引き継いだ山本晴章会長は、会を刷新すべく熱心に幹事の勧誘活動をおこない、若い世代の新幹事が

多数就任致しました。それまで内科医会を支えてこられた志野原三津夫先生、真島元斎先生、忍田源一先生、小林逸郎先生、松崎 誠先生、河路晃一先生、山本 顕先生をはじめとした先輩諸氏には幹事を続

表1. 相模原市内科医会 歴代会長

年 度	氏 名
昭和46年度～昭和49年度	
昭和50年度～昭和62年度	豊田和雄
昭和63年度～平成10年度	河野友治
平成11年度～平成18年度	志野原三津夫
平成19年度～平成22年度	山本晴章
平成23年度～	金森 晃

表2. 平成27・28年度 相模原市内科医会幹事（順不同・敬称略）

所属区	氏名	役職・担当係	県内科医学会の役員・委員	その他
緑区	鈴木研欽		広報情報部会	
緑区	小林一雄	副会長	幹事・総務部会・高血圧腎疾患対策	
緑区	土肥直樹	名簿管理	認知症対策	市プライマリケア研究会会長
緑区	伊藤 俊		広報情報部会	
中央区	本宮哲也		糖尿病対策	
中央区	金森 晃	会長	副会長・糖尿病対策	
中央区	青山宏太	監査		
中央区	梅澤慎一	広報・急病対策・名簿管理	糖尿病対策	市医師会理事
中央区	土橋 健			
中央区	浅葉宣之	会計		
中央区	中野史郎	監査	肝炎対策	
中央区	松崎 淳			
中央区	山川 宙			
南区	山本晴章		特任副会長	日本臨床内科医会理事
南区	平松愼右	講演会・名簿管理	高血圧腎疾患・心臓血管病対策	
南区	高田信和	副会長	幹事・呼吸器疾患対策	
南区	佐藤聡一郎		在宅医療・認知症対策	市医師会理事
南区	陳 勁一		心臓血管病対策	市医師会理事
南区	森田有紀子	名簿管理	心臓血管病対策	
南区	阿部純久			
南区	室賀一宏			
南区	前澤 寧			
中央区	沓掛伸二	顧問		
中央区	松崎 誠	顧問		
南区	忍田源一	顧問		
南区	竹村克二	顧問		市医師会長

けて戴きつつ後進のご指導をお願いすることになりました。平成23年度からは金森 晃が会長を務めています。幹事は徐々に新旧交代してきました。平成27年度には新幹事がさらに7名加わり、現在は幹事22名と顧問4名の体制で会の運営をしています(表2)。

### 【最近10年間の活動内容】

ここ10年間の相模原市内科医会の事業、活動は、以下にお示しする4つの大きな柱に沿って活発におこなわれてきました。

1) 学術講演会の主催・共催(表3)

表3. 相模原市内科医会主催・共催 学術講演会(平成19年度～平成28年度)(敬称略)

#### 平成19年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成19年6月4日	冠動脈疾患における脂質低下療法の意義	代田浩之(順天堂大学)
	平成19年7月4日	腎障害を伴う高血圧の治療	藤田敏郎(東京大学)
	平成19年7月24日	糖尿病性腎症を再考する	鈴木大輔(東海大学)
	平成19年9月19日	呼吸器感染症における外来治療	永武 毅(桜みちクリニック)
	平成19年10月3日	糖尿病にみられる皮膚病変	新井 達(北里大学)
	平成19年11月21日	喘息死ゼロ作戦と最新の診断と治療	長谷川真紀 (相模原病院臨床研究センター)
	平成20年2月20日	糖尿病神経障害の診断と治療・最近の動向	安田 斎(滋賀医科大学)
さがみ糖尿病カンファレンス		第53回～第57回(年間5回開催)	
サガミリバーカンファレンス		第62回～第66回(年間5回開催)	
フォーシーズンズカンファレンス		(年間4回開催)	
さがみ居宅医療介護研究会		第1回(年間1回開催)	

#### 平成20年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成20年5月16日	不整脈における薬物療法の位置づけ	庭野慎一(北里大学)
	平成20年7月4日	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の新時代	佐藤敦久(国際医療福祉大学)
	平成20年9月3日	医薬品の適正な使用を考える	柳川忠二(東邦大学)
	平成20年10月30日	脳梗塞と抗血小板療法	鈴木則宏(慶應義塾大学)
	平成20年11月5日	病診連携を念頭においた急性冠症候群の診断と治療	木村一雄 (横浜市民総合医療センター)
	平成21年2月13日	RA系阻害薬のEBM	島田和幸(自治医科大学)
	平成21年3月31日	今日からできるミニマム禁煙医療	加濃正人(新中川病院)
さがみ糖尿病カンファレンス		第54回～第57回(年間4回開催)	
サガミリバーカンファレンス		第67回～第72回(年間6回開催)	
フォーシーズンズカンファレンス		(年間4回開催)	
さがみ居宅医療介護研究会		第2回～第3回(年間2回開催)	

#### 平成21年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成21年5月25日	日常診療におけるCKDのインパクト	木村健二郎(聖マリ医科大学)
	平成21年6月24日	高血圧治療における利尿薬の位置付け	木村健二郎(聖マリ医科大学)
	平成21年7月24日	高血圧治療の歩みと血圧測定	今井 潤(東北大学)



	平成21年10月21日	大血管イベントを見据えた糖尿病治療戦略	寺内康夫（横浜市立大学）
	平成21年11月13日	日本人の食塩感受性を考慮した不老長寿の戦略	栗山 哲 （東京都済生会中央病院）
	平成22年 1月20日	新しいガイドラインの特徴と配合剤による治療戦略	秋山一男（相模原病院）
	平成23年 2月23日	大血管症抑制を目指した2型糖尿病の治療戦略	植木浩二郎（東京大学）
さがみ糖尿病カンファレンス	第57回～第60回（年間4回開催）		
サガミリバーカンファレンス	第64回～第68回，特別講演会1回（年間6回開催）		
フォーシーズンズカンファレンス	（年間4回開催）		
さがみ居宅医療介護研究会	第4回～第6回（年間3回開催）		

## 平成22年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成22年 4月 7日	糖尿病合併脂質異常症に対する治療とその展望	小田原雅人（東京医科大学）
	平成22年 6月 9日	耐糖能異常を伴う心血管疾患の長期予後を見据えた治療戦略	横井宏佳（小倉記念病院）
	平成22年 8月 4日	糖尿病性血管障害の治療戦略	宇都宮一典 （東京慈恵会医科大学）
	平成22年 9月 3日	早期大腸癌の画像診断	入口陽介 （東京都がん検診センター）
	平成22年 9月 8日	2型糖尿病治療の第一選択薬は？	河盛隆造（順天堂大学）
	平成22年11月15日	今季のインフルエンザ対策	三田村敬子（永寿総合病院）
	平成22年11月19日	RAA系抑制薬の特徴を考慮した高血圧治療	佐藤敦久（国際福祉医療大学）
	平成23年 1月14日	インクレチン関連薬のUpdate	寺内康夫（横浜市立大学）
	平成23年 2月16日	一般病院の泌尿器科の役割	坂本正俊（昭和大学藤が丘病院）
さがみ糖尿病カンファレンス	第54回～第57回（年間4回開催）		
サガミリバーカンファレンス	第69回～第73回（年間5回開催）		
フォーシーズンズカンファレンス	（年間4回開催）		
内科医会・産婦人科医会合同講演会	第1回（平成22年11月17日）		表4参照
さがみ居宅医療介護研究会	第7回（年間1回開催）		
相模原胃と腸研究会	第114回～第118回（年間5回開催）		

## 平成23年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成23年 4月27日	臓器障害予防における合剤の役割	百村伸一（自治医科大学）
	平成23年 5月16日	糖尿病外来診療のコツ	高井昌彦（高井内科クリニック）
	平成23年 7月22日	心血管イベント抑制を目指して	寺本民生（帝京大学）
	平成23年 7月27日	これからの糖尿病薬物治療	加来浩平（川崎医科大学）
	平成23年 9月 6日	認知症治療の現状とイクセロンパッチへの期待	吉井文均（東海大学）
	平成23年 9月27日	冠動脈疾患合併症例に対するカルシウム拮抗薬の使い方	浦田秀則（福岡大学筑紫病院）

平成23年11月14日	骨・糖代謝関連からみた新たなビタミンDの役割	竹内靖博（虎ノ門病院）
平成23年11月30日	きめ細やかな糖尿病治療を目指して	森 豊 （東京慈恵会医科大学第三病院）
平成24年 1月18日	虚血性心疾患の予防・治療 up to date	幡 芳樹 （みなみのハートクリニック）
平成24年 2月10日	21世紀のGERDとその治療	櫻井俊之 （国立国際医療研究センター）
平成24年 3月 5日	糖尿病治療の課題—新薬は治療を変えうるか？—	谷澤幸生（山口大学）
平成24年 3月 6日	最近の知見からみた尿酸の病態意義について	坂本尚登（北里大学）
平成24年 3月13日	2型糖尿病治療の問題点とインクレチンによる介入の意義	藤谷与士夫（順天堂大学）
さがみ糖尿病カンファレンス	第58回～第60回（年間 3 回開催）	
サガミリバーカンファレンス	第73回～第78回，特別講演会 1 回（年間 7 回開催）	
フォーシーズンズカンファレンス	（年間 4 回開催）	
内科医会・産婦人科医会合同講演会	第 2 回（平成24年 3 月 7 日）	表 4 参照
さがみ居宅医療介護研究会	第 8 回～第 9 回（年間 2 回開催）	
相模原胃と腸研究会	第119回～第124回（年間 6 回開催）	

平成24年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成24年 4月26日	積極的脂質低下療法の意義	代田浩之（順天堂病院）
	平成24年 6月19日	シタグリプチンの使用経験	金森 晃（かなもり内科）
	平成24年 6月28日	K-CKDI調査の主旨と中間報告	木村健二郎（聖マリ医科大学）
	平成24年 6月28日	脳血管障害と認知症	長田 乾 （秋田県立脳血管研究センター）
	平成24年 6月29日	日本呼吸器学会COPD GLとCOLD新GLの差異について	永井厚志（東京女子医科大学）
	平成24年 7月 7日	糖尿病治療におけるメトホルミンの位置付け	小田原雅人（東京医科大学）
	平成24年 7月13日	心房細動の最新の治療	青沼和隆（筑波大学）
	平成24年 7月20日	アルツハイマー型認知症治療の新たな戦略	下濱 俊（札幌医科大学）
	平成24年 9月 4日	脳血管保護を考慮した高血圧治療戦略	瀧澤俊也（東海大学）
	平成24年11月 5日	地域で守る脳卒中	長谷川泰弘（聖マリ医科大学）
	平成24年11月14日	高血圧治療最新の話	梅村 敏（横浜市立大学）
	平成24年12月17日	インフルエンザの臨床	廣津伸夫（日本臨床内科医会）
	平成25年 1月15日	不整脈を踏まえた降圧治療	吉岡公一郎（東海大学）
	平成25年 2月 8日	CKD合併高血圧に対する降圧療法	渡辺 毅（福島県立医科大学）
	平成25年 2月18日	骨粗鬆症におけるビスホスフォネート製剤の位置付け	宗圓 聰（近畿大学）
さがみ糖尿病カンファレンス	第61回～第64回（年間 4 回開催）		
サガミリバーカンファレンス	第79回～第83回（年間 5 回開催）		
フォーシーズンズカンファレンス	（年間 1 回開催）本会をもって終了		
内科医会・産婦人科医会合同講演会	第 3 回（平成25年 3 月11日）	表 4 参照	

内科医会・精神科医会合同講演会	平成25年3月5日（年間1回開催）	
さがみ居宅医療介護研究会	第10回～第11回（年間2回開催）	
相模原胃と腸研究会	第125回～第129回（年間5回開催）	

## 平成25年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成25年4月5日	糖尿病治療薬のNexr-Stage	渥美義仁（永寿総合病院）
	平成25年4月22日	当院における肝がん地域連携パスの紹介	河野 悟（相模原協同病院）
	平成25年4月24日	冠動脈疾患におけるインターベンションと脂質管理	山岸正和（金沢大学）
	平成25年10月18日	DPP-4 阻害薬の最新の話	清野 裕（関西電力病院）
	平成25年10月29日	高尿酸血症と高血圧・CKD	大野岩男（東京慈恵会医科大学）
	平成25年11月12日	冠動脈疾患予防の新たな視点	伊藤 浩（岡山大学）
	平成26年2月28日	CKD診療の現状と今後	山縣邦弘（筑波大学）
	平成26年3月17日	東日本大震災の経験からわかった肺炎とインフルエンザへの今後の対応のあり方	渡辺 彰（東北大学）
	平成27年2月23日	EBMに基づく心原性脳塞栓症の最新の治療と予防	西垣和彦（岐阜大学）
さがみ糖尿病カンファレンス	第65回～第68回（年間4回開催）		
サガミリバーカンファレンス	第84回～第89回（年間6回開催）		
内科医会・産婦人科医会合同講演会	第4回（平成26年3月5日）		表4参照
内科医会・精神科医会合同講演会	平成25年7月9日（年間1回開催）		
さがみ居宅医療介護研究会	第12回～第13回（年間2回開催）		
相模原胃と腸研究会	第130回～第133回（年間4回開催）		

## 平成26年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成26年4月22日	糖質制限食のエビデンスとそこから考えるSGLT2阻害剤	山田 悟（北里研究所病院）
	平成26年4月25日	トレシーバの処方経験について	金森 晃（かなもり内科）
	平成26年5月14日	高血圧臨床における諸問題	七里真義（北里大学）
	平成26年6月23日	糖尿病と認知症の関連について	田口 円（東芝林間病院）
	平成26年10月24日	2型糖尿病薬物治療の新展開	中村二郎（愛知医科大学）
	平成26年11月21日	慢性咳嗽の診療	藤村政樹（七尾病院）
	平成26年12月3日	気管支喘息治療における最新の話	足立 満（国際医療福祉大学）
	平成27年2月20日	冠動脈疾患治療の進化と残る問題点	阿古潤哉（北里大学）
	平成27年2月23日	EBMに基づく心原性脳塞栓症の最新の治療と予防	西垣和彦（岐阜大学）
さがみ糖尿病カンファレンス	第69回～第72回（年間4回開催）		
サガミリバーカンファレンス	第91回～第94回（年間4回開催）		
内科医会・産婦人科医会合同講演会	第5回（平成26年10月20日）		表4参照
さがみ居宅医療介護研究会	第14回～第15回（年間2回開催）		
相模原胃と腸研究会	第134回～第137回（年間4回開催）		

## 平成27年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成27年4月6日	糖尿病治療の新たな潮流	荒木栄一（熊本大学）
	平成27年4月20日	TTRが良ければいいのか～	是恒之宏（大阪医療センター）
	平成27年5月29日	SGLT2阻害薬の有効性と安全な使い方	高野幸路（北里大学）
	平成27年6月8日	ストップ肺炎！超高齢化社会での予防の重要性	宮下修行（川崎医科大学）
	平成27年7月14日	新規抗血小板薬をどう使うか	一色高明（上尾中央総合病院）
	平成27年10月21日	尿細管におけるSGLT2の働きおよび最新の知見について	脇野 修（慶応義塾大学）
	平成27年11月10日	CKDの危機因子管理	木村健二郎（東京高輪病院）
	平成27年11月18日	ペインクリニックにおける疼痛管理	木下 勉（相模原中央病院）
	平成27年12月11日	日本における高齢者の肺炎予防とその展望	金澤 寛（埼玉医科大学）
	平成28年1月28日	かかりつけ医のCKD	宮崎正信（宮崎内科医院）
	平成28年2月19日	エビデンスに基づく感冒流行期における喘息管理	田村 弦（仙台気道研究所）
さがみ糖尿病カンファレンス		第73回～第76回（年間4回開催）	
サガミリバーカンファレンス		第95回～第98回（年間5回開催）	
内科医会・小児科医会合同講演会		第1回（平成27年6月24日）	表4参照
内科医会・産婦人科医会合同講演会		第6回（平成28年3月9日）	表4参照
さがみ居宅医療介護研究会		第16回～第17回（年間2回開催）	
相模原胃と腸研究会		第138回～第141回（年間4回開催）	

## 平成28年度

講演会種別	開催日	講演タイトル	演者
学術講演会	平成28年4月26日	実臨床におけるCKD診療のポイント	竹内康雄（北里大学）
	平成28年4月27日	経口薬治療でコントロール不良な2型糖尿病患者への次の一手	井口登興志（九州大学）
	平成28年9月13日	インスリン療法のUpdate	遅野井健（那珂記念クリニック）
	平成28年10月13日	漢方薬を使ってみよう	織部和宏（織部内科クリニック）
	平成28年10月27日	認知症のケア～薬物療法から非薬物療法まで～	繁田雅弘（首都大学東京）
	平成28年12月7日	COPD治療の最近の動向	平田一人（大阪市立大学）
	平成29年2月17日	スクリーニング検査における標準的観察法—胃内視鏡診断—	田邊 聡（北里大学）
	平成29年2月22日	骨粗鬆症と生活習慣病の危険な関係	岡崎 亮 （帝京大学ちば医療センター）
さがみ糖尿病カンファレンス		第77回～第80回（年間4回開催）	
サガミリバーカンファレンス		第99回～第102回（年間4回開催）	
内科医会・産婦人科医会合同講演会		第7回（平成29年3月8日）	表4参照
内科医会・小児科医会合同講演会		第2回（平成28年9月29日）	表4参照
内科医会・外科医会合同講演会		平成28年6月22日	
内科医会・プライマリケア研究会合同		平成28年7月8日	
さがみ居宅医療介護研究会		第18回（年間1回開催）	
相模原胃と腸研究会		第142回～第145回（年間4回開催）	

### ＜学術講演会＞

内科医会主催の定例講演会を春夏秋冬それぞれ1回、年に4回開催してきました。定例講演会は製薬メーカーの宣伝色を排し、内科医会主導で開催することを旨としています。そのため、前年度の秋に幹事から募った希望テーマの一覧を各製薬メーカーに提示し、エントリーのあった演題の中から幹事会の協議によって4演題を選出するという方法をとってきました。内科の守備範囲は広いテーマが偏らないような年間企画を立て、できるだけ会員の日常診療に役立つような話題を取り上げるよう心掛けています。

定例講演会とは別に、製薬メーカーとの共催講演会も多々開催してきました。これらの講演会はすべて幹事の中から担当者を決めて企画・運営に携わってもらっています。この担当制のおかげで講演会の内容や構成も創意工夫が感じられるようになりました。

従来から県内4大学の持ち回り性で開催されている神奈川県内科医学会主催の「臨床医学研修講座」にも協力してきました。北里大学との共催で平成22年9月18日（於、小田急ホテルセンチュリー相模大野）と平成26年11月1日（於、北里大学病院）の2回開催しました。いずれも県内から多くの会員が参加され盛会でした。

#### ◆さがみリバーカンファレンス

「さがみリバーカンファレンス」は、現在は当内科医会顧問の沓掛伸二先生が創成期から長年にわたって熱心に継続してこられた肝疾患に関する勉強会で、内科医会のサブグループに位置付けられています。綿々と年間4～6回開催されてきましたが、昨年は記念すべき第100回を数えました。数年前に沓掛先生が勇退された後は、内科医会幹事の土橋健、浅葉宣之、中野史郎が中心になって国立病院機構相模原病院や北里大学病院の消化器内科と連携しつつ本カンファレンスを支えています。

#### ◆さがみ糖尿病カンファレンス

もう一つの内科医会サブグループとして「さがみ糖尿病カンファレンス」があります。平成10年に発

足してから年に4～6回開催しており、本年1月に第84回を迎えました。会の発起人はすでに故人となられた北里大学の矢島義忠教授ですが、発足から7年間は河路晃一先生に会を牽引して戴きました。その後は金森 晃が代表幹事を務めていますが、幹事として青山宏太、本宮哲也、伊藤 俊、梅澤慎一、田中啓司の諸氏に多大なご尽力を戴いています。平成12年に日本糖尿病療養指導士認定機構が発足し、また平成19年からは神奈川糖尿病療養指導士認定機構が立ち上がったことにより、糖尿病療養指導スタッフの参加が年を追うごとに増えてきています。最近では200名近くの参加者があることもまれではなく、医師やメディカルスタッフが糖尿病療養指導・支援を勉強する場として定着しています。

#### ◆さがみ居宅医療介護研究会

平成19年に山本晴章の発案のもとに発足した「さがみ居宅医療介護研究会」は第18回を数えました。本研究会は、高齢社会の到来を見据えて、医師や看護師などの医療者のみならず介護士、ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護職も包括して一緒に居宅医療や介護について勉強することを目的としています。他職種の方々の自主性を重んずるために、敢えて内科医会は表に出ずに、あくまでも関連団体としてアドバイスやお手伝いをするというスタンスで参加してきました。現在、内科医会からの幹事として山本晴章、梅澤慎一、陳 勁一が介護スタッフとの連携の礎を築いてくれています。

#### ◆フォーシーズンズカンファレンス

相模原市内科医会と北里大学東病院との診療連携を目的として、おもに教授をはじめとした大学病院スタッフによる講演会をおこなってきました。名称の通り四季毎に1回、年に4回開催され、内科医会からは山本晴章が牽引役になって活発に会運営をしてきました。しかし、発足当時の教授諸氏が順に定年を迎えて世代交代が進んだこと、また回を重ねて当初の目的は達成したという理由で、平成24年5月をもって本研究会は長い歴史の幕を閉じました。

#### ◆他医会との合同講演会（表4）

内科医、とくにかかりつけ医の役割を担う開業医

表4. 他医会との合同講演会

## 相模原市内科医会・産婦人科医会 合同講演会

回	開催日	講演タイトル	演者(所属)
1	平成22年11月17日	明日からできる骨粗鬆症診療	茶木 修(横浜労災病院産婦人科)
		閉経後の異質異常症	大村昌夫(横浜労災病院内科)
2	平成24年3月7日	成人病胎児期発生説からみた胎生期栄養環境と次世代の健康	福岡秀興(早稲田大学)
3	平成25年3月11日	妊娠・授乳中の薬物療法の考え方	村島温子 (成育医療研究センター母性医療診療)
4	平成26年3月5日	産婦人科領域における糖代謝異常診療	七里眞義(北里大学病院内分泌代謝内科)
5	平成27年10月20日	腎機能障害患者の妊娠と高血圧管理から学ぶ	鎌田貢壽(北里大学病院腎臓内科)
6	平成28年3月9日	明快処方と新たな危ない頭痛	下田雅美(東海大学八王子病院脳神経外科)
7	平成29年3月8日	遺伝子診療と医学	和泉俊一郎(東海大学医学部産婦人科)

## 相模原市内科医会・小児科医会 合同講演会

	開催日	講演会タイトル	演者(所属)
1	平成27年6月24日	成人のB型肝炎について概説	浅葉宣之 (あさば内科・消化器クリニック)
		なぜ今、すべての子どもにB型肝炎ワクチンが必要なのか?	乾 あやの (済生会横浜東部病院小児肝臓消化器科)
2	平成28年9月29日	鶏卵アレルギー児の自然歴	谷口裕章 (相模原病院小児科)
		予防接種の最近の話題 ～予防接種の基礎知識、B型肝炎ワクチン および成人対象の肺炎球菌ワクチン～	渡辺 博 (帝京大学医学部附属溝口病院小児科)

は他科を含め幅広い知識を持つことが必要です。専門外の疾患で自分では治療ができない場合でも、患者さんには相談すべき診療科を的確にアドバイスをしなければなりません。他科の知識を学んで吸収すること、および他科の医師と顔の見える連携を確立することを目的として、内科医会では他医会との合同講演会を開催してきました。

産婦人科医会との合同講演会は、平成22年11月に第1回が開催されました。当時、妊婦へのインフルエンザ予防接種をめぐる、臨床現場でいくつかの問題が起こっていました。当事者である産婦人科医と内科医との連携のあり方を探り、またお互いの意思疎通を図ろうとの目的で合同講演会を立ち上げました。両科に関連するテーマを取り上げて毎年1回開催し、7年間継続してきました。同様の目的で、平成27年からは小児科医会と、また不定期開催では

ありますが精神科医会、外科医会、プライマリケア研究会とも合同講演会を開催しており、今後も他医会との連携を深めていく予定です。また、長年に亘って継続されている「相模原胃と腸研究会」にも協力をしてきました。

## 2) 市民公開講座の主催(表5)

市民への健康啓発は内科医会の重要な役割です。その一環として平成24年1月より内科医会主催の市民公開講座を始めました。開催の準備や運営については医師会事務局にもお手伝いを戴いていますが、製薬メーカーの援助なしでおこなっているために運営には苦勞しており、毎年開催の半年前から準備委員会を組織して企画を練っています。その甲斐があり、開催が厳寒期の土曜日午後であるにもかかわらず毎回100～150名の参加者を得て非常に盛会です。今後も市民公開講座を通じて市民に健康啓発を発信

していきたいと考えています。

### 3) 臨床研究の遂行 (表6)

この10年間に相模原市内科医会が主導していくつかの臨床研究をおこなってきました。これらの臨床研究は内科医会副会長の小林一雄の活躍に負うところが大きく、研究計画・実施やデータのまとめ、学会発表、さらに論文執筆まで彼がほぼ一人で成し遂げてきました。具体的な内容としては、平成26年から「高血圧診療に関する実地医家へのアンケート調査」と題して、市内および県内の内科あるいは他科医師を対象に高血圧診療ガイドラインの捉え方や活用状況についてアンケート調査を実施し、実地医家の高血圧診療に関する現状や実態を明らかにしてきました。この結果は県内外で大きな反響がありまし

た。また、平成28年からは「薬物投与時の腎機能評価に関するアンケート調査」を実施しており、その結果は学会で順次発表する予定になっています。

### 4) 神奈川県内科医学会の事業への協力

今までに相模原市内科医会の多くの会員が県内科医学会の事業に参加してきました。現在も幹事を中心に県内科医学会の役員、部会員、学術委員を務めており、各事業の企画、運営に協力しています(表2)。横浜で開催される会議に遠隔地の相模原から参加するのにはかなりの時間と労力がかかります。毎回、たいへんな思いをして参加されている諸先生にはこの場をお借りして御礼を申し上げます。次第です。

なお、現幹事については文中敬称略で記載致しました。ご了承下さい。

表5. 相模原市内科医会主催 市民公開講座

	開催年月日	テーマ (タイトル)	演者	座長	参加者数
1	平成25年1月19日	あなたのいびき大丈夫ですか? ～睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病～	高田信和 鈴木研欽・本宮哲也	金森 晃	104名
2	平成26年1月25日	胃がん予防の切り札! ～胃疾患とピロリ菌～	中野史郎 浅葉宣之	土橋 健	83名
3	平成27年1月31日	これあなたも糖尿病ダイエットの達人 ～糖と油の上手なとり方～	梅澤慎一 渡邊永莉	金森 晃	144名
4	平成28年1月30日	高血圧, こうやって治します ～高血圧の本当の話, 知っていますか?～	小林一雄 末永晴恵	平松眞右	131名
5	平成29年2月4日	漢方というチョイス ～漢方と上手く付き合いハッピーライフ～	室賀一宏	伊藤 俊	158名

表6. 臨床研究に関する学会発表

### 学会発表

	発表演題名	学会	演者
1	高血圧治療ガイドライン2014に対する実地医家でのアンケート調査	第37回日本高血圧学総会, 横浜, 2014	小林一雄
2	ガイドライン改訂を踏まえた実地医家での高血圧診療の変遷	第78回神奈川県内科医学会集談会, 横須賀, 2015	小林一雄
3	高血圧治療ガイドライン2014に対する実地医家でのアンケート調査	第4回臨床高血圧フォーラム, 福岡, 2015	小林一雄, 佐藤和義, 宮川政昭
4	患者用冊子「高血圧の話」を用いた相模原市実地医家の高血圧治療に対するアンケート調査	第79回神奈川県内科医学会集談会, 小田原, 2016	小林一雄, 佐藤聡一郎, 陳 勁一
5	薬物投与時の腎機能評価に関する実地医家でのアンケート調査	第80回神奈川県内科医学会集談会, 海老名, 2017	小林一雄, 金森 晃

6	薬物投与時の腎機能評価に関する実地医家でのアンケート調査	第114回日本内科学会総会, 東京, 2017	小林一雄, 金森 晃
7	専門科目別にみた, 薬物投与における腎機能の評価に関する実地医家でのアンケート調査	第60回日本腎臓学会学術集会, 仙台, 2017	小林一雄, 金森 晃

論文

	論文タイトル	発表誌	筆者
1	相模原医師会における高血圧診療に対する実地医家へのアンケート調査 (前編)	神奈川県医師会報, 784号 : p7, 2015	小林一雄
2	相模原医師会における高血圧診療に対する実地医家へのアンケート調査 (後編)	神奈川県医師会報, 785号 : p6, 2015	小林一雄
3	「高血圧治療ガイドライン2014 (JSH2014)」に対する実地医家でのアンケート調査	血圧, 22 (4) : p318-323, 2015	小林一雄
4	患者用冊子「高血圧の話」を用いた高血圧治療に対する実地医家でのアンケート調査	血圧, 23 (7) : p511-516, 2016	小林一雄, 佐藤聡一郎, 陳 勁一
5	A questionnaire survey of general practitioners in Kanagawa Prefecture, Japan for the Japanese Society of Hypertension Guidelines for the Management of Hypertension 2014.	Clinical and Experimental Hypertension in press	Kobayashi K, et al.

■大和市医師会内科医会



会長 前川 公男

神奈川県内科医学会創立50周年おめでとうございます。県内科医学会の創立50周年の記念に合わせまして大和市医師会内科

医会のあゆみを寄稿させていただきます。

当地区の内科医会における活動は、学術講演会を主な活動とし、平成21年度までは製薬会社主導で数多くの学術講演会が開催されており、特に各製薬会社からほぼ同時期に発売された同系統の薬剤がある場合は、類似した演題の学術講演会が多く開催され、会員の講演会出席の意志が希薄となり内科医会としての学副講演会開催の意義が薄れているのがそれまでの現状であった。平成22年3月より菊田前々会長の提案により消化器系、循環器系、呼吸器系、

神経系、腎疾患系、代謝内分泌系の各部門の担当役員が企画した学術講演会を実施し、当会での学術講演会は可能な限り製薬会社の主導にならないよう独自のテーマを挙げて各領域の専門分野に精通した講師に依頼して開催し、以後各分野の広範囲におよぶ内容の充実した学術講演会となった。会長が菊田、大濱、前川へと移行してからも、現在この体制にて内科医会学術講演会は毎年5～6回の開催を継続している。市内学術講演会会場として利用してきた大和グランドホテルが平成20年5月で閉館したため、以後は大和市地域医療センター会議室を講演会後の懇親会なしで会場として利用することになる。当会の会員は平成29年度において員数65名、その内神奈川県内科医学会会員は33名、日本臨床内科医学会会員7名で、御高齢の先生方の退会に加え、新たに大和地域での内科で医院開業が少なく、会員数は徐々に減少傾向にある。ここ近年の会員数の減少傾向により、地域での各学術講演会開催において出席者の人数確保ならびに次世代の内科医会役員の選出が課



題である。

過去10年間の大和市内科医会の会長

石垣十一郎 ～平成22年3月

菊田 稔 平成22年4月～平成24年3月

大濱永俊 平成24年4月～平成26年3月

前川公男 平成26年4月～現在

平成19年度より平成29年度の大和市内

師会内科医会の活動状況の概略

【平成19年度】 石垣十一郎会長のもと、大和市内科  
医会学術講演会数回開催

【平成20年度】 前年度と同じ 大和市内科医会主幹  
にて第5地区県内科医学会地区幹事  
会開催

【平成21年度】 前年度と同じ

【平成22年度】 内科医会会長に菊田 稔が就任。前  
年度までの運営形態を一新し、消化  
器系、循環器系、呼吸器系、神経系、  
腎疾患系、代謝内分泌系の各部門の

担当役員が企画した学術講演会を実  
施する。

【平成23年度】 前年度と同じ

【平成24年度】 大濱永俊が会長就任 従来の内科医  
会運営を継承し学術講演会開催

【平成25年度】 前年度と同じ

【平成26年度】 前川公男が会長就任 平成26年度よ  
り当会名称を大和市内科医会内科医会  
とする。

従来の内科医会運営を継承し学術講  
演会開催

10月29日大和市内科医会主幹にて第  
5地区県内科医学会地区幹事会開催

【平成27年度】 前年度と同じ 平成28年度 従来通  
り大和市内科医会による内科学術講  
演会開催

【平成29年度】 前年度と同じ

## ■座間綾瀬医師会内科医会



会長 菅原 悌三

座間綾瀬医師会は会員数が  
125名で、座間綾瀬医師会内科  
医会会員は20名足らずです。開  
院する医師も少なく、会員増  
強も困難な状況が続いています。

平成19年4月から23年3月までは菅原悌三が、平  
成23年4月から平成25年3月までは紀孝が、平成25  
年4月から現在までは菅原悌三が会長を務めており  
ます。

この10年間特に変わったことがなく、主な活動は、  
学術講演会と毎月開催される胸部レントゲン勉強会  
と消化器勉強会です。海老名市医師会、海老名市内  
科医会と共催をしながら、なるべく多くの参加を期

しています。病診連携、診診連携に役立っています。

胸部レントゲン勉強会は、10年以上にわたり北里  
大学の矢那瀬信雄先生に指導していただき、肺がん  
の他、炎症性疾患、種々の疾患で見られる肺の病変  
など多くの症例を見せていただきました。会員が  
もってきた症例の指導も受けています。消化器勉強  
会は、がん総合相談センターの松江寛仁先生に、こ  
れも10年以上の長い期間、消化器疾患のレントゲン  
写真、超音波検査の沢山の症例を見せていただい  
ております。

平成21年4月神奈川県禁煙分煙条例が実施された  
折、中山脩郎先生、長谷章先生においでいただき講  
演をしていただきました。平成24年には宮川政昭先  
生に高血圧（家庭血圧の重要性）について講演をし  
ていただきました。

今後第5地区の内科医会と協力しながら活動の活  
性化を図っていこうと思っています。

最近10年間の主な講演会の主なものは以下のとお

りです。

【平成19年度】

「スギ花粉症の治療戦略」

アクティ大阪耳鼻咽喉科 大橋淑宏先生

「血管保護を考えた高脂血症の治療」

東京医科歯科大学 吉田雅幸教授

「頭痛治療の実践」

北里大学 飯ヶ谷美峰先生

「高血圧治療の実践（糖尿病，腎臓病合併症例）」

東海大学 鈴木大輔助教

【平成20年度】

「なぜ今ACE阻害薬なのか，心不全からのメッセージ」

北里大学 猪俣孝元講師

「高血圧とアルドステロン」

慶応大学 柴田洋孝講師

「CKDにおける降圧剤の使い方」

相模台病院 横田真二先生

「生活習慣病におけるARBの意義（CKDとCVD）」

北里大学 青山直善准教授

【平成21年度】

「慢性腎臓病の管理（血糖，血圧の管理の重要性）」

あさおクリニック 前波輝彦先生

「慢性肝疾患，肝がん診療の現況」

東海大学 加川建弘教授

「皮膚病のリトビア（アレルギー編）」

浅井皮膚科 浅井俊弥先生

「抗菌薬の特徴と生体内効果」

帝京大学 斧 康雄教授

「禁煙に関する講演」

神奈川県内科医学会

中山脩郎先生 長谷 章先生

「胃がん診療の現状と今後の課題」

北里大学 田辺 聡先生

「内分泌異常のやさしい診かた」

山本クリニック 山本晴章先生

横浜労災病院 西川哲夫先生

【平成22年度】

「パーキンソン病の診断と治療」

北里大学 望月秀樹教授

「プライマリーケアのための血管疾患の話」

帝京大学 新見正則准教

「降圧剤の新たなステージに向かって，ARB利尿剤配合剤への期待」

愛媛大学 檜垣実男教授

「高齢者とうつ病について，（認知症と気分障害の診断と治療）」

相模台病院 新井久稔先生

「C型肝炎の現状と今後の展望」

東海大学 加川建弘准教

【平成23年度】

「今こそβ遮断薬を見直す，何をどう使い分けるか」

自治医科大学附属埼玉医療センター

百村伸一教授

「急性冠症候群の診断と治療」

横浜市大 市民医療センター 木村一雄教授

「糖尿病治療の新時代，経口糖尿病治療薬の使い分け」

帝京大学 山内俊一教授

【平成24年度】

「高血圧と慢性心不全，β遮断薬を使い分ける」

平光ハートクリニック 平光伸也先生

「血圧変動と特性が明らかにした高血圧治療（家庭血圧を用いた実地医家の戦略）」

宮川内科小児科 宮川政昭先生

「新規経口抗凝固薬（NOAC）の新しい治療戦略」

横浜医療センター 岩出和徳先生

【平成25年度】

「不眠症・睡眠障害の病態と治療 プライマリーケア診療での睡眠薬の使い分け」

北里大学 田ヶ谷浩邦教授

「動脈硬化疾患への治療戦略」

東海大学 吉町文暢教授

「DPP-4阻害薬の位置づけとインスリン併用療法を考える」

聖マリアンナ医科大学 田中 逸教授

「糖尿病治療の新しい流れ」

本厚木メディカルクリニック 金重秀明先生

【平成26年度】

「高血圧治療は究極目標へ（夜間高血圧の重要性）」

旭労災病院 木村玄次郎先生

「MCIと生活習慣病」

相模台病院 新井久稔先生

【平成27年度】

「メトホルミンの真の価値を考慮する（1日1500mgの有用性）」

東京医科大学 小田原雅人教授

「PPIに残された臨床課題とP-CABによる解決の期待」

東海大学 峯徹哉教授

「臨床に役立つ成人喘息学，最近の話題から」

独立行政法人相模原病院 谷口正美先生

「糖尿病と骨粗しょう症を考える」

帝京大学 千葉総合医療センター 岡崎 亮教授

【平成28年度】

「HIV感染症を見落とさないために」

東京医科大学 臨床検査医学科 城川泰司郎先生

「過活動膀胱治療の実際」

海老名総合病院 小林博仁先生

「認知症の早期発見と早期治療」

湘南いなほクリニック 内門大丈先生

■海老名内科医会



会長 濱田芳郎

海老名内科医会は会員数約20名で、会長 濱田芳郎，副会長 大澤正亨で運営しています。

会は糖尿病勉強会と講演会の主催，共催が中心です。講演会の多くが製薬会社との共催ですが，会員の意見を取り入れ，内容を工夫していきたいと考えています。

勉強会：

糖尿病勉強会 平成13年11月より隔月開催。会員医療機関の症例について講師が解説とアドバイスをします。

最近10年間の講演会（主催，共催）：

【平成19年度】

6月15日 「よくある症状に潜む思わぬ疾患」

11月19日 「内科医が知っておきたい耳鼻科感染症」

【平成20年度】

4月25日 「ジェネリック医薬品に関して」

5月22日 「外来診療と感染対策」

7月8日 「腰痛診断のこつ」

11月28日 「臨床研究結果をどう解釈するか」

【平成21年度】

6月18日 「ワーファリン療法 Update」

7月28日 「脱水症に対する経口補水療法の活用」

9月18日 「糖尿病性高血圧症におけるARBの使い方」

10月30日 「風邪の漢方治療について」

11月11日 「高齢者におけるうつ病の病態と治療について」

【平成22年度】

5月12日 「関節リウマチの診断と治療」

6月16日 「漢方基礎講座：下部消化管の漢方治療について」

6月23日 「消化器研修会」

7月23日 「糖尿病最新の治療」

9月8日 「BOTセミナー：インスリン治療のあれこれ」

10月6日 「糖尿病・メタボ健診と生活習慣病改善」

10月13日 「血糖管理の最近の話題と血圧管理の重要性」

10月20日 「上部消化管の漢方治療」

2月16日 「当院におけるジャヌビアの処方経験」

法」他

【平成23年度】

5月12日 「急性冠症候群の診断と治療」

7月22日 「糖尿病治療の新しい流れ」—CGMとインクレチン製剤の可能性を含めて—

9月13日 「脳卒中に対する抗血小板療法」—最近の話題から—

10月4日 「糖尿病患者における複合介入の重要性」

10月19日 「糖尿病治療におけるDPP4阻害薬のポジショニング」

10月28日 「最近の医事紛争をめぐる話題」

11月16日 「結核の現状と対策」

2月8日 「認知症を疑ったら」—鑑別すべき疾患は?—

3月26日 「内科医に知って頂きたい眼底所見」

【平成24年度】

4月10日 「インスリン導入患者への指導のコツ」

4月27日 「肺癌手術療法の最前線」

7月11日 「高血圧から慢性心不全— $\beta$ 遮断薬を使い分ける—

7月25日 「かかりつけ医におけるうつ病診断・治療の重要性」

11月14日 「DPP-4阻害薬の新たな知見と今後の展望」

12月12日 「痛風・高尿酸血症の診断と治療」

2月26日 「高血圧実地臨床の憂鬱」

【平成25年度】

5月29日 「治療抵抗性高血圧治療の新展開」

7月19日 「不眠症・睡眠障害の病態と治療」

11月8日 「動脈硬化性疾患への治療戦略」

11月11日 「ダビガトランの最新情報と安全な使用

【平成26年度】

7月14日 「慢性腎臓病患者の降圧治療による尿蛋白減少・腎機能改善の検証」

7月29日 「The Therapy Orchestra Hypertension—N型チャンネルのハーモニー—

11月21日 「内科医が知っておくべき、妊婦に対する処方箋」

2月18日 「心房細動の脳梗塞予防—NOAC大混戦時代の臨床現場の選択」他

3月5日 「メトホルミンの真の価値を再考する」

【平成27年度】

5月11日 「臨牀に役立つ成人喘息学—最新の話題から—

5月27日 「便秘治療の最新的话题—クロライドアクチベーターの使用経験」

7月13日 「日本人2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬の有効性と安全性」

10月9日 「認知症と運転免許—医師からの任意届出制度など—

2月24日 「糖尿病チーム医療を取り巻く最新トピックス」

【平成28年度】

4月26日 「痛みの薬物治療」

5月31日 「過活動膀胱治療の実際」

1月25日 「肺高血圧症の診断と治療」

2月18日 「第80回神奈川県内科医学会集談会」担当

3月8日 「糖尿病薬物治療の目指すこと」

3月28日 「日常診療で生かす3剤合剤」

## ■厚木内科医会



会長 林 正博

50周年記念誌の発行おめでとうございます。厚木からは平成20年度分より報告いたします。先生方の敬称を字数の関係から

省略させていただきましたので先にお詫び申し上げます。集談会等については内容が多くなります（一部はすでにご報告済です）ので、平成28年度以外は大部分省略させていただきます。

### 【平成20年度】

厚木内科医会会長木我修先生のもとに、厚木内科集談会他講演会が行われ、第5回厚木内科医学会が平成21年3月22日、ロワジールホテル厚木にて行われました。

### 【平成21年度】

今年度厚木内科医会会長は木我会長から間下信昭先生に交代となりました。厚木内科集談会が数回行われました。また第6回厚木内科医学会が平成22年2月28日、ロワジールホテル厚木にて開催され、内容は活発な討論のもとに下記のように行われました。

セッションA 1. 「Pill in the pocket approachにより1:1伝導の心房粗動に移行した発作性心房細動の一例」 厚木市立病院 循環器科宮崎秀和  
2. 「糖尿病患者への外来インスリン導入の実際—持効型インスリンを用いたBOT—」 本厚木メディカルクリニック院長 金重秀明 3. 「糖尿病看護外来の開設～療養指導の新たな展開を目指して～」 厚木市立病院 看護局 清水正子 座長 厚木内科医会副会長 林 正博  
セッションB 4. 「喘鳴を主訴に異物誤嚥後2週間経って来院した一例」 東名厚木病院呼吸器科 坂田公正 5. 「上腸管幕動脈症候群を契機に診断された膵癌の一例」 厚木市立病院山田尚基 座長 厚木医師会内科医会幹事

宮崎秀和 セッションC 6. 「厚木市T小学校のA型インフルエンザ感染状況について—わずか15日で83.9%が発症したクラス—」 林医院 林 正博  
7. 「在宅酸素療法に関する一私見」 和田医院 和田源司 座長 厚木内科医会副会長 関根富佐夫 特別講演 「消化管内視鏡機器の過去・現在・未来—在宅で内視鏡写真記録の夢—」 大阪医科大学名誉教授・埼玉医科大学元教授 勝 健一 座長 厚木内科医会会長 間下信昭 厚木内科医会副会長 青木一真

### 【平成22年度】

間下信昭会長の下で以下のような活動を行いました。

①129回内科集談会～136回まで8回の集談会 ②第7回厚木内科医学会 ③第2回市民医療フェスティバルにおいて、ミニレクチャー内科医会担当部門で4セッションの講演を行いました。 ④幹事会の開催年数回 ⑤県医師会への参加（幹事会、評議員会、研究会他）

#### 第2回市民医療フェスティバル

ミニレクチャー（内科医会担当部門

内科A第一クール

「不整脈と上手にお付き合いする方法」

宮崎秀和

内科A第二クール

「糖尿病にならないために」

間下信昭

内科B第一

「禁煙治療について」

笹生正人

内科B第二

「高血圧はなぜ怖い」

林 正博

第7回厚木内科医学会（敬称略）平成23年3月6日  
ロワジールホテル厚木

一般講演 セッションA

座長 笹生正人

1. 「インスリン強化療法中の2型糖尿病患者におけるピオグリタゾン併用効果」 金重英明
2. 「EPA/AAと魚摂取日数との関係」 林 正博
3. 「外科手術前における「超音波検査によるヒラ

メ筋静脈の特徴」 小島敦夫 木内清歌 山口哲司 日野浩司 齊藤文良 桐山誠一 間下信昭 中 佳一

一般講演 セッションB 座長 林 正博

4. 「他の医療機関で診断されなかった慢性片頭痛の2症例」 千葉康洋 近藤 脩

5. 「肺胞出血を伴った急性進行性糸球体腎炎の症例」 橋本ヒロコ 翁千香子 新城麻子 今井那美 岩崎哲良 川原洋輔 伊 秀一 伊藤周二 佐々木知也 山本裕康

一般講演 セッションC 座長 関根富佐夫

6. 「意識障害で発症したレジオネラ肺炎の1例」 木本幸祐 宮原佐弥 青木正哉 杉山茂樹 西尾陽一 鬼塚圭一郎 高橋 潔 吉川 広

7. 「非結核性抗酸菌症の検討」 和田源司

パネルディスカッション 司会 宮崎秀和

パネリスト 鳴井亮介 寺尾 亨 石井卓也

中川 望 小島淳夫

コメンテーター 青崎正彦

特別講演 座長 間下信昭

「大きな力を秘めた微小な細胞 — 血小板 —」  
筑波記念病院 長澤俊郎

#### 【平成23年度】

平成23年4月から厚木内科医会の会長は東名厚木病院元院長の間下信昭先生から林医院林正博に引き継ぎとなりました。厚木内科集談会は第137～144回まで8回行われました。

また、第75回神奈川内科医学会集談会の開催が第五地区厚木内科医会の担当となり、以下のメンバーにて平成24年2月18日 レンブラントホテル厚木にて執り行われました。

神奈川県内科医会中会長や関係者、第5地区各医師会の先生方からご助言やご協力によりまして厚木内科医会としては近年最大規模の医学会となりました。

実行委員会

会長：林 正博

副会長・実行委員長：中川 望

副会長・会計委員長：青木一真

実行委員顧問：間下信昭 笹生正人

実行委員：関根富佐夫、金重秀明、宮崎秀和、今岡千栄美、窪田隆治

第5地区の先生方の、大いなるご協力をえまして、一般演題発表33題を数え、埼玉医科大鈴木洋通教授の特別講演は基礎から積み上げた説得力のある御発表で大変好評なものでした。厚木で行われる内科の会といたしましては、多数の関係者の参加かつ多数の医師のご参加を得ました。関係者を含めると200名前後のかたに集談会へのご参加をいただきました。本来行う予定の第8回厚木内科医学会は勝手ながらこの神奈川県内科集談会に合同開催という形にさせていただきました。

③第3回市民医療フェスティバルにおいて、ミニレクチャー内科医会担当部門で2セッションの講演を行いました。④幹事会の開催年数回 ⑤県医師会への参加（幹事会、評議員会、研究会他）

#### 【平成24年度】

① 本年度は、145回～156回まで計11回の厚木内科集談会を行い

② 医学会（一般演題）方式はせずに、第9回厚木内科医学会に代わって、内科医会春季学術大会とし特別講演会（2演題）として、第156回厚木内科集談会春季特別大会・第29回整形外科医会講演会との共催としました。

演者 ○東海大内科教授 鈴木康夫先生 ○横浜市大内科教授 石ヶ坪良明先生

③ 第4回市民医療フェスティバルにおいて、ミニレクチャー内科医会担当部門で1セッションの講演を行いました。

④ 神奈川県内科医学会（中 会長）への参加 会長会 林、幹事会（中川）、評議員会、研究会他年数回

⑤ 本年の新年報告会・親睦会について平成25年2月14日 レンブラントホテル厚木にて行われました。

#### 【平成25年度】

- ① 本年度は、厚木内科集談会を157回～169回まで計13回と共催・後援講演会を3回行いました（内容省略）
- ② 講演会のうち一回は第10回厚木内科医学会を行いました。
- ③ 第5回市民医療フェスティバル（平成25年11月9日）において、ミニレクチャー内科医会担当部門での講演（担当 内山順造先生）
- ④ 県医師会への参加（幹事会、評議員会、研究会他）
- ⑤ 厚木内科医会世話人会・幹事会の開催年数回、また内科新年会（平成26年度報告会平成26年1月）親睦会 レンブラントホテル厚木にて行いました。

167回厚木内科集談会春季特別大会（第10回厚木内科医学会）平成26年2月22日 開会挨拶 林 正博 一般講演1）「非定型胸腺カルチノイドの一例」東名厚木病院 宮原佐弥 2）「介護保険に関する一私見」和田医院院長 和田源司 一般講演Ⅱ「2型糖尿病におけるテネグリプチンの使用経験」本厚木メディカルクリニック 金重秀明 座長 厚木内科医会顧問 間下信昭 特別講演「糖尿病患者の心血管イベント抑制のために 一最適なARB配合剤を考える」三重厚生連 厚生病院副院長 小嶋正義 座長 厚木内科医会顧問 富田公男 他講演会内容省略

#### 【平成26年度】

本年度は、厚木内科集談会を第170から182回まで、計13回行いました。

分野 糖尿病5 消化器2 心3 血圧腎1 メタボ尿酸1 アレルギー1 疼痛1でした。

- ④ 講演会のうち厚木内科集談会春季特別大会を第11回厚木内科医学会として行いました。
- ⑤ 第5回市民医療フェスティバルにおいて、ミニレクチャー内科医会担当部門での講演
- ⑥ 県医師会への参加（幹事会、評議員会、研究会他）
- ⑦ 厚木内科医会幹事会の開催年数回 また納涼会

レンブラントホテル厚木

日時：平成26年8月28日 議題：内科医会の昨年度の反省と今後について

第181回厚木内科集談会／春季特別大会（第11回厚木内科医学会）平成27年2月21日内容 「総司会」今岡医院 今岡千栄美 「開会のご挨拶」林正博 <一般講演Ⅰ>座長：厚木市立病院 循環器内科部長 八木秀憲 1）「長期観察された腎結石の一例」和田医院 院長 和田源司 2）「2型糖尿病患者におけるSGLT2の使用経験」本厚木メディカルクリニック 院長 金重秀明 <一般講演Ⅱ>座長：東名厚木病院院長 杉山茂樹 先生 1）「有癭性膿胸に対して気管支塞栓子（EWS）挿入が有効であった一例」医療法人社団藤和会厚木佐藤病院呼吸器科 佐藤史朋 2）「胃症状が全くなくてリスク検診・胃癌検診にて見つかった胃癌2症例」新井医院院長 新井裕二 3）「当院における560症例の胃炎内視鏡分類とピロリ菌除菌 FD治療成績について」南毛利内科 院長 内山順造 <特別講演>座長：はせべ内科医院 長谷部哲理 「迷える上部消化管疾患－見えてきた出口」川崎医科大学消化管内科学教授 春間 賢 「閉会のご挨拶」東名厚木メディカルサテライトクリニック院長 中川 望

#### 【平成27年度】

平成27年厚木内科医会は会員数64名で役員は次のような方々で構成されています。

厚木内科医会会長 林 正博 副会長 中川 望 青木一真 関根富佐夫

内科集談会世話人 会長、副会長、幹事、内山順造 他

幹事 新川恒夫 伊藤忠弘 笹生正人

今岡千恵美 金重秀明 窪田隆浩

顧問 中 佳一 植原 哲 高橋正年 間下信昭

木我 修

活動内容は①183回～191回まで内科集談会を9回、他共催講演会3回行いました。②第190回集談会春季特別大会と並行して第12回厚木内科医学会を

開催、③第2回市民医療フェスティバルにおいて、ミニレクチャー内科医会担当部門で講演（中川望先生 消化器健診の重要性）を行いました。④世話人会・幹事会の開催年数回 ⑤県医師会への参加（幹事会、評議員会、研究会他）

【平成28年度】

平成28年厚木内科医会は厚木内科医会副会長に内山順造先生をお迎えして副会長4名となりました。

活動内容は①192回～199回内科集談会を計8回、他共催講演会を4回行いました。②第198回集談会春季特別大会と並行して第13回厚木内科医学会を開催し、③第2回市民医療フェスティバルにおいて、ミニレクチャー内科医会担当部門で講演を行いました。④世話人会・幹事会の開催年数回 ⑤県医師会への参加（幹事会、評議員会、研究会他）

開催講演会 内科集談会は回数を表示し場所はレンブラントホテル厚木、敬称略

192回平成28年5月10日「内科医に知っていただきたい骨粗鬆症に対する治療の重要性」厚木市立病院整形外科部長 伊室 貴 骨粗鬆症

193回「食後高血糖も下げる糖尿病治療」北里大学医学部 内分泌代謝科准教授 高野幸路 座長 林正博

194回平成28年8月25日 SGLT2阻害薬を臨床でどう生かすか～ 基調講演 「老化からみた糖尿病の治療方策を考える」新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学分野 教授 南野 徹先生 Discussion 「SGLT2阻害薬を臨床でどう活かすか」コメンテーター南野徹 ディスカッサー窪田隆浩、林 正博

共催講演11回厚木糖尿病フォーラム平成28年9月23日 第59回日本糖尿病学会年次学術集会のトピックス 金重秀明 症例提示1 窪田隆浩 2 梅園朋也

195回、秦野伊勢原内科医会学術講演会（合同）座長 古木隆元（秦野駅南口診療所 所長／秦野伊勢原内科医会 会長） 国家公務員共済組合連 国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院 循環器内

科 部長 野末 剛 「脂質異常症のエゼチミブを用いた積極的脂質低下療法の臨床的意義 —インスリン抵抗性患者に対するエゼチミブの有用性—」医療フェスティバルのミニレクチャーは徳武 巖 演題 在宅医療を受けるには

第196回 平成28年11月10日 厚木市立病院整形外科部長 伊室 貴 「腰痛診療の実際 ～内科でみるポイント～」 座長 林 正博 エーザイ

共催講演 ファブリー病エリアフォーラムIN 西湘 「～あれ？その症状もしかしたら～平成28年12月1日レンブラント 当院で経験したファブリー病の3症例」

北里大学診療准教授 佐野 隆 座長 東海大学 准教授 和田健彦 「知ってますか？ERTによるマルベリー細胞・マルベリー小体の排出量及び形態変化」

東京女子医科大学中央検査部主任 横山 貴 座長 東海大学 佐野 司 「ファブリー病の診断と治療」 名古屋大学教授 丸山彰一 座長 東海大学教授 深川雅文

共催講演 12回厚木糖尿病フォーラム 平成29年1月24日 「自動視野計の有効な活用～糖尿病網膜症への応用～」 松倉修司 座長 金重秀明

197回 平成29年2月17日 「より良い喘息コントロールを目指して—最新の治療と残された課題—」 東海大学呼吸器内科教授 小林一郎 座長 馬上喜裕 閉会の辞 林 正博

198回厚木内科集談会・春季特別大会（第13回厚木内科医学会）総合司会今岡医院今岡千栄美 開会挨拶 林 正博 <一般講演I 1> 「VATS肺生検で診断がついた片側優位な通常型間質性肺炎（UIP）の一例」

医療法人社団藤和会厚木佐藤病院副院長 佐藤史朋 座長 東名厚木病院 杉山茂樹 一般II 2 「早期2重胃がんが同時発見された一症例」 林 正博 座長東名厚木病院消化器内科部長中野淳史 一般III 3 「当院における動脈硬化度検査（CAVI/MaxIMT）と動脈硬化因子との関連についての検討」

南毛利内科院長 内山順造 座長 厚木循環器・内科クリニック 吉川 広 一般演題IV 4 「インスリン療法施行中の2型糖尿病患者における自己注射の実施について」 うめぞ

科 部長 野末 剛 「脂質異常症のエゼチミブを用いた積極的脂質低下療法の臨床的意義 —インスリン抵抗性患者に対するエゼチミブの有用性—」医療フェスティバルのミニレクチャーは徳武 巖 演題 在宅医療を受けるには

第196回 平成28年11月10日 厚木市立病院整形外科部長 伊室 貴 「腰痛診療の実際 ～内科でみるポイント～」 座長 林 正博 エーザイ

共催講演 ファブリー病エリアフォーラムIN 西湘 「～あれ？その症状もしかしたら～平成28年12月1日レンブラント 当院で経験したファブリー病の3症例」



の内科クリニック院長 梅園朋也 5)「2型糖尿病におけるCペプチドインデックスによるベータ細胞機能の評価と活用」本厚木メディカルクリニック院長 金重秀明 座長 間下信昭 特別講演「心臓性脳塞栓症の現状と課題～超高齢社会を見据えて～」東京済生会中央病院内科・神経内科部長・脳卒中センター長 星野晴彦 厚木市立病院循環器内科部長 八木秀憲 閉会の挨拶 中川 望 共催講演会 28回厚木循環器研究会平成29年3月2日 レンブラントホテル厚木 講演1「循環器疾患患者における睡眠薬の有用性の検討」海老名 綾

合病院心臓血管外科 中島光貴 講演2「TAVI 始まりました」東海大学 村上 力 座長 吉川 広 特別講演「重症虚血性心筋症に対する非移植手術の長期遠隔成績検討－左室形成術の適応と限界－」東海大学教授 長 泰則 座長 贄 正基 閉会の辞 吉川 広

199回 平成29年3月15日「過活動膀胱ガイドライン～一般医科向けアルゴリズムについて～」東邦大学医療センター泌尿器科教授 関戸哲利 座長 林 正博



[平成19・20年度] 神奈川県内科医学会幹事会名簿

(順不同)

- 会 長 中山 脩郎 (港南区)  
 副会長 中 佳一 (厚木市)  
 三川 武彦 (川崎市)  
 宮川 政昭 (保土ヶ谷区)  
 寺内 康夫 (横浜市大)  
 監 事 福島 芳彦 (川崎市)  
 関沢 英一 (横須賀市)

第1地区 (横浜市)

- 小野 容明 (神奈川区)  
 岡 正直 (港南区)  
 北田 守 (港北区)  
 伊藤 正吾 (都筑区)  
 丹羽 義和 (神奈川区)

第2地区 (川崎市)

- 廣津 伸夫 (高津区)  
 羽鳥 裕 (幸 区)  
 鶴谷 孝 (高津区)

第3地区 (横須賀市・三浦市、逗葉、鎌倉市)

- 三浦溥太郎 (横須賀市)  
 伊東 高仁 (逗 葉)  
 正山 堯 (鎌倉市)

第4地区 (藤沢市、茅ヶ崎、平塚市、中郡、小田原、  
足柄上、秦野伊勢原)

- 山田 峰彦 (藤沢市)  
 関本 健人 (藤沢市)

- 高橋 功 (茅ヶ崎市)  
 梶原 光令 (平塚市)  
 定本 貴明 (中 郡)  
 遠藤 茂通 (小田原)  
 大和 昌久 (足柄上)  
 須藤 宣弘 (秦・伊)

第5地区 (相模原市、津久井郡、大和市、座間綾瀬、  
海老名市、厚木市)

- 山本 晴章 (相模原市)  
 中川 潤一 (津久井郡)  
 前川 公男 (大和市)  
 菅原 悌三 (座間綾瀬)  
 濱田 芳郎 (海老名市)  
 木我 修 (厚木市)

四大学

- 石ヶ坪良明 (横浜市立大学医学部)  
 東原 正明 (北里大学医学部)  
 三宅 良彦 (聖マリアンナ医科大学)  
 吉井 文均 (東海大学医学部)

会長指名

第1地区

- 川口 隆 (瀬谷区)  
 渡部 廣行 (西 区)  
 南澤 康介 (港北区)  
 鶴養 宏 (南 区)  
 長谷川 修 (南 区)  
 三谷 和彦 (泉 区)  
 多羅尾和郎 (旭 区)

第2地区

松葉 育郎 (幸 区)  
 小花 光夫 (中原区)  
 鎌田 正広 (宮前区)  
 小林 明文 (麻生区)

第3地区

南 信明 (横須賀市)  
 千場 純 (横須賀市)

第4地区

高岸 泰 (藤沢市)  
 長谷 章 (藤沢市)  
 武田 浩 (秦・伊)  
 古木 隆元 (秦・伊)

第5地区

小林 一雄 (相模原市)  
 佐藤聡一郎 (相模原市)  
 石垣十一郎 (大和市)

[平成21・22年度] 神奈川県内科医学会幹事会名簿

(順不同)

会 長 中 佳一 (厚木)  
 副会長 宮川 政昭 (保土ヶ谷区)  
 三川 武彦 (中原区)  
 南 信明 (横須賀市)  
 梶原 光令 (平塚市)  
 山本 晴章 (相模原市)  
 寺内 康夫 (横浜市大)  
 監 事 福島 芳彦 (宮前区)  
 遠藤 茂通 (小田原)  
 名誉会長 中山 脩郎 (港南区)

第1地区 (横浜市)

小野 容明 (神奈川区)  
 岡 正直 (港南区)  
 北田 守 (港北区)  
 伊藤 正吾 (都筑区)  
 渡部 廣行 (西 区)

第2地区 (川崎市)

羽鳥 裕 (幸 区)

宮島 真之 (川崎区)  
 鶴谷 孝 (高津区)

第3地区 (横須賀市・三浦市、逗葉、鎌倉市)

沼田 裕一 (横須賀市)  
 水嶋 雅子 (逗 葉)  
 正山 堯 (鎌倉市)

第4地区 (藤沢市、茅ヶ崎、平塚市、中郡、小田原、足柄上、秦野伊勢原)

西郡 克郎 (藤沢市)  
 宮本 京 (藤沢市)  
 高橋 功 (茅ヶ崎)  
 岡村 雅生 (平塚市)  
 定本 貴明 (中 郡)  
 井野元 勤 (小田原)  
 大和 昌久 (足柄上)  
 武田 浩 (秦・伊)

第5地区 (相模原市、大和市、座間綾瀬、海老名市、厚木)

小林 一雄 (相模原市)  
 前川 公男 (大和市)  
 菅原 悌三 (座間綾瀬)  
 濱田 芳郎 (海老名市)  
 間下 信昭 (厚 木)

四大学

石ヶ坪良明 (横浜市立大学医学部)  
 東原 正明 (北里大学医学部)  
 長谷川泰弘 (聖マリアンナ医科大学)  
 吉井 文均 (東海大学医学部)

会長指名

第1地区

多羅尾和郎 (旭 区)

第2地区

松葉 育郎 (幸 区)  
 小林 明文 (麻生区)  
 詫摩 哲郎 (幸 区)  
 岡野 公一 (多摩区)

第4地区

高岸 泰 (藤沢市)  
 長谷 章 (藤沢市)

西川 正憲 (藤沢市)

佐藤 和義 (平塚市)

古木 隆元 (秦・伊)

第5地区

中川 望 (厚木)

〔平成21・22年度〕神奈川県内科医学会常任幹事会名簿

(順不同)

会 長 中 佳一 (厚木)  
 副会長 宮川 政昭 (保土ヶ谷区)  
 三川 武彦 (中原区)  
 南 信明 (横須賀市)  
 梶原 光令 (平塚市)  
 山本 晴章 (相模原市)  
 寺内 康夫 (横浜市大)  
 監 事 福島 芳彦 (宮前区)  
 遠藤 茂通 (小田原)  
 名誉会長 中山 脩郎 (港南区)

第1地区 (横浜市)

小野 容明 (神奈川区)  
 岡 正直 (港南区)  
 北田 守 (港北区)  
 伊藤 正吾 (都筑区)  
 渡部 廣行 (西区)

第2地区 (川崎市)

羽鳥 裕 (幸区)  
 宮島 真之 (川崎区)  
 鶴谷 孝 (高津区)

第3地区 (横須賀市・三浦市、逗葉、鎌倉市)

沼田 裕一 (横須賀市)  
 水嶋 雅子 (逗葉)  
 正山 堯 (鎌倉市)

第4地区 (藤沢市、茅ヶ崎、平塚市、中郡、小田原、

足柄上、秦野伊勢原)

西郡 克郎 (藤沢市)  
 井野元 勤 (小田原)  
 武田 浩 (秦・伊)

第5地区 (相模原市、大和市、座間綾瀬、海老名市、厚木)

前川 公男 (大和市)  
 菅原 悌三 (座間綾瀬)  
 濱田 芳郎 (海老名市)

会長指名

第2地区

松葉 育郎 (幸区)  
 小林 明文 (麻生区)

〔平成23・24年度〕神奈川県内科医学会幹事会名簿

(順不同)

会 長 中 佳一 (厚木)  
 副会長 宮川 政昭 (保土ヶ谷区)  
 羽鳥 裕 (幸区)  
 沼田 裕一 (横須賀市)  
 梶原 光令 (平塚市)  
 山本 晴章 (相模原市)  
 高木 敦司 (東海大)  
 監 事 福島 芳彦 (宮前区)  
 遠藤 茂通 (小田原)  
 名誉会長 中山 脩郎 (港南区)

第1地区 (横浜市)

小野 容明 (神奈川区)  
 岡 正直 (港南区)  
 北田 守 (港北区)  
 伊藤 正吾 (都筑区)  
 渡部 廣行 (西区)

第2地区 (川崎市)

宮島 真之 (川崎区)  
 鶴谷 孝 (高津区)  
 小林 明文 (麻生区)

第3地区 (横須賀市・三浦市、逗葉、鎌倉市)

桑原 幹夫 (横須賀市)  
 水嶋 雅子 (逗葉)  
 正山 堯 (鎌倉市)

第4地区 (藤沢市、茅ヶ崎、平塚市、中郡、小田原、

足柄上、秦野伊勢原)

西郡 克郎 (藤沢市)  
 宮本 京 (藤沢市)  
 高橋 功 (茅ヶ崎)  
 佐藤 和義 (平塚市)  
 定本 貴明 (中 郡)  
 井野元 勤 (小田原)  
 鈴木 哲 (足柄上)  
 武田 浩 (秦・伊)

第5地区 (相模原市、大和市、座間綾瀬、海老名市、厚木)

小林 一雄 (相模原市)  
 金森 晃 (相模原市)  
 前川 公男 (大和市)  
 紀 孝 (座間綾瀬)  
 濱田 芳郎 (海老名市)  
 中川 望 (厚 木)

四大学

石ヶ坪良明 (横浜市立大学医学部)  
 益田 典幸 (北里大学医学部)  
 宮澤 輝臣 (聖マリアンナ医科大学)  
 深川 雅史 (東海大学医学部)

会長指名

第2地区

松葉 育郎 (幸 区)

第4地区

長谷 章 (藤沢市)

[平成25・26年度] 神奈川県内科医学会幹事会名簿

(順不同)

会 長 中 佳一 (厚木)  
 副会長 宮川 政昭 (保土ヶ谷区)  
 羽鳥 裕 (幸区)  
 沼田 裕一 (横須賀市)  
 梶原 光令 (平塚市)  
 山本 晴章 (相模原市)  
 高木 敦司 (東海大)  
 監 事 遠藤 茂通 (小田原)

中島 一巳 (中原区)

名誉会長 中山 脩郎 (港南区)  
 参 与 寺内 康夫 (横浜市大)  
 南 信明 (横須賀市)

第1地区 (横浜市)

永井 一毅 (磯子区)  
 小野 容明 (神奈川区)  
 岡 正直 (港南区)  
 伊藤 正吾 (都筑区)  
 渡部 廣行 (西 区)

第2地区 (川崎市)

宮島 真之 (川崎区)  
 鶴谷 孝 (高津区)  
 小林 明文 (麻生区)

第3地区 (横須賀市・三浦市、逗葉、鎌倉市)

野村 良彦 (横須賀市)  
 田嶋 博雄 (逗 葉)  
 正山 堯 (鎌倉市)

第4地区 (藤沢市、茅ヶ崎、平塚市、中郡、小田原、足柄上、秦野伊勢原)

西郡 克郎 (藤沢市)  
 宮本 京 (藤沢市)  
 原 芳邦 (茅ヶ崎)  
 佐藤 和義 (平塚市)  
 齋藤 達也 (中 郡)  
 羽鳥 信郎 (小田原)  
 鈴木 哲 (足柄上)  
 武田 浩 (秦・伊)

第5地区 (相模原市、大和市、座間綾瀬、海老名市、厚木)

金森 晃 (相模原市)  
 小林 一雄 (相模原市)  
 前川 公男 (大和市)  
 紀 孝 (座間綾瀬)  
 濱田 芳郎 (海老名市)  
 中川 望 (厚 木)

四大学

石ヶ坪良明 (横浜市立大学医学部)

益田 典幸 (北里大学医学部)  
尾崎 承一 (聖マリアンナ医科大学)  
浅野浩一郎 (東海大学医学部)

会長指名

第1地区

井野元 勤 (保土ヶ谷区)

部会長

武田 浩 (総務部会)  
岡 正直 (学術Ⅰ部会)  
宮川 政昭 (学術Ⅱ部会)  
羽鳥 裕 (社会公益部会)  
宮島 真之 (情報・広報部会)  
小林 明文 (保険・制度部会)

委員長

松葉 育郎 (糖尿病対策委員会)  
岡 正直 (肝炎対策委員会)  
渡部 廣行 (認知症対策委員会)  
佐藤 和義 (高血圧・腎疾患対策委員会)  
西川 正憲 (呼吸器疾患対策委員会)  
長谷 章 (禁煙・分煙推進委員会)  
湯浅 章平 (ジェネリック問題対策委員会)  
久保田 毅 (在宅医療委員会)  
中山 脩郎 (シニア委員会)  
國島 友之 (心臓血管病対策委員会)

〔平成27・28年度〕神奈川県内科医学会役員名簿

(順不同)

会 長 宮川 政昭 (保土ヶ谷区)  
副会長 小野 容明 (神奈川区)  
出川 寿一 (宮前区)  
沼田 裕一 (横須賀市)  
代行：岩澤 孝昌  
武田 浩 (秦野伊勢原)  
金森 晃 (相模原市)  
山本 晴章 (特任・相模原市)  
松田 隆秀  
(大学・聖マリアンナ医科大学)

監 事 正山 堯 (鎌倉市)  
梶原 光令 (平塚市)  
名誉会長 中山 脩郎 (港南区)  
中 佳一 (厚 木)  
特別幹事 羽鳥 裕 (幸 区)

幹事 第1地区 (横浜市)

永井 一毅 (磯子区)  
岡 正直 (港南区)  
田口 博基 (港南区)  
渡部 廣行 (西 区)

第2地区 (川崎市)

柁原 啓一 (幸 区)  
堺 浩之 (中原区)  
國島 友之 (高津区)

第3地区 (横須賀市・三浦市、逗葉、鎌倉市)

野村 良彦 (横須賀市)  
田嶋 博雄 (逗 葉)  
正山 堯 (鎌倉市)

第4地区 (藤沢市、茅ヶ崎、平塚市、中郡、小田原、足柄上、秦野伊勢原)

宮本 京 (藤沢市)  
小林 邦芳 (藤沢市)  
原 芳邦 (茅ヶ崎)  
佐藤 和義 (平塚市)  
齋藤 達也 (中 郡)  
羽鳥 信郎 (小田原)  
鈴木 哲 (足柄上)  
古木 隆元 (秦野伊勢原)

第5地区 (相模原市、大和市、座間綾瀬、海老名市、厚木)

高田 信和 (相模原市)  
小林 一雄 (相模原市)  
前川 公男 (大和市)  
紀 孝 (座間綾瀬)  
濱田 芳郎 (海老名市)  
中川 望 (厚 木)

四大学医学部

前田 慎 (横浜市立大学医学部)  
三浦偉久男 (聖マリアンナ医科大学)

浅野浩一郎（東海大学医学部）

西山 和利（北里大学医学部）

#### 会長指名

井野元 勤（第1地区・青葉区）

宮島 真之（第2地区・川崎区）

菅原 悌三（第5地区・座間綾瀬）

林 正博（第5地区・厚 木）

長谷川 修

（第1地区・横浜市立大学医学部）

相川 真吾（第1地区・都筑区）

荏原 太（第1地区・港北区）

武岡 裕文（第1地区・瀬谷区）

#### 部会長

岡 正直（総務企画部会）

井野元 勤（財務部会）

宮島 真之（情報広報部会）

小林 明文（保険制度部会）

松葉 育郎（学術部会）

#### 委員長

松葉 育郎（糖尿病対策委員会）

岡 正直（肝炎対策委員会）

渡部 廣行（認知症対策委員会）

佐藤 和義（高血圧・腎疾患対策委員会）

西川 正憲（呼吸器疾患対策委員会）

長谷 章（禁煙・分煙推進委員会）

湯浅 章平（医薬品評価検討委員会）

久保田 毅（在宅医療委員会）

中山 脩郎（健康長寿社会を目指す委員会）

國島 友之（心臓血管病対策委員会）

松澤 陽子

（メディカルコミュニケーション委員会）



【平成19年度】

表彰

感謝状贈呈 北里大学医学部神経内科学  
大和市内科医会

表彰状贈呈 第1地区 小野 容明 (神奈川県)

川口 隆 (瀬谷区)

伊藤 誠司 (西区)

第2地区 鎌田 正広 (川崎市)

第3地区 船山 道敏 (横須賀市)

伊東 高仁 (逗葉)

倉岡 東一 (鎌倉市)

志村 耕一 (鎌倉市)

第4地区 石原 宏尚 (藤沢市)

加藤 浩平 (茅ヶ崎市)

荒井 潔 (平塚市)

小林 功 (小田原市)

第5地区 家本 武 (大和市)

降矢 和夫 (座間綾瀬)

感謝状贈呈 梅村 敏

【平成20年度】

表彰

感謝状贈呈 東海大学医学部神経内科学  
横浜内科学会

表彰状贈呈 第1地区 長谷川 修 (大学区)

森 壽生 (西区)

第2地区 西脇 博一 (川崎市)

小花 光夫 (川崎市)

第3地区 山下 隆司 (横須賀市)

楠本 保 (鎌倉市)

湯浅 章平 (鎌倉市)

第4地区 宮本 京 (藤沢市)

常田 康夫 (藤沢市)

佐生 隆 (平塚市)

白井 健 (小田原市)

須藤 宣弘 (秦野伊勢原)

第5地区 金森 晃 (相模原市)

紀 孝 (座間綾瀬)

新川 恒夫 (厚木)

窪田 隆浩 (厚木)

間下 信昭 (厚木)

芳沢 国芳 (大和市)

【平成21年度】

表彰

感謝状贈呈 横浜市立大学医学部  
川崎市内科医会

表彰状贈呈 第1地区 江口 一彦 (栄区)

北田 守 (港北区)

第2地区 宮島 真之 (川崎区)

第3地区 山形寿太郎 (横須賀市)

第4地区 関本 健人 (藤沢市)

宮川千鶴子 (藤沢市)

遠藤 茂通 (小田原市)

武尾 宏 (小田原市)

第5地区 小林 逸郎 (相模原市)

中川 潤一 (相模原市)

廣井 基祥 (座間綾瀬)



菊田 稔 (大和市)

特別功労賞 那須 義篤 (平塚市)

【平成22年度】

表彰

感謝状贈呈 聖マリアンナ医科大学  
横須賀内科医会

表彰状贈呈 第1地区 今井 健郎 (磯子区)  
第2地区 小林 明文 (麻生区)  
第3地区 千場 純 (横須賀市)  
高橋 裕 (鎌倉市)  
陣野 和彦 (鎌倉市)  
第4地区 姫野 秀朗 (藤沢市)  
西郡 克郎 (藤沢市)  
原田 一彦 (茅ヶ崎)  
井野元 勤 (小田原)  
第5地区 青山 宏太 (相模原市)  
宮下 博至 (大和市)

【平成23年度】

表彰

感謝状贈呈 北里大学医学部  
秦野伊勢原医師会内科医会

表彰状贈呈 第2地区 鶴谷 孝 (高津区)  
宮川 弘一 (高津区)  
第3地区 桑原 幹夫 (横須賀市)  
山本 勇 (逗 葉)  
倉岡 隆 (鎌倉市)  
志村 純一 (鎌倉市)  
第4地区 西川 正憲 (藤沢市)  
山本 紀章 (藤沢市)  
高橋 克孝 (平塚市)  
佐藤 和義 (平塚市)  
邊 清治 (小田原)  
第5地区 山本 顕 (相模原市)  
竹村 克二 (相模原市)  
今西 耕一 (大和市)

【平成24年度】

表彰

感謝状贈呈 東海大学医学部  
厚木内科医会

表彰状贈呈 第1地区 渡部 廣行 (西 区)  
第2地区 中島 一巳 (中原区)  
柘原 啓一 (幸 区)  
第3地区 工藤 澄彦 (横須賀市)  
花岡 正人 (鎌倉市)  
第4地区 山田 峰彦 (藤沢市)  
長谷 章 (藤沢市)  
笹井 信夫 (茅ヶ崎)  
第5地区 本宮 哲也 (相模原市)  
竹内 安彦 (大和市)

【平成25年度】

表彰

感謝状贈呈 横浜市立大学医学部  
横浜内科学会

表彰状贈呈 第1地区 丹羽 義和 (横浜市)  
第2地区 出川 寿一 (川崎市)  
宇藤 浩 (川崎市)  
堺 浩之 (川崎市)  
第3地区 松岡 幹雄 (横須賀市)  
山口 泰 (鎌倉市)  
豊田 悟 (鎌倉市)  
第4地区 星野 和彦 (藤沢市)  
白木 桃子 (藤沢市)  
山岡 博之 (茅ヶ崎)  
高山 秀明 (平塚市)  
久保田 毅 (平塚市)  
羽鳥 信郎 (小田原)  
第5地区 平松 慎右 (相模原市)  
鈴木 研欽 (相模原市)  
小柳 朝明 (大和市)

第76回集談会優秀演題表彰

タグチクリニック 田口 博基  
永井医院 永井 一毅

【平成26年度】

表彰

感謝状贈呈 聖マリアンナ医科大学  
川崎市内科医会

表彰状贈呈 第1地区 三谷 和彦 (横浜市)  
第2地区 宍戸 寛治 (川崎市)  
竹中希久夫 (川崎市)  
古河 哲哉 (川崎市)  
第3地区 塚本 光嘉 (横須賀市)  
第4地区 高岸 泰 (藤沢市)  
三輪 正彦 (茅ヶ崎)  
坪井 秀夫 (平塚市)  
浜野 均 (平塚市)  
武井 和夫 (小田原)  
第5地区 土橋 健 (相模原市)  
小林 一雄 (相模原市)  
小林 直之 (座間綾瀬)  
的場 清和 (海老名)  
間下 信昭 (厚 木)

第77回集談会優秀演題表彰

高山クリニック 高山 鉄郎  
横須賀市内科医会 岩澤 孝昌

【平成27年度】

表 彰

感謝状贈呈 北里大学  
横須賀内科医会

表彰状贈呈 第1地区 永井 一毅 (磯子区)  
山本 正博 (磯子区)  
川口 浩人 (瀬谷区)  
第2地区 小幡 純一 (麻生区)  
詫摩 哲郎 (幸 区)  
第3地区 岩澤 孝昌 (横須賀市)  
千葉 昌宏 (鎌倉市)  
第4地区 山口 邦彦 (藤沢市)  
和田 栄 (茅ヶ崎)

武田 浩 (秦野伊勢原)

齋藤 達也 (中 郡)

鈴木 哲 (足柄上)

小澤 優樹 (小田原)

第5地区 高田 信和 (相模原市)

梅澤 慎一 (相模原市)

中川 望 (厚 木)

第78回集談会優秀演題表彰

横須賀市立うわまち病院

荻田 博朗 他

育生会横浜病院 井野元 勤

【平成28年度】

表 彰

感謝状贈呈 東海大学  
小田原内科医会  
足柄上内科医会

表彰状贈呈 第1地区 皆川 冬樹 (栄 区)

第2地区 渡邊 嘉行 (川崎区)

國島 友之 (高津区)

第3地区 酒井 太郎 (鎌倉市)

芹川 直行 (三浦市)

第4地区 石川 範和 (藤沢市)

岩瀬 滋 (藤沢市)

大木 教久 (茅ヶ崎)

荒川 宏 (小田原)

岡部 元彦 (足柄上)

第5地区 森田有紀子 (相模原市)

佐藤聡一郎 (相模原市)

陳 勁一 (相模原市)

笹井 巧 (大和市)

三宅 雅治 (海老名)

第79回集談会優秀演題表彰

鈴木医院 鈴木 哲

小田原市立病院 柿崎 良太 他

# 神奈川県内科医学会会則

## 第1章 総則

第1条 本会は、神奈川県内科医学会と称する。

- 2 本会の事務所を横浜市中区富士見町3-1神奈川県総合医療会館内に置く。
- 3 本会は、会則第3条に定める会員をもって組織する。また、県下を5地区に区分する。

## 第2章 目的及び事業

第2条 本会は、神奈川県医師会・神奈川県分科会・日本内科学会・日本臨床内科医会と緊密な連携を保ちながら、会員の学識技能の向上と相互の親睦を図り社会福祉に寄与することを目的として、次の事業を行う。

- 1 内科学に関する研究会および講演会ならびに講習会等の開催
- 2 内科学に関する調査研究
- 3 地域保健活動の啓発ならびに指導
- 4 社会保険医療の向上に関する事項
- 5 他の関係諸団体、関係官庁ならびに諸団体への協力と連携
- 6 会員相互の親睦
- 7 その他目的達成上必要な事項

## 第3章 会員

第3条 会員は、神奈川県内に開業・勤務し、主として内科を標榜する者で、神奈川県医師会員であること。但し、入会を希望する者が、神奈川県医師会非会員である場合は、施設の管理者が神奈川

県医師会員であること。

第4条 会員は医療機関開設者の所在する郡市医師会内科医会を主として登録するが、他の郡市医師会内科医会への同時入会も妨げない。

2 本会は以下の会員をもって組織する。

- (イ) 個人会員 神奈川県内の郡市医師会内科医会に所属する者で、本会の目的に賛同して入会した者
- (ロ) 病院会員 神奈川県内の郡市医師会内科医会に所属する病院で、本会の目的に賛同して入会した病院
- (ハ) 大学Ⅰ会員 横浜市立大学、聖マリアンナ医科大学、北里大学、東海大学
- (ニ) 大学Ⅱ会員 前記以外の大学
- (ホ) 協賛会員 本会の目的に賛同し、その事業を援助する者または団体

なお、大学Ⅰ・Ⅱ会員の大学病院・附属病院は、各大学会員に含まれるものとする。

- 3 会員は医の倫理を尊重し、社会の尊敬と信頼を得ることに努めなければならない。
- 4 会員は、本会の規則および決議を尊重し、会の団結を図り、その目的達成に協力しなければならない。

第5条 入会希望者は、別に定めた入会申込書を郡市医師会ないし、郡市医師会内科医会に提出し、幹事会または常任幹事会の承認を経て会員となるものとする。

第6条 会員が所定の会費および負担金を2カ年以上未納の場合は退会させることができる。

第7条 会員は本会がおこなう研究会、講演会、講習等に参加することができる。

2 会員は本会が発行する印刷物、図書等の配布を受けることができる。

なお、病院会員においては1施設、原則3部ずつ配布とする。

第8条 会員は次の項目によって資格を喪失する。

(1) 退会または第6条に該当する場合

(2) 死亡

(3) 除名

第9条 会長は会員が次の各項の一に該当するとき、別に定める手続きを経て戒告或いは除名することができる。

(1) 会員としての義務を怠ったとき

(2) 本会の名誉を傷つけたとき

第10条 本会に対し著しく貢献したと認められる者を表彰することができる。

#### 第4章 役員・名誉会長・参与

第11条 本会に次の役員をおく。(1) 会長1名、副会長若干名 (2) 幹事(常任幹事を含む)若干名 (3) 監事2名 (4) 評議員若干名

第12条 本会に名誉会長をおくことができる。

2 名誉会長は、全ての会議に出席して意見を述べることができる。

第13条 役員、名誉会長の選出は別に定める施行細則による。

第14条 会長は、この会を代表し、会務を総理する。

副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

幹事および常任幹事は、会長の旨を受けて、業務を分掌する。監事は会計監査をおこなう。

第15条 役員の任期は2年とする。但し同じ役職に重任することを妨げない。

第16条 役員に欠員を生じた時は、一年以内に補充するものとする。補欠により就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第17条 役員は、その任期が満了したのちでも後任者が就任するまではその職務をおこなう。

第18条 本会に参与をおくことができる。

3 参与は、会長が推薦し、常任幹事会の承認を経て委嘱される。

4 参与の任期は、役員の任期と同じとする。

5 参与は、本会の幹事会、常任幹事会に出席して意見をのべることができるが、票決に加わることはできない。

#### 第5章 部会・委員会

第19条 本会に部会ならびに委員会をおくことができる。

2 部会、委員会は施行細則に定める活動を行う。

3 部員、委員は、会長が幹事会または常任幹事会の議を経て委嘱する。

#### 第6章 評議員会

第20条 本会に評議員を置き、評議員会を組織する。

第21条 評議員は会務を審議し、または会の目的について会長に意見を述べるすることができる。

第22条 評議員会は、総会前と必要に応じて会長が招集する。

第23条 評議員会の議長・期日は、評議員会において選出する。

第24条 評議員会の承認および決議は出席者の多数決による。可否同数の場合は、議長がこれを決める。

#### 第7章 総会

第25条 総会は定時総会、臨時総会とする。

2 定時総会は毎年5月に会長が招集する。

但し会長は都合により開期を変更することができる。

3 臨時総会は、会長が必要と認めたときに招集することができる。

第26条 会長は、幹事または会員現在数の3分の2以上から会議に付議すべき事項を示して、臨時総会の招集を請求された場合には、要請を受理した日から30日以内にこれを招集しなければならない。

第27条 総会の議長は総会において選出する。

第28条 総会の招集は10日以前にその会議に付議すべき事項、日時および場所を会員に通知しなければならない。ただし、会長が緊急と判断した場合はこの限りでない。

第29条 総会における決議、承認事項は以下のとおりとする。

- (1) 会則および施行細則の変更
- (2) 事業計画および収支予算
- (3) 事業報告および収支決算
- (4) 会費の賦課および負担金の決定ならびに徴収方法
- (5) その他幹事会、常任幹事会において必要と認められた事項

第30条 総会における決議、承認事項は事前に評議員会の承認を得るものとする。

第31条 総会の承認および決議は出席者の多数決による。可否同数の場合は、議長がこれを決める。

2 会則の変更は出席者の3分の2以上の同意を要する。

第32条 会長は、総会で議決または承認した事項を速かに会員に知らせなければならない。

## 第8章 会議

第33条 幹事会は、会長、副会長、監事、名誉会長、幹事、各部会部長、各委員会委員長をもって構成し、常任幹事会は、会長、副会長、監事、名誉会長、参与、常任幹事、部会部長、委員会委員長をもって構成する。

2 常任幹事会は、原則として1カ月に1回、幹事会は原則として年2回、会長が招集する。

第34条 幹事会、常任幹事会は、会務を処理し、会長が招集する。

- 1 幹事会、常任幹事会の日程及び司会・書記は、総務企画部会において調整する。
- 2 幹事の過半数から幹事会招集の請求があったときは、会長は、すみやかにこれを招集しなければならない。
- 3 幹事会及び常任幹事会は、過半数の出席をもって成立し、議決は出席数の過半数をもっておこな

う。

第35条 次の事項は、幹事会の決議を経なければならない。

- 2 総会の招集およびこれに提出すべき事項
- 3 その他、会務運営に関する事項

第36条 会長、副会長会は必要に応じ会長が招集する。

2 地区郡市内科医会代表者会を必要に応じ会長が招集する。

第37条 監事は幹事会、常任幹事会に出席して意見を述べることができる。但し、票決に加わることはできない。

## 第9章 会計及び資産

第38条 本会の資産は次の通りとする。

- (1) 会費
- (2) 各種補助金
- (3) 寄付金品
- (4) その他の収入

第39条 本会の収支予算は会長が編成し、幹事会、評議員会を経て総会の承認を受けなければならない。

第40条 本会の収支決算は、監事の監査報告を付し、幹事会、評議員会の議を経て総会の承認を得るものとする。

第41条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 補則

第42条 この会則施行についての細則は幹事会及び評議員会、総会の議決を経て別に定める。

2 本会の運営に関し、必要な規定は幹事会の議を経て会長がこれを決める。

## 附則

第43条 本会則は、平成12年5月27日より施行する。昭和54年4月22日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第44条 本会則は、平成15年5月17日より施行す

る。平成12年5月27日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第45条 本会則は、平成16年5月22日より施行する。平成15年5月17日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第46条 本会則は、平成19年5月19日より施行する。平成16年5月22日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第47条 本会則は、平成20年5月17日より施行する。平成19年5月19日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第48条 本会則は、平成21年5月16日より施行する。平成20年5月17日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第49条 本会則は、平成22年5月15日より施行す

る。平成21年5月16日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第50条 本会則は、平成23年5月14日より施行する。平成22年5月15日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第51条 本会則は、平成24年5月19日より施行する。平成23年5月14日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第52条 本会則は、平成25年5月25日より施行する。平成24年5月19日に施行した会則は同日を持って廃止する。

第53条 本会則は、平成29年5月20日より施行する。平成25年5月25日に施行した会則は同日を持って廃止する。

# 神奈川県内科医学会会則施行細則

## 一、地区規定

会則第1条3項により以下の地区の会員で区分する。

- (第1地区) 横浜内科学会
- (第2地区) 川崎市内科医会
- (第3地区) 横須賀・三浦内科医会、逗葉内科医会、鎌倉市医師会内科医会
- (第4地区) 藤沢市内科医会、平塚市医師会内科部会、小田原内科医会、足柄上内科医会、茅ヶ崎医師会内科医会、秦野伊勢原医師会内科医会、中郡医師会内科医会
- (第5地区) 相模原市内科医会、座間綾瀬医師会内科医会、厚木内科医会、大和市医師会内科医会、海老名内科医会

## 二、学術講演会規定

第1条 会則第2条により、以下の学術講演会を主催する。

- イ 定時総会時学術講演会
- ロ 臨床医学研修講座
- ハ 秋季学術大会
- ニ 新年学術大会
- ホ 集談会
- ヘ その他部会、委員会担当の講演会

第2条 定時総会時学術講演会は、総務企画部会が企画・運営する。

第3条 臨床医学研修講座は、4大学（横浜市立大学、聖マリアンナ医科大学、北里大学、東海大学）持ち回りの担当とし、本会総務企画部会連携のも

と企画・運営する。

第4条 秋季学術大会は、会則第1条に定める地区の持ち回りとし、本会総務企画部会連携のもと企画・運営する。

第5条 集談会は、会則第1条に定める地区において、郡市内科医会主導で開催することができる。集談会は、特別講演、パネルディスカッション、シンポジウム、一般演題等により構成される。

但し、一般演題は、全会員より公募し、各郡市内科医会より演題を最低1題は提出するよう努めることとし、地区が責任をもって演者を選出する。

- 2 集談会は原則として年1回以上開催する。
- 3 集談会の一般演題で発表する者は、原則として本会会員とする。非会員の発表や参加に当たっては、所属する施設責任者が演題申込時にその旨を開催担当内科医会会長に届け出なければならない。
- 4 集談会において発表された演題より、開催を主催した郡市内科医会が優秀演題を複数題選出し、総務企画部会が選考、会長に推薦する。但し、同一筆頭演者は2年連続で推薦されないものとする。
- 5 集談会の優秀演題は原則として神奈川医学会雑誌に投稿される。

## 三、表彰規定

第1条 この規程は、本会の発展に貢献した個人又は団体に対する表彰に関する事項を定めるものとする。

第2条 当会の会長は、次に掲げる個人又は団体を表彰することができる。

- (1) 当会活動に関して、特に優秀な成績を収めている団体
- (2) 多年、当会の発展に尽力し、その成績が顕著な者
- (3) 集談会において優秀演題発表者として選出された者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、幹事会において推薦された個人又は団体

第3条 各部長は、前条の規定により表彰の対象となる者がいるときは、その理由を付して会長に推薦することができる。

第4条 表彰は、表彰状を贈呈することによって行うものとする。なお、必要があるときは、これに副賞を添えることができる。

第5条 第2条から前条までに規定するもののほか、会長は、必要と認めるときは幹事会に諮り、感謝状を贈呈することができる。

#### 四、役員等選出規定

第1条 この規定は会則第12・13条によりこれを設ける。

第2条 会長の選出方法は次による。

- (1) 選挙管理委員会の推薦を得て、幹事会で議決し、評議員会及び総会の承認を得るものとする。
- (2) 選挙管理委員会は、候補者とならない副会長、監事ならびに総務企画部会長で構成する。
- (3) 候補者は会員3名の推薦人とともに選挙管理委員会に立候補を届け出る。
- (4) 選挙管理委員会は候補者の審査を行い、有資格の候補者を幹事会に推薦する。

第3条 副会長は会長により推薦され、総会の承認を得るものとする。

第4条 監事は会長により推薦され、総会の承認を得るものとする。

第5条 会則第12条の評議員は次の方法で選出される。

- (1) 各郡市内科医学会長（または当該医師会長）の推薦により、役員改選期前年度の1月末時点の当該内科医学会会員20名毎に1名、未満1名。

ただし上記会員のうち、病院会員については1病院あたり3名と換算し、評議員の算定に加える。

- (2) 神奈川県医師会長の推薦により県医師会役員2名

- (3) 横浜市立大学、聖マリアンナ医科大学、北里大学、東海大学より各1名

- (4) 大学Ⅱ会員より各1名

選出された評議員は会長が幹事会において報告し、承認を求める。

第6条 規則第12条の幹事は次の方法で選出される。

- (1) 各郡市内科医学会長の推薦により、当該内科医学会会員より本会評議員数5名毎に1名、未満1名

- (2) 横浜市立大学、聖マリアンナ医科大学、北里大学、東海大学の内科学教室より各1名

- (3) 大学Ⅱ会員より各1名

- (4) 本会会長の指名する者若干名

その結果を会長は幹事会において報告し、承認を求める。

第7条 常任幹事は、幹事の中から会長が指名し、幹事会の承認を求める。

第8条 名誉会長は、会長により推薦され、総会の承認を得るものとする。

附則（施行期日）

第9条 この細則は平成23年5月14日より施行する。

第10条 この規定は平成26年5月17日改正施行する。

#### 五、部会・委員会規定

第1条 会則第19条による部会、委員会はこの規定による。

第2条 部会、委員会は幹事会、常任幹事会の諮問事項に関する調査、審議をおこない、その結果は議事録に記載し、部長ないし委員長が幹事会ないし常任幹事会において答申しなければならない。

第3条 部員、委員の数は若干名とし、会長が幹事会、常任幹事会に諮ってこれを委嘱する。

2 部員、委員の任期は原則2年とし、役員の任期と共に委嘱する。期の途中で委嘱された場合は前記委員の残期間とする。



第4条 会長は部会の部長と委員会の委員長を指名する。

2 部会、委員会は、部長、委員長が会長および担当副会長の承認を得て招集する。

3 部長、委員長は、資料原案の整備、記録の保管その他の庶務を担当する。

4 部長は副部長を、委員長は副委員長を指名し、部長、委員長事故あるときは副部長、副委員長がその職務を代理するものとする。

第5条 会長および担当副会長は部会、委員会に出席し、意見を述べることができる。

第6条 部長、委員長は必要がある時は、会長又は担当副会長の承認を得て会員又は会員以外の者の出席を要請し、諮問委員として意見を徴することができる。

第7条 委員会は部会の下に組織することができる。

第8条 この規定は平成23年5月14日改正施行する。

#### 六、旅費規定

第1条 この規定は、会則第42条によりこれを設ける。

(目的)

第2条 本会の役員並びに会員が会務の為出張したときは旅費を支給する。

2 旅費は神奈川県内科医学会を代表する者として会議等に出席する為の用務、また、神奈川県内科医学会の名称を用いて会議等に出席する用務に対し支給する。

3 会務に付随する学会等への参加は会務と認めない。

(旅費の種類)

第3条 旅費には、交通費（鉄道費、船賃、航空費、車賃）、宿泊費及び日当が含まれる。

(旅費の計算)

第4条 旅費は、別表1、別表2により支給する。

(限定又は超過支給)

第5条 前各条の規程にかかわらず、特別な理由がある場合は支給額を限定し、或いは超過して支給

することができる。

2 自らの医療機関または自宅から、インターネット等を利用した遠隔会議等に参加した場合には、接続にかかる費用として、別表1「居住地と同一の地区」にかかる旅費相当額を支給する。

(旅費の請求手続き)

第6条 旅費の支給を受ける場合は、別紙1「出張報告書」を翌月10日までに県内科医学会事務局に提出するものとする。また、他の組織から旅費等が支給される場合においてはその差額を支給する。

#### 別表1 県内出張

区分	旅費
居住地と同一の地区	1,000円
隣接する地区	2,000円
その他の地区	3,000円

#### 別表2 県外出張

区分	旅費
首都圏	5,000円
関東圏	10,000円
上記以遠	20,000円

附 則

第7条 この規定は、平成20年5月17日より施行する。

第8条 この規定は、平成22年5月15日より施行する。

第9条 この規定は、平成29年5月20日より施行する。

#### 七、神奈川県内科医学会講演会共催・後援規定

県内科医学会が共催または後援する企画には、すべての会員が参加することができる。

県内科医学会が共催する企画は、すべての会員に広報するよう努めるものとする。

(目的)

第1条 臨床医学・医療の成果を踏まえ、会員の学識技能の普及、向上を図り、また研修、研鑽の場

を提供するとともに、臨床研究を推進し、地域医療に貢献することを目的とする。

(対象)

第2条 主として神奈川県内科医学会会員とするが、県内に在勤・在住する医療従事者等に拡大することも可能とする。

(会場)

第3条 会場は県内施設とする。ただし、県外の会場を使用することに相当な理由があると認めた場合はその限りではない。

(共催・後援)

第4条 共催・後援は、上記の目的に合致したものであれば、各医療機関、医療関係団体等、あるいは第1条の主旨に賛同する営利団体と行うことができる。ただし、とくに必要性を認める場合を除き、同一営利団体との連続した共催は避けるものとするが、同一主題による連続した内容を分割して企画された講演会等はこの限りではないものとする。共催、後援の可否は総務企画部会を経て幹事会で決定する。

(共催・後援の定義)

第5条 共催とは団体等と神奈川県内科医学会が共同主催者として、それぞれ企画及び運営に参画し、応分の責任を持って、当該事業を行うことをいう。

第6条 後援とは、団体等が行う事業の趣旨に賛同し、当該事業に対して神奈川県内科医学会が援助することをいう。

(講師および座長)

第7条 共催においては、司会、座長あるいは演者のうち、少なくとも一つは原則当会所属の医師が行うものとする。また講演会における肩書きは原則当会の役職名を用いるものとする。その医師は共催する本会の代表として会を成功に導く役割を担う。ただし、後援においてはその限りではない。

(会費)

第8条 共催においては、会費は徴収しないか、少額に限る。また、飲食を提供する場合は、華美、過大にわたらないものとする。

(共催後援の申請)

第9条 申請は、原則として開催2か月前までに、当会会員が筆頭名で神奈川県医師会内神奈川県内科医学会事務局に行く。ただし細則二第一条イ～ホに関してはこの限りでない。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成21年5月16日から施行する。

この規定は、平成23年5月14日から施行する。

この規定は、平成25年5月25日から施行する。

この規定は、平成29年5月20日から施行する。

## 八、会員弔慰規定

第1条 この規定は会則第42条によりこれを設ける。

第2条 会員の死亡に際しては、当該地区役員は本会迄すみやかに報告することを要する。

第3条 上記から報告された会員の死亡に際し、花環又は生花及び弔電を捧供する。

第4条 前条の名称は神奈川県内科医学会とする。

第5条 第3条の費用は渉外費より支出する。

第6条 その他この規定により難い事項は会長がきめることとする。

第7条 この規定は平成23年5月14日より実施する。

## 九、会費および会員種別異動等に関わる規定

第1条 この規定は会則第42条によりこれを設ける。

第2条 本会の会費は次の通りとする。

(1) 会 費

正会員	年 額		8,000円
病院会員	年 額	1 施設	30,000円
大学Ⅰ 会員	年 額	1 大学	80,000円
大学Ⅱ 会員	年 額	1 大学	50,000円
協賛会員	年額一口		100,000円以上
名誉会長	免除することができる		

第3条 前条の会費の変更には総会の承認を得なければならない。

第4条 この規定は平成23年5月14日より改正施行する。

附 則

本則第9条により、会長が会員の懲戒を行う場合は、裁定委員会または事情により常任幹事会の承認

を得て特別委員会を招集し、その答申に基づいて行うものとする。

編
集
後
記



今回、記念誌発行にあたり日本臨床内科医会の猿田会長をはじめ、医師会等多くの関係各位にご寄稿ご祝辞を賜りましたことに心から感謝御礼申し上げます。また、編集にあたりご尽力頂いた中和印刷株式会社に御礼申し上げます。

前回の35周年記念誌から15年が経ち、この間我々は先人の先生方の築き上げた歴史の上に多くの新しい試みを積み上げて、50周年という大きな節目となる記念誌をここに発行することができました。記念誌の役割は前回以降から現在までの活動を後世に残し、神奈川県内科医学会の歴史をつなげるための大変重要な資料であります。

温故知新ともいうように、当会の歴史を学び未来へさらに発展する会となるためにこの記念誌が資することを確信して編集後記とさせていただきます。

広報情報部会担当副会長 山本晴章

創立50周年記念誌編集委員・情報広報部会部員名簿

会 長	宮川 政昭 (保土ヶ谷区)	
担当副会長	山本 晴章 (相模原市)	
部 会 長	宮島 真之 (川崎市)	
副 部 会 長	中川 望 (厚 木)	
岡 正直 (港南区)	木村 耕三 (鎌倉市)	伊藤 俊 (相模原市)
木村 貴純 (栄区)	佐久間 徹 (茅ヶ崎)	鈴木 研欽 (相模原市)
相川 真吾 (都筑区)	大利 昌久 (足柄上)	今岡千栄美 (厚 木)

発行者 神奈川県内科医学会  
 会長 宮 川 政 昭  
 発行所 神奈川県内科医学会  
 横浜市中区富士見町3—1  
 神奈川県総合医療会館3階  
 神奈川県医師会内  
 電話 (045) 241—7000

印刷所 中 和 印 刷 株 式 会 社  
 東京都中央区入船2—2—14  
 電話 (03) 3552—0426